本書の見かた

本書ではお車の各装置や装備の正しい取り扱いかたと、快適ドライブ情報やお手入れのしかた、万一のときの応急処置などを記載しています。

◎ **お車を安全･快適にお使いいただくため、ご使用前に必ずお読みください。**
◎ **「警告」「注意」は安全のために特に重要です。よく読んでお守りください。**

- 本書の中で使用しているマークと意味は次のようになっています。

安全のために守っていただきたいこと。	
⚠ 警告	守らないと生命の危険または重大な傷害につながるおそれがあります。
⚠ 注意	守らないと傷害につながるおそれがあります。
お車のために守っていただきたいこと。	
アドバイス	守らないと装備品や車両の破損につながるおそれがあります。
お車を使ううえで知っておいていただきたいこと。	
知識	知っておくとお車の性能を十分にお使いいただけるとともに、いろいろな装備を上手に使うことができます。
⊘	安全のためにしてはならない行為。（イラスト内に表示されています）

- コントロールパネルのスイッチは<****>、操作画面に表示されるメニューや項目は［****］と表示しています。
- 参照して読んでいただきたいページなどを、➔ マークで表示しています。
- 本書では、標準装備またはメーカーオプションのナビゲーションシステムを装着した車両のことを「NissanConnectインフォテインメントシステム装着車」と示しています。
- 日産販売会社で取り付けられた装備（ディーラーオプション）については、その装備に付属の取扱説明書をお読みください。
- 点検･整備、保証については別冊のメンテナンスノートをお読みください。
- NissanConnectインフォテインメントシステム取扱説明書も合わせてお読みください。
- その他、ご不明な点はカーライフアドバイザー（営業部員）にお申しつけください。

- 交通ルールやマナーを守って運転しましょう。
- 自然環境保護に配慮してください。
- 車両の仕様変更やソフトウェア更新により、本書の内容が実車と一致しない場合がありますのであらかじめご了承ください。

目次

■ 外観フロント.**2**
■ 運転席まわり.**8**
■ 外観リヤ.**4**
■ インストルメントパネル.**10**
■ 車室内.**6**

イラスト目次 P.2

■ 日産e-POWERの特徴.**14**
■ 安全にご利用いただくために.**15**
■ 日産e-POWERと上手に付き合うために.**18**

日産 e-POWER とは P.13

■ 運転する前に.**22**
■ お子さまの安全のために.**35**
■ シートベルト.**26**
■ エアバッグ.**29**

安全なドライブのために P.21

■ 計器類.**42**
■ メーターの明るさの調節.**64**
■ 表示灯.**49**
■ アドバンスドドライブアシストディスプレイ.**51**

メーターの見かた P.41

■ キー.**66**
■ ミラーの調節.**88**
■ エアコンの操作.**100**
■ ドアの施錠と解錠.**71**
■ 窓ガラスの開閉.**94**
■ オーディオ★.**110**
■ シート・ハンドルの調節.**82**
■ 燃料補給口の開閉.**98**

各部の操作 P.65

■ 始動する.**114**
■ 運転支援機能.**136**
■ 運転する.**117**
■ 駐車支援システム.**197**
■ ランプをつける、ワイパーを使う.**125**

運転のしかた P.113

■ 室内灯.**222**
■ 収納装備.**224**
■ その他の室内装備.**227**

室内装備 P.221

■ まずはじめに.**248**
■ 緊急時の対処法.**253**

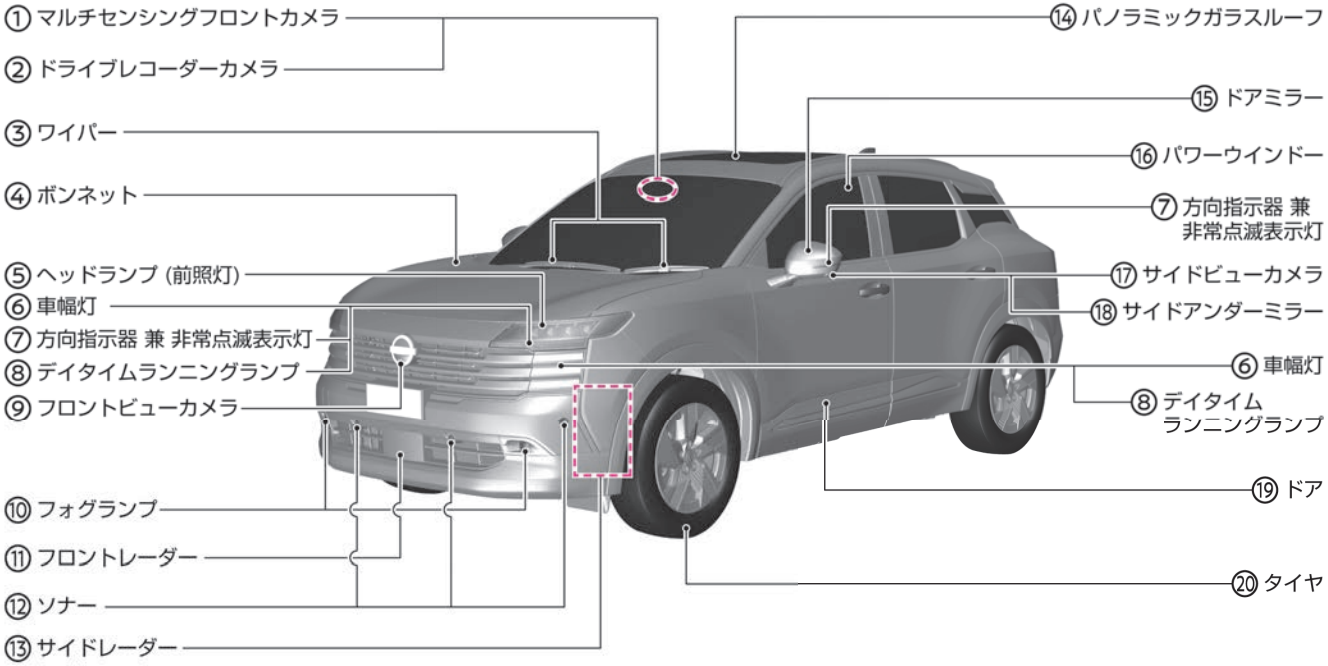
トラブルがおきたときは P.247

■ メンテナンスの前に.**292**
■ 清掃・お手入れ.**306**
■ 工具・ジャッキ.**293**
■ サービスデータ.**312**
■ 点検と整備.**296**

メンテナンス P.291

索引 P.319

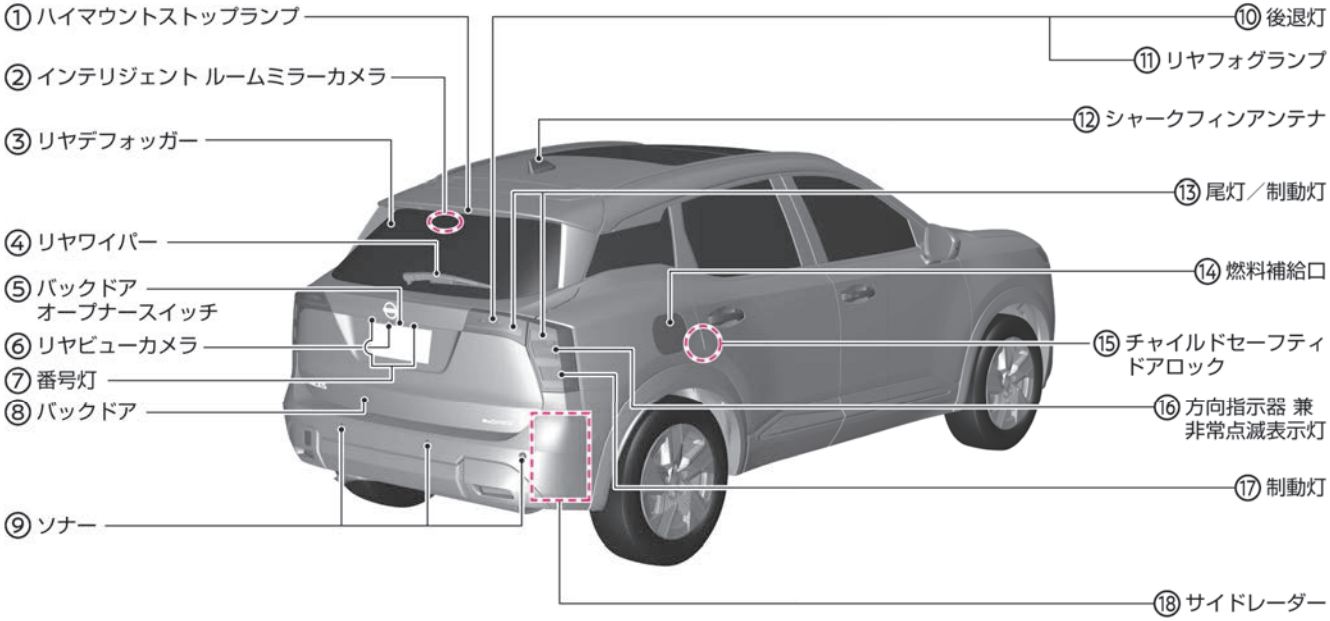
外観フロント


① マルチセンシングフロントカメラ
② ドライブレコーダーカメラ
③ ワイパー
④ ボンネット
⑤ ヘッドランプ（前照灯）
⑥ 車幅灯
⑦ 方向指示器 兼 非常点滅表示灯
⑧ デイタイムランニングランプ
⑨ フロントビューカメラ
⑩ フォグランプ
⑪ フロントレーダー
⑫ ソナー
⑬ サイドレーダー
⑭ パノラミックガラスルーフ
⑮ ドアミラー
⑯ パワーウインドー
⑦ 方向指示器 兼 非常点滅表示灯
⑰ サイドビューカメラ
⑱ サイドアンダーミラー
⑥ 車幅灯
⑧ デイタイム ランニングランプ
⑲ ドア
⑳ タイヤ

外観フロント

① マルチセンシングフロントカメラ（➔P.147、➔P.308）
② ドライブレコーダーカメラ★（➔P.230）
③ ワイパー（➔P.133）
④ ボンネット（➔P.297）
⑤ ヘッドランプ（前照灯）（➔P.125、➔P.289、➔P.315）
⑥ 車幅灯★（➔P.125、➔P.289、➔P.315）
⑦ 方向指示器 兼 非常点滅表示灯（➔P.131、➔P.289、➔P.315）
⑧ デイタイムランニングランプ★（➔P.125）
⑨ フロントビューカメラ★（➔P.202、➔P.309）
⑩ フォグランプ★（➔P.132、➔P.289、➔P.315）
⑪ フロントレーダー（➔P.147、➔P.308）
⑫ ソナー（➔P.62、➔P.147、➔P.211、➔P.218、➔P.310）
⑬ サイドレーダー★（➔P.147、➔P.308）
⑭ パノラミックガラスルーフ★（➔P.95）
⑮ ドアミラー（➔P.91）
⑯ パワーウインドー（➔P.94）
⑰ サイドビューカメラ★（➔P.202、➔P.309）
⑱ サイドアンダーミラー★（➔P.93）
⑲ ドア（➔P.71）
⑳ タイヤ（➔P.300）

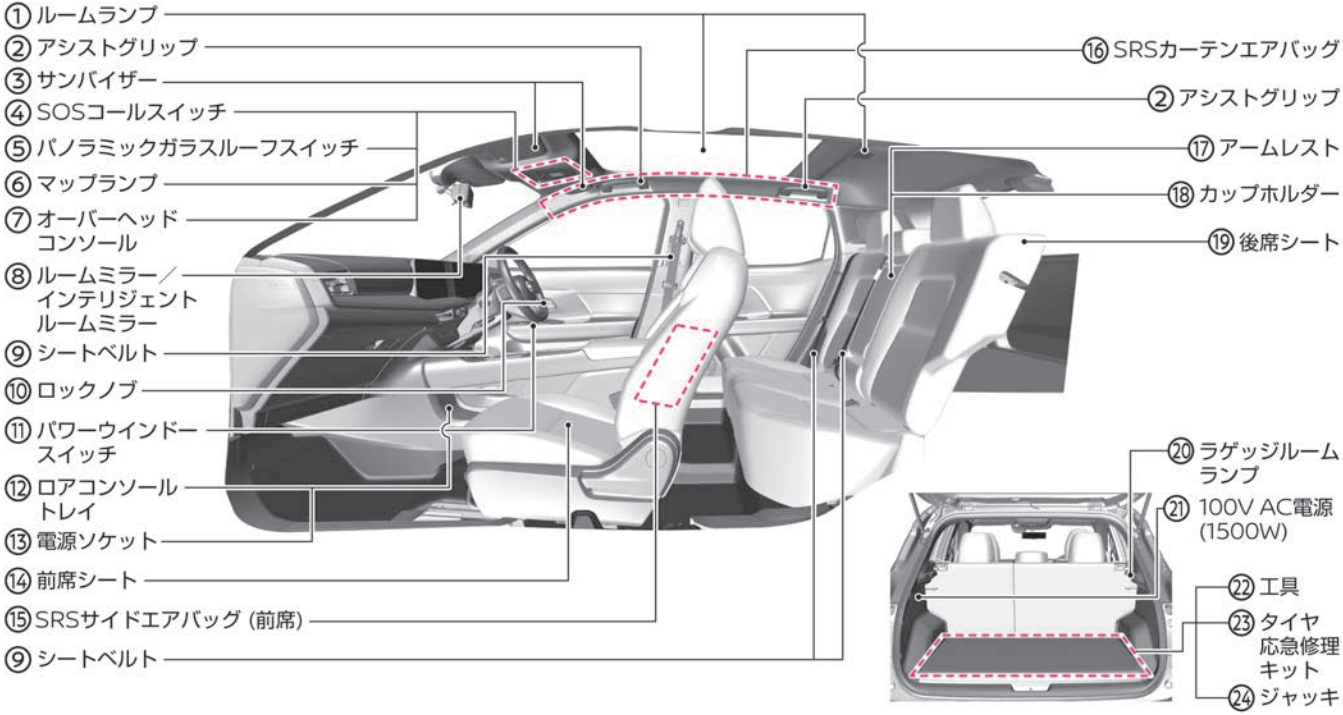
外観リヤ


① ハイマウントストップランプ
② インテリジェント ルームミラーカメラ
③ リヤデフォッガー
④ リヤワイパー
⑤ バックドア
オープナースイッチ
⑥ リヤビューカメラ
⑦ 番号灯
⑧ バックドア
⑨ ソナー
⑩ 後退灯
⑪ リヤフォグランプ
⑫ シャークフィンアンテナ
⑬ 尾灯／制動灯
⑭ 燃料補給口
⑮ チャイルドセーフティ
ドアロック
⑯ 方向指示器 兼
非常点滅表示灯
⑰ 制動灯
⑱ サイドレーダー

外観リヤ

① ハイマウントストップランプ（➔P.289、➔P.315）
② インテリジェント ルームミラーカメラ★（➔P.88、➔P.311）
③ リヤデフォッガー（➔P.286）
④ リヤワイパー（➔P.134）
⑤ バックドアオープナースイッチ（➔P.76）
⑥ リヤビューカメラ★（➔P.197、➔P.202、➔P.309）
⑦ 番号灯（➔P.125、➔P.289、➔P.315）
⑧ バックドア（➔P.73）
⑨ ソナー（➔P.62、➔P.147、➔P.211、➔P.218、➔P.310）
⑩ 後退灯（➔P.289、➔P.315）
⑪ リヤフォグランプ★（➔P.132、➔P.289、➔P.315）
⑫ シャークフィンアンテナ（➔P.306 ）
⑬ 尾灯／制動灯　（➔P.125、➔P.289、➔P.315）
⑭ 燃料補給口（➔P.98）
⑮ チャイルドセーフティドアロック（➔P.72）
⑯ 方向指示器 兼 非常点滅表示灯（➔P.131、➔P.289、➔P.315）
⑰ 制動灯（➔P.289、➔P.315）
⑱ サイドレーダー★（➔P.147、➔P.308）

車室内

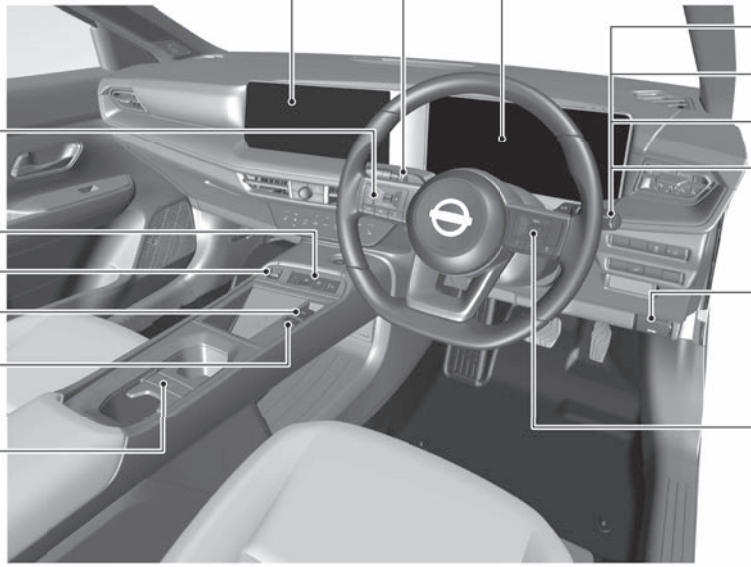

① ルームランプ
② アシストグリップ
③ サンバイザー
④ SOSコールスイッチ
⑤ パノラミックガラスルーフスイッチ
⑥ マップランプ
⑦ オーバーヘッドコンソール
⑧ ルームミラー／インテリジェントルームミラー
⑨ シートベルト
⑩ ロックノブ
⑪ パワーウインドースイッチ
⑫ ロアコンソールトレイ
⑬ 電源ソケット
⑭ 前席シート
⑮ SRSサイドエアバッグ（前席）
⑨ シートベルト
⑯ SRSカーテンエアバッグ
② アシストグリップ
⑰ アームレスト
⑱ カップホルダー
⑲ 後席シート
⑳ ラゲッジルームランプ
㉑ 100V AC電源（1500W）
㉒ 工具
㉓ タイヤ応急修理キット
㉔ ジャッキ

車室内

① ルームランプ（➔P.222）
② アシストグリップ（➔P.246）
③ サンバイザー（➔P.245）
④ SOSコールスイッチ★（➔P.227）
⑤ パノラミックガラスルーフスイッチ★（➔P.95）
⑥ マップランプ（➔P.222）
⑦ オーバーヘッドコンソール★（➔P.226）
⑧ ルームミラー★／インテリジェント ルームミラー★（➔P.88、➔P.88）
⑨ シートベルト（➔P.26）
⑩ ロックノブ（➔P.72）
⑪ パワーウインドースイッチ（➔P.94）
⑫ ロアコンソールトレイ（➔P.224）
⑬ 電源ソケット（➔P.238）
⑭ 前席シート（➔P.82）
⑮ SRSサイドエアバッグ（前席）（➔P.32）
⑯ SRSカーテンエアバッグ（➔P.33）
⑰ アームレスト（➔P.86）
⑱ カップホルダー（➔P.225）
⑲ 後席シート（➔P.85）
⑳ ラゲッジランプ（➔P.222）
㉑ 100V AC電源（1500W）★（➔P.240）
㉒ 工具★（➔P.293）
㉓ タイヤ応急修理キット（➔P.253）
㉔ ジャッキ★（➔P.293）

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

運転席まわり

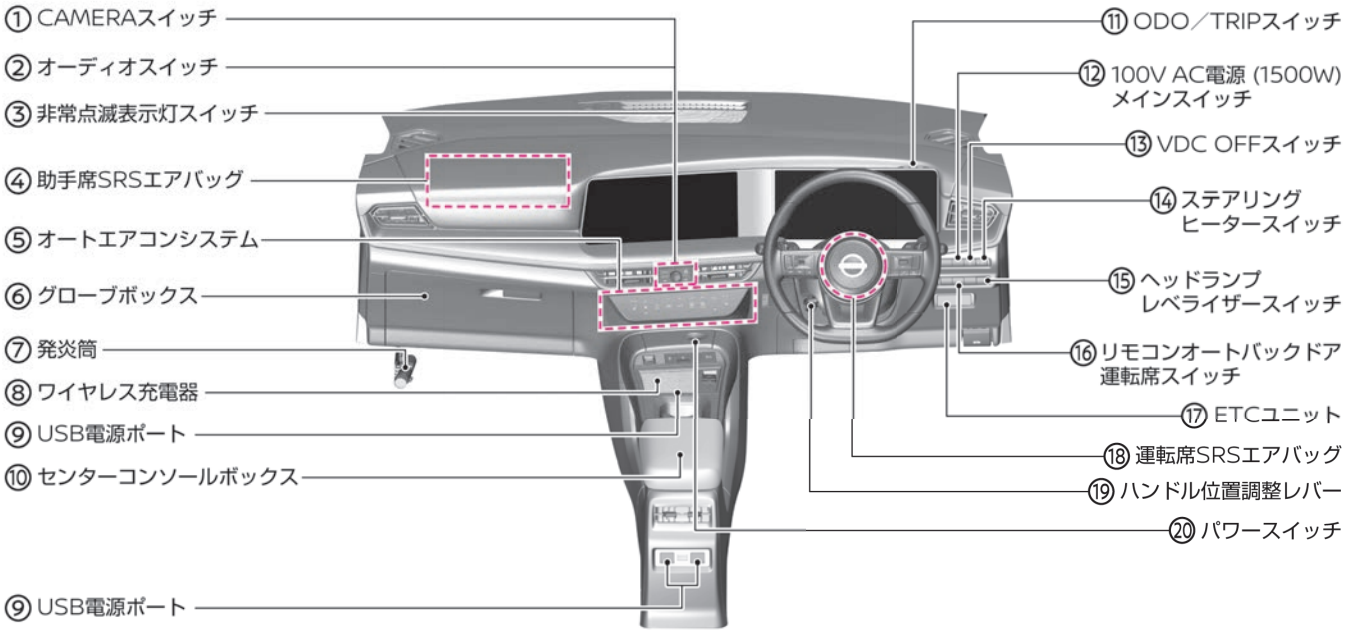

① センターディスプレイ
(NissanConnectインフォテインメントシステム)
② ステアリングスイッチ (左)
－アドバンスドドライブ
アシストディスプレイ
－オーディオ
③ シフトスイッチ
④ ドライブモードセレクター
⑤ 電動パーキングブレーキ
スイッチ
⑥ オートブレーキホールド
スイッチ
⑦ カップホルダー
⑧ ワイパー・ウォッシャースイッチ
⑨ メーター
⑩ ライトスイッチ
⑪ 方向指示器スイッチ
⑫ フォグランプスイッチ
⑬ リヤフォグランプスイッチ
⑭ ボンネットオープナー
⑮ ステアリングスイッチ (右)
－プロパイロット
－ハンズフリーフォン
－ボイスアシスタント

運転席まわり

① センターディスプレイ（NissanConnectインフォテインメントシステム）★（※）
② ステアリングスイッチ（左）
- アドバンスドドライブアシストディスプレイ（➔P.51）
- オーディオ★（➔P.110、※）
③ シフトスイッチ（➔P.117）
④ ドライブモードセレクター（➔P.136）
⑤ 電動パーキングブレーキスイッチ（➔P.118）
⑥ オートブレーキホールドスイッチ（➔P.119）
⑦ カップホルダー（➔P.225）
⑧ ワイパー・ウォッシャースイッチ（➔P.133）
⑨ メーター（➔P.42、➔P.44）
⑩ ライトスイッチ（➔P.125）
⑪ 方向指示器スイッチ（➔P.131）
⑫ フォグランプスイッチ★（➔P.132）
⑬ リヤフォグランプスイッチ★（➔P.132）
⑭ ボンネットオープナー（➔P.297）
⑮ ステアリングスイッチ（右）
- プロパイロット（➔P.150）
- ハンズフリーフォン★（※）
- ボイスアシスタント★（※）

※：NissanConnectインフォテインメントシステム取扱説明書をお読みください。

インストルメントパネル



インストルメントパネル

① CAMERAスイッチ★（➔P.202）
② オーディオスイッチ★（※）
③ 非常点滅表示灯スイッチ（➔P.248）
④ 助手席SRSエアバッグ（➔P.30）
⑤ オートエアコンシステム（➔P.100、➔P.103）
⑥ グローブボックス（➔P.224）
⑦ 発炎筒（➔P.249）
⑧ ワイヤレス充電器★（➔P.243）
⑨ USB電源ポート（➔P.239、※）
⑩ センターコンソールボックス（➔P.224）
⑪ ODO／TRIPスイッチ（➔P.46）
⑫ 100V AC電源（1500W）メインスイッチ★（➔P.241）
⑬ VDC OFFスイッチ★（➔P.140）
⑭ ステアリングヒータースイッチ★（➔P.237）
⑮ ヘッドランプレベライザースイッチ★（➔P.132）
⑯ リモコンオートバックドア運転席スイッチ★（➔P.75）
⑰ ETCユニット★（※）
⑱ 運転席SRSエアバッグ（➔P.30）
⑲ ハンドル位置調節レバー（➔P.87）
⑳ パワースイッチ（➔P.114）
※：NissanConnectインフォテインメントシステム取扱説明書をお読みください。

MEMO

日産e-POWERとは

日産e-POWERの特徴

e-POWERってどんな車？ P.14

安全にご利用いただくために

高電圧部品について P.15

e-POWERの取り扱いに関する注意事項 P.16

e-POWERが事故にあったときの注意事項 P.16

日産e-POWERと上手に付き合うために

燃費を良くするためのポイント P.18

NissanConnectインフォテインメントシステムを使ってより静かに走行する★ P.18

e-POWERってどんな車？

e-POWERはガソリンエンジンで発電用モーターを動かすことにより発電し、その電力をリチウムイオンバッテリーに蓄えたり直接走行用モーターに供給したりします。そしてそれらの電力で走行用モーターを駆動し走行する自動車です。

走行用モーター

リチウムイオンバッテリーに蓄えられた電力やエンジンと発電用モーターで発電された電力を使用して、エンジンの代わりにタイヤを動かす力を生み出します。

発電用モーター

ガソリンエンジンの力により発電します。

リチウムイオンバッテリー

発電用モーターで発電された電力や走行用モーターの回生電力を蓄え、走行時に走行用モーターに電力を供給します。

リチウムイオンバッテリーの残量が低下すると、エンジンが始動し自動的に充電を行うため、電気自動車のような外部からの充電は必要ありません。

ただし、車両を長時間放置すると少しずつ放電するため、少なくとも2～3か月に一度、約30分間は運転してください。（リチウムイオンバッテリーがダメージを受け、使用できなくなるおそれがあります。）

万一、リチウムイオンバッテリーがあがり、e-POWERシステムを始動できない場合は、日産販売会社にご連絡ください。

回生ブレーキ

ガソリンエンジン車のエンジンブレーキの代わりに走行用モーターを使って減速することを回生ブレーキと呼びます。減速するときに発電するため、発電した電力でリチウムイオンバッテリーを充電することができ、エネルギーを無駄にせず燃費を良くすることができます。

知識

- 回生ブレーキは、長い下り坂でリチウムイオンバッテリーが満充電になった場合や低温時、滑りやすい路面ではブレーキの効きが弱くなることがあります。また、指定サイズ以外のタイヤを使用しているときやタイヤの状態によっては、回生ブレーキが正常に作動しなくなることがあります。

車両接近通報装置

本車両は走行時の音がとても静かで通行人が車両の接近に気づきにくいため、警報装置がついています。交差点などの徐行中に警報音が鳴ります。

➔ 車両接近通報装置（P.142）

エンジンが作動するとき

e-POWERシステムでは次のようなときにエンジンが作動する場合があります。

- リチウムイオンバッテリーの残量が少ないとき（発電のため）
- アクセルペダルを強く踏み込んだとき（発電のため）
- 長い下り坂を走行しているとき（エンジンブレーキ相当の減速をさせるため）※
  ※：エンジンは作動していますが燃料は消費しません。
- 暖房をONにしたとき（熱源となるエンジン水温を上げるため）
- エンジンが冷えているとき（暖機のため）
- e-POWERシステムが作動している状態でボンネットを開けたとき（整備時の事故を防止するため）
- フロントガラスの<デフロスタースイッチ>をONにしたとき

e-POWERシステム特有の音や振動

e-POWERシステム始動後は、次のような特有の音や振動が発生する場合がありますが異常ではありません。

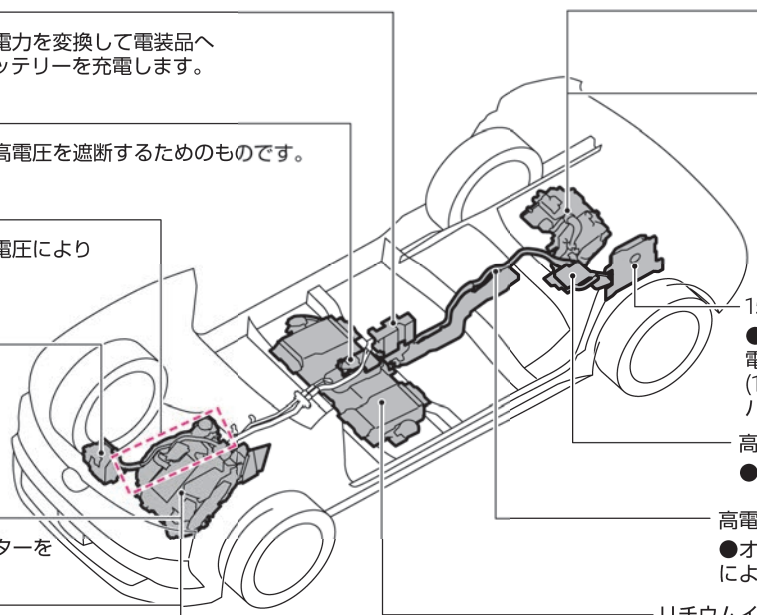
- エンジンルームからのモーター音（4WDの場合は後部フロア下からもモーター音）
- エンジンの始動・停止による音や振動
- 急加速時のエンジン音
- センターコンソール後方またはラゲッジルームからのファン作動音
- 歩行者に車両の接近を知らせるための音
  ➔ 車両接近通報装置（P.142）

知識

- 従来のガソリンエンジン車と比較して、アイドリング時のエンジン回転数は高めに設定されています。これはアイドリング中でもリチウムイオンバッテリーを充電するためで、異常ではありません。

高電圧部品について

e-POWERシステムには以下の高電圧部品が使われています。高電圧部品は高い電圧を使用していますので、分解や取り外しは絶対にしないでください。また、走行した直後などに高温になることがあるため、手を触れないようにしてください。主な高電圧部品は次のとおりです。



DC/DCコンバーター
●リチウムイオンバッテリーの電力を変換して電装品へ電力を供給するとともに12Vバッテリーを充電します。

サービスプラグ
●販売会社で整備を行うとき、高電圧を遮断するためのものです。

高電圧ケーブル (オレンジ色)
●オレンジ色のケーブルは、高電圧により大きな電流が流れます。

エアコンコンプレッサー
●車室用の空調装置です。

インバーター
●走行用モーター、発電用モーターを制御しています。

発電用モーター
●発電するためのモーターです。

走行用モーター
●走行するためのモーターです。

4WD車用インバーター★
●走行用モーターを制御しています。

4WD車用走行用モーター★
●走行するためのモーターです。

1500W ACインバーター★
●リチウムイオンバッテリーの電力を変換して100V AC電源 (1500W) を使用するためのインバーターです。

高電圧ジャンクションボックス★
●電力を各部品に分配します。

高電圧ケーブル (オレンジ色)
●オレンジ色のケーブルは、高電圧により大きな電流が流れます。

リチウムイオンバッテリー
●発電用のモーターで発電された電力や、走行用モーターの回生電力を蓄え、走行時に走行用モーターに電力を供給します。

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

e-POWERの取り扱いに関する注意事項

⚠ 警告

e-POWERシステムを適切に取り扱うため、次のことを必ずお守りください。

- **高電圧部位には触れない。**

  最大で約400Vの直流高電圧が使用されているため、高電圧ケーブルやコネクター、高電圧部品（走行用モーターやリチウムイオンバッテリーなど）には触れないでください。感電すると生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあります。車両のエンジンルーム内に貼られているラベルの記載事項に必ず従ってください。

- **リチウムイオンバッテリーに水をかけない。**

  車室内、ラゲッジルームにふたのないバケツや水槽など、水がこぼれるおそれがあるものは置かないでください。リチウムイオンバッテリーに水がかかると故障の原因になります。

⚠ 注意

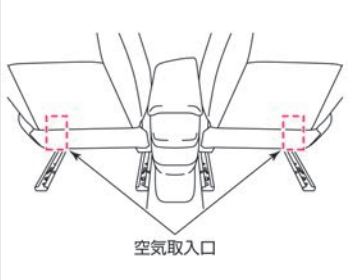
- **高温に注意する。**

  走行直後はエンジンルーム内が高温になっている可能性があります。エンジンルーム内に貼られているラベルの記載事項に必ず従ってください。

- **冷却用空気取入口をふさがない。**

  前席シート下にリチウムイオンバッテリーを冷却するための空気取入口があります。

  性能低下や車両故障につながるため、荷物や衣類などで空気取入口をふさがないでください。また、液体や砂など、異物が入らないように注意してください。万一、リチウムイオンバッテリー周辺に多量の液体をこぼしてしまった場合は、すみやかに日産販売会社にご連絡ください。



- **前席シート下には重量物を載せない。**

  前席シート下にはリチウムイオンバッテリーが配置されているため、重量物を載せたり踏みつけたりして強い負荷をかけないよう注意してください。

e-POWERが事故にあったときの注意事項

⚠ 警告

事故が発生したときは、次のことを必ずお守りください。

- **高電圧部品および高電圧ケーブルが露出しているときは絶対に触れない。**

  高電圧部品および高電圧ケーブルの位置は、（➔P.15）を確認してください。

- **リチウムイオンバッテリーから液漏れが見られる場合は、すみやかに日産販売会社に連絡する。**

  火災が発生するおそれがあります。

- **車室内や車外に液体が漏れているときは絶対に触れない。**

  万一、リチウムイオンバッテリーから漏れた液体が皮膚や衣服に付着したときは、水道水などのきれいな水で洗い流し、すみやかに医師の診察を受けてください。

- **走行中、床下に強い衝撃を受けたときは、安全な場所に停車し、損傷がないか点検する。**

  床下に損傷が見られる場合は、絶対に触れずすみやかに日産販売会社にご連絡ください。

- **リチウムイオンバッテリーや高電圧部品から火災が発生したときは、できるだけ早く車両から離れる。**

  火災を消火するときは、必ず電気火災用の消火器（ABC、BCまたはCタイプ）を使用してください。消火栓などから大量の放水が可能な場合のみ、水での消火も可能です。不適切な消火作業は危険なため、絶対に行わないでください。

警告

- **事故などで車両が損傷し、安全であることを確認できない場合は、車両から離れて日産販売会社に連絡する。**

  日産販売会社に連絡するときは、（ガソリンエンジン車ではなく）e-POWERシステムである旨をご連絡ください。

- **板金・塗装による修理が必要な場合は、必ず日産販売会社に連絡する。**

  車体が大きく破損・変形しているとき、破損の状態によっては漏電や感電のおそれがあります。高電圧部位（リチウムイオンバッテリーなど）、およびこれらを接続する配線（オレンジ色）には絶対に触らないでください。

- **事故などでランプが破損したまま走行しない。**

  内部に水などが入ると、発煙し火災につながるおそれがあります。

アドバイス

- けん引が必要なときは、2WD車は前輪または4輪を、e-4ORCE（4WD）車は4輪を持ち上げてけん引してください。けん引時に駆動輪が接地していると、走行用モーターが発電し、車両を破損するおそれがあります。

  ➔ けん引について（P.250）

知識

- 衝突時やe-POWERシステムに異常があると、高電圧システムがOFFになり走行可能表示灯［READY］が消灯する場合があります。これはケガや事故につながる危険を最小限に抑えるもので、異常ではありません。

燃費を良くするためのポイント

燃費は、道路状況、天候や気温、乗員数などに大きく左右されます。

次のようなことに気をつけ電力の消費を抑えると、燃費が良くなります。

お出かけ前に

電力の消費が少ないルートを選択する。

- 上り坂の走行は電力の消費が多くなります。上り坂の少ないルートを選択すると電力の消費を抑えられます。

不要な荷物は積んだままにしない。

- 荷物を減らし、車両重量を軽くすることで、電力の消費を抑えられます。

適切なタイヤ空気圧にする。

- タイヤ空気圧が低下していると、より多くの電力を消費します。
  ➔ タイヤの点検項目 (P.300)

知識

- 燃費が大幅に悪化する場合は、次のようなことが原因として考えられます。
  - 走行するルートの地形に上り坂が多い
  - 高速道路など、高速で走行を続けている
  - 頻繁に急発進、急加速、急ブレーキをしている

運転するときは

なめらかに発進、加速する。

- 急発進、急加速をすると、より多くの電力を消費し、燃費が悪くなります。
- パワーメーター（➔ P.46）で電力の消費状況を確認しながら加速することで、電力の消費を抑えた加速ができます。

車間距離に余裕を持ち、必要以上の減速を極力避ける。

- 必要以上の減速を避けることで、再加速するための電力の消費を抑制できます。

高速道路などで速度を出しすぎない。

- 速度の出しすぎは、電力を無駄に消費します。

エアコンの設定温度を控えめにし、必要がなければこまめにOFFにする。

- エアコンによる余分な電力の消費を抑えられます。
- 暖房使用時、設定温度を24℃以下に下げると燃費が良くなります。

寒いときは、エアコンの代わりにヒーターシート★やステアリングヒーター★を使用する。

- エアコンを使わずにヒーターシートやステアリングヒーターを活用することで、エンジン作動頻度を抑えられ燃費が良くなります。
  ➔ ヒーターシート★ (P.237)
  ➔ ステアリングヒーター★ (P.237)

デフロスターは必要以上に使用しない。

- 窓のくもりが取れたら、他の吹き出し口に切り替えることで、エンジン作動頻度を抑えられ燃費が良くなります。

ドライブモードをECOにして走行する。

- ドライブモードをECOにすると、STANDARD、SPORT、SNOW★より、エンジン作動頻度を抑えられ燃費が良くなります。
- ECOやSPORTを使用しているときは、アクセルペダルを緩めたときの回生ブレーキによる減速力が強くなり、減速時のエネルギーをより多く回収できます。
- ECOが最も燃費重視のモードとなります。
  ECO←STANDARD←SPORT／SNOW★の順に燃費が良くなります。
  ➔ ドライブモードセレクター (P.136)

NissanConnectインフォテインメントシステムを使ってより静かに走行する★

先読み充放電制御について

ナビゲーション機能で設定した目的地までのルート情報（道路勾配や渋滞状況）をもとに、リチウムイオンバッテリーの充放電のタイミングを先読みし、e-POWERらしいエコで静かな走行体験を実現します。

- あらかじめリチウムイオンバッテリーの充電量を増やして、目的地付近でエンジンが作動しないようにします。
- 下り坂手前であらかじめリチウムイオンバッテリーの充電量を減らして、回生エネルギーをより多く回収できるようにします。

先読み充放電制御の作動について

- 先読み充放電制御は、NissanConnectインフォテインメントシステムでルート案内中に自動的に有効になります。
- NissanConnectインフォテインメントシステムのルート案内中であっても、次の場合は先読み充放電制御が有効にならない場合があります。
  - NissanConnectインフォテインメントシステムで案内されたルートから外れたとき
  - GPSの受信状況が悪いとき
  - 設定したルートの距離が短いとき
  - e-POWERシステムがエンジンの作動を必要と判断したとき

MEMO

安全なドライブのために

運転する前に

運転前の準備 P.22
運転するときに注意すること P.22
心臓ペースメーカーなどをご使用の方の注意事項 P.24
盗難防止機能 P.25

シートベルト

3点式シートベルト P.26
シートベルトの注意事項 P.27

エアバッグ

SRSエアバッグ P.29
SRSエアバッグ（前席） P.30
SRSサイドエアバッグ（前席） P.32
SRSカーテンエアバッグ P.33

お子さまの安全のために

お子さまを乗せるときに注意すること P.35
チャイルドシート P.36

運転前の準備

正しい運転姿勢がとれるよう、ハンドル（➔P.87）、シート（➔P.82）、ミラー（➔P.88）を調節し、シートベルトを着用してください。

正しい運転姿勢について

⚠ 警告

- **ハンドル、シート、ミラーの調節は、必ず走行前に行う。**

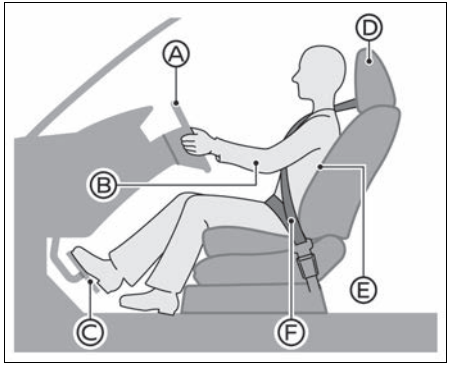
  走行中に調節すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- **ハンドルやシートを調節したあとは、確実に固定されていることを確認する。**

  固定されていないと運転姿勢が突然変わり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- **背もたれと背中の間にクッションなどを入れない。**

  運転姿勢が不安定になり、思わぬ事故につながるおそれがあります。



正しい運転姿勢をとるために、次の点に注意してください。

Ⓐ メーター類が見やすいこと。

Ⓑ ハンドルはひじが伸び切らず、少し曲がっている状態であること。

Ⓒ ペダル類が十分踏み込めること。

Ⓓ 耳の位置がヘッドレストの中心の高さになること。

Ⓔ 背中が背もたれから離れないように深く腰掛けること。

Ⓕ シートベルトを正しく着用すること。

シートベルトの着用

- 走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。
  ➔ シートベルト（P.26）
- 小さなお子さまを乗せるときは、お子さまの年齢や体格に合ったチャイルドシートをご使用ください。
  ➔ チャイルドシート（P.36）

ミラーの調節

- ハンドル、シートを調節したあと、ミラーを調節します。確実に後方確認ができる位置に、ミラーを調節してください。
  ➔ ドアミラー（P.91）
  ➔ ルームミラー★（P.88）

  インテリジェント ルームミラー付車

  インテリジェント ルームミラーがOFFの状態（ルームミラーモード）で、確実に後方確認ができる位置に調節してください。
  ➔ インテリジェント ルームミラー★（P.88）

運転するときに注意すること

⚠ 警告

排気ガスには十分注意する

- **排気ガスには無色無臭で有害な一酸化炭素が含まれています。一酸化炭素を吸い込むと一酸化炭素中毒になり、重大な健康障害におよぶか、死亡につながるおそれがあります。**
- **次の状況では、e-POWERシステムを長時間作動したままにしない。**

  排気ガスが車両周辺に滞留したり、車室内に侵入したりするおそれがあります。

  ― 雪が積もった場所に駐停車するとき

  ― 降雪時に駐停車するとき

⚠ 警告

— 車庫や屋内、壁などに囲まれた換気が悪い場所に駐停車するとき

— 仮眠や長時間の駐車をするとき

— 排気管が腐食または損傷しているおそれがあるとき

— 他車の排気口が近くにあるとき

- **走行する前に、バックドアが確実に閉まっていることを確認する。**

  走行中に排気ガスが侵入するおそれがあります。

- **車室内に排気ガスが侵入したと感じたときは、窓を開けて十分に換気をする。**

- **排気管に穴や亀裂がある場合や排気音に異常があるときは、日産販売会社で点検を受ける。**

  排気ガスが車室内に侵入するおそれがあり危険です。

車室内に人やペットを残さない

- **お子さま、介護を必要とされる方、ペットを車室内に残さない。**

  炎天下では車室内が高温になり、生命にかかわるおそれがあり危険です。

診断機接続用のコネクターにはご注意を

- **診断機接続用のコネクターには、後付け用品を取り付けないでください。12Vバッテリーがあがったり、警告灯が点灯したりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。**

燃料が入った容器やスプレー缶などを積まない

- **ガソリンや可燃性ガスの入ったスプレー缶などは積まない。**

  引火や爆発するおそれがあり危険です。

火気には十分注意する

- **操作部が露出しているガスライターをグローブボックスなどの小物入れに入れない。また、床やシートのすき間に落としたままにしない。**

  荷物を押し込んだときやシートを動かしたときに、ライターの着火ボタンが押されてガスが噴出し、火災につながるおそれがあります。また、ライターを使用したあと、すぐに収納すると火災を起こすおそれがあります。

故障や破損したまま走行しない

- **排気音が大きくなったときは、日産販売会社で点検を受ける。**

  排気管が腐食したり路面干渉などで損傷したりしているおそれがあります。また、排気管に穴が開いたまま走行を続けると、高温の排気ガスが漏れ、排気ガスが車室内に侵入し、火災につながるおそれがあります。

- **事故などでランプが破損したまま走行しない。**

  内部に水などが入ると、発煙し火災につながるおそれがあります。

e-POWERシステムを作動したまま仮眠をしない

- 万一、シフトポジションがP以外だと、急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、無意識に<シフトスイッチ>を操作したり、アクセルペダルを踏み込んだりして思わぬ事故やエンジン過熱による火災などにつながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

- **ウインドーにアクセサリーを取り付けない。**

  視界の妨げになったり、吸盤がレンズの働きをしたりして火災を起こすおそれがあります。また、SRSエアバッグが作動したときアクセサリーが飛んでケガをするなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

改造しない

- **市販の不適合品のマフラー取り付けや、日産純正部品以外の車両の性能や機能に適さない部品を使用しない。**

  正常な性能を発揮できないだけでなく、故障や火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。

- **電装品などを取り付けるときは、必ず日産販売会社にご相談ください。不適切な取り付けや誤った配線は、故障や火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。**

⚠ 注意

- **ハンドルの取り外しや交換を不適切に行うと、SRSエアバッグが正常に作動しなかったり、不意に作動したりして、思わぬ傷害を受けるおそれがあります。**

アドバイス

- エンジン始動中に排気管から水が出ることがありますが異常ではありません。

改造しない

- 12Vバッテリーの端子に電装品やアース線などを直接つながないでください。12Vバッテリーあがりのおそれがあります。
- 日産自動車が国土交通省に届け出をした部品以外を装着すると、違法改造になることがあります。

無線送信機の取り付けについて

- お車に無線送信機を取り付けると、電装システムに影響をおよぼす可能性があります。悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ず日産販売会社にご相談ください。お客さまのご要望により、無線送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）を日産販売会社にてご提供します。

ルーフレール★について

- 走行中に積載物が落下すると、重大な事故につながるおそれがありますので、しっかりと固定してください。固定方法などはキャリアに付属の取扱説明書に従ってください。
- キャリアを取り付けるときは、日産販売会社に相談してください。

心臓ペースメーカーなどをご使用の方の注意事項

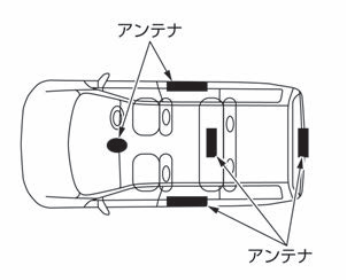
⚠ 警告

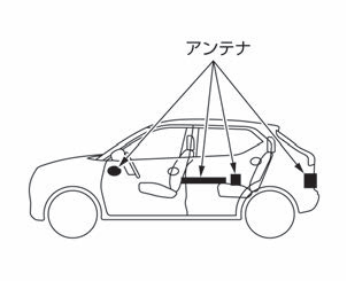
心臓ペースメーカーなどをご使用の方は、次のことにご注意ください。

インテリジェントキーについて

- **植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）を使用されている方は、アンテナから約22cm以下の範囲に装着部位を近づけない。**

  ドアおよびバックドア開閉時、ドアにあるスイッチ操作時、e-POWERシステム始動時などに発生するキーの電波が植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）の作動に影響を与えるおそれがあります。





- **植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）以外の医療電気機器を使用されている方は、医療電気機器製造業者などへ影響を確認してから使用する。**

  キーの電波が医療電気機器の動作に影響を与える場合があります。

⚠ 警告

SOSコール★について

- **SOSコールは無線通信機能を利用しているため、心臓ペースメーカーやその他医療用電気機器を使用する場合は、当該の各医療用電気機器メーカー、もしくは販売業者に電波による影響について必ず確認する。**

  SOSコールの電波が医療用電気機器の動作に影響を与える場合があります。

  ➲ 先進事故自動通報システム★ (P.227)

盗難防止機能

イモビライザー（盗難防止装置）について

車両の盗難に対する防御性能を高めるために、あらかじめ登録されているインテリジェントキー以外でのe-POWERシステムの始動を禁止するシステムです。

- キーに登録された信号は、キーごとに異なります。

カーアラームについて

- ドア、バックドアが不正な方法で解錠されたり、バックドアやボンネットを開けられたりしたときに周囲に異常を知らせるシステムです。
- 車室内に人が乗っている状態や、窓ガラスが開いた状態でもシステムは作動します。
  システム本来の目的以外の作動はまわりの迷惑となるため作動させないでください。

■ セットのしかた

1. すべての窓ガラスを閉めたあと、＜パワースイッチ＞をOFFにし、全ドア、バックドア、ボンネットを閉めます。
2. ドアハンドルのスイッチ、またはインテリジェントキーのスイッチで施錠します。（システムが準備状態になります。）

- 約30秒経過すると、自動的にセット状態になります。
- 内蔵キー（メカニカルキー）で施錠した場合、カーアラームはセットされません。
- 準備状態またはセット状態のときに次の操作を行うと、準備状態またはセット状態を解除します。
  - いずれかのドアをドアハンドルのスイッチ、バックドアのスイッチまたはインテリジェントキーのスイッチで解錠する
  - ＜パワースイッチ＞をONにする

■ アラームの作動

- 不正な行為が行われると、約30秒間ホーンを鳴らすと共に非常点滅表示灯を点滅させ、周囲に異常を知らせます。
- 次の不正な行為が行われると、盗難のおそれがあると判断し作動します。
  - ドアハンドルのスイッチ、バックドアのスイッチまたはインテリジェントキーのスイッチ以外で解錠してドア、バックドアを開けたとき
  - ボンネットを開けたとき
- 内蔵キー（メカニカルキー）で解錠してからドアを開けると、カーアラームが作動します。

■ アラームを停止するには

- カーアラーム作動中に次の操作を行うと、作動を停止します。
  - いずれかのドアをドアハンドルのスイッチ、バックドアのスイッチまたはインテリジェントキーのスイッチで解錠する
  - ＜パワースイッチ＞をONにする
- 約30秒経過し、アラーム作動が終了すると、再びセット状態になります。
- インテリジェントキーの電池が切れている場合は、キーの裏面を＜パワースイッチ＞に接触させてから＜パワースイッチ＞をONにしてください。

3点式シートベルト

シートベルトは、シートに身体を固定することで安全を確保するための安全装置です。

走行するときは、必ずシートベルトを正しく着用してください。

⚠ 注意

- **プリテンショナーシートベルトの部品や配線を修理しない。また、電気テスターを使ってプリテンショナーのシステムの回路診断をしない。**

  誤って作動したり、正常に作動しなくなったりするおそれがあります。

ELR（緊急固定）付シートベルトについて

- 身体の動きに合わせて伸縮し、衝突時など強い衝撃を受けると、ベルトがロックし身体を固定します。

プリテンショナーシートベルトについて

⚠ 警告

- **SRSエアバッグ警告灯が点灯しているときは走行しない。**

  <パワースイッチ>をONにしてから約7秒間はシステムチェックを行うため、プリテンショナーが作動しません。必ずSRSエアバッグ警告灯が消灯してから走行してください。

⚠ 注意

- **廃車にするときやプリテンショナーシートベルトを廃棄するときは、必ず日産販売会社に相談する。**

- 正面衝突などで車両前方から強い衝撃を受けたときに、装着したシートベルトを瞬時に巻き取り、乗員の拘束性能を高めます。
- 衝撃の強さなどによっては、SRSエアバッグ（前席）と同時に作動する場合と、プリテンショナーのみ作動する場合があります。

  ➔ SRSエアバッグ（P.29）

- 前席にはダブルプリテンショナー機構が付いています。車両前方から強い衝撃を受けたとき、肩からシートベルトを巻き上げると同時に腰側からも巻き上げ、乗員の拘束性能を高めます。

アドバイス

- プリテンショナーが作動したとき作動音や白煙が出ますが、火災ではありません。
- プリテンショナーは、一度作動すると再使用できません。衝突を起こしたときは必ず日産販売会社で点検を受け、作動済みの場合は交換してください。

シートベルトの着用のしかた

⚠ 警告

- **ベルトが肩に確実にかかる位置にアンカーの高さを調節する。また、アンカーが確実に固定されていることを確認する。**

  万一のときに肩からベルトが外れるなど、シートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害につながるおそれがあります。

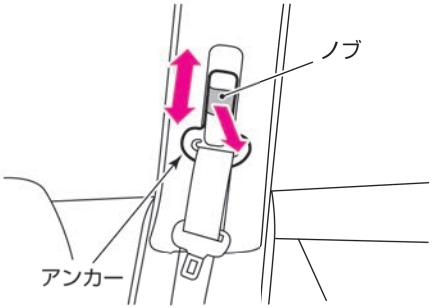
- **後席シート中央席のシートベルトを使用するときは、バックルに「CENTER」と表示されているものを使用する。**

  シートベルトが正しく着用できず、万一のときに重大な傷害につながるおそれがあります。

1. 正しい姿勢でシートに座り、タングを持ってベルトをゆっくり引き出します。
ベルトを腰骨のできるだけ低い位置に掛け、たるみがないように密着させます。

2. ベルトがねじれないようにして、タングをバックルに“カチッ”と音がするまで確実に差し込みます。

3. 肩ベルトのアンカー位置の高さを調節します。（前席のみ）
ノブを引きながらアンカー部を上下させ、ベルトが肩に確実に掛かる位置に調節し手を離します。手を離したあと、“カチッ”と音がするまで動かし固定させます。



4. 外すときは、バックルのボタンを押し、タングを持ってゆっくり戻します。

● ベルトがロックして引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてから緩め、再度ゆっくり引き出してください。

シートベルトの注意事項

⚠ 警告

● **走行する前に全員がシートベルトを着用する。**

着用しないと、万一の事故時や急ブレーキ時に、生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。

● **シートベルトを着用するときは、次のことを必ず守る。**

シートベルトを正しく着用しないと、万一のとき重大な傷害につながるおそれがあります。

— 運転者は正しい運転姿勢で、同乗者は正しい着座姿勢で着用してください。

— 2人以上で1本のベルトを使用しないでください。

— ベルトはねじれた状態で着用しないでください。ねじれがあるとベルトの幅が狭くなり、万一のとき衝撃力が分散できず、局部的に強い力を受けることがあります。

— 腰部ベルトは腰骨のできるだけ低い位置にぴったりと着用してください。ベルトが腰骨からずれていると、腰部に強い圧迫を受けることがあります。

— 肩ベルトは脇の下を通さず、確実に肩に掛けてください。肩に十分に掛かっていないと、上半身が拘束できないことがあります。

— クリップなどで故意にベルトにたるみをつけ、身体から浮いた状態に調節しないでください。ベルトにたるみがあると、十分な効果が発揮できないことがあります。

● **シートの背もたれを倒したまま走行しない。**

シートベルトが効果を十分発揮せず、衝突時などに身体がシートベルトの下に入り込み、ベルトにより重大な傷害を受けるおそれがあります。

● **バックルや巻き取り装置の中に異物を入れない。**

⚠ 警告

シートベルトが正常に機能を発揮せず、万一のとき重大な傷害につながるおそれがあります。

- **妊娠中や疾患のある方も、万一のときのためにシートベルトを着用する。**

  ただし、局部的に強い圧迫を受けるおそれがあるため医師に相談し、注意事項を確認してください。妊娠中の方は、腰ベルトを腹部から避け腰部のできるだけ低い位置にぴったりと着用してください。肩ベルトは確実に肩を通し、腹部を避けて胸部に掛かるように着用してください。

- **お子さまにも必ずシートベルトを着用させる。**

  お子さまをひざの上に抱いていると、衝突時などにお子さまを支えることができず、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

- **シートベルトが首や顔に当たるなど、適正な着用ができない小さなお子さまには、チャイルドシートを使用する。**

  ➲ チャイルドシート (P.36)

- **事故などで衝撃を受けたり傷がついたりしたシートベルトは、日産販売会社に点検を依頼する。**

  一度強い衝撃を受けたシートベルトやベルト部分に傷がついたり破れたりしているシートベルトは、機能を十分に発揮しないことがあります。

⚠ 注意

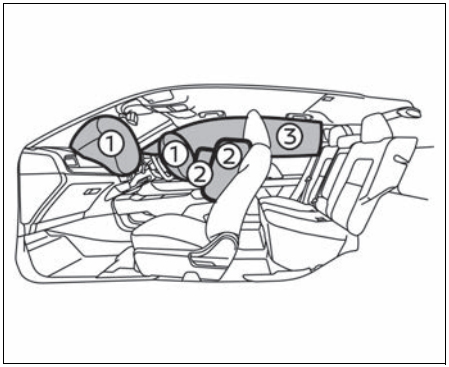
- **シートベルトの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤は絶対に使用しない。**

  ベルトの性能が落ち、シートベルトが機能を十分に発揮できないことがあります。シートベルトの清掃は中性洗剤かぬるま湯で行い、乾かしてからお使いください。

SRSエアバッグ

SRSエアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、乗員への衝撃を緩和します。シートベルトと併用することで安全性を高めるため、シートベルトは必ず着用してください。

SRSエアバッグの種類



① SRSエアバッグ（前席）
② SRSサイドエアバッグ（前席）
③ SRSカーテンエアバッグ

- SRSエアバッグは高温のガスにより高速でふくらむため、事故の状態によっては、擦過傷、打撲、やけどなどを負うことがあります。
- SRSエアバッグがふくらむとき、作動音や白煙が出ますが火災ではありません。また、発生するガスによりむせることがありますが毒性はありません。
- SRSとは、「Supplemental Restraint System」の略でシートベルトの補助拘束装置の意味です。

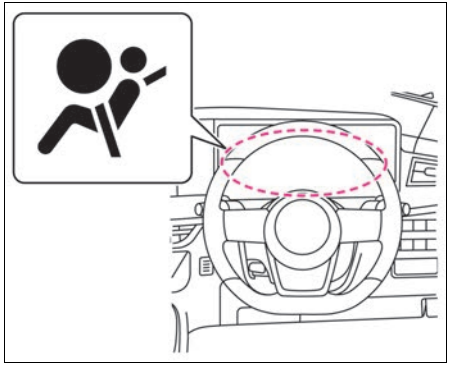
アドバイス

- 廃車にするときやSRSエアバッグを廃棄するときは必ず日産販売会社にご相談ください。
- SRSエアバッグは、一度ふくらむと再使用できません。日産販売会社で交換してください。

SRSエアバッグの作動

SRSエアバッグは、<パワースイッチ>がONのときに作動可能です。

<パワースイッチ>をONにしたあと、約7秒間はSRSエアバッグ警告灯が点灯します。このとき、システムチェックを行うため、SRSエアバッグは作動しません。警告灯が消灯してから走行してください。



SRSエアバッグは、正面衝突や側面衝突で衝撃を受けたときに作動します。ただし、衝撃が車体で吸収または分散され、車両の損傷は大きくても乗員への衝撃が強くならないときは、作動しないことがあります。

SRSエアバッグが作動するような衝撃を感知すると、非常点滅表示灯が自動的に点滅します。<非常点滅表示灯スイッチ>を押すと消灯しますが、二次災害を防ぐため、安全が確保できるまでは消灯しないことをおすすめします。また、衝撃の大きさによっては、点滅しないことがあります。

- 助手席SRSエアバッグ、助手席側のSRSサイドエアバッグおよびSRSカーテンエアバッグは、乗員がいなくても作動します。

SRSエアバッグの注意事項

⚠ 警告

- **SRSエアバッグ警告灯が次の状態のときは走行しない。**
  - <パワースイッチ>をONにした直後、SRSエアバッグ警告灯が約7秒間点灯しないとき（消灯したままのとき）
  - SRSエアバッグ警告灯が点灯し続けるとき

  SRSエアバッグが正常に作動せず、重大な事故につながるおそれがあります。日産販売会社にご相談ください。
- **正しい姿勢でシートベルトを正しく着用する。**

⚠ 警告

SRSエアバッグはシートベルトを補助する装置です。SRSエアバッグだけでは、身体の飛び出しなどを防止することはできません。また、SRSエアバッグの効果が発揮されないおそれがあります。

- **助手席には、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けない。**

  SRSエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。やむをえず助手席に取り付けるときは、シートをできるだけ後ろに下げ、必ず前向きに取り付けてください。

  ➔チャイルドシート (P.36)

- **必ず次のことを守る。**

  SRSエアバッグが誤って作動したり正常に作動しなくなったりし、重大な傷害につながるおそれがあります。

  — SRSエアバッグ格納部を修理するときは、日産販売会社にご相談ください。また、SRSエアバッグ格納部に傷がついているとき、およびひび割れがあるときは、そのまま使用せず日産販売会社で交換してください。
  SRSエアバッグ（前席）の格納場所は（➔P.30）をお読みください。
  SRSサイドエアバッグ（前席）の格納場所は（➔P.32）をお読みください。
  SRSカーテンエアバッグの格納場所は（➔P.33）をお読みください。

  — SRSエアバッグ格納部に過度の衝撃を与えないでください。

  — 電気テスターを使用したSRSエアバッグの回路診断、または回路を変更しないでください。

  — エアロパーツなどの取り付けや、サスペンションを改造するときは、日産販売会社にご相談ください。不適正な改造をすると衝撃を正しく検知できません。

- **SRSエアバッグが作動したときは、30分経過するまでエアバッグに触らない。**

  高温になるため、やけどをするおそれがあります。

- **SRSエアバッグ作動時の残留物（カス）などが目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く水で洗い流す。**

  皮膚の弱い方などは、まれに皮膚に刺激を感じることがあります。

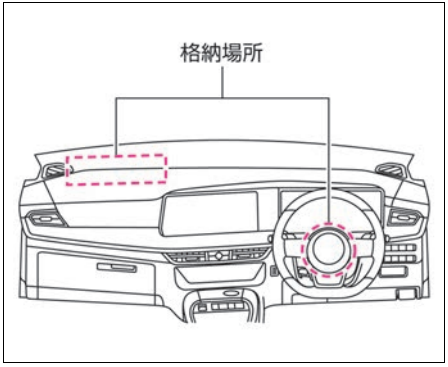
SRSエアバッグ（前席）

車両前方から強い衝撃を受けたときSRSエアバッグが瞬時にふくらみ、乗員の頭部にかかる衝撃を緩和します。

格納場所

運転席SRSエアバッグは、ハンドル部に格納されています。

助手席SRSエアバッグは、助手席側インストルメントパネル部に格納されています。



SRSエアバッグが作動するとき

- 次のような衝撃が強いときに作動します。
  — 25km/h以上の速度で厚いコンクリートのような壁に正面衝突したとき

— 車両前方左右、約30°以内の方向から強い衝撃（上記と同等）を受けたとき

- 次のような車両下部に強い衝撃を受けたときも作動することがあります。（車両の損傷は少なくても乗員への衝撃は強いとき）
  — 高速で縁石などに衝突したとき
  — 深い穴や溝に落ち込んだとき
  — ジャンプして地面にぶつかったとき
- 助手席SRSエアバッグが作動した衝撃でフロントガラスが割れることがあります。
- 運転席、助手席SRSエアバッグはふくらんだあとすぐにしぼむので、視界の妨げになることはありません。

知識

- エアバッグが作動したときは、自動で先進事故自動通報システム★（➔P.227）が作動します。

SRSエアバッグが作動しにくいとき

次のような衝撃が弱いときは作動しないことがあります。

- 停車している同クラスの車に約50km/h以下の速度で衝突したとき
- 衝突時に折れない電柱などに約30km/h以下の速度で正面衝突したとき
- トラックなどの荷台の下にもぐり込んだようなとき
- 斜め前方からガードレールなどに衝突したとき

SRSエアバッグが作動しないとき

一度、SRSエアバッグが作動したあとに衝突しても作動しません。また、次のようなときは作動しません。

- 横方向や後ろから衝突されたとき
- 横転、転覆したとき

SRSエアバッグ（前席）の注意事項

警告

- **SRSエアバッグ格納部に身体を近づけない。また、内がけでのハンドル操作はしない。**

  ハンドルから顔をできるだけ（約30cm以上）離し、ハンドルにもたれかかるなど、手や顔、胸などを不必要に近づけないでください。SRSエアバッグ作動時に強い衝撃を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。

- **不適正なハンドルに交換したり、SRSエアバッグ格納部にステッカーなどを貼ったりしない。**

  SRSエアバッグ作動時に正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

- **フロントガラスにアクセサリーなどを付けない。**

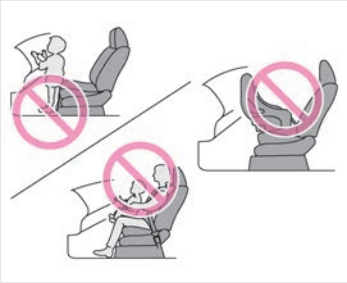
  SRSエアバッグ作動時に重大な傷害につながるおそれがあります。

- **SRSエアバッグ格納部に身体を近づけない。また、お子さまを近づかせない。**

  SRSエアバッグ作動時に強い衝撃を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。

  SRSエアバッグ格納部に手や足を置いたり、顔や胸などを不必要に近づけたりしないでください。また、お子さまをSRSエアバッグ格納部の前に立たせたり、ひざの上に抱いたりせず、後席シートに乗せてください。

⚠ 警告



- **チャイルドシートは後席シートに取り付ける。**

  SRSエアバッグ作動時に重大な傷害につながるおそれがあります。

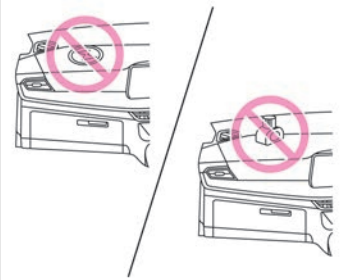
  やむをえず助手席シートに取り付けるときは、シートをできるだけ後ろに下げ、必ず前向きに取り付けてください。乳児用チャイルドシートなど後ろ向きにしか使用できないシートは必ず後席シートに取り付けてください。

- **チャイルドシートは走行する前に確実に固定されていることを確認する。**

  固定方法および取り扱いかたは、チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。

- **SRSエアバッグ格納部およびその周辺にステッカーなどを貼ったり、アクセサリーや芳香剤などを置いたりしない。**

SRSエアバッグ作動時に重大な傷害につながるおそれがあります。



SRSサイドエアバッグ（前席）

車両側面から強い衝撃を受けたとき、衝撃を受けた側のSRSサイドエアバッグが瞬時にふくらみ、乗員の主に胸部にかかる衝撃を緩和します。

格納場所

SRSサイドエアバッグは、運転席、助手席ともにシート背もたれ側面（外側）に格納されています。

SRSサイドエアバッグが作動するとき

次のような衝撃が強いときに作動します。

- 一般的な乗用車に25km/h以上の速度で側面に真横から衝突されたとき

知識

- エアバッグが作動したときは、自動で先進事故自動通報システム★（➔P.227）が作動します。

SRSサイドエアバッグが作動しにくいとき

次のような衝撃が弱いときは作動しないことがあります。

- 側面に斜め方向から衝突されたとき
- 側面にバイクが真横から衝突したとき
- エンジンルームまたはラゲッジルームに衝突されたとき

- 横転、転覆したとき
- 斜め前方から衝突したとき
- 電柱などに衝突したとき

SRSサイドエアバッグが作動しないとき

一度、SRSエアバッグが作動したあとに衝突しても作動しません。また、次のようなときは作動しません。

- 停車中や走行中の車に正面衝突したとき
- 後ろから衝突されたとき

SRSサイドエアバッグの注意事項

警告

- **SRSサイドエアバッグの格納部に近づかない。**

  ドアにもたれるなど、前席シートの背もたれ側面（外側）に近づかないでください。特にお子さまが窓から腕を出したり、前席シートの背もたれを抱えたりしないように注意してください。万一のとき重大な傷害を受けるおそれがあります。

- **前席シートのSRSサイドエアバッグ格納部付近に傘やカバンなどを置かない。**
- **シートカバーは、前席シート背もたれ側面を覆わないものを使用する。**

  SRSサイドエアバッグが正しく作動しないおそれがあります。

注意

- **ドアをガラスが割れるほど強く閉めない。**

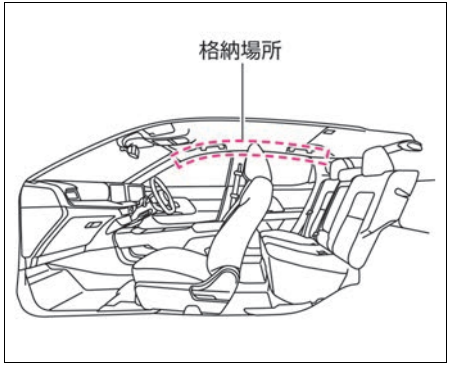
  SRSサイドエアバッグが誤作動するおそれがあります。

SRSカーテンエアバッグ

車両側面から強い衝撃を受けたとき、衝撃を受けた側のSRSカーテンエアバッグが瞬時にふくらみ、乗員の主に頭部にかかる衝撃を緩和します。

格納場所

SRSカーテンエアバッグは、運転席側、助手席側ともに窓側の天井部に格納されています。



SRSカーテンエアバッグが作動するとき

次のような衝撃が強いときに作動します。

- 一般的な乗用車に25km/h以上の速度で側面に真横から衝突されたとき

知識

- エアバッグが作動したときは、自動で先進事故自動通報システム★（➔P.227）が作動します。

SRSカーテンエアバッグが作動しにくいとき

次のような衝撃が弱いときは作動しないことがあります。

- 側面に斜め方向から衝突されたとき
- 側面にバイクが真横から衝突したとき
- エンジンルームまたはラゲッジルームに衝突されたとき
- 横転、転覆したとき
- 斜め前方から衝突したとき
- 電柱などに衝突したとき

SRSカーテンエアバッグが作動しないとき

一度、SRSエアバッグが作動したあとに衝突しても作動しません。また、次のようなときは作動しません。

- 停車中や走行中の車に正面衝突したとき
- 後ろから衝突されたとき

SRSカーテンエアバッグの注意事項

⚠ 警告

- **SRSカーテンエアバッグの格納部に近づかない。**

  万一のとき重大な傷害を受けるおそれがあります。

- **センターピラー（ロックピラー）まわり、ルーフサイド部などのSRSカーテンエアバッグ格納部付近に、アクセサリーやハンガーなどを取り付けない。**

  SRSカーテンエアバッグが作動したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠ 注意

- **ドアをガラスが割れるほど強く閉めない。**

  SRSカーテンエアバッグが誤作動するおそれがあります。

お子さまを乗せるときに注意すること

⚠ 警告

お子さまを乗せるときは、次のことに注意してください。

お子さまにもシートベルトを着用する

- **お子さまにも必ずシートベルトを着用させる。**

  お子さまをひざの上に抱いていると、衝突時などにお子さまを支えることができず、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

  ➔ 3点式シートベルト (P.26)

小さなお子さまにはチャイルドシートを使用する

- **シートベルトが首や顔に当たるなど、適正な着用ができない小さなお子さまには、チャイルドシートを使用する。**

  ➔ チャイルドシート (P.36)

チャイルドシートは後席シートに取り付ける

- **チャイルドシートは後席シートに取り付け、走行する前に確実に固定されていることを確認する。**

  固定方法および取り扱いかたは、チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。

- **助手席には、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けない。**

  SRSエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。やむをえず助手席に取り付けるときは、シートをできるだけ後ろに下げ、必ず前向きに取り付けてください。

- **チャイルドシートは使用していないときでもシートにしっかりと固定するか、ラゲッジルーム（荷室）などに収納する。**

  車室内に放置したままにすると、急ブレーキ時などに思わぬ事故につながるおそれがあります。

お子さまは後席シートに乗せる

- **お子さまを助手席に乗せるのは避ける。**

  お子さまの動作が気になったり、スイッチ、レバー類のいたずらなど安全運転の妨げになったりするおそれがあります。

  また、助手席SRSエアバッグの格納部に近づいていると、万一の事故などでSRSエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。

ドア、ウインドーなどは大人が操作する

- **ドアやウインドーなどの開閉は、お子さまには操作させない。**

  開閉時に手、首、足などを挟んだりして、重大な傷害につながるおそれがあります。

- **チャイルドセーフティドアロック（➔P.72）や＜パワーウインドーロックスイッチ＞（➔P.94）を使用し、お子さまが操作できないようにしてください。**

窓から手や顔を出さない

- **お子さまが腕や顔を出さないように注意する。**

  急ブレーキ時に窓枠などにぶつかったり、車外の障害物に当たったりして、重大な傷害につながるおそれがあります。

車室内にお子さまだけを残さない

- **車から離れるときは、必ずお子さまを一緒に降ろす。**

  炎天下では車室内が高温になり、生命にかかわるおそれがあり危険です。

- **お子さまのいたずらで車の発進、火災など、思わぬ事故につながるおそれがあります。**

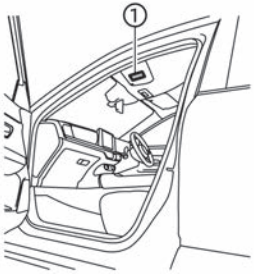
チャイルドシート

お子さまの年齢や体格にあわせたチャイルドシートを選択し、車両に適切に取り付けてください。

⚠ 警告

- **助手席には、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けない。**

  SRSエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。やむをえず助手席に取り付けるときは、シートをできるだけ後ろに下げ、必ず前向きに取り付けてください。



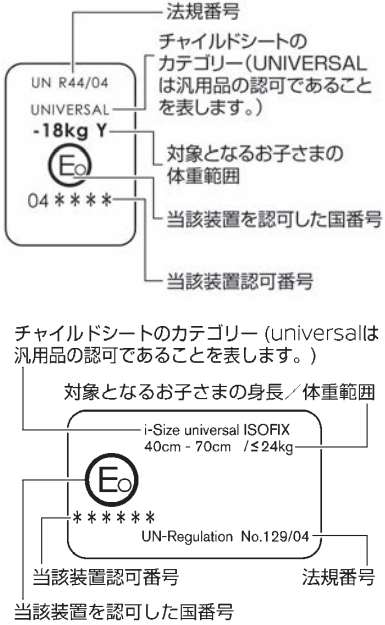
① エアバッグ警告ラベル

チャイルドシートについて

- チャイルドシートには、乳児用チャイルドシート、チャイルドシート、ジュニアチャイルドシートの3種類があります。お子さまの年齢や体格にあわせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- チャイルドシートの固定方法および取り扱いかたは、チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。
- この車はUN R44またはR129の基準に適合したi-Sizeチャイルドシート対応ISO FIX対応取付装置を標準装備しています。

知識

- 乳児用チャイルドシート、チャイルドシート、ジュニアチャイルドシートを総称してチャイルドシートと呼んでいます。
- UN R44またはR129はチャイルドシートに関する国際法です。UN R44またはR129の基準に適合した汎用（ユニバーサル）チャイルドシートには、認可マークが貼られています。



チャイルドシートの選びかた

この車両には、シートベルトで取り付けるチャイルドシートと、i-SizeおよびISO FIX対応チャイルドシートを取り付けることができます。i-SizeおよびISO FIX対応チャイルドシートは、シートベルトを使わずに固定するため、簡単に取り付けることができます。

■ シートベルト固定タイプのチャイルドシート

シートベルトを使用してチャイルドシートを固定します。

➔ シートベルト固定タイプのチャイルドシートの取り付けかた (P.39)

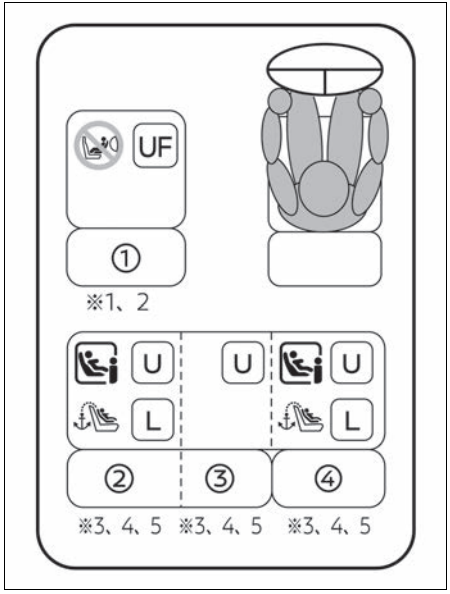
■ i-SizeおよびISO FIX対応チャイルドシート

後席シートに付属しているi-Sizeチャイルドシート対応ISO FIX対応取付装置で固定します。

➔ i-SizeおよびISO FIX対応チャイルドシートの取り付けかた (P.39)

使用できるチャイルドシートについて

チャイルドシートの取り付け位置により、使用できるチャイルドシートが異なります。



※1：チャイルドシートを装着する際は、座席スライドを最も後方に調整してください。

※2：チャイルドシートを装着する際は、座席背もたれを最初にロックする位置から5ノッチ動かしてください。

※3：後席にチャイルドシートを装着する際は、背もたれを最初にロックする位置に調整してください。

※4：後席にチャイルドシートを装着する際は、前席を干渉しない位置に調整してください。

※5：後席にチャイルドシートを装着する際は、クッション座面の真ん中に置いた状態で装着してください。

- ヘッドレストとチャイルドシートが干渉する場合は、ヘッドレストの取り外しが可能なときは、ヘッドレストを取り外してください。取り外しができない場合は、ヘッドレストを一番上まで上げてください。

マーク	説明
U	車両シートベルト固定式汎用型チャイルドシートに適している
UF	車両シートベルト固定式の前向きに取り付ける汎用型チャイルドシートに適している
	i-SizeおよびISO FIXチャイルドシートに適している
	後ろ向きチャイルドシート取付禁止
	ISO FIXチャイルドシート上部取付金具（トップテザーアンカレッジ）を装備している座席
L	添付リストに記載されたチャイルドシートに適している

幼児拘束装置メーカーに関する詳細情報

シート位置番号	助手席	後席		
	①	②	③	④
汎用ベルト式に適する着席位置（○/X）	○（前向きのみ）	○	○	○
i-Size着席位置（○/X）	X	○	X	○
横向き固定具に適する着席位置（L1/L2）	-	-	-	-
適する最大の後ろ向き固定具（R1/R2/R2X/R3）	-	R2	-	R2
適する最大の前向き固定具（F2/F2X/F3）	-	F3	-	F3
適する最大のブースタ固定具（B2/B3）	-	B3	-	B3

● ISO FIX対応のチャイルドシートをすでにお持ちの場合、ご使用前にUN R44またはR129の基準に適合していることを確認してください。詳しくは、チャイルドシートに付属の取扱説明書を参照してください。

■ 推奨チャイルドシート

日産自動車が推奨するチャイルドシートです。詳しくは日産販売会社にご相談ください。

年齢（目安）	体重（目安）	身長（目安）	推奨チャイルドシート	座席位置				
				①	①*	②	③	④
0-18か月	<13kg	<100cm	日産i-Sizeチャイルドシート（後向き）	X	X	○	X	○
9か月-4歳	9-18kg	76-100cm	日産i-Sizeチャイルドシート（前向き、後向き）	X	X	○	X	○
4-6歳	15-25kg	100-125cm	日産ジュニアシートevo（前向き）	○（ベルト取付のみ）	X	○	X	○
6-12歳	22-36kg	125-150cm	日産ジュニアシートevo（前向き）	○（ベルト取付のみ）	X	○	X	○

*BOSEパーソナルプラスサウンドシステム付車

● チャイルドシートがヘッドレストに干渉し安定して取り付けられない場合はヘッドレストを一番上に調整してください。上げても安定しない場合にはヘッドレストを取り外してください。（BOSEパーソナルプラスサウンドシステム付車は除く）

シートベルト固定タイプのチャイルドシートの取り付けかた

⚠ 警告

- **チャイルドシートが確実に固定されていることを確認する。**

  確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突などでチャイルドシートが飛び出し、重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書に従って取り付けてください。

1. ヘッドレストを外し（ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートを正しく取り付けられない場合）、チャイルドシートを座席に置きます。

   ➔ ヘッドレストの調節のしかた (P.84)

   シートベルトをチャイルドシートに通し、タングをバックルに“カチッ”と音がするまで確実に差し込みます。

2. チャイルドシートに付属の取扱説明書に従って固定します。
   チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認します。

i-SizeおよびISO FIX対応チャイルドシートの取り付けかた

⚠ 警告

- **i-SizeおよびISO FIX対応チャイルドシートを取り付けるときは、後席シートのヘッドレストを取り外す。（ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートを正しく取り付けられない場合）**
- **チャイルドシートが確実に固定されていることを確認する。**

  確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突などでチャイルドシートが飛び出し、重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書に従って取り付けてください。
- **チャイルドシートを取り付けるときは、アンカレッジ部周辺に異物がないことやシートベルトなどがかみ込んでいないことを確認する。**

  チャイルドシートが確実に固定されず、急ブレーキや衝突などでチャイルドシートが飛び出し、重大な傷害を受けるおそれがあります。

1. i-Sizeチャイルドシート対応ISO FIXロアアンカレッジは、後席シート左右背もたれのマーク下側にあります。
   ヘッドレストを外して（ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートを正しく取り付けられない場合）、チャイルドシートを座席に置き、チャイルドシートに付

属の取扱説明書に従ってロアアンカレッジに固定します。

➔ ヘッドレストの調節のしかた (P.84)

2. テザーアンカレッジは、後席シート背もたれ裏側にあります。
テザーアンカレッジにフックを固定し、テザーベルトを締めます。
チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認します。

知識

- i-Sizeチャイルドシート対応ISO FIX対応取付装置は、ロアアンカレッジとテザーアンカレッジの2種類があります。

  ロアアンカレッジは後席シート左右背もたれのマーク下側にあり、テザーアンカレッジは背もたれ裏側にあります。
- シートカバーを装着するときは、スリットがあるものを使用してください。

メーターの見かた

計器類

各部名称（クラシック表示） P.42
各部名称（エンハンス表示） P.44
メーター P.46

表示灯

表示灯がついたときは P.49

アドバンスドドライブアシストディスプレイ

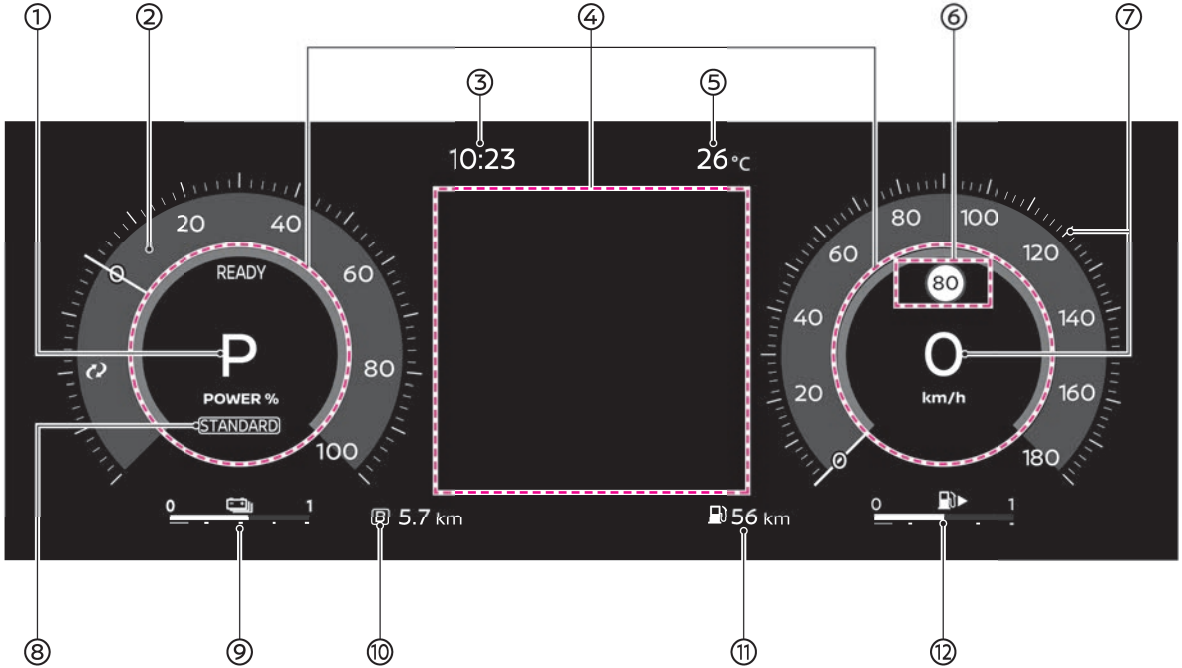
アドバンスドドライブアシストディスプレイとは（メインメニュー） P.51
車両情報画面 P.51
アドバンスドドライブアシストディスプレイとは（ショートカットメニュー） P.56
各種設定画面 P.57
その他の表示機能 P.62

メーターの明るさの調節

イルミネーションコントロール P.64

各部名称（クラシック表示）

<パワースイッチ>をONにすると、計器類が表示されます。メーター表示は、クラシック表示とエンハンス表示があります。➔アドバンスドドライブアシストディスプレイとは（ショートカットメニュー）（P.56）

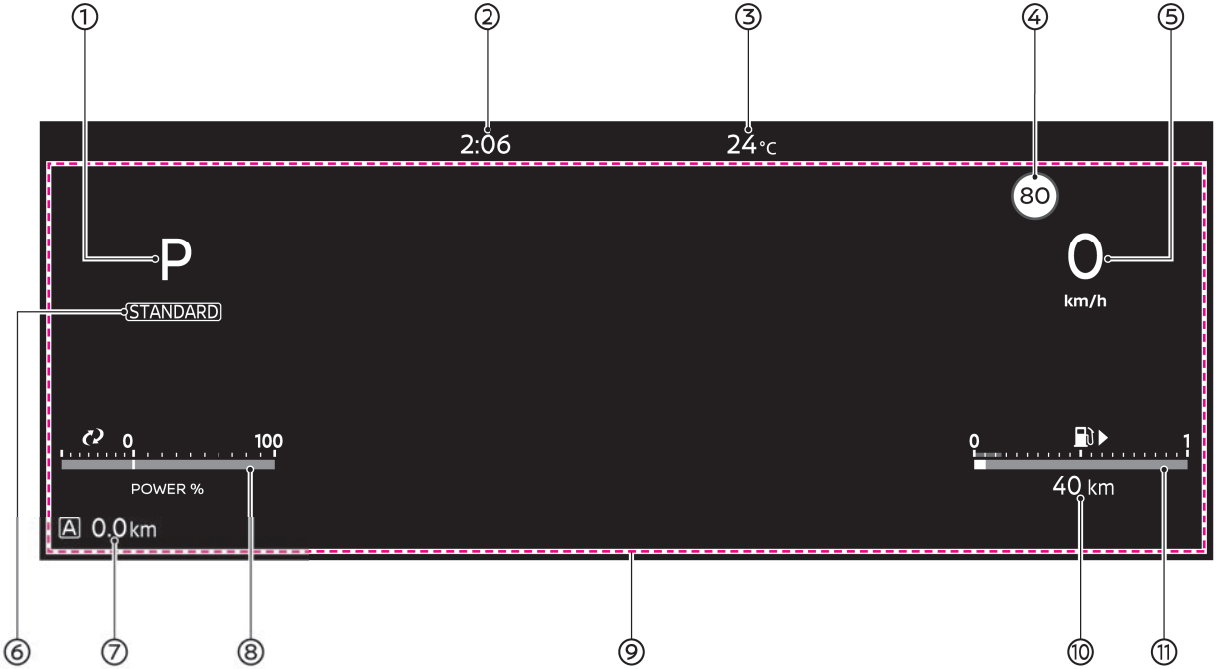


計器類

① ポジションインジケーター（➔P.47）
② パワーメーター（➔P.46）
③ 時計（➔P.46）
④ アドバンスドドライブアシストディスプレイ（➔P.48）
⑤ 外気温計（➔P.46）
⑥ 標識検知表示（➔P.47）
⑦ スピードメーター（速度計）（➔P.46）
⑧ ドライブモードインジケーター（➔P.47）
⑨ リチウムイオンバッテリー残量計（➔P.47）
⑩ オドメーター（積算距離計）／トリップメーター（区間距離計）（➔P.46）
⑪ 航続可能距離表示（➔P.46）
⑫ 燃料計（➔P.46）

各部名称（エンハンス表示）

<パワースイッチ>をONにすると、計器類が表示されます。メーター表示は、クラシック表示とエンハンス表示があり、さらにエンハンス表示は表示タイプを切り替えることができます。➔アドバンスドドライブアシストディスプレイとは（ショートカットメニュー）(P.56)



計器類

① ポジションインジケーター（➔P.47）
② 時計（➔P.46）
③ 外気温計（➔P.46）
④ 標識検知表示（➔P.47）
⑤ スピードメーター（速度計）（➔P.46）
⑥ ドライブモードインジケーター（➔P.47）
⑦ オドメーター（積算距離計）／トリップメーター（区間距離計）（➔P.46）
⑧ パワーメーター（➔P.47）
⑨ アドバンスドドライブアシストディスプレイ（➔P.48）
⑩ 航続可能距離表示（➔P.46）
⑪ 燃料計（➔P.46）

メーター

メーターには、パワーメーター、航続可能距離表示などがあります。<パワースイッチ>をONにすると表示します。

スピードメーター（速度計）

● 走行速度を表示します。

燃料計／航続可能距離表示

燃料計

● 燃料の残量を表示します。
● 燃料タンクの容量は約45ℓです。

航続可能距離表示

● 現在の燃料残量と平均燃費から、走行可能な距離を表示します。
● 燃料残量警告灯（➔P.266）が点灯したあとも燃料を補給しないと［---］と表示します。

知識

● ⛽▸の矢印は燃料補給口が車両右側にあることを示しています。
● 坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、正しく表示されない場合があります。燃料が少なくなってきたら、早めの給油を心がけてください。
● 10ℓ以下の給油では、航続可能距離が更新されないことがあります。

時計

● 時刻を表示します。
● NissanConnectインフォテインメントシステム装着車は、NissanConnectインフォテインメントシステムの時計と連動しており、時刻は自動的に調整されます。

設定の詳細については時計（➔P.57）をお読みください。

● NissanConnectインフォテインメントシステム非装着車の時計は、12Vバッテリーを外すと記憶が消去されます。12Vバッテリーを接続後、正しい時刻に調整してください。
● NissanConnectインフォテインメントシステム装着車の時計は、12Vバッテリーを接続後しばらく走行すると、自動的に調整されます。
● 時刻の表示は、12時間表示または24時間表示を選択できます。

外気温度計

● 外気温を表示します。
● 外気温センサー取り付け部の温度を表示するため、実際の外気温とは異なることがあります。

オドメーター（積算距離計）／トリップメーター（区間距離計）

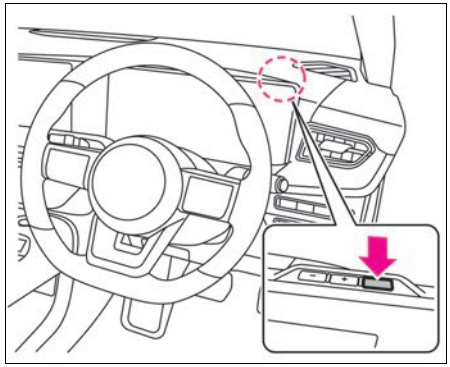
● <ODO／TRIP>スイッチを押すごとに、オドメーター⇒トリップメーター［A］⇒トリップメーター［B］⇒オドメーターの順に切り替わります。

オドメーター（積算距離計）

● 総走行距離をkmで表示します。

トリップメーター（区間距離計）

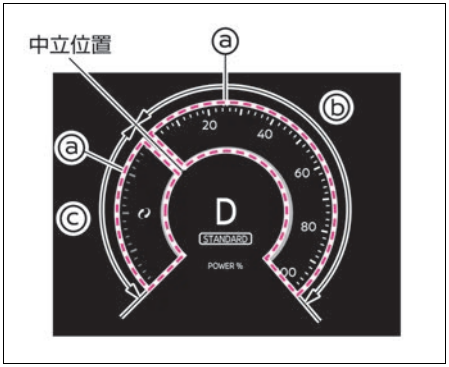
● リセットしてからの走行距離をkmで表示します。［A］と［B］でそれぞれ使い分けることができます。
●［A］または［B］のどちらかリセットしたい方を表示し、<ODO／TRIP>スイッチを1秒以上押すとリセットされます。
● 12Vバッテリーを外したときは、トリップメーターの［A］と［B］の記憶が消去され0に戻ります。



パワーメーター（クラシック表示）

走行中の出力（加速力）と回生量（電力の回収量）を表示します。

エンハンス表示に切り替えができます。

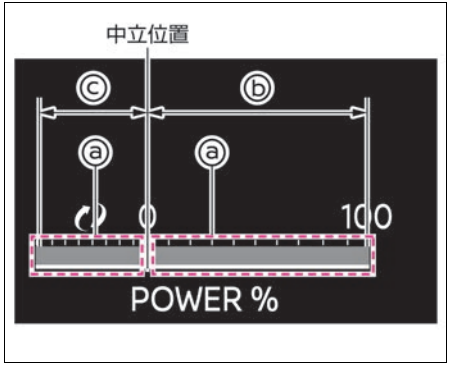


● 加速しているときは、ゲージⓐが中立位置から右側ⓑに表示されます。ゲージⓐが右側ⓑに多くなるほど、加速力が強くなっていることを表します。

● 電力を回収しているときは、ゲージⓐが中立位置から左側ⓒに表示されます。ゲージⓐが左側ⓒに多くなるほど、多くの電力を回収していることを表します。

パワーメーター（エンハンス表示）

走行中の出力（加速力）と回生量（電力の回収量）を表示します。



● 加速しているときは、ゲージⓐが中立位置から右側ⓑに表示されます。ゲージⓐが右側ⓑに多くなるほど、加速力が強くなっていることを表します。

● 電力を回収しているときは、ゲージⓐが中立位置から左側ⓒに表示されます。ゲージⓐが左側ⓒに多くなるほど、多くの電力を回収していることを表します。

リチウムイオンバッテリー残量計

● 現在のリチウムイオンバッテリーの残量を表示します。

● リチウムイオンバッテリーの温度によって、リチウムイオンバッテリー残量が増減することがあります。

ポジションインジケーター

● <シフトスイッチ>のシフトポジションを表示します。

➔ シフトスイッチの操作（P.117）

アドバイス

● 12Vバッテリー電圧低下、および12Vバッテリーあがりにより電装品への電源供給が停止されると、ポジションインジケーターが消灯する場合があります。その場合は<シフトスイッチ>の<P>スイッチを押してシフトポジションをPにしてください。

ドライブモードインジケーター

● 現在選択されているドライブモードが表示されます。ドライブモードは次のモードがあります。

— STANDARD
— SPORT
— ECO
— SNOW★

➔ ドライブモードセレクター（P.136）

標識検知表示

● フロントガラス上部にあるマルチセンシングフロントカメラにより最高速度標識／車両進入禁止標識／一時停止標識を検知し、アドバンスドドライブアシストディスプレイに表示します。

● アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［運転支援］⇒［標識検知支援］を選択すると、機能のON・OFFを切り替えることができます。

設定の詳細については、運転支援（➔ P.57）をお読みください。

アドバンスドドライブアシストディスプレイ

- アドバンスドドライブアシストディスプレイで、様々な機能の作動状態を表示したり、設定したりすることができます。

アドバンスドドライブアシストディスプレイについては、（➔P.51）をお読みください。

表示灯がついたときは

表示灯は、何らかのシステムが作動していることなどをお知らせするものです。点灯または点滅している理由は、次の説明をお読みください。警告や表示は、グレード、オプションなどにより異なります。

方向指示表示灯

- ＜非常点滅表示灯スイッチ＞を押すと左右同時に点滅します。
- ＜パワースイッチ＞がONのとき、方向指示器を作動させると、作動させた側のみ点滅します。

ヘッドランプ上向き表示灯

- ヘッドランプのハイビーム（上向き）を点灯させると点灯します。

ヘッドランプ下向き表示灯

- ヘッドランプのロービーム（下向き）を点灯させると点灯します。

テールランプ表示灯

- 車幅灯、尾灯、番号灯を点灯させると点灯します。

フォグランプ表示灯★

- フォグランプを点灯させると点灯します。

リヤフォグランプ表示灯★

- リヤフォグランプを点灯させると点灯します。

VDC OFF表示灯

- ＜パワースイッチ＞をONにすると点灯し、数秒後に消灯します。
- ＜パワースイッチ＞がONのとき、VDCをOFFにしていると点灯します。

ハイビームアシスト表示灯★

- ハイビームアシストをONにすると点灯します。

アダプティブLEDヘッドライト 表示灯★

- アダプティブLEDヘッドライトシステムをONにすると点灯します。

オートブレーキホールド表示灯（白色）

- オートブレーキホールド機能が待機状態のとき白色に点灯します。

オートブレーキホールド表示灯（緑色）

- オートブレーキホールド機能が作動しているとき緑色に点灯します。

走行可能表示灯

- 走行できる状態になると点灯します。（走行中も点灯し続けます。）
- e-POWERシステム始動時、走行可能な状態になるまで点滅します。

低水温表示灯

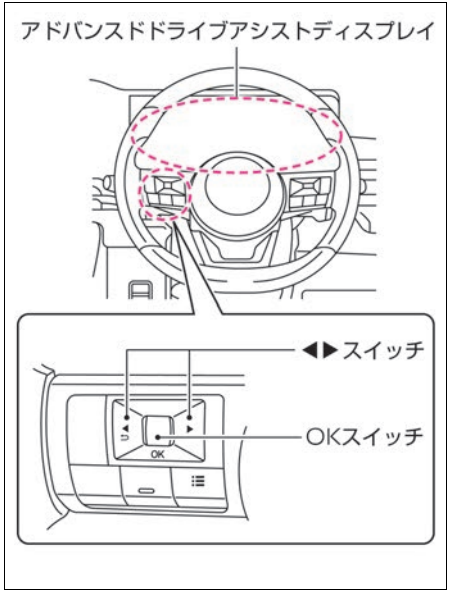
- ＜パワースイッチ＞をONにすると点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジン冷却水の温度が低いと点灯します。
- エンジン冷却水温が低いときは、低水温表示灯が消灯せずに点灯し続けますが、エンジンの暖機により、しばらくすると規定の水温以上に達して、消灯します。

ソナー検知表示灯★

- ソナーにより障害物を検知したときに点滅します。

アドバンスドドライブアシストディスプレイとは（メインメニュー）

アドバンスドドライブアシストディスプレイで、様々な機能の作動状態を表示したり、設定したりすることができます。<パワースイッチ>がONのとき、ステアリングスイッチの<◀▶>スイッチを押すと、ホーム、エコグループ、車両情報、ナビゲーション情報★、オーディオ情報★、走行支援グループ、警告、設定の順で表示項目が切り替わります。仕様またはソフトウェア更新などにより表示できる項目が異なる場合があります。メーター表示はクラシック表示とエンハンス表示の2種類あります。



車両情報画面

様々な車両情報を表示したり、各種設定をしたりすることができます。

ホーム

<パワースイッチ>がONのとき、ステアリングスイッチの<◀▶>スイッチでホーム［ ］を選択し、<OK>スイッチを回すと項目が切り替わります。ステアリングスイッチの使いかたは（➔P.51）をお読みください。

アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ］⇒［画面カスタマイズ］⇒［メインメニュー選択］で選択していると表示します。

ホーム★

- 次の情報を表示します。
  - オーディオ情報
  - ナビゲーションシステム情報
- オーディオやナビゲーション機能の使用状況によって、表示される項目は変わります。

エンハンス表示変更

- エンハンス表示のタイプを切り替えます。
- ［メインメニュー選択］で［表示なし］を選択すると表示されます。
- クラシック表示のときは表示されません。

エコグループ

<パワースイッチ>がONのとき、ステアリングスイッチの<◀▶>スイッチでエコグループ［ ］選択し、<OK>スイッチを回すと項目が切り替わります。ステアリングスイッチの使いかたは（➔P.51）をお読みください。

アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ］⇒［画面カスタマイズ］⇒［メインメニュー選択］で選択していると表示します。

ドライブコンピュータ

- ドライブコンピュータを表示します。ステアリングスイッチの<OK>スイッチを押すと［ドライブ情報1］、［ドライブ

情報2］、［給油後走行情報］の順で画面が切り替わります。
表示している情報をリセットするときは、リセットしたい画面を表示中にステアリングスイッチの＜OK＞スイッチを長押しします。その後リセットメニューからリセットする項目を選択し、再度ステアリングスイッチの＜OK＞スイッチを押します。リセット画面が表示されるので、［はい］を選択し、再度ステアリングスイッチの＜OK＞スイッチを押すとリセットされます。
画面の切り替えかたについては（➔P.51）をお読みください。

- ［ドライブコンピュータ］の項目
  - 平均燃費
  - 平均車速
  - 走行距離
  - 走行時間
- ドライブコンピュータの平均燃費をリセットすると、エコペダルガイドの平均燃費も連動してリセットされます。

平均燃費／エコインジケータ／エコペダルガイド

- ドライブモードがECOのときに表示します。
  ➔ドライブモードセレクター (P.136)

① リセットしてからの平均燃費を表示します。ステアリングスイッチの＜OK＞スイッチを押すと［ドライブ情報1］、［ドライブ情報2］、［給油後走行情報］の順で画面が切り替わります。
表示している情報をリセットするときは、リセットしたい画面を表示中にステアリングスイッチの＜OK＞スイッチを長押しします。その後リセットメニューからリセットする項目を選択し、再度ステアリングスイッチの＜OK＞スイッチを押します。リセット画面が表示されるので、［はい］を選択し、再度ステアリングスイッチの＜OK＞スイッチを押すとリセットされます。
画面の切り替え方については（➔P.51）をお読みください。

② アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［エコ］⇒［エコ情報設定］⇒［エコインジケータ］の設定をONにしているとき、アクセルペダル操作に応じてエコインジケータが3段階で点灯します。

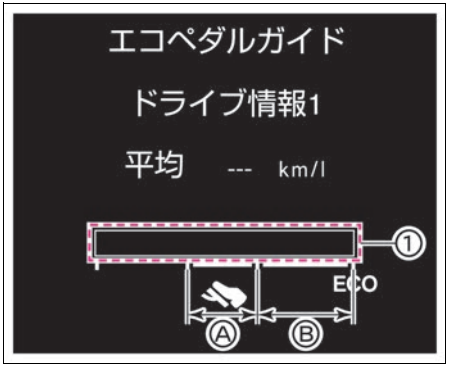
③ 走行しているとき、アクセルペダルの踏み加減を表示します。

- 平均燃費は、12Vバッテリー交換後やリセット後は［---］と表示します。
- 平均燃費は約30秒ごとに更新されます。
- 平均燃費をリセットすると、ドライブコンピュータの平均燃費も連動してリセットされます。

■ **エコインジケータ**

- アドバンスドドライブアシストディスプレイでエコペダルガイドを表示して走行しているとき、アクセルペダル操作に応じてエコインジケータ①が3段階で点灯します。
- エコドライブするほど、点灯範囲が大きくなります。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［エコ］⇒［エコ情報設定］⇒［エコインジケータ］を選択すると、エコインジケータのON・OFFを切り替えられます。
  設定の詳細については、エコ（➔P.57）をお読みください。
- シフトポジションがRのときは、点灯しません。

■ エコペダルガイド



- アドバンスドドライブアシストディスプレイでエコペダルガイドを表示して走行しているとき、アクセルペダルの踏み加減を①に表示します。
- アクセルペダルの踏み加減をエコ運転領域Ⓐに入るように調整することで、燃費向上につながります。
  アクセルペダルの踏み加減をⒷの範囲内に調整することでさらなる燃費向上につながります。
- シフトポジションがRのときは、点灯しません。

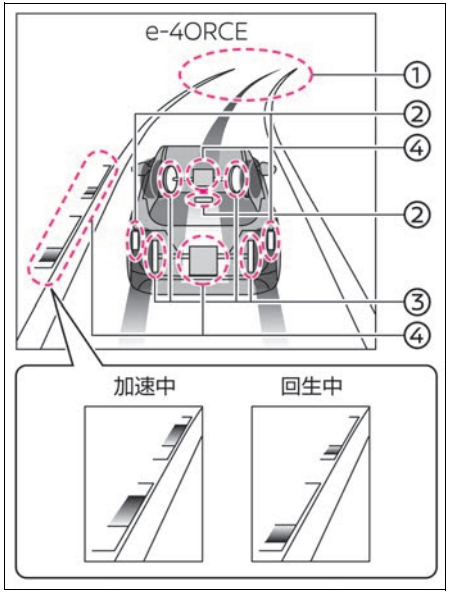
燃費履歴

- 2分ごとの平均燃費を、最大30分前まで棒グラフで表示します。
- クラシック表示は20分、エンハンス表示は30分で表示されます。

車両情報

<パワースイッチ>がONのとき、ステアリングスイッチの<◀▶>スイッチで車両情報［ ］を選択し、<OK>スイッチを回すと項目が切り替わります。
ステアリングスイッチの使いかたは（➔P.51）をお読みください。
アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ］⇒［画面カスタマイズ］⇒［メインメニュー選択］で選択していると表示します。

■ e-4ORCEパフォーマンスディスプレイ★



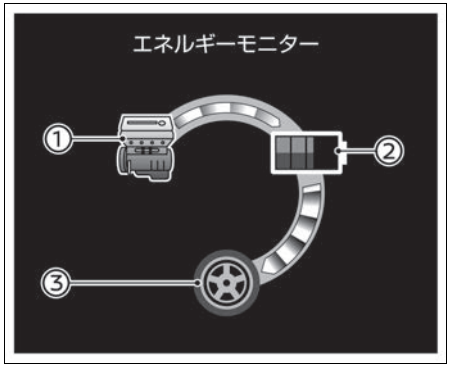
① 車両進行方向
② 制動灯点灯状態
③ e-4ORCEの制御状態
④ 4WDトルク・モーター作動状態（フロント／リヤ）
e-4ORCEの制御状態については、インテリジェント トレースコントロールがOFFになると点灯しません。

e-4ORCEの詳細については、➔ e-4ORCE（4WD）車★の扱いかた（P.138）をお読みください。

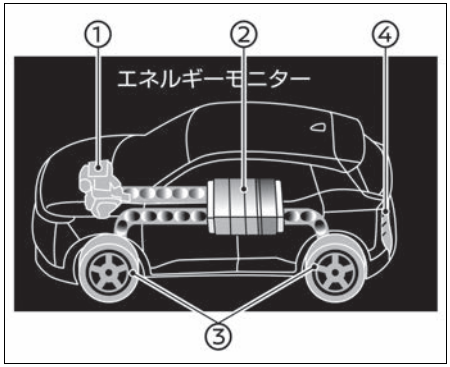
■ エネルギーモニター

車両の駆動状況、e-POWERシステムの作動状況およびエネルギーの回収状況を確認できます。

クラシック表示



エンハンス表示



① エンジン
② リチウムイオンバッテリー
③ タイヤ
④ ブレーキランプ

- エネルギーの流れは次の状態を表します。
  - エンジンからのエネルギー表示は、エンジンで発電したエネルギーで、リチウムイオンバッテリーを充電している状態
  - リチウムイオンバッテリーからのエネルギー表示は、リチウムイオンバッテリーに蓄えられたエネルギーを使って走行している状態
  - タイヤからのエネルギー表示およびタイヤの点灯は、回生ブレーキを使ってリチウムイオンバッテリーを充電している状態
  - エネルギーの流れがないときは表示されません。
- e-POWERシステムでは、発電しなくてもエンジンが作動することがあります。発電していないときはエネルギーは表示されません。
- ブレーキランプが点灯しているときは、エネルギーモニター内のブレーキランプも点灯します。
- 図は説明のためにすべてのエネルギーの流れを表示しており、実際の表示内容とは異なります。
- エンジン①、リチウムイオンバッテリー②の表示色は次のように変わります。
  - エンジン
    灰色：エンジンが燃料を消費していない状態
    橙色：エンジンが燃料を消費している状態
  - リチウムイオンバッテリー
    青色：バッテリー残量が通常状態
    黄色：バッテリー残量が低下状態
    ※バッテリー残量が低下すると、青色から黄色に表示色が変わります。
    （バッテリー残量が少ないときは、通常よりも駆動出力が低下することがあります。）

ナビゲーション情報★

<パワースイッチ>がONのとき、ステアリングスイッチの<◀▶>スイッチでナビゲーション情報［⊙］を選択し、<OK>スイッチを回すと項目が切り替わります。ステアリングスイッチの使いかたは（➔ P.51）をお読みください。

アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［画面カスタマイズ］

⇒［メインメニュー選択］で選択していると表示します。

ナビゲーション

- ナビゲーション機能で目的地を設定していると、NissanConnectインフォテインメントシステムと連動し、次の右左折までの距離などを表示します。
- 目的地を設定していないときは、表示されません。
- エンハンス表示のときは、表示されません。
- NissanConnectインフォテインメントシステムの取り扱いについては、NissanConnectインフォテインメントシステム取扱説明書をお読みください。

マップ表示

- ナビゲーション機能で目的地を設定していると、NissanConnectインフォテインメントシステムと連動し、ルートガイドを表示します。
- NissanConnectインフォテインメントシステムの取り扱いについては、NissanConnectインフォテインメントシステム取扱説明書をお読みください。

コンパス表示

- コンパス（車両の進行方位）を表示します。

オーディオ情報★

＜パワースイッチ＞がONのとき、ステアリングスイッチの＜◀▶＞スイッチでオーディオ情報［♫］を選択します。ステアリングスイッチの使いかたは（➔P.51）をお読みください。

アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［⚙］⇒［画面カスタマイズ］⇒［メインメニュー選択］で選択していると表示します。

オーディオ

- 現在使用中のオーディオ情報を表示します。
- この画面を表示中に、ステアリングスイッチの＜OK＞スイッチを押すと、オーディオの種類を切り替えることができます。
- オーディオの取り扱いについては、NissanConnectインフォテインメントシステム取扱説明書をお読みください。

走行支援グループ（表示項目）

＜パワースイッチ＞がONのとき、ステアリングスイッチの＜◀▶＞スイッチで走行支援グループ［⊕］を選択し、＜OK＞スイッチを回すと項目が切り替わります。ステアリングスイッチの使いかたは（➔P.51）をお読みください。

アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［⚙］⇒［画面カスタマイズ］⇒［メインメニュー選択］で選択していると表示します。

運転支援

- 運転支援システムのON・OFF状態を表示します。
- 運転支援システムで各機能の状態を表示します。詳細は➔運転支援ステータス画面（P.156）をお読みください。
- この画面を表示中に、ステアリングスイッチの＜OK＞スイッチを押すと、走行支援システムのメニュー画面を表示し、各システムのON・OFFを設定できます。詳しくは運転支援（➔P.57）の中の該当項目をお読みください。

クルーズ（CRUISE）

- プロパイロットの作動状態を表示します。ステアリングスイッチの＜プロパイロットスイッチ＞を押すと、運転支援画面を表示してから数秒後にクルーズ画面に切り替わります。
- この画面を表示中に、ステアリングスイッチの＜OK＞スイッチを押すと、プロパイロットのメニュー画面を表示し、ハンドル支援のON・OFFを設定できます。
- プロパイロットについては、（➔P.150）をお読みください。
- ブレーキランプが点灯しているときは、メーター内のブレーキランプも点灯します。

制限速度標識

- 最高速度標識／はみ出し通行禁止標識の検知状態を表示します。
- 最高速度標識検知／はみ出し通行禁止標識検知については、（➔P.192）をお読みください。

警告

警告について

- 異常を検知するとマスターウォーニング［⚠］が点灯し、アドバンスドドライブ

アシストディスプレイに警告を表示します。
警告を一時的に消すときは、<OK>スイッチを押します。

● 警告が表示されたときは、すみやかに適切な処置をしてください。放置すると故障や思わぬ事故につながるおそれがあります。

確認のしかた

異常を検知している場合は、<パワースイッチ>がONのときにステアリングスイッチの<◀▶>スイッチで警告［⚠］を選択すると、異常を検知している警告が確認できます。

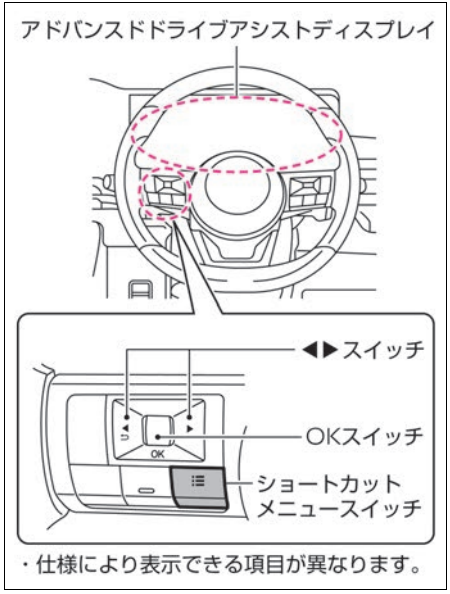
警告メッセージの表示画面については、（➔P.268）をお読みください。

ステアリングスイッチの使いかたは（➔P.51）をお読みください。

アドバンスドドライブアシストディスプレイとは（ショートカットメニュー）

<パワースイッチ>がONのとき、ステアリングスイッチの<☰>スイッチを押すと、よく使用する設定項目画面をすばやく表示することができます。メーター画面モード変更、オーディオ★、運転支援のいずれかの表示項目を選択できます。
仕様により表示できる項目が異なります。

画面の切り替えかた（ショートカットメニュー）

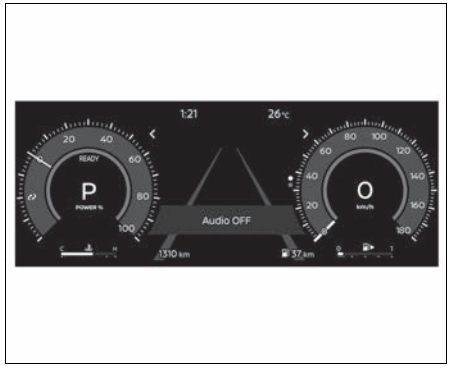


メーター画面モード変更

● <パワースイッチ>がONのとき、ステアリングスイッチの<☰>スイッチを押してから［メーター画面モード変更］を選択し、<OK>スイッチを押すと表示画面が切り替わります。なおメーター表示は、クラシック表示とエンハンス表示の2種類あります。
ステアリングスイッチの使いかたは（➔P.51）をお読みください。

クラシック表示

● 左側にパワーメーター、右側にスピードメーター（速度計）が大きく表示される画面です。



エンハンス表示

● 左右のアナログメーター表示をデジタル表示化および移動して、中央のアドバンスドドライブアシストディスプレイを拡大した画面です。

オーディオ★

ステアリングスイッチの< ☰ >スイッチを押してから<OK>スイッチを回して［オーディオ］を選択し、<OK>スイッチを押して決定することができます。

- 項目
  - AM
  - FM
  - TV1
  - TV2
  - USB1
  - USB2
  - iPod1
  - iPod2
  - Apps
  - Bluetoothオーディオ
  - Apple CarPlay
  - Android Auto
  - HDMI
- オーディオの取り扱いについては、NissanConnectインフォテインメントシステム取扱説明書をお読みください。
- 機器接続状況により表示は異なります。

運転支援

ステアリングスイッチの< ☰ >スイッチを押してから<OK>スイッチを回して［運転支援］を選択し、<OK>スイッチを押して決定することができます。

- 側方支援
  - 車線逸脱警報
  - 車線逸脱防止支援
  - 警報感度
  - ステア振動
- 後側方支援★
  - 後側方車両検知警報
  - 後側方衝突防止支援
- 緊急支援
  - 前方衝突防止支援
  - 踏み間違い衝突防止支援
- 設定の詳細については、設定（各種設定画面）の運転支援をお読みください。
  運転支援（➔P.57）

各種設定画面

運転支援システムのON・OFF設定などができます。
ステアリングスイッチの使いかたは（➔P.51）をお読みください。

設定（各種設定画面）

各種設定画面では、次の機能の設定ができます。ステアリングスイッチの<◀▶>スイッチで設定［ ⚙ ］を表示し、<OK>スイッチを押して設定画面を表示させ<OK>スイッチを回して選択します。
<OK>スイッチを押して決定することができます。

■ VDC設定★

システム

VDC機能のON・OFFを設定します。

➔VDC（ビークルダイナミクスコントロール）（P.140）

■ 運転支援

車線維持支援

- ハンドル支援
  車線維持機能（ハンドル支援）のON・OFFを設定します。
  ➔車線維持機能（ハンドル支援）について（P.159）

側方支援

- 車線逸脱警報
  LDW（車線逸脱警報）のON・OFFを設定します。
  ➔LDW（車線逸脱警報）／インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）（P.181）

●車線逸脱防止支援
インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）のON・OFFを設定します。
➔ LDW（車線逸脱警報）／インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）(P.181)

●警報感度
警報感度を、［高い］、［標準］、［低い］から選択します。

●ステア振動
ステアリング振動を、［大］、［中］、［小］から選択します。

後側方支援★

●後側方車両検知警報
BSW（後側方車両検知警報）のON・OFFを設定します。
➔ BSW（後側方車両検知警報）★／インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）★ (P.174)

●後側方衝突防止支援
インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）のON・OFFを設定します。
➔ BSW（後側方車両検知警報）★／インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）★ (P.174)

緊急支援

●前方衝突防止支援
インテリジェント エマージェンシーブレーキ、インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）のON・OFFを設定します。
➔ インテリジェント エマージェンシーブレーキ (P.161)
➔ インテリジェント FCW（前方衝突予測警報） (P.185)

●踏み間違い衝突防止支援
踏み間違い衝突防止アシストのON・OFFを設定します。
➔ 踏み間違い衝突防止アシスト (P.168)

先行車発進お知らせ

●先行車発進お知らせの設定を、［OFF］、［遅め］、［標準］、［早め］から選択します。
➔ 先行車発進お知らせ (P.194)

標識検知支援

●制限速度標識
最高速度標識検知／はみ出し通行禁止標識検知のON・OFFを設定します。
➔ 標識検知機能 (P.191)

●道路標識
進入禁止標識検知／一時停止標識検知のON・OFFを設定します。
➔ 標識検知機能 (P.191)

駐車支援

●後退時車両検知警報★
RCTA（後退時車両検知警報）のON・OFFを設定します。
➔ RCTA（後退時車両検知警報）★ (P.187)

●移動物検知★
移動物 検知のON・OFFを設定します。
➔ 移動物 検知機能について (P.210)

●前方ソナー
フロントソナーのON・OFFを設定します。
➔ ソナー表示 (P.62)

●後方ソナー★
バックソナーのON・OFFを設定します。
➔ ソナー表示 (P.62)

●ソナー検知距離
ソナー検知距離を［遠］、［中］、［近］から選択します。障害物までの最長距離が110%（［遠］）、100%（［中］）、90%（［近］）で変更できます。
［中］を選択したときの障害物までの最長距離は、（➔ P.211、➔ P.218）をご参照ください。
➔ ソナー表示 (P.62)

●ソナー自動表示
障害物に近づいたときの、割り込み表示のON・OFFを設定します。
➔ ソナー表示 (P.62)

●ソナー音量
ボリューム（警告音（ブザー））を、［大］、［中］、［小］から選択します。
➔ ソナー表示 (P.62)

ドライバーモニター

●ふらつき警報
インテリジェント DA（ふらつき警報）のON・OFFを設定します。
➔ インテリジェントDA（ふらつき警報）(P.190)

走行時間

● ---分／---分
設定した時間まで連続走行したことをお知らせします。
＜OK＞スイッチを回すと分が切り替わり、＜OK＞スイッチを押すと決定します。
— 最大360分まで設定できます
— 設定時間は30分単位で切り替わります
（＜◀＞スイッチを押すと設定前の画面に戻ります）

● リセット
［はい］を選択すると、走行した時間をリセットできます。

凍結注意

外気温が3℃以下になったときに表示する凍結注意表示のON・OFFを設定します。

シャシー制御

● トレースコントロール
インテリジェント トレースコントロール（コーナリング安定性向上システム）のON・OFFを設定します。
➔ インテリジェント トレースコントロール（コーナリング安定性向上システム）について (P.141)

■ エコ

走行中は操作できません。

エコモード設定

● クルーズコントロール

● 空調
ドライブモードがECOのとき、燃費を優先する機能に設定するかしないかを、項目ごとにON・OFF設定することができます。
➔ ドライブモードセレクター (P.136)

エコ情報設定

● エコインジケータ
エコインジケータのON・OFFを設定します。
OFFにすると、エコインジケータが表示されなくなります。
➔ エコグループ (P.51)

● エコドライブレポート
エコドライブレポートのON・OFFを設定します。
OFFにすると、エコドライブレポートが表示されなくなります。
➔ エコドライブレポートについて (P.62)

燃費履歴リセット

● 燃費履歴画面を表示します。

● リセットするときは、この画面を表示中にステアリングスイッチの＜OK＞スイッチを押します。リセット画面が表示されるので、［はい］を選択し、再度ステアリングスイッチの＜OK＞スイッチを押すとリセットされます。

■ 時計

走行中は操作できません。

NissanConnectインフォテインメントシステム装着車は、GPSからの情報を使って自動で時刻を設定します。

表示

時計表示のON・OFFを設定します。

時計設定★

時計を設定します。

① ＜OK＞スイッチを押すと「時」調整画面に切り替わります。
② ＜OK＞スイッチを回して「時」を調整します。
③ ＜OK＞スイッチを押すと「分」調整画面に切り替わります。
④ ＜OK＞スイッチを回して「分」を調整します。
⑤ ＜OK＞スイッチを押すと時刻が設定されます。
（＜◀＞スイッチを押すと前の調整画面に戻ります）

時間表示★

＜OK＞スイッチを押すと12時間表示、24時間表示を切り替えます。

■ 車両設定

走行中は操作できません。

パワーバックドア★

リモコンオートバックドアのON・OFFを設定します。
➔ リモコンオートバックドア★ (P.75)

ライト/照明

● ウエルカムヘッドライト
ウェルカムライト機能のON・OFFを設定します。
ウェルカムライト機能（フェアウェル機能付）（➔ P.131）

●オートライト感度調整
インテリジェント オートライトシステム（フロントワイパー連動、薄暮れ感知「おもいやりライト」機能付）の点灯タイミングを、［より早い］、［早い］、［標準］、［遅い］から選択します。
➔ AUTO（自動点灯・消灯）の使いかた (P.126)

●デイタイムランニングランプ
デイタイムランニングランプ機能のON・OFFを設定します。

ロック

●keyエントリー
ドアにあるスイッチでの施錠・解錠機能のON・OFFを設定します。
➔ インテリジェントキー機能による施錠・解錠のしかた (P.71)

●降車時オートロック
降車時オートロック機能のON・OFFを設定します。
降車時オートロック機能（➔P.67）

●接近時アンロック
接近時アンロック機能のON・OFFを設定します。
接近時アンロック機能（➔P.67）

ワイパー

●車速連動
車速連動機能のON・OFFを設定します。
➔ フロントワイパーの使いかた (P.133)

●リバース連動
リバース連動機能のON・OFFを設定します。
➔ リヤワイパーの使いかた (P.134)

●ドリップ拭き取り
ドリップ拭き取り機能のON・OFFを設定します。
➔ ウォッシャーの使いかた (P.134)

後席リマインダー

後席リマインダーのON・OFFを設定します。
➔ 後席リマインダー (P.80)

ドアミラー

●自動開閉OFF
ドアロック連動格納機能がOFFになります。
➔ ドアロック連動格納機能について (P.92)

●パワーON連動
ドアロック連動格納機能がONになります。また、<パワースイッチ>をONにしたときにドアミラーが開く設定になります。
➔ ドアロック連動格納機能について (P.92)

●ドアアンロック連動
ドアロック連動格納機能がONになります。また、リモコンキーまたは、ドアにあるスイッチで解錠すると、ドアミラーが開く設定になります。
➔ ドアロック連動格納機能について (P.92)

■ メンテナンス

走行中は操作できません。

オイル交換時期

●車両システムが自動で設定したエンジンオイル交換までの距離を表示します。
— エンジンオイル交換までの距離は、走行状況に応じてシステムにより自動で設定されます。手動で設定することはできません。
— エンジンオイル交換時期が近づくと、メーターにオイル交換までの残り距離が表示されます。
— エンジンオイル交換時期になると、<パワースイッチ>をONにすると、オイル交換警告画面を表示します。
— エンジンオイル交換後は、必ず表示をリセットしてください。リセットするときは、この画面を表示中にステアリングスイッチの<OK>スイッチを押すとリセット画面が表示されます。［はい］を選択し、再度<OK>スイッチを押すと走行した距離をリセットできます。リセットしなかった場合、オイル交換残り距離が誤って表示されます。その場合、標準距離の半分の距離でオイル交換してください。標準距離については別冊のメンテナンスノートをお読みください。

●メンテナンスノートに記載されている「厳しい使われ方の条件」に当てはまる場合、オイル交換距離表示画面が表示されるまでの距離が短くなる場合があります。

アドバイス

- エンジンオイル交換時以外にリセットはしないでください。

タイヤ

ユーザー

- 次回メンテナンスを行うまでの距離を設定できます。設定値を超えるとメンテナンスする距離がきたことを表示で知らせます。（定期交換部品などの交換距離については、別冊のメンテナンスノートをお読みください）
  - ＜OK＞スイッチを回すと距離が切り替わり、＜OK＞スイッチを押すと決定します。（＜ ◀ ＞スイッチを押すと設定前の画面に戻ります）
  - 500km～30,000kmまでの範囲内で距離を設定できます。
  - 設定距離は500km単位で切り替わります。
  - ［リセット］を選択して＜OK＞スイッチを押すとリセット画面が表示されます。［はい］を選択し、再度＜OK＞スイッチを押すと走行した距離をリセットできます。
- 機能を停止することができます。
  - 停止する場合は、距離表示を［---］に合わせ＜OK＞スイッチを押し決定します。

■ 画面カスタマイズ

走行中は操作できません。

メインメニュー選択

車両情報画面で表示させたい項目を選択することができます。

➔ 車両情報画面（P.51）

ナビゲーション設定★

- 自動割込み設定
  走行中、次の右左折点に接近したとき、メーター内にポップアップでお知らせする機能のON・OFFを設定します。

クルーズ画面切替

クルーズ画面切替のON・OFFを設定します。

ONにするとプロパイロットのシステムをONにしたとき、画面がクルーズ画面に切り替わります。

➔ プロパイロット（P.150）

メーター演出

- アニメーション
  ディスプレイ演出のON・OFFを設定します。
  OFFにすると、e-POWERシステム始動時のアニメーションがOFFになります。
- サウンド
  ディスプレイ演出のON・OFFを設定します。
  OFFにすると、e-POWERシステム始動時および停止時のサウンドがOFFになります。

オペレーションガイダンス

- ライト
  ライトスイッチを回したとき、スイッチ位置をメーター内にポップアップで表示する機能のON・OFFを設定します。
- ワイパー
  - フロント
    ワイパースイッチを動かしてフロントワイパーを作動させたときに、スイッチ位置をメーター内にポップアップで表示する機能のON・OFFを設定します。
  - リア
    ワイパースイッチを動かしてリヤワイパーを作動させたときに、スイッチ位置をメーター内にポップアップで表示する機能のON・OFFを設定します。
- アダプティブヘッドライト★
  ライトスイッチが＜AUTO＞の位置以外でアダプティブLEDヘッドライトシステムのスイッチを押したときに、オペレーションガイダンスをメーター内にポップアップで表示する機能のON・OFFを設定します。
  ➔ アダプティブLEDヘッドライトシステム★（P.129）
- ハイビームアシスト★
  ライトスイッチが＜AUTO＞の位置以外でハイビームアシストのスイッチを押したときに、ガイダンスをメーター内にポップアップで表示する機能のON・OFFを設定します。
  ➔ ハイビームアシスト★（P.127）

■ 単位／言語

走行中は操作できません。

距離/燃費

距離と燃費の表示単位をkm, km/lまたはkm, l/100kmに切り替えます。

温度

温度の単位を℃または℉に切り替えます。

言語

表示言語を日本語またはEnglishに切り替えます。

■ 工場出荷設定

走行中は操作できません。

工場出荷時の設定にリセットすることができます。

［はい］を選択すると、各種設定が初期化されます。

その他の表示機能

ソナー表示

● 車両が障害物に近づくと、アドバンスドドライブアシストディスプレイのソナー表示色が緑⇒黄（オレンジ）⇒赤の順に切り替わり、警報音（ブザー）が鳴ります。

表示色	警報音
緑	ピッ、ピッ、ピッ…
黄（オレンジ）	ピピピピピ…
赤	ピー

● 次の場合にソナー機能が作動します。
- シフトポジションをRにしたとき
- シフトポジションがDまたはBで障害物を検知したとき（約10km/h以下）

● ソナー表示中にステアリングスイッチの＜OK＞スイッチ、＜◀▶＞スイッチを押す、または＜OK＞スイッチを回すと一時的にソナー機能を停止できます。

● ただし次の場合は、一時停止が解除されます。
- シフトポジションをN、Pにしたとき
- 約12km/h以上で走行したとき

● ソナーについては、（➔P.211、➔P.218）をお読みください。

● アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［運転支援］⇒［駐車支援］を選択すると、ソナー機能の各種設定が行えます。
設定の詳細については、運転支援（➔P.57）をお読みください。

● ソナーが障害物を検知すると、ソナー画面が割り込み表示します。割り込み表示はOFFにすることができます。
➔ 設定（各種設定画面）（P.57）

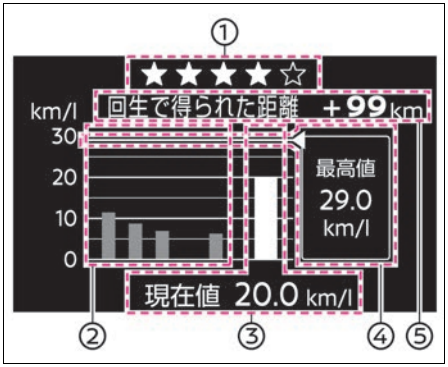
● ソナーのお手入れについては、（➔P.310）をお読みください。

● 障害物の検知は前方4個、後方4個のソナーセンサーを使用して検知をします。

エコドライブレポートについて

＜パワースイッチ＞をOFFにすると、エコドライブレポート画面を表示します。

今回の評価などの結果表示は、しばらく走行すると表示されます。



① **今回の評価**
エコドライブするほど★が増えます。

② **履歴**
過去5回分の平均燃費を表示します。

③ **現在値**
今回の平均燃費を表示します。

④ **最高値**
過去のベスト燃費を表示します。

⑤ **回生で得られた距離**
今回の走行で回生した電力量を距離換算で表示します。

- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［エコ］⇒［エコ情報設定］⇒［エコドライブレポート］を選択すると、エコドライブレポートの表示・非表示を切り替えることができます。
  設定の詳細については、エコ（➔P.57）をお読みください。

着信表示★

- 携帯電話をハンズフリー接続しているときに、着信すると表示します。
  ハンズフリーフォンについては、NissanConnectインフォテインメントシステム取扱説明書をお読みください。

通話表示★

- 携帯電話をハンズフリー接続しているときに、通話すると表示します。
  ハンズフリーフォンについては、NissanConnectインフォテインメントシステム取扱説明書をお読みください。

音声操作表示★

- NissanConnectインフォテインメントシステムで音声操作を行うと、アドバンスドドライブアシストディスプレイに音声操作表示をします。
  音声操作については、NissanConnectインフォテインメントシステム取扱説明書をお読みください。

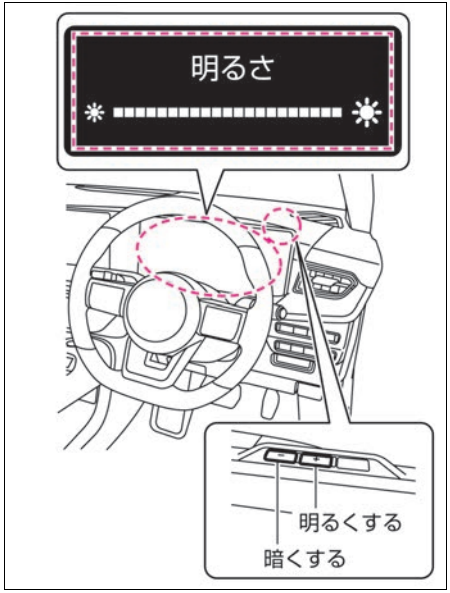
メーターの明るさの調節

イルミネーションコントロール

メーターの明るさ調節のしかた

<パワースイッチ>がONのとき、メーター照明の明るさを調節できます。

- スイッチを押して調節します。
- 明るさのレベル表示は、アドバンスドドライブアシストディスプレイに表示されます。
- 明るさのレベルが最大または最小に達すると、音が鳴ります。



キー

インテリジェントキー	P.66
インテリジェントキーに関する注意事項	P.68

ドアの施錠と解錠

ドア	P.71
バックドア	P.73
リモコンオートバックドア★	P.75
後席リマインダー	P.80

シート・ハンドルの調節

前席シート	P.82
後席シート	P.85
ハンドル	P.87

ミラーの調節

ルームミラー★	P.88
インテリジェント ルームミラー★	P.88
ドアミラー	P.91
サイドアンダーミラー★	P.93

窓ガラスの開閉

パワーウインドー	P.94
パノラミックガラスルーフ★	P.95

燃料補給口の開閉

燃料補給口	P.98

エアコンの操作

オートエアコンシステム（タイプA）	P.100
オートエアコンシステム（タイプB）	P.103
吹き出し口	P.107
エアコンを使うときに注意すること	P.108

オーディオ★

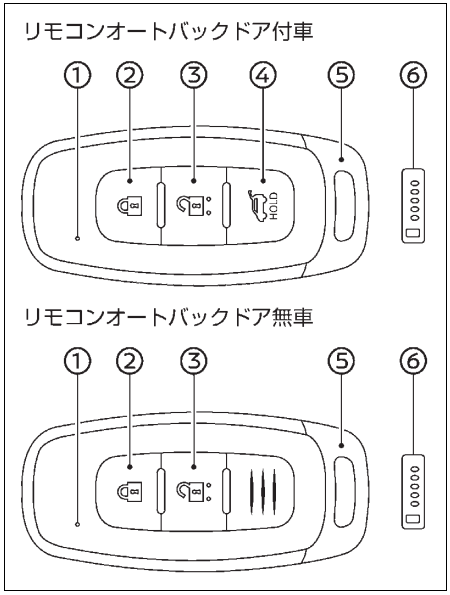
オーディオの使いかた	P.110
ステアリングスイッチ	P.110

インテリジェントキー

キーを携帯するだけでドアの施錠・解錠およびe-POWERシステムの始動操作ができます。

ドアの施錠・解錠のしかたは（➲P.71）、始動操作は（➲P.114）をお読みください。

各部名称と機能



① **作動表示灯**
いずれかのスイッチを押すと、赤く点滅します。

② **ドア施錠スイッチ**
スイッチを押すと、全ドアが施錠します。

③ **ドア解錠スイッチ**
スイッチを押すと、全ドアが解錠します。

④ **リモコンオートバックドア開閉スイッチ★**
バックドアを解錠してから操作します。
スイッチを長押しすると、バックドアが自動で開閉します。

⑤ **内蔵キー（メカニカルキー）**
キーの電池が切れたときや、12Vバッテリーがあがったときなどにドアの施錠・解錠ができます。

⑥ **キー番号タグ**
キーを紛失した場合、キー番号から日産販売会社でスペアキーを作成できますので、大切に保管してください。

- キーを紛失した場合、キー番号から日産販売会社でスペアキーを作成できますので、大切に保管してください。
- キーは2個ついています。
- キーは同じ車両で最大4個まで使うことができます。ご購入やご使用開始方法については、日産販売会社にご相談ください。
- キーの電池が切れても、ドアの施錠・解錠やe-POWERシステムの始動（<パワースイッチ>ON）を行うことができます。

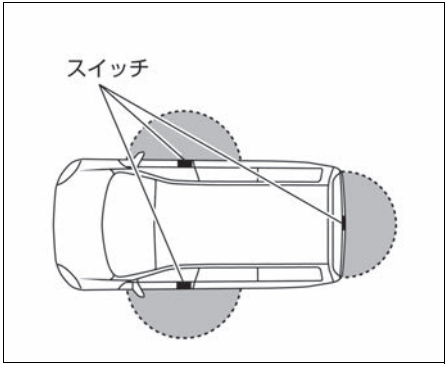
➲内蔵キー（メカニカルキー）でのドアの開けかた（P.257）

ドアの施錠・解錠の作動範囲

作動範囲は各ドアハンドルのスイッチから周囲約80cm以内です。作動範囲は球状になっているため、地面近くや高い場所では作動しないことがあります。

インテリジェントキーが作動範囲内にある場合は、キーを携帯している人以外でもドアハンドルのスイッチを押して施錠・解錠できます。

- ドアハンドルのスイッチを押してドアを施錠したあとは、作動確認のためブザーまたは非常点滅表示灯のアンサーバック機能で施錠されたことを確認してください。
- ドアハンドルのスイッチを押す前にドアハンドルを引かないでください。



インテリジェントキーに関する機能について

■ アンサーバック機能

● ドアの施錠・解錠時に、作動確認のためのブザーと非常点滅表示灯が作動します。（施錠時1回、解錠時2回）
アンサーバック機能のブザーを停止することができます。日産販売会社にご相談ください。

■ ウェルカムライト機能（フェアウェル機能付）

● ドアの施錠・解錠時に、車幅灯、尾灯、番号灯が点灯します。（施錠時約10秒、解錠時約30秒）

● アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［車両設定］⇒［ライト/照明］⇒［ウエルカムヘッドライト］を選択すると、ウェルカムライト機能（フェアウェル機能付）の設定を変更することができます。
設定の詳細については、車両設定（➔P.57）をお読みください。

■ キー連動室内照明システム

● ドアを解錠すると、室内照明（ラゲッジルームランプを除く）が約20秒間点灯します。
詳しくは、室内灯（➔P.222）をお読みください。

■ オートロック機能

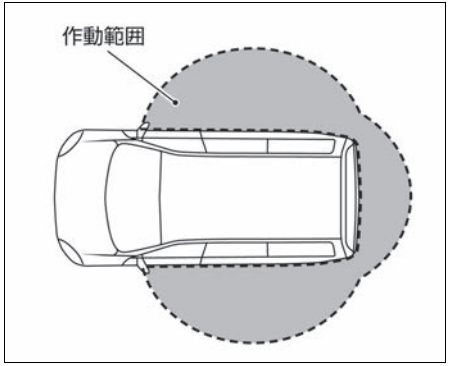
● ＜ドア解錠スイッチ＞を押してから約30秒以内にいずれかのドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に全ドアが施錠されます。
（施錠されるまでの間に、再度＜ドア解錠スイッチ＞を押すと、その時点から約30秒後に施錠されます）

■ パワーウインドー遠隔操作機能

● インテリジェントキーの＜ドア施錠スイッチ＞または＜ドア解錠スイッチ＞を長押ししている間、車外からパワーウインドーを開閉できます。
➔ パワーウインドーの開けかた、閉めかた（P.94）

■ 接近時アンロック機能

● インテリジェントキーを携帯して車に近づくと自動で車両が解錠されます。作動範囲はドアミラーから車両後方にかけて車両から約1mの範囲です。

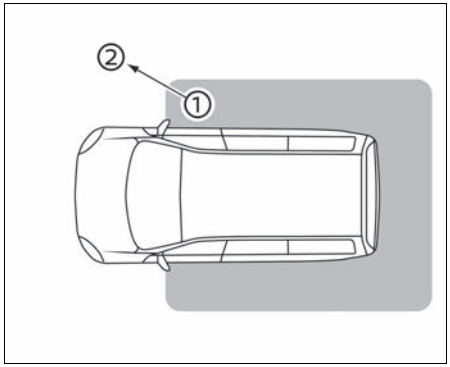


● アドバンスドドライブアシストディスプレイで次の操作をすると、接近時アンロック機能のON・OFFを切り替えることができます。（工場出荷時はOFFに設定されています）
設定［ ⚙ ］⇒［車両設定］⇒［ロック］⇒［接近時アンロック］
設定の詳細については、車両設定（➔P.57）をお読みください。

● 次の場合は作動しません。
— キーを車室内に置き忘れているとき
— 一定時間、キーを車両周辺に置いたままのとき（ドアを解錠後、再度ドアを施錠すると、接近時アンロック機能が再度作動可能になります）
— 施錠してから8日間経過したとき
— 車室内の＜ドアロックスイッチ＞で施錠したとき

■ 降車時オートロック機能

●＜パワースイッチ＞をOFFにしたあと、ドア開閉をしてからインテリジェントキーを携帯して車から離れると自動で車両が施錠されます。車両から約2mを境界とし①の範囲から②の範囲へ移動すると作動します。



●アドバンスドドライブアシストディスプレイで次の操作をすると、降車時オートロック機能のON・OFFを切り替えることができます。（工場出荷時はOFFに設定されています）
設定［ ⚙ ］⇒［車両設定］⇒［ロック］⇒［降車時オートロック］
設定の詳細については、車両設定（➔P.57）をお読みください。

●次の場合は作動しません。
— キーを車室内に置き忘れているとき
— いずれかのドアが開いているとき
— 一定時間、キーを車両周辺に置いたままのとき（ドアを開閉すると、降車時オートロック機能が再度作動可能になります）
— 走行可能表示灯［READY］が点灯しているとき
— キーのスイッチで解錠したとき
— ドア開閉時にインテリジェントキーが車両から2m以内にないとき

■ スリープモード

ドアハンドルのスイッチでの施錠・解錠、およびe-POWERシステムの始動を一時的に停止するモードです。

●インテリジェントキーの＜ドア施錠スイッチ＞を押したまま＜ドア解錠スイッチ＞を2回押します。
一定時間、キーの作動表示灯が点灯します。作動表示灯が点灯中にドア施錠スイッチを押すと、作動表示灯が2回点滅しスリープモードになります。

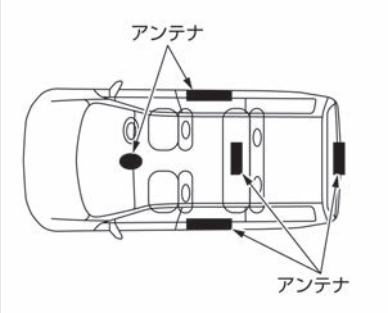
●スリープモードを解除するときは、キーのいずれかのスイッチを押してください。

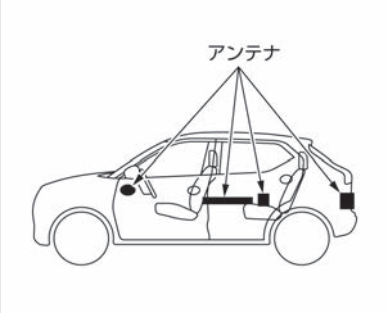
インテリジェントキーに関する注意事項

⚠ 警告

● **植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）を使用されている方は、アンテナから約22cm以下の範囲に装着部位を近づけない。**

ドアおよびバックドア開閉時、ドアハンドルのスイッチ操作時、e-POWERシステム始動時などにキーの電波が植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）の作動に影響を与えるおそれがあります。





警告

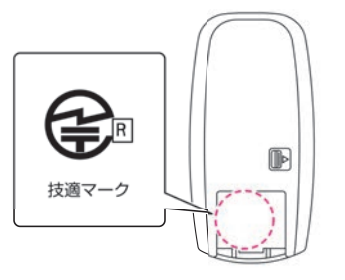
- **植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）以外の医療電気機器を使用されている方は、医療電気機器製造業者などへ影響を確認してから使用する。**

  キーの電波が医療電気機器の動作に影響を与える場合があります。

- **航空機内ではキーのスイッチを押さない。**

  万一スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運航に支障をきたすおそれがあるため、バッグなどに収納するときは、荷物などでスイッチが押されないようにしてください。

- キーの認証技適マークはキーの裏面で確認できます。



- キーのスイッチを押しても作動しないときは、電池の消耗または故障が考えられます。日産販売会社にご相談ください。
  ➔ インテリジェントキーの電池交換 (P.304)

- キーの電池が切れ、施錠・解錠ができないときは、内蔵キー（メカニカルキー）で施錠・解錠ができます。
  ➔ ドアが開かないときは (P.257)

- 次のような場合は、作動しません。
  - 走行可能表示灯［READY］が点灯している
  - ドアが完全に閉まっていない（半ドア）とき
  - 車から離れすぎているとき
  - キーの電池が切れているとき

アドバイス

- キーは運転者が必ず携帯してください。
- キーは、必ず内蔵キー（メカニカルキー）を内蔵した状態で携帯してください。
- キーはドアポケットに入れないでください。ドアを閉めるときの衝撃により破損するおそれがあります。また、ドアポケット内に一緒に入れておいた物がドアを閉めた衝撃で当たるなどして勝手にスイッチが入り、キーを車室内に封じ込めるおそれがあります。
- インストルメントパネル上面、ドアポケット付近、グローブボックス内、フロア上では、キーが正常に作動しなかったり、車外から施錠されて、キーを車室内に封じ込めたりするおそれがあります。
- キーを紛失したときは、盗難などを防ぐため、ただちに日産販売会社にご相談ください。
- キーは微弱な電波を使用しています。次のような使用環境では機能に障害が起こるため、ドアハンドルのスイッチやキーのスイッチが正常に作動しない場合があります。
  - 近くにテレビ塔や発電所、放送局など強い電波やノイズを発生する設備があるとき
  - インテリジェントキーをワイヤレス充電器★の充電エリア内に置いたとき
  - 無線機や携帯電話などの無線通信機器を一緒に携帯しているとき
  - キーが金属製の物に接したり、覆われていたりしているとき
  - 近くで電波式のリモコンスイッチを操作しているとき
  - キーをパソコンなどの電化製品の近くに置いたとき
  - コインパーキングに駐車したとき（車両検出用の電波の影響があるため）
  - 近くで電波式侵入警報装置を使用しているとき
  - 極端に気温が低いとき（電池の性能が低下するため）
- キーは電波法の認証に適合しています。次のことを必ずお守りください。

アドバイス

— 電池を交換するとき以外は分解しない（分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています）

— 日本国内のみで使用する

● キーは車両との通信のために常時受信動作をしているため、常に電池を消耗しています。電池の寿命は使用状況によりますが約2年です。電池が切れた場合、新しい電池と交換してください。

➔インテリジェントキーの電池交換(P.304)

● キーの電池が消耗しているときや、強い電波、ノイズのある場所では、作動範囲が狭くなったり、作動しなかったりすることがあります。

● キーは送信機を内蔵している精密機械です。故障を防止するため、次のことをお守りください。

— 長時間高温になる場所に置かない

— 分解しない

— 無理に曲げたり、落としたり、強い衝撃を与えたりしない

— 水に濡らさない

— 超音波洗浄器などにかけない

— 磁気を帯びたキーホルダーなどを付けない

— テレビ、オーディオなど、磁気を帯びた機器の近くに置かない

● 車両盗難防止のために、インテリジェントキーは車両から2m以上離して保管してください。

● インテリジェントキーの操作をしなくても、車両周辺にキーがあると電池の消耗が早くなります。電池の寿命を長くするためにも、車両周辺にキーを持ったまま長時間滞在しないことをおすすめします。

● 降車時オートロック機能で車両を施錠した場合、施錠されたことをアンサーバック機能（➔P.67）で確認してください。アンサーバック機能が作動しない場合、正しく施錠できていません。

ドア

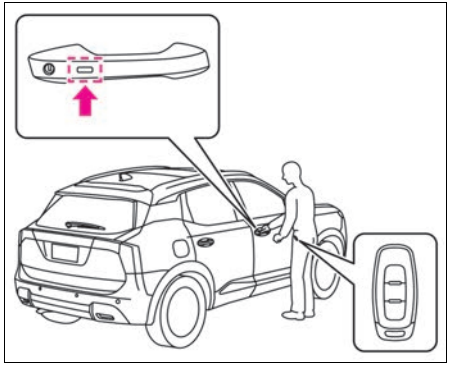
ドアハンドルのスイッチやインテリジェントキーのスイッチで施錠・解錠します。

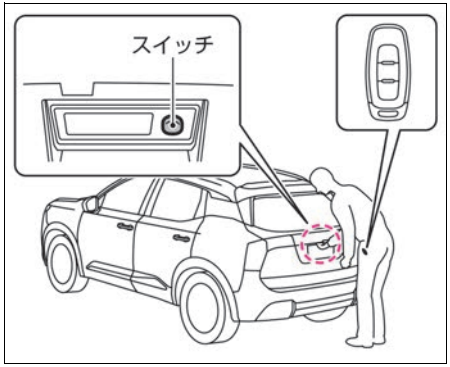
ドアを施錠したあとは、作動確認のためブザーまたは非常点滅表示灯のアンサーバック機能で施錠されたことを確認してください。

インテリジェントキー機能による施錠・解錠のしかた

- キーを携帯し、運転席、助手席ドアまたはバックドアにあるスイッチを押すと全ドアが施錠・解錠します。
- キーがスイッチから周囲80cm以内にあるときに作動します。
- 施錠・解錠したときは、ブザーおよび非常点滅表示灯が次のように作動します。

	ブザー音	非常点滅表示灯
施錠	ピッ	1回点滅
解錠	ピピッ	2回点滅





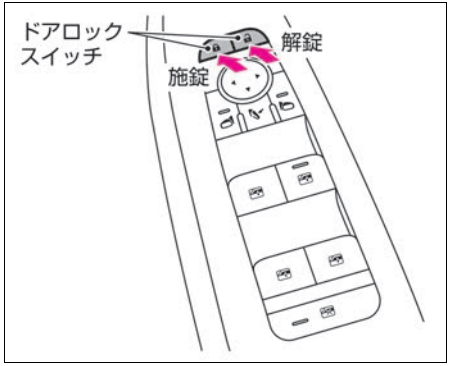
- 車両に近づきすぎている場合などは作動しないことがあります。
- 急にドアハンドルを操作すると、ドアハンドルが引かれていることにより、施錠できないことがあります。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［車両設定］⇒［ロック］⇒［keyエントリー］を選択すると、ドアハンドルスイッチでの施錠・解錠機能のON・OFFを切り替えることができます。
  設定の詳細については、車両設定（➔P.57）をお読みください。
- 次のような場合は、作動しません。
  - 走行可能表示灯［READY］が点灯しているとき
  - ドアが完全に閉まっていない（半ドア）とき
  - キーが施錠・解錠の作動範囲内にないとき
  - キーの電池が切れているとき
- スイッチを押したときのブザーを停止することができます。日産販売会社にご相談ください。

■ オートロック機能

- 盗難防止のため、自動的に施錠する機能です。スイッチを押して解錠したあと、約30秒間ドアを開けないと再び全ドアが施錠されます。

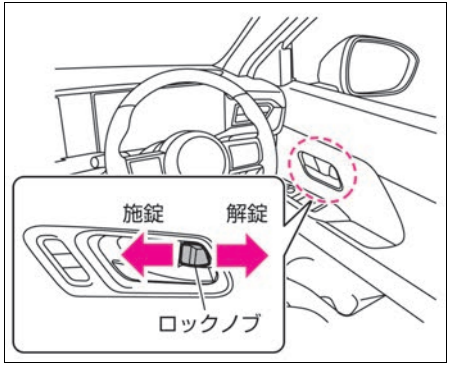
ドアロックスイッチでの施錠・解錠のしかた

- ＜ドアロックスイッチ＞を押すと、全ドアが施錠または解錠します。
- 施錠するときは、施錠側 🔒 の＜ドアロックスイッチ＞を押します。
- 解錠するときは、解錠側 🔓 の＜ドアロックスイッチ＞を押します。
- ドアが開いているときは、＜ドアロックスイッチ＞での施錠はできません。



ロックノブでの施錠・解錠のしかた

- 運転席のロックノブで全ドアが施錠または解錠します。
- 運転席ドアは、施錠したままでもドアハンドルを引くとドアが開けられます。そのとき、全ドアが同時に解錠します。
- 施錠するときは、施錠するドアのロックノブを施錠側に押し込みます。
- 解錠するときは、解錠するドアのロックノブを解錠側に引きます。



キーを使用しない施錠のしかた

■ 運転席ドア

- ロックノブを押し込み、ドアハンドルを引きながらドアを閉めます。

■ 助手席ドア／後席ドア

- ロックノブを押し込み、そのままドアを閉めます。

■ キー封じ込み防止機能

- インテリジェントキーを車室内に置き忘れたまま施錠することを防ぐ機能です。ドアを閉めたときや施錠しようとしたときに、キーが車室内に残っているとブザーでお知らせし、全ドアを自動的に解錠します。

チャイルドセーフティドアロック

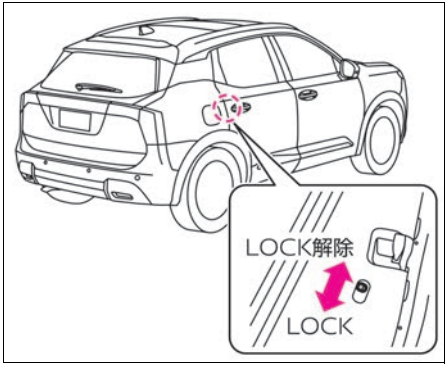
後席に乗せたお子さまなどが、誤って後席ドアを開けないようにロックできます。

■ ロックするには

- 後席ドアにあるロックレバーをLOCK位置にしてドアを閉めます。

■ ドアを開けるには

- チャイルドセーフティドアロックがかかっているときは、車外のドアハンドルを引いて開けます。
- 万一、車室内から開ける場合は、窓ガラスを下げ、手を外に出して車外のドアハンドルを引きます。



ドアに関する注意事項

⚠ 警告

- ドアの開閉はお子さまにはさせない。

⚠ 警告

手、首、足などを挟んだりして、重大な傷害につながるおそれがあります。

- **ドアを開けるときは、周囲の安全を確認する。**

  後続車や通行人にぶつかるおそれがあります。風が強いときは特に注意して開けてください。

- **走行する前にドアを確実に閉める。**

  走行中に突然ドアが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **車から離れるときは、盗難や事故防止のため、必ずe-POWERシステムを止め施錠する。**

バックドア

バックドアに関する注意事項

⚠ 警告

- **バックドアの開閉はお子さまにはさせない。**

  手、首、足などを挟んだりして、重大な傷害につながるおそれがあります。

- **バックドアを開けるときは、周囲の安全を確認する。**

  後続車や通行人にぶつかるおそれがあります。風が強いときは特に注意して開けてください。

- **走行する前にバックドアを確実に閉める。**

  走行中に突然バックドアが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- **ラゲッジルーム（荷室）に人を乗せて走行しない。**

  急ブレーキをかけたときなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

- **走行前にバックドアが確実に閉まっていることを確認する。**

  バックドアを開けたまま走行すると、車室内に排気ガスが侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあります。一酸化炭素を吸い込むと、意識が薄れて事故につながるおそれがあるほか、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **バックドアや車体側に手を触れたままバックドアを閉めない。**

  手を挟まれてケガをするおそれがあります。

- **バックドアを開けるときは、必ず全開にする。**

  途中で止めると突然閉まるおそれがあります。

- **バックドアを閉めるときは、バックドアのふちやその周辺に手をかけない。**

  手を挟まれてケガをするおそれがあります。手で閉める際は、必ず外から押して閉めてください。

- **バックドアを開ける前に、バックドアに付着した雪や氷、ゴミなどの重量物を取り除く。**

  重量物が付いたままバックドアを開けると、重みで突然閉まるおそれがあります。

- **風が強いときにバックドアを開ける場合は特に注意する。**

  風にあおられ、急に閉まることがあります。

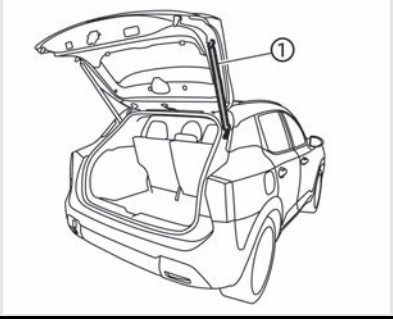
- **バックドアを閉めるときは、手などを挟まないように注意する。**

バックドアガスステーについて

- **バックドアのガスステー①は、バックドアの重量を支えるために取り付けられています。ガスステーの損傷や作動不良を防ぐため、次のことを守る。**
  - ガスステーに手やひもなどをかけたり、横方向に力をかけたりしない
  - ビニール片、ステッカー、接着剤などの異物をガスステーに付着させない
- **ガスステーを持って、バックドアを閉めたり、ぶら下がったりしない。**

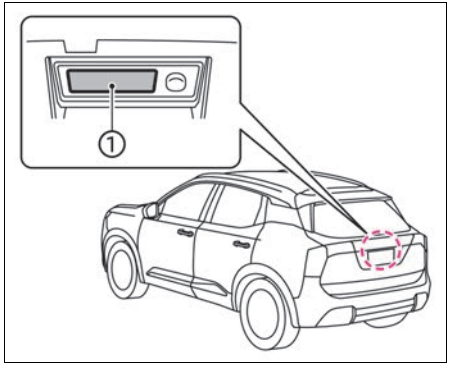
⚠ 注意

手や腕を挟んだりして思わぬケガをするおそれがあります。



バックドアの開けかた

- 解錠されているときは、<バックドアオープナースイッチ>①を押し、バックドアを持ち上げます。
- 施錠されているときは、キーを携帯して<バックドアオープナースイッチ>を押し、バックドアを持ち上げます。（ドアも同時に解錠します。）
- リモコンオートバックドア付車は、リモコンオートバックドア★の使いかた（➔P.75）、バックドアオープナースイッチによる開けかた（➔P.76）を合わせてお読みください。
- リモコンオートバックドア付車は、オート作動中に<バックドアオープナースイッチ>を押すと、バックドアが途中で止まります。

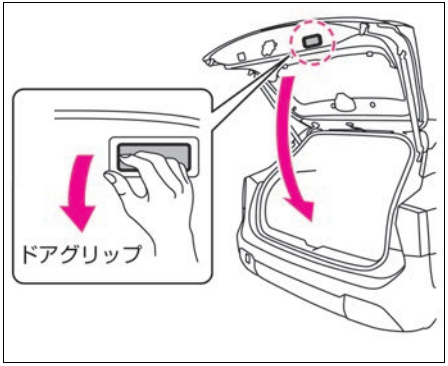


アドバイス

- <バックドアオープナースイッチ>を押したまま、リモコンでドアを施錠・解錠しないでください。故障の原因になります。
- 手を添えないと全開にならない場合は、ガスステーの保持力が低下しているおそれがあります。お近くの日産販売会社にて、早めの点検を受けてください。

バックドアの閉めかた

- ドアグリップに手を掛け、バックドアを降ろし確実にロックするまで押しつけます。
- リモコンオートバックドア★については、（➔P.75）をお読みください。



アドバイス

- バックドアを閉めるときは、ストライカーに異物を挟まないようにしてください。ストライカーやバックドアのロックが破損し、バックドアが閉まらなくなるおそれがあります。

リモコンオートバックドア★

リモコンオートバックドアは、バックドアを自動的に開閉することができます。

リモコンオートバックドアの機能について

リモコンオートバックドアは、次の方法でバックドアを開閉することができます。

運転席スイッチ：

- ＜運転席スイッチ＞でバックドアの開閉ができます。（➔P.75）

リモコンオートバックドア開閉スイッチ：

- インテリジェントキーのスイッチでバックドアを開閉することができます。（➔P.75）

バックドアオープナースイッチ：

- ＜バックドアオープナースイッチ＞でバックドアを開けることができます。（➔P.76）

バックドアインナースイッチおよびバックドアインナーロックスイッチ：

- ＜バックドアインナースイッチ＞および＜バックドアインナーロックスイッチ＞でバックドアを閉めることができます。（➔P.76）

また、リモコンオートバックドアには、次の機能があります。

挟み込み防止機構：

- オート作動中に手を挟むなど、挟み込みや引っかかりを検知すると、安全のため反対方向に作動します。（➔P.76）

オートクロージャー：

- バックドアを半ドア状態まで閉めると、自動的に全閉します。（➔P.77）

ガレージモード：

- オート作動時にバックドアを途中までしか開かなくすることができます。屋根の低い場所で開閉するときなどに、天井にバックドアがぶつからないように設定できます。（➔P.77）

オート作動でバックドアが閉まるときは、半ドア位置までバックドアが閉まると、オートクロージャー機能で全閉します。（➔P.77）

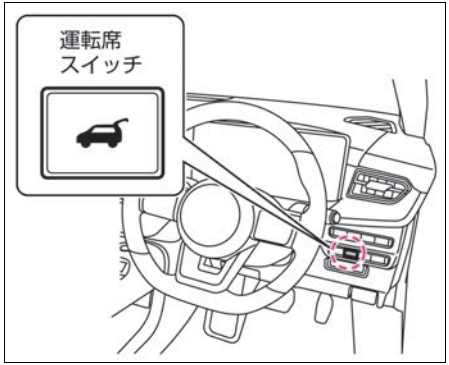
オート作動の開始時にはブザーが鳴ります。

運転席スイッチによる開けかた・閉めかた

開閉操作をするときは、バックドア周囲の安全を確認してください。

- バックドア全閉時にスイッチを長押しすると、バックドアが自動的に開きます。バックドアが施錠されているときは、バックドアが解錠され自動的に開きます。
- バックドア全開時にスイッチを長押しすると、自動的に閉まります。
- オート作動中にスイッチを押すと、その位置でオート作動を停止します。再度、スイッチを長押しすると作動していた方向と反対の方向に動き、全開または全閉して停止します。

シフトポジションがP以外のときは＜運転席スイッチ＞による開操作は行えません。

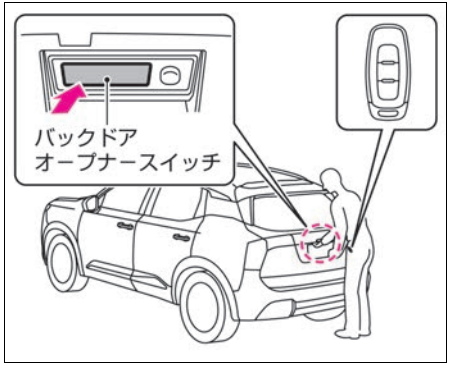


リモコンによる開けかた・閉めかた

- バックドアを解錠してから操作します。
- 車に近づき、＜リモコンオートバックドア開閉スイッチ＞を長押しします。
- オート作動中にスイッチを押すと、その位置でオート作動を停止します。再度、スイッチを長押しすると作動していた方向と反対の方向に動き、全開または全閉して停止します。
- シフトポジションがP以外のとき、または走行可能表示灯［READY］が点灯しているときは＜リモコンオートバックドア開閉スイッチ＞による開操作は行えません。
- バックドアが施錠されている状態でも、開操作ができるように設定を変更できます。日産販売会社にご相談ください。

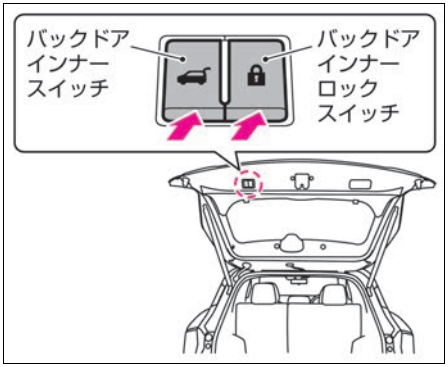
バックドアオープナースイッチによる開けかた

- バックドアが施錠時にインテリジェントキーを携帯し、<バックドアオープナースイッチ>を押すとバックドアが自動的に開きます。
- バックドアが施錠されていないときは、キーを携帯していなくても<バックドアオープナースイッチ>を押すとバックドアが自動的に開きます。
- オート開作動中にスイッチを押すと、その位置でオート作動を停止します。再度、スイッチを押すと全閉して停止します。
- シフトポジションがP以外のときは<バックドアオープナースイッチ>による開操作は行えません。



バックドアインナースイッチおよびバックドアインナーロックスイッチによる閉めかた

- バックドアが開いているとき、スイッチを押すと自動的に全閉します。
- オート閉作動中にスイッチを押すと、その位置でオート作動を停止します。再度、<バックドアインナースイッチ>を押すと全開して停止します。
- <バックドアインナーロックスイッチ>を押すと、全ドアが施錠されバックドアが全閉します。全閉したあとブザーが1回鳴り、非常点滅表示灯が1回点滅します。
- 次の場合は<バックドアインナーロックスイッチ>を押してもオート作動が開始されません。
  - バックドア以外のいずれかのドアが開いているとき
  - 走行可能表示灯［READY］が点灯しているとき



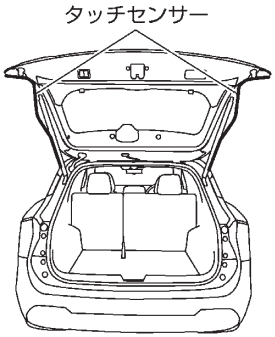
挟み込み防止機構について

⚠ 注意

- **手などを挟まないように十分注意する。**

  挟まれる物や挟まれかたによっては、挟み込み防止機構が作動しない場合があります。

- バックドアがオート作動中に、挟み込み、引っ掛かりなどを感知すると、反対方向に動きバックドアが停止します。
- バックドアがオート閉作動中にバックドア左右端部のタッチセンサーに触れると、反対方向に動きバックドアが停止します。



アドバイス

- バックドア左右端部のタッチセンサーを傷つけないでください。

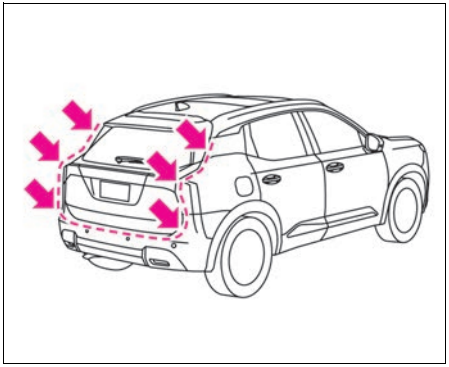
  タッチセンサーが切断されると、オート（自動開閉）機能は作動しなくなります。
- タッチセンサーが切断されたときは、安全のためにすみやかに日産販売会社に連絡をしてください。
- 全開位置付近で挟み込みを感知すると、バックドアは反転せずに停止することがあります。
- 挟み込み防止機構が2回連続で作動すると、バックドアがその場で停止します。
- バックドアオート作動時に乗り降りなどで車両が揺れると、バックドアが反転することがあります。

オートクロージャーについて

⚠ 注意

- **バックドアを閉めるときは、バックドアや車体側に手を触れていたり、ドアグリップを握ったりしない。また、バックドアのふちやその周辺に手をかけない。**

  手を挟まれてケガをするおそれがあります。バックドアを閉めるときは、必ず外から押して閉めてください。



オートクロージャーは、自動的にバックドアを全閉させる機能です。

閉めるとき、半ドア状態まで閉めると自動的に全閉します。

アドバイス

- 次のような場合はオートクロージャーが作動しません。アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告が表示されているときは、バックドアを一旦開けてから閉め直してください。
  - バックドアを開けて0.5秒以内に閉めたとき
  - ＜バックドアオープナースイッチ＞を押したあと、バックドアを開けなかったとき
- 12Vバッテリーが弱っているとオートクロージャーが作動しないことがあります。その場合は、手で強く閉めるかe-POWERシステムを始動してから閉め直してください。
- オートクロージャーの故障によりバックドアが閉まりきらないときは、バックドアを一旦開け、再度手で閉めてください。
- 荷物の積みすぎなどによりオートクロージャーで閉めきれない状態を繰り返すと、オートクロージャーが作動しなくなります。そのときは日産販売会社で点検を受けてください。

ガレージモードについて

バックドアを自動で開くとき、お好みの高さでバックドアを止める機能です。

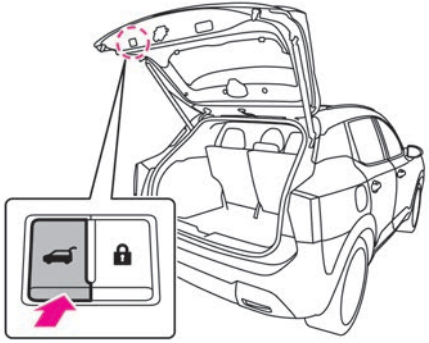
ガレージモードの設定のしかた

⚠ 注意

- **バックドアの止まる位置を全開位置から1/3以下の高さに設定しない。**

  バックドアの止まる位置を1/3以下に設定しても、自動的に1/3の高さに設定されます。設定した高さよりも開くため、思わぬケガや破損につながるおそれがあります。

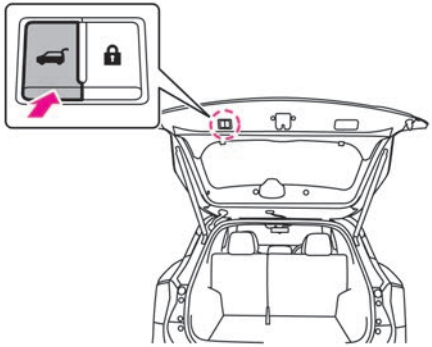
1. シフトスイッチの<P>スイッチを押し、シフトポジションをPに切り替えます。
2. 設定したい高さの位置までバックドアを開け、<バックドアインナースイッチ>を約3秒押し続けます。



3. ブザーが2回鳴れば設定完了です。
   オートで開くと、バックドアが設定した高さで停止します。

ガレージモードの解除のしかた

1. シフトスイッチの<P>スイッチを押し、シフトポジションをPに切り替えます。
2. 全開位置までバックドアを手動で開けて、<バックドアインナースイッチ>を約3秒押し続けます。



3. ブザーが2回鳴れば解除完了です。

正常に作動しないとき

バックドアがオートで動かないときは、次の内容を確認してください。

- 連続作動後に動かないときは、バックドアを約5分間以上作動させずに放置した後、作動させます。
- バックドアが開いた状態のときは、一度手動で閉めてから作動させます。
- バックドアが全閉位置から約150mm開いた位置にあると、いずれのスイッチを操作してもリモコンオートバックドアは作動しません。リモコンオートバックドアを作動させるには、手動でバックドアを押して閉めてください。
- 12Vバッテリーが弱っている（電圧が11V未満）と、バックドアがオート開閉できないことがあります。その場合は、e-POWERシステムを始動してから作動させます。
- ヒューズが切れている場合はヒューズを交換します。日産販売会社にご相談ください。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイの設定で［パワーバックドア］がONになっていることを確認してください。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［車両設定］⇒［ロック］⇒［keyエントリー］をOFFにすると、<バックドアオープナースイッチ>による解錠機能やハンズフリー機能もOFFになります。

➔ 設定（各種設定画面）（P.57）
➔ バックドアオープナースイッチによる開けかた（P.76）

リモコンオートバックドアに関する注意事項

⚠ 注意

- **確実に停車している状態で開閉操作をする。**
- **開閉操作をするときは、バックドア周囲の安全を十分確認する。**

⚠ 注意

バックドアに当たり、ケガをしたり物を損傷したりするおそれがあります。

- **車が大きく傾いている状態ではオート作動をしない。**
- **オート作動中にバックドアを押したり引いたりしない。**

反転して挟まれたり、バックドアに当たりケガをしたりするおそれがあります。

- 閉作動時、半ドア位置までバックドアが閉まると、オートクロージャー機能で全閉します。
  ➲ オートクロージャーについて（P.77）
- オート作動の開始時にはブザーが鳴ります。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイの設定で［パワーバックドア］がONのとき、バックドアを開けたまま車を動かすとブザーが鳴ります。（停車またはバックドアを閉めると鳴り止みます。）

アドバイス

- e-POWERシステム停止時に何回も作動させないでください。バッテリーがあがりe-POWERシステムの始動ができなくなります。
- オート作動中はe-POWERシステムを始動させないでください。正常に作動しなくなることがあります。

- 車を発進させるときは、バックドアが全閉していることを確認してください。閉作動中に発進すると、反転して開き出すおそれがあります。
- 次の場合は、アドバンスドドライブアシストディスプレイの設定で［パワーバックドア］をOFFにしてください。
  - バックドアが故障したとき
  - バックドアを長時間開けたままにするとき
  - 洗車や整備を行うとき
  - 手動で使用するとき
- バックドア左右端部のタッチセンサーを傷付けないようにしてください。センサーが切断されるとオートで作動しなくなります。また、オート閉作動中に切断されると、ドアが作動停止します。その後のオート閉作動もしません。

タッチセンサー

- 12Vバッテリーあがりなどでリモコンオートバックドアへの電源供給が断たれたときや、オート作動中に反転作動（挟み込み防止機構を含む）を連続して作動させたときは、正常に作動しなくなることがあります。その場合は、一旦手動でバックドアを完全に閉めてください。
- 連続で開閉動作を行うと、安全装置が働き一定時間自動開閉できなくなることがあります。その場合は、少し時間をおいてから再度開閉してください。

リモコンオートバックドアのON・OFFのしかた

アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［車両設定］⇒［パワーバックドア］を選択すると、自動開閉機能のON・OFFを切り替えることができます。

- オート作動は、アドバンスドドライブアシストディスプレイの設定がONで、車両が停止しているときに作動させることができます。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイの設定で［パワーバックドア］をOFFにしてもオートクロージャーは作動します。
- オート作動中に作動可能条件が満たされなくなると、作動が停止しオート作動しなくなることがあります。その場合、作動可能条件を再度満たすとオート作動させることができます。

●12Vバッテリーが弱っている（電圧が11V未満）ときは作動しません。

■ アドバンスドドライブアシストディスプレイ設定の作動

アドバンスドドライブアシストディスプレイ設定	ON	OFF
運転席スイッチによる開閉操作	**作動**※1	非作動
リモコンによる開閉操作	**作動**※1、2	非作動
バックドアオープナースイッチによる開操作	**作動**※1	非作動
バックドアインナースイッチおよびバックドアインナーロックスイッチによる閉操作	**作動**※3	非作動

※1：シフトポジションがP以外のときは開作動しません。

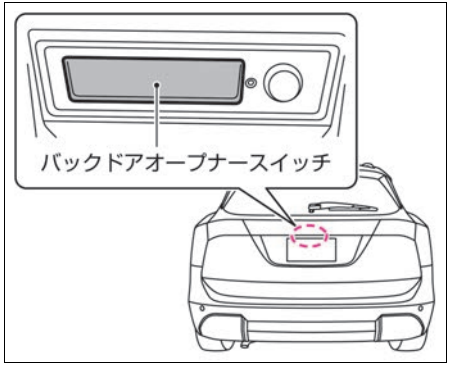
※2：走行可能表示灯［READY］が点灯しているときは作動しません。

※3：<バックドアインナーロックスイッチ>を使用すると、全ドアが施錠されバックドアが全閉します。

手動でのバックドアの開けかた・閉めかた

●解錠されているときは、<バックドアオープナースイッチ>を押し、バックドアを持ち上げます。

●施錠されているときは、キー（インテリジェントキー）を携帯して<バックドアオープナースイッチ>を押し、バックドアを持ち上げます。（ドアも同時に解錠します。）



●<バックドアオープナースイッチ>を押したまま、リモコンでドアを施錠・解錠しないでください。故障の原因になります。

●バックドアを引き下げ、半ドア状態まで閉めると、自動的に全閉します。

後席リマインダー

後席リマインダーは、人や荷物を後席に置き去りにしないように、運転者が降車する前にお知らせする機能です。

後席リマインダーについて

●走行前に後席ドアを開閉すると、システムがONになりアドバンスドドライブアシストディスプレイにメッセージが表示されます。

➔ 後席リマインダー表示（P.281）

●後席ドアを開閉してから10分以内に車両を発進させると、走行後にシフトポジションをPに切り替えたとき、ブザーとともにアドバンスドドライブアシストディスプレイにメッセージが表示されます。

➔ 後席リマインダー表示（P.281）

●アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［車両設定］⇒［後席リマインダー］を選択すると、後席リマインダーのON・OFFを切り替えることができます。（工場出荷時はOFFに設定されています。）
設定の詳細については、車両設定（➔P.57）をお読みください。

知識

● 後席リマインダーは、後席ドアの開閉状況に応じ、後席に人や荷物を置き去りにする可能性がある場合にお知らせする機能なので、後席に人や荷物を乗せていなくても作動する場合があります。

● 次の例のような状況では、後席リマインダーが作動しません。

— 前席ドアのみを開閉し、車内で後席に荷物などを置いた場合

— 走行後、シフトポジションをPに切り替えたあと、後席に人や荷物を乗せた場合

知識

— 後席ドアの開閉後に車両が走行しなかった場合

前席シート

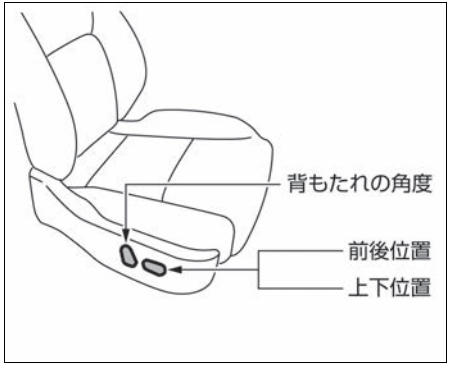
シートの調節のしかた（パワーシート）

⚠ 警告

- **シートは必ず走行前に調節する。**
  走行中に調節すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **背もたれを必要以上に倒したまま走行しない。**
  シートベルトが効果を十分に発揮せず、衝突時などに重大な傷害を受けるおそれがあります。
- **背もたれと背中の間にクッションなどを入れない。**
  運転姿勢が不安定になり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

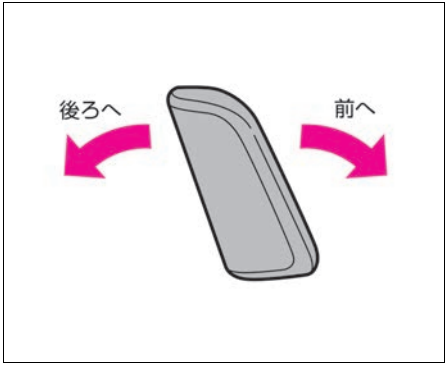
⚠ 注意

- **シートを調節するときは、動いている部分に手や足などを近づけない。**
  挟まれてケガをするおそれがあります。
- **シートの下に手を入れるときは注意する。**
  車室内を清掃するときやシートの下に落としたものを拾うときなどは、シートレールやシートフレームに当たり、ケガをするおそれがあります。



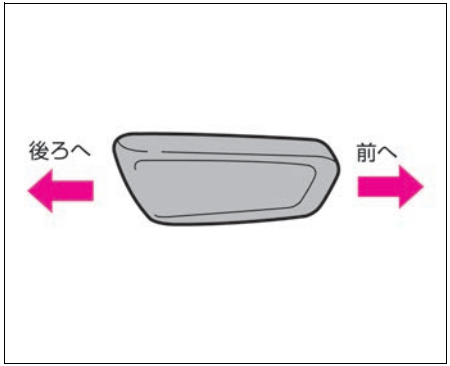
■ **前後位置の調節（スライド）**

調節したい方向にスイッチを動かします。



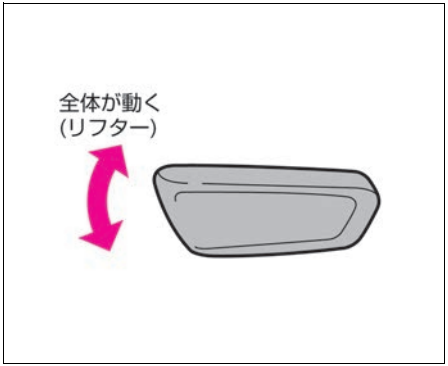
■ **上下位置の調節（リフター）**

調節したい方向にスイッチを動かします。



■ **背もたれの角度調節（リクライニング）**

調節したい方向にスイッチを動かします。



アドバイス

- 助手席にお子さまや小柄な方を乗せたり、クッションなどを使用したりすると、シートベルトリマインダーが正常に作動しなくなるおそれがあります。

  シートベルトリマインダー
  （➔P.264）

- ヘッドレストが天井に当たらないように注意してください。ヘッドレストや天井が損傷するおそれがあります。

シートの調節のしかた（マニュアルシート）

警告

- **シートは必ず走行前に調節する。**

  走行中に調節すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- **シートを調節したあとは、確実に固定されたことを確認する。**

  固定されていないと突然運転姿勢が変わり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- **背もたれを必要以上に倒したまま走行しない。**

  シートベルトが効果を十分に発揮せず、衝突時などに重大な傷害を受けるおそれがあります。

- **背もたれと背中の間にクッションなどを入れない。**

  運転姿勢が不安定になり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

- **シートを調節するときは、動いている部分に手や足などを近づけない。**

  挟まれてケガをするおそれがあります。

- **背もたれの角度を調節するときは、背もたれを支えながら調節する。**

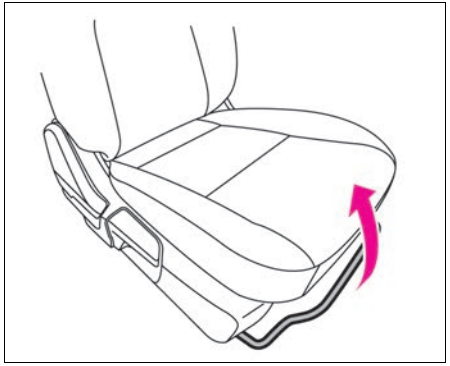
  顔や身体に当たり、思わぬケガをするおそれがあります。

- **シートの下に手を入れるときは注意する。**

  車室内を清掃するときやシートの下に落としたものを拾うときなどは、シートレールやシートフレームに当たり、ケガをするおそれがあります。

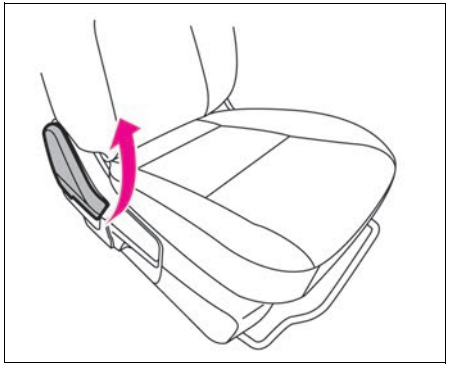
■ 前後位置の調節（スライド）

レバーを引いたまま調節したい方向にシートを動かします。



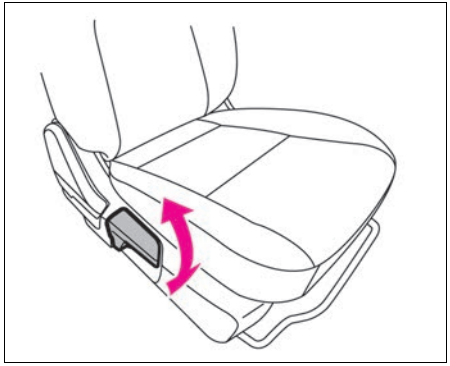
■ 背もたれの角度調節（リクライニング）

レバーを引いたまま、調節したい方向に背もたれを動かします。



■ 上下位置の調節（運転席／リフター）

レバーを繰り返し操作して調節します。



アドバイス

- ヘッドレストが天井に当たらないように注意してください。ヘッドレストや天井が損傷するおそれがあります。

ヘッドレストの調節のしかた

警告

- **ヘッドレストを外したまま走行しない。**

  万一のとき、頭部への衝撃を防ぐことができなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

注意

- **ヘッドレストを取り付けるときは、前後の向きを間違えない。**

  万一のとき、ヘッドレストが効果を十分に発揮せず、思わぬケガをするおそれがあります。

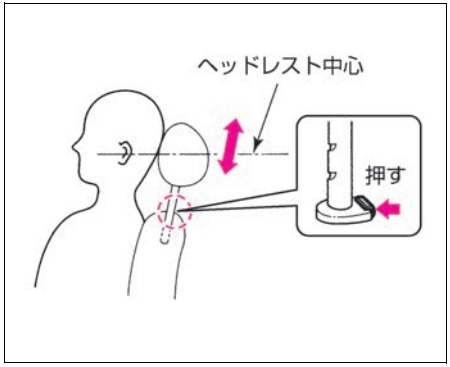
- **ヘッドレストを取り付けたあとは、ヘッドレストを持ち上げ、抜け出さないことを確認する。**

  万一のとき、ヘッドレストが効果を十分に発揮せず、思わぬケガをするおそれがあります。

- **取り外しボタンが飛び出た状態の位置で使用しない。**

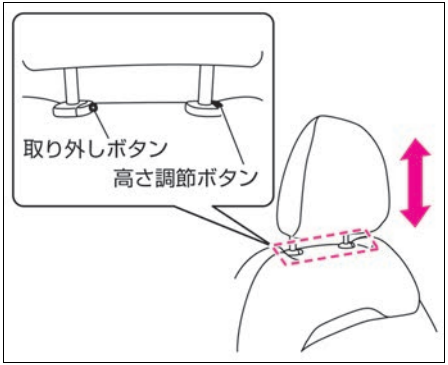
ヘッドレストの中心が、耳の高さになる位置に調節します。

- 高くするときは、ヘッドレストを引き上げます。
- 低くするときは、ボタンを押しながらヘッドレストを下げます。



■ ヘッドレストの外しかた、付けかた

- 取り外すときは、ヘッドレストを最上段まで引き上げたあと、高さ調節ボタンを押しながらさらに引き上げます。取り外しボタンが飛び出るので、取り外しボタンを押しながらヘッドレストを引き上げます。
- 取り付けるときは、ヘッドレストを取り付け穴に合わせ、止まるところまで確実に押し下げます。



- BOSEパーソナルプラスサウンドシステム付車のヘッドレストは、取り外しできません。

アドバイス

- ヘッドレストが天井に当たらないように注意してください。ヘッドレストや天井が損傷するおそれがあります。

後席シート

シートの調節のしかた

⚠ 警告

- **シートは必ず走行前に調節する。**

  走行中に調節すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- **シートを調節したあとは、確実に固定されたことを確認する。**

  背もたれが確実に固定されていないときは、レバーに赤色が見えます。背もたれを前後に軽く揺さぶり、赤色が見えていないことを確認してください。

  固定されていないと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

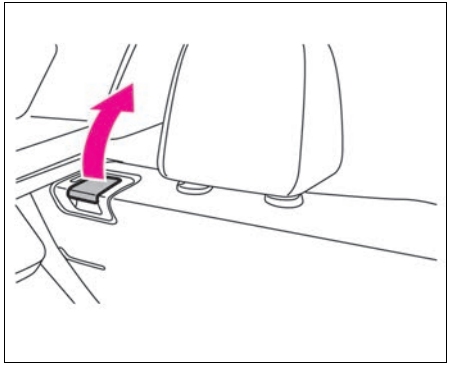
⚠ 注意

- **シートを調節するときは、動いている部分に手や足などを近づけない。**

  挟まれてケガをするおそれがあります。

- **背もたれの角度を調節するときは、背もたれを支えながら調節する。**

  顔や身体に当たり、思わぬケガをするおそれがあります。



■ **背もたれの角度調節（リクライニング）**

- レバーを引いたまま、調節したい方向に背もたれを動かします。

■ **背もたれの倒し方**

- レバーを引きながら、背もたれを前方に倒します。

シートの折りたたみかた

⚠ 警告

- **シートは必ず固定する位置で使用する。**

⚠ 注意

- **シートを折りたたんだとき、折りたたんだ背もたれの上に乗らない。**

  シートを損傷したり、転んだりして思わぬケガをするおそれがあります。

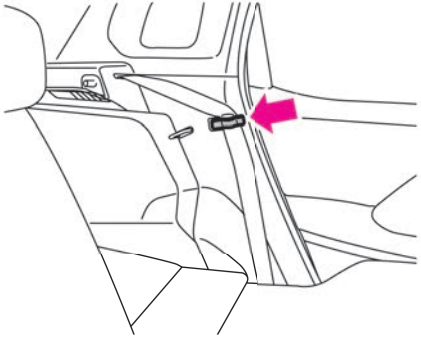
- **背もたれを起こすときは、背もたれを手で押さえ、ゆっくり戻す。**

  急に戻すと顔や身体などに当たり、思わぬケガをするおそれがあります。

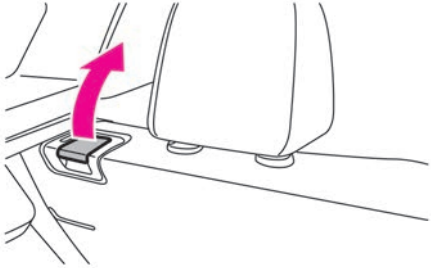
- **背もたれを起こすときは、シートベルトを背もたれで挟み込んでいないことを確認する。**

  挟み込まれていると、シートベルトが正しく着用できません。

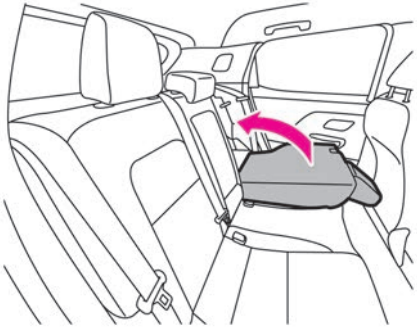
1. シートベルトをクリップで留めます。



2. 折りたたみたい方のシートのレバーを引きながら、背もたれを前に倒します。



3. 元に戻すときは、背もたれを起こし、手で後方に押し付けてロックします。



- 物や飲物などを置いたままシートを折りたたむと、物を壊したり車室内を汚したりするおそれがあります。シートを倒すときは十分に注意してください。
- ラゲッジルーム（荷室）に荷物を積むときは、シートベルトに傷をつけないように注意してください。
- 前席シートに当たりシートが折りたためないときは、ヘッドレストを格納するか、前席シートの前後位置を調節してください。

アドバイス

- シートベルトフラップを持ちながら背もたれの調節をしないでください。破損するおそれがあります。

ヘッドレストの使いかた

⚠ 注意

- **ヘッドレストを取り付けるときは、前後の向きを間違えない。**

  万一のとき、ヘッドレストが効果を十分に発揮せず、思わぬケガをするおそれがあります。

- **ヘッドレストを取り付けたあとは、ヘッドレストを持ち上げ、抜け出さないことを確認する。**

  万一のとき、ヘッドレストが効果を十分に発揮せず、思わぬケガをするおそれがあります。

- **後席シート中央席のヘッドレストは、ロックする位置まで上げ、確実に固定されていることを確認する。**

  格納状態では機能が十分に発揮できません。

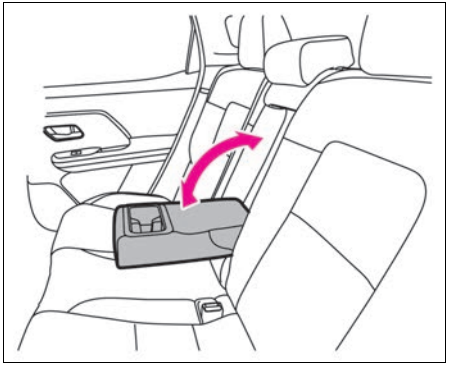
- ヘッドレストは、格納位置からロックする位置まで上げた状態で使います。
  - 上げるときは、そのままヘッドレストを引き上げます。
  - 下げるときは、ボタンを押しながら下げます。
- 後席シートのヘッドレストは、格納状態では機能が十分に発揮できません。ロックする位置まで上げ、確実に固定されていることを確認してください。

■ ヘッドレストの外しかた、付けかた

- 取り外すときは、ボタンを押しながらヘッドレストを引き上げます。
- 取り付けるときは、ボタンを押しながらヘッドレストを差し込みます。

リヤセンターアームレストの使いかた

- アームレストを前に倒します。
- 元に戻すときは、アームレストを起こします。



ハンドル

適切な運転姿勢で無理なくハンドルを握れるように、ハンドル位置を調節します。

ハンドル位置の調節のしかた

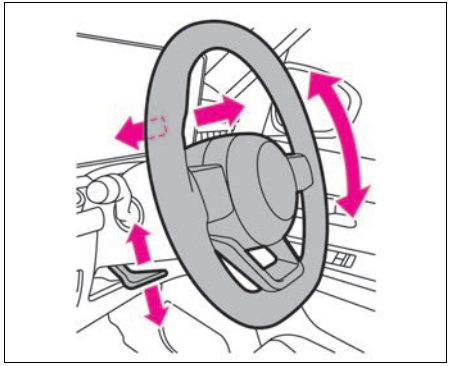
⚠ 警告

- **ハンドルの調節は、必ず走行前に行う。**

  走行中に調節すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

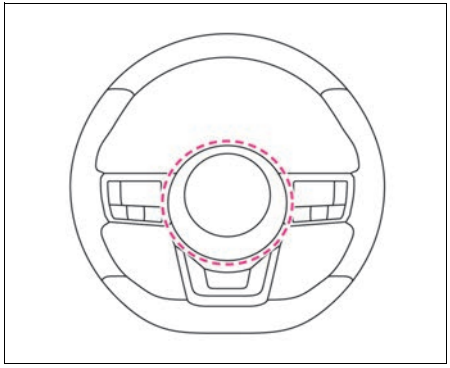
- **調節したあとは、確実に固定されたことを確認する。**

  ハンドル位置が固定されていないと突然運転姿勢が変わり、思わぬ事故につながるおそれがあります。



- ハンドル左下のレバーを押し下げ、ハンドルを前後・上下に動かします。
- 適切な位置で止め、レバーを引き上げて固定します。

ホーンの鳴らしかた



ホーンを鳴らすには、ハンドル中央のパッド面を押します。

ルームミラー★

ルームミラーは、後方が十分確認できるように、正しい運転姿勢で座ってから調節します。

ルームミラーの調節のしかた

⚠ 警告

- **ミラーの調節は、必ず走行前に行う。また、防眩への切り替えは必要なときのみ行う。**

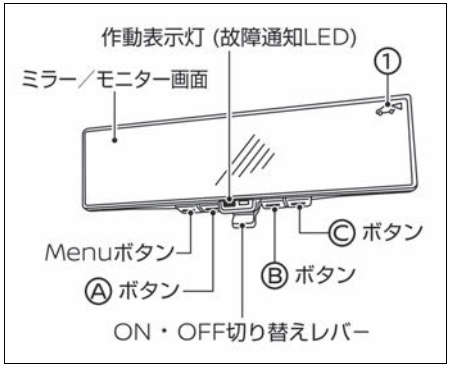
  走行中にミラーを調節したり、不必要に防眩へ切り替えたりしていると、前方不注意となり思わぬ事故につながるおそれがあります。

- ミラー本体を持ち、角度を調節して適切な位置に合わせます。
- 夜間など後続車のヘッドランプが眩しいときは、防眩切り替えレバーを手前に引くと反射が弱くなります。
- 昼間など通常走行時は、防眩切り替えレバーを元の位置に戻してお使いください。

インテリジェント ルームミラー★

乗員、ヘッドレスト、積載物などで遮られがちなルームミラーの後方視界をクリアに保ちます。車室内の状況に関わらず、車両後方にあるカメラの画像をルームミラーに映し出します。ON・OFF切り替えレバーでミラー状態とモニター表示状態を切り替えることができます。

インテリジェント ルームミラーの使いかた



<Menuボタン>：調節する項目を表示

<Ⓐボタン>・<Ⓑボタン>：項目選択および調節

<Ⓒボタン>：決定

■ ルームミラーモード

- ミラーとして使用します。

■ インテリジェント ルームミラーモード

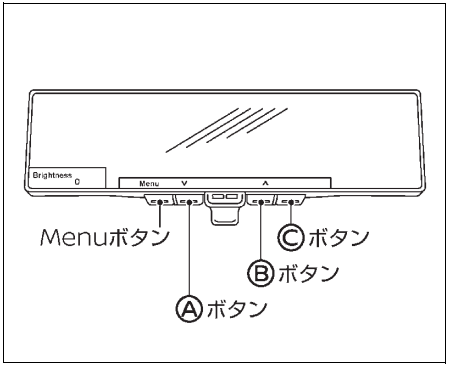
- モニターとして使用します。
  （インテリジェント ルームミラーモードのときは、①が表示されます）

1. <パワースイッチ>をONにします。
2. インテリジェント ルームミラーのON・OFF切り替えレバーを手前に引きます。（作動表示灯（故障通知LED）が点灯）
3. インテリジェント ルームミラーモードに切り替わり、モニターに車両後方の画像が表示されます。
   インテリジェント ルームミラーのON・OFF切り替えレバーを車両前方側へ倒すと、モニター画面がOFFになり、ルームミラーモードとして使用できます。

- 周囲の明るさにより見づらかったり、眩しく感じたりしたときはインテリジェント ルームミラーモードをOFFにし、ルームミラーモードでご使用ください。

インテリジェント ルームミラーの画質調節

インテリジェント ルームミラーモードのときに、モニター画像の各種調節ができます。



<Menuボタン>を押すと調節できる項目が表示されます。<Ⓐボタン>・<Ⓑボタン>で選択し、<Ⓒボタン>で調節する項目を決定します。

■ Brightness（明るさ）

モニター画像の明るさを調節します。
（周囲の明るさにより、画面の明るさが調節できなくなる場合があります。）

- <Ⓐボタン>を押すと、画面が暗くなります。
- <Ⓑボタン>を押すと、画面が明るくなります。
- 調節幅：-8（暗い）～+8（明るい）

■ Down/Up（下／上）

モニター画像の上下位置を調節します。

- <Ⓐボタン>を押すと、画像が下に移動します。
- <Ⓑボタン>を押すと、画像が上に移動します。
- 調節幅：-8（下方向）～+8（上方向）

■ Left/Right（左／右）

モニター画像の左右位置を調節します。

- <Ⓐボタン>を押すと、画像が左に移動します。
- <Ⓑボタン>を押すと、画像が右に移動します。
- 調節幅：-8（左）～+8（右）

■ Rotation（回転）

モニター画像位置の回転調節をします。

- <Ⓐボタン>を押すと、画像が左に回転します。
- <Ⓑボタン>を押すと、画像が右に回転します。
- 調節幅：-8（左回り）～+8（右回り）

■ Indication（インジケーター）

モニター文字表示の表示・非表示を設定します。

- <Ⓐボタン>を押すと、モニター文字表示が非表示になります。
- <Ⓑボタン>を押すと、モニター文字表示が表示されます。

■ Language（言語）

表示させる言語を切り替えます。

- <Ⓐボタン>・<Ⓑボタン>で選択し、<Ⓒボタン>で決定します。

■ Switch Backlight（スイッチ照明）

スイッチの照明のON・OFFを設定します。

- <Ⓐボタン>を押すと、スイッチの照明がOFFになります。
- <Ⓑボタン>を押すと、スイッチの照明がONになります。

■ License（ライセンス）

ライセンス情報が表示されます。

インテリジェント ルームミラー使用時の注意事項

⚠ 警告

- **走行前に、ルームミラーの調節を必ず行う。**
  ルームミラーモード（ミラー状態）にして正しい姿勢で運転席に座り、後方がよく見える位置に調節してください。調節をしないで運転を始めると、インテリジェント ルームミラーモード（モニター表示状態）にしたときにミラーの反射でモニターが見えにくくなる場合があります。
- **インテリジェント ルームミラーモードのときに作動表示灯（故障通知LED）が消灯したら、すみやかにルームミラーモードに切り替える。**

⚠ 警告

再度インテリジェント ルームミラーにしても点灯しない場合、システムの異常が考えられます。日産販売会社にご相談ください。

- **あらかじめ死角範囲を確認する。**

  インテリジェント ルームミラーには死角があります。システムを過信せず、安全運転を心がけてください。

- **ミラー本体やカメラ、配線を分解したり改造したりしない。**

  異臭がする、煙が出るなどした場合は、ただちに使用を中止し日産販売会社にご相談ください。

- **走行中に操作しない。**

  走行中に操作を行うと、前方不注意となり思わぬ事故につながるおそれがあります。

- **ミラー本体、カメラ、配線類にはタバコなどの火気を近づけない。**

  破損や車両火災の原因となります。

⚠ 注意

- **モニターを凝視しない。**
  - 前方不注意となり思わぬ事故につながるおそれがあります。
  - 同乗者が凝視すると、車酔いを起こすおそれがあります。

- **太陽や後方車両のヘッドランプなどの強い光源がカメラに入ると、インテリジェント ルームミラーのモニターに光のスジが入ったり、明るい光源がモニター上に広がったりする場合があります。その際には、必要に応じてルームミラーモードに戻してご使用ください。**

- 走行可能表示灯［READY］が消灯時に長時間使用すると、12Vバッテリーあがりのおそれがあります。
- 無線機のアンテナをインテリジェント ルームミラー近くに取り付けないでください。無線機の電波により、インテリジェント ルームミラーの映像に乱れが出ることがあります。
- ボタンを強く押しすぎたり、レバーを強く操作したりすると故障の原因となります。また、ミラー本体が落下するおそれがあります。
- ミラーを上下20度、左右30度以上回転させないでください。配線が断線するおそれがあります。
- ミラー本体に強い衝撃を与えないでください。故障の原因となります。
- 車両後方についているカメラやカメラカバーに無理な力をかけないでください。カメラが外れたり、故障したりするおそれがあります。
- 外部光による影響でモニターが見えにくいときは、ルームミラーモード（ミラー状態）にして使用してください。
- LED光源を使用した照明の一部が映った場合、画面がちらつく場合がありますが、故障ではありません。
- 外部環境の乱反射により、画面がちらつく場合がありますが、故障ではありません。
- すばやい動きにはモニター表示が追従できない場合がありますが、故障ではありません。
- ルームミラーとは後方の見えかたが異なります。インテリジェント ルームミラーの機能を過信せず、直接後方を確認するなど、責任のある運転を心がけてください。
- モニターの明るさを明るく調節しすぎると、運転中に目が疲れることがあります。明るさを適切に調節してください。
- 雨天時はリヤワイパーを併用してください。リヤワイパーを併用してもカメラ映像が不鮮明の場合、リヤワイパーゴムの劣化を確認してください。
- リヤワイパー使用中は、カメラ前をリヤワイパーが通過した際に、画面がちらつくように見える場合がありますが、故障ではありません。
- カメラ映像が不鮮明な場合は、インテリジェント ルームミラーカメラ前面のバックドアガラスを清掃してください。清掃してもカメラ映像が不鮮明な場合は、ガラス面に油膜が付いているおそれがあります。油膜取りを使用して清掃してください。

  ➔ インテリジェント ルームミラー★のお手入れ（P.311）

- バックドアガラスがくもった場合は、リヤデフォッガーを使用し、バックドアガラスのくもりを取ってください。くもりが完全に取れるまではルームミラーモードで使用してください。

- インテリジェント ルームミラーのモニターが熱を帯び、高温になることがありますが、故障ではありません。
- 遠いものや暗いときは色が認識しにくいことがありますが、故障ではありません。
- インテリジェント ルームミラーのお手入れについては（➔P.311）をお読みください。
- 体調などによりインテリジェント ルームミラーモードの映像に焦点が合うまでに時間を要する場合があります。
- インテリジェント ルームミラーの前方をふさがないでください。モニターの明るさ調整やカメラ映像の切り替えができないことがあります。
- インテリジェント ルームミラーモードのとき、インテリジェント ルームミラーが高温になると明るさが低下したり、映像が表示されなかったりする場合があります。
- インテリジェント ルームミラーモードのとき、インテリジェント ルームミラーが低温になるとカメラ映像が遅れることがあります。

本製品には、次のソフトウェアが含まれています。

① パナソニック オートモーティブシステムズ株式会社（「パナソニック」）により、またはパナソニックのために開発されたソフトウェア

② パナソニックにライセンスされた第三者所有のソフトウェア

③ オープンソースソフトウェア

上記③に分類されるソフトウェアには、下記webサイトに記載されているライセンス 情報が適用される様々なソフトウェアを含むオープンソースソフトウェア（OSS）が含まれています。
http://car.panasonic.jp/oss/m03xsn9d

ドアミラー

<パワースイッチ>がONまたはOFFでACC状態のときに操作できます。

ACC状態については、➔オートACC機能(P.116)をお読みください。

ドアミラーの注意事項

⚠ 警告

- **ミラーの調節は、必ず走行前に行う。**
  走行中にミラーを調節すると、前方不注意となり思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

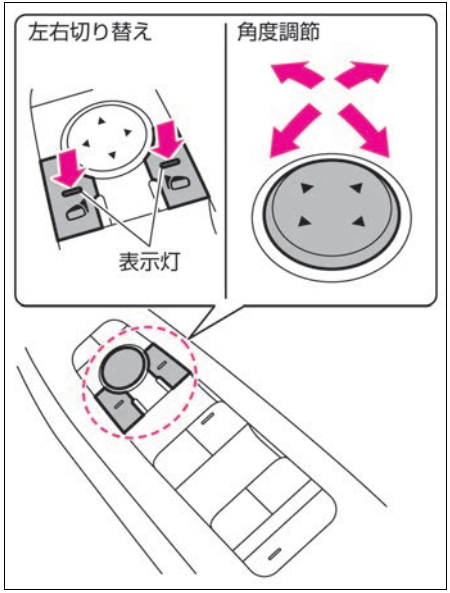
- **ミラーが動いているときは手を触れない。**
  手を挟む、またはミラーが故障するおそれがあります。
- **ミラーを格納したまま走行しない。**
  後方確認ができないため危険です。

アドバイス

- ミラーの映像は実際より遠くに見えるので注意してください。
- 凍結したままミラーを作動させないでください。
  寒冷時にドアミラーが正常に作動しない場合は、ドアミラー内部が凍結している可能性があるため、そのまま作動を繰り返すと故障の原因となります。

ドアミラーの角度調節のしかた

- 調節したいミラー側の<左右切り替えスイッチ>を押します。
  （スイッチの表示灯が点灯）
- <角度調節スイッチ>を前後左右に押して、鏡面角度を調節します。



ドアミラーの格納のしかた

- ＜格納スイッチ＞を押すと、左右のミラーが格納されます。
- ＜格納スイッチ＞をもう一度押すと、元の位置に戻ります。

- スイッチ操作を連続して行うと、途中で停止することがありますが、故障ではありません。しばらくしてから作動させてください。
- 手動で開閉すると＜パワースイッチ＞をONにしたとき、＜格納スイッチ＞の位置によりミラーが動き出すことがあります。
- 手動でミラーを開閉しないでください。手動で開閉すると、走行中にミラーが規定位置より前方または後方に倒れ、後方確認ができなくなるおそれがあります。手動で開閉してしまったときは、走行前に＜格納スイッチ＞で開閉操作を行ってください。

ドアロック連動格納機能について

ドアの施錠に連動させ、ミラーを格納することができます。

- リモコンまたは、ドアにあるスイッチで施錠すると、左右のミラーが格納されます。
- リモコンまたは、ドアにあるスイッチで解錠すると、左右のミラーが開きます。（アドバンスドドライブアシストディスプレイで、＜パワースイッチ＞をONにすると左右のミラーが開く設定に変更できます）
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［車両設定］⇒［ドアミラー］を選択すると、ドアロック連動格納機能の設定を変更することができます。
  設定の詳細については、車両設定（➔P.57）をお読みください。

アドバイス

- ドアミラーが正常に作動しない寒冷時は、ドアロック連動格納機能をOFFにしてください。

  寒冷時にドアミラーが正常に作動しない場合は、ドアミラー内部が凍結している可能性があるため、そのまま作動を繰り返すと故障の原因となります。

ドアミラーヒーターの使いかた★

走行可能表示灯［READY］が点灯しているとき、＜リヤデフォッガースイッチ＞（➔P.286）を押すと、ドアミラーに内蔵されたヒーターが作動し霜やくもりが取れます。

サイドアンダーミラー★

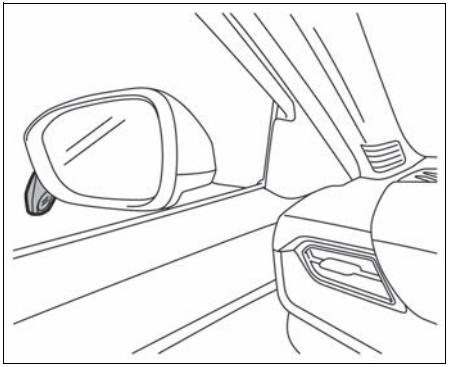
サイドアンダーミラーについて

⚠ 注意

- **発進時や停車時にはサイドアンダーミラーだけでなく、直接目視で周囲の安全を確認する。**
- **走行中に後方を確認するときは、ルームミラーまたはドアミラーで確認する。**

  サイドアンダーミラーは車の近くを確認するため、角度が下向きにセットされています。

- 発進時や停車時に、車両の左側すぐ下の状況を確認するために使います。※インテリジェント アラウンドビューモニター付車には付きません。



アドバイス

- サイドアンダーミラーは固定式です。破損するおそれがあるため無理に動かさないでください。

パワーウインドー

<パワースイッチ>がONのときに操作できます。

パワーウインドーの注意事項

⚠ 警告

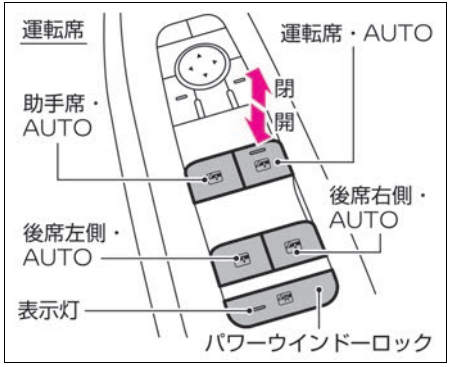
- **乗員の操作を含めすべての窓ガラス開閉操作は運転者に責任があるため、次のことを必ず守る。**
  - 走行中は顔や腕、物などを車外に出さないでください。車外の物に当たったり、急ブレーキ時に重大な傷害につながったりするおそれがあります。
  - 窓ガラスを開閉するときは、窓から手や顔などを出したり、故意に挟み込み防止機構を働かせたりしないでください。手や顔、腕などを窓ガラスに挟まれたり巻き込まれたりすると、重大な傷害につながるおそれがあります。
  - お子さまにはパワーウインドーを操作させないでください。重大な傷害につながるおそれがあるため、<パワーウインドーロックスイッチ>を押し込んでください。
  - 窓ガラスを開閉するときはお子さまに声をかけ、手や腕などが窓ガラス付近にないことを確認してから操作を行ってください。
  - 車から離れるときは<パワースイッチ>をOFFにし、キーとお子さまを車室内に残さないでください。いたずらなどの誤った操作によって思わぬ事故につながるおそれがあります。

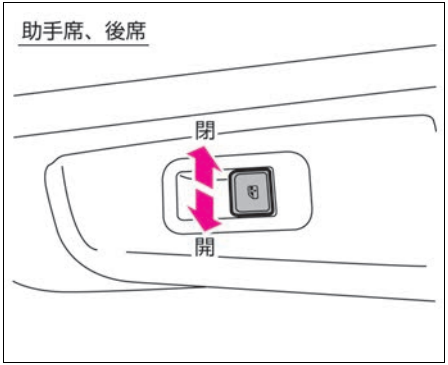
⚠ 注意

- **指などを挟まれないように注意する。**
  窓ガラスには挟み込み防止機構がありますが、窓ガラスを確実に閉めるため、閉め切る直前の部分では挟み込みを感知できない領域があります。

パワーウインドーの開けかた、閉めかた

運転席のスイッチで、各席の窓ガラスの開閉ができます。助手席のスイッチおよび後席のスイッチでは自席の窓ガラスの開閉ができます。





■ 開けるには

- スイッチを軽く押すと、押している間だけ開きます。

■ 閉めるには

- スイッチを軽く引き上げると、引き上げている間だけ閉まります。

■ 自動開閉するには

窓ガラスはワンタッチで自動開閉できます。

- スイッチを強く押すと全開します。
- スイッチを強く引き上げると全閉します。
- 途中で止めたいときは、スイッチを操作した反対側に軽く押すか引き上げます。

■ 開閉操作をロックするには

お子さまが誤って窓ガラスを開閉することを防止できます。

- <パワーウインドーロックスイッチ>を押すと、運転席以外の窓ガラスの開閉が

できなくなります。（スイッチの表示灯が点灯）

- スイッチをもう一度押すとロックが解除されます。（スイッチの表示灯が消灯）

■ キーOFF後作動機構

- 窓ガラスは、<パワースイッチ>をOFFにしたあとでも、約45秒間は開閉することができます。ただし、その約45秒間に運転席ドアまたは助手席ドアを開けると、窓ガラスの開閉はできなくなります。

■ インテリジェントキーによる遠隔操作機能

- インテリジェントキーの<ドア施錠スイッチ>または<ドア解錠スイッチ>を長押しすると、車外から全席のパワーウインドーを開閉できます。

挟み込み防止機構

⚠ 警告

- **窓ガラスを閉める前に乗員の手や顔などが窓から出ていないことを確認する。**

  挟み込み防止機構を解除すると、自動開作動と挟み込み防止機構が作動しません。確認せずに窓ガラスを閉めると重大な傷害につながるおそれがあります。

- 窓ガラスを閉めているとき、車体と窓ガラスの間に異物が挟まると、窓ガラスの上昇が停止し、自動で少し開きます。
- 環境や走行条件により、異物を挟んだときと同じような衝撃や荷重が窓ガラスに加わると挟み込み防止機構が作動することがあります。
- 故障などで挟み込み防止機構が作動してしまい、窓ガラスを閉めることができないときは、次の手順で挟み込み防止機構を解除して、窓ガラスを閉めてください。

① 挟み込み防止機構が作動するまでスイッチを引き上げます。
② ①の手順を2回繰り返します。
③ スイッチを引き続けて窓ガラスを閉めます。

- 挟み込み防止機構の解除は次の場合に終了し、通常の作動に戻ります。
  - 一定時間（約10秒）経過する
  - 窓ガラスを全閉する

正常に作動しないとき

- 初期設定を行うときは、ドアを閉めて操作してください。

窓ガラスのワンタッチ開閉、挟み込み防止機構、キーOFF後作動機構が正常に作動しないときは、次の操作を行い初期設定してください。

① e-POWERシステムを始動します。
② 運転席のスイッチを引き続けて運転席窓ガラスを全閉にしたあと、スイッチから手を離します。※1
③ 運転席のスイッチを5秒以上引き続けます。※2
④ 運転席のスイッチを押し続けて運転席窓ガラスを全開にしたあと、スイッチから手を離します。
⑤ 運転席のスイッチを5秒以上押し続けます。※2
⑥ 運転席窓ガラスが全閉するまで、運転席のスイッチを引き続けます。
⑦ 運転席窓ガラスを自動開閉させて、正常に作動することを確認します。

※1：全閉になる前に窓ガラスが停止した場合は、スイッチから手を離し、再度スイッチを引き続けて全閉にしてください。

※2：約5秒以上スイッチを引き続ける、または押し続けると再度運転席窓ガラスが動きます。

- 初期設定にしても正常に作動しない場合は早めに日産販売会社で点検を受けてください。

パノラミックガラスルーフ★

<パワースイッチ>がONのときに操作できます。

パノラミックガラスルーフについて

- パノラミックガラスルーフには、次の機能があります。
  - ➔ サンシェードの開けかた、閉めかた (P.96)
  - ➔ ガラスルーフのチルトアップのしかた (P.96)
  - ➔ ガラスルーフの開けかた、閉めかた (P.96)

サンシェードの開けかた、閉めかた

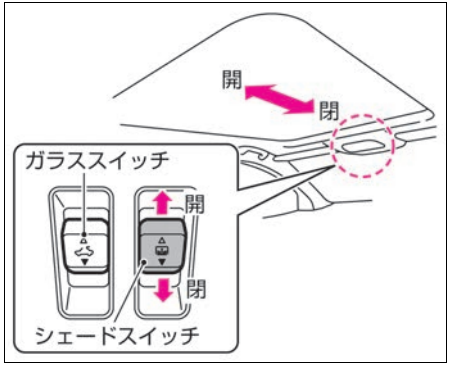
■ 開けるには

●＜シェードスイッチ＞を車両後方にスライドさせると、サンシェードが半分まで開きます。再度＜シェードスイッチ＞を車両後方にスライドさせると、全開します。

■ 閉めるには

●サンシェードが全開のときに＜シェードスイッチ＞を車両前方にスライドさせると、サンシェードが半分まで閉まります。再度＜シェードスイッチ＞を車両前方にスライドさせると、全閉します。

●途中で止めたいときは、＜シェードスイッチ＞または＜ガラススイッチ＞をスライドさせます。



ガラスルーフのチルトアップのしかた

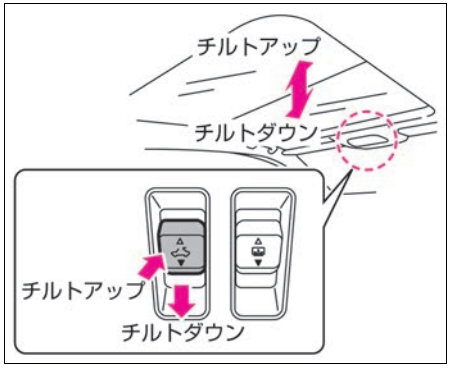
■ チルトアップするには

●＜ガラススイッチ＞を上に押すと、チルトアップします。
（サンシェードが閉じているときは、サンシェードが開いてからチルトアップします。）

●ガラスルーフが開いているときは、＜ガラススイッチ＞を上に押すと、ガラスルーフが閉まってからチルトアップします。

■ チルトダウンするには

●＜ガラススイッチ＞を上に押すか前方にスライドさせると、チルトダウンします。



ガラスルーフの開けかた、閉めかた

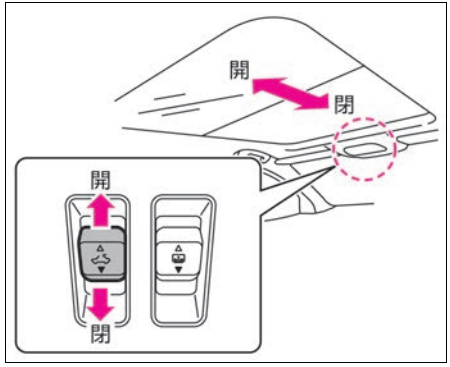
■ 開けるには

●＜ガラススイッチ＞を車両後方にスライドさせると、ガラスルーフが全開位置まで開きます。（サンシェードが閉じているときはサンシェードが開いてから開きます。）

■ 閉めるには

●＜ガラススイッチ＞を車両前方にスライドさせると、全閉位置まで閉まります。

●途中で止めたいときは、＜シェードスイッチ＞または＜ガラススイッチ＞をスライドさせます。



挟み込み防止機構

●自動でガラスルーフを閉めるときに、車体とガラスルーフの間に異物の挟み込みを感知すると、ガラスルーフが停止し、自動で開き始めます。

● 環境や走行条件により、異物を挟んだときと同じような衝撃や荷重がガラスルーフに加わると、挟み込み防止機構が作動することがあります。

アドバイス

● 故障などで挟み込み防止機構が作動してしまい、ガラスルーフを自動で閉めることができないときは、<ガラススイッチ>を車両前方に繰り返しスライドさせて閉めてください。

パノラミックガラスルーフの注意事項

警告

● **乗員の操作を含めすべてのガラスルーフやサンシェード開閉操作は運転者に責任があるため、次のことを必ず守る。**

— 走行中は顔や腕、物などを車外に出さないでください。車外の物に当たったり、急ブレーキ時に重大な傷害につながるおそれがあります。

— 閉めるときは、ガラスルーフから手や顔などを出していないことを確認してください。手や顔などをガラスルーフやサンシェードに挟むと、重大な傷害につながるおそれがあります。

— お子さまには操作させないでください。お子さまの誤った操作により事故につながるおそれがあります。お子さまや他の人がガラスルーフやサンシェードに挟まれ重大な傷害につながるおそれがあります。

— 車から離れるときは<パワースイッチ>をOFFにし、キーとお子さまを車室内に残さないでください。いたずらなどの誤った操作によって思わぬ事故につながるおそれがあります。

— 故意に挟み込み防止機構を働かせないでください。万一、手や顔などをガラスルーフやサンシェードに挟むと、重大な傷害につながるおそれがあります。

注意

● **指などを挟まれないように注意する。**

ガラスルーフには挟み込み防止機構がありますが、確実に閉めるため、閉め切る直前の部分では挟み込みを感知できない領域があります。

● **運転中はパノラミックガラスルーフの開閉操作を行わない。**

前方不注意となり、思わぬ事故につながるおそれがあります。操作は信号待ちなどの停車中に行ってください。

● **ルーフに水や雪などがあるときは開けない。**

突然の水や雪に驚き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

● 開口部に腰を掛けたり、荷物を載せたりするなど、大きな力を掛けないでください。ルーフが変形するおそれがあります。

● 車から離れるときや洗車するときは、盗難や故障などを防ぐためパノラミックガラスルーフを必ず閉めてください。

● 正常に作動しないときは、日産販売会社で点検を受けてください。

燃料補給口の開閉

燃料補給口

給油口にキャップがない燃料タンクです（キャップレス給油口）。リッドを開け、給油ノズルを直接差し込むだけで給油することができます。給油ノズルを引き抜くと、給油口が密閉します。給油口は運転席側の車両後方にあります。

燃料の補給

● 燃料タンクの容量は約45 ℓ です。

エンジン型式	指定燃料
HR14DDe	無鉛レギュラーガソリン

● 燃料が少なくなるとアドバンスドドライブアシストディスプレイに警告が表示されます。

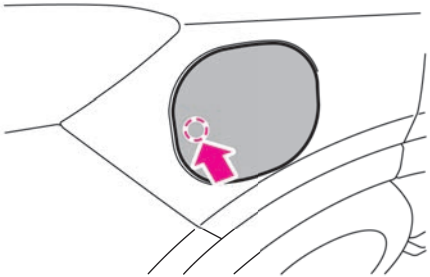
➔ 燃料残量警告（P.271）

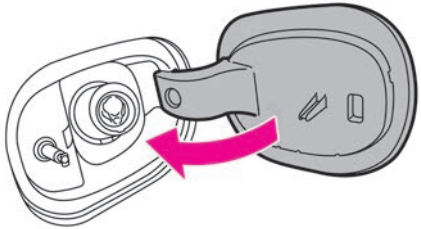
アドバイス

● 指定以外の燃料は補給しないでください。

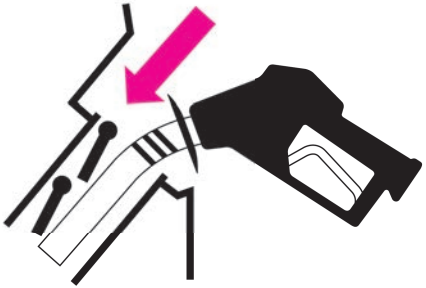
燃料補給のしかた

1. ドアを解錠します。
2. リッドを開けます。
   リッドの車両後方側中央部あたり（イラストの点線部分）を押すとリッドが少し開きます。開いたすき間に手を入れて全開します。





3. 給油ノズルを給油口へまっすぐ向け、一気に奥まで差し込み、給油します。
   給油中はノズルを動かさないでください。



4. 給油ノズルが自動停止したら、給油ノズルに残っている燃料がこぼれないように、約5秒待ってから給油ノズルを引き抜きます。
5. リッドを閉めます。

燃料補給時の注意事項

⚠ 警告

● **燃料補給時は、次のことを必ず守る。**
- e-POWERシステムを停止する
- 車のドアや窓を閉める
- タバコなどの火気を近づけない
- 気化した燃料を吸わない

● **補給作業を行う前に、金属部分に触れて身体の静電気を除去する。**
放電による火花でやけどをしたり、燃料に引火したりするおそれがあります。

● **補給作業はひとりで行う。**
作業中に車室内に戻ったり、帯電している人や物に触れると再帯電するおそれがあります。

燃料補給口の開閉

⚠ 警告

- **給油ノズルは確実に給油口へ挿入する。**

  給油ノズルの挿入が浅いと、給油の自動停止が遅れるため、燃料が吹きこぼれ火災につながるおそれがあります。

- **給油ノズルの自動停止後は、給油の継ぎ足しをしない。**

  継ぎ足しをすると、燃料があふれて火災につながるおそれがあります。

- **ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守る。**

- **給油自動停止後、すぐに給油ノズルを引き抜かない。**

  給油ノズル内に残った燃料がこぼれ出るおそれがあります。

- **携行缶から給油する場合、給油ノズルを確実に奥まで差し込む。**

  給油口には2枚のフラップがあります。給油ノズルを2枚目のフラップの奥まで差し込まないと、給油できず燃料が吹きこぼれ火災につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **フラップを指などの給油ノズル以外のもので開く、またはのぞき込んだりしない。**

  フラップの故障やシール不良、損傷のおそれがあります。

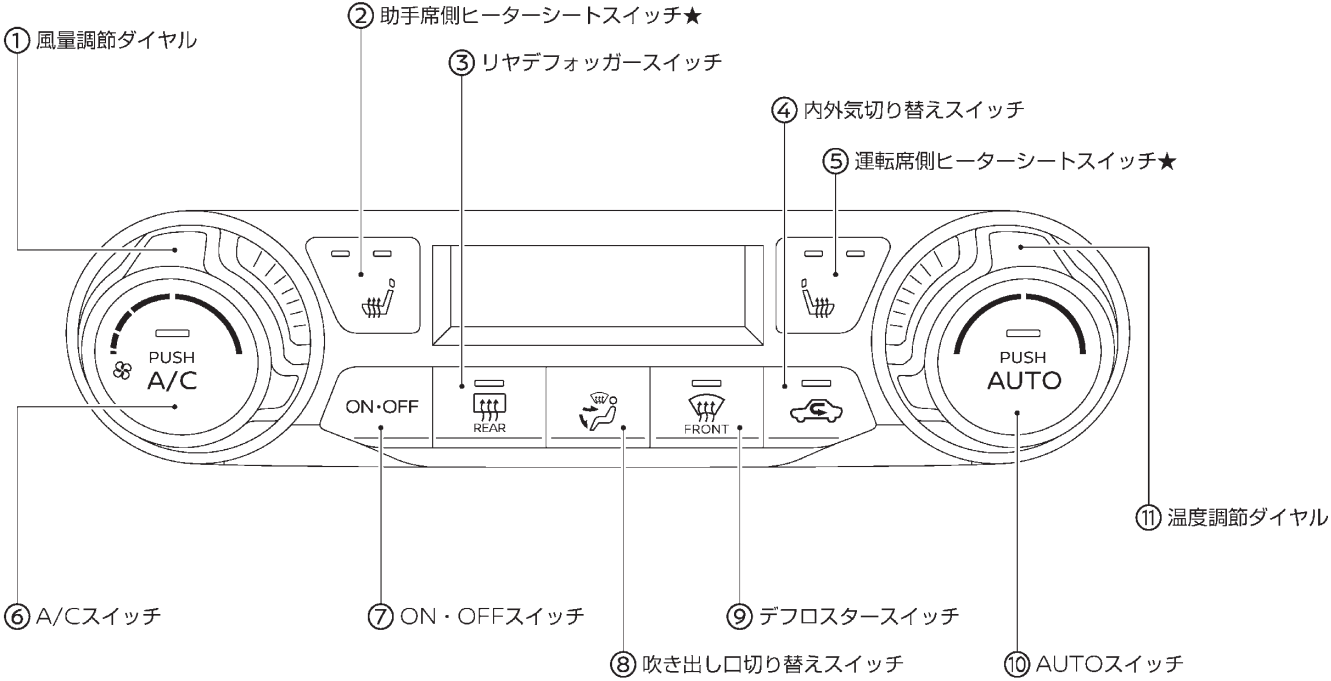
- **リッドが開いた状態で、高圧洗浄機で給油口付近を洗浄しない。**

  燃料タンク内に水が混入するおそれがあります。

オートエアコンシステム（タイプA）

冷房、暖房の切り替え、吹き出し口、風量の切り替えを自動調節して設定した温度に保ちます。また、内気循環／外気導入自動調節モードに設定することで、内気循環／外気導入を自動調節します。

各スイッチの名称と機能



エアコンの操作

① **風量調節ダイヤル**
ダイヤルを回して風量を切り替えます。

② **助手席ヒーターシートスイッチ★（➔P.237）**
スイッチを押すごとに、Hi⇒Lo⇒OFF⇒Hiの順に切り替わります。

③ **リヤデフォッガースイッチ（➔P.286）**
バックドアガラスのくもりが取れます。また、ドアミラーヒーター付車はドアミラーに内蔵されたヒーターが作動して、霜やくもりが取れます。

④ **内外気切り替えスイッチ**
スイッチを押すごとに、内気循環、外気導入が切り替わります。（内気循環のとき、スイッチの表示灯が点灯します。）

⑤ **運転席ヒーターシートスイッチ★（➔P.237）**
スイッチを押すごとに、Hi⇒Lo⇒OFF⇒Hiの順に切り替わります。

⑥ **A/Cスイッチ**
冷房・除湿機能のON・OFFを切り替えます。

⑦ **ON・OFFスイッチ**
オートエアコンのON・OFFを切り替えます。

⑧ **吹き出し口切り替えスイッチ（➔P.107）**
吹き出し口を切り替えます。

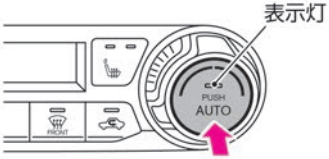
⑨ **デフロスタースイッチ（➔P.286）**
フロントガラスのくもりが取れます。

⑩ **AUTOスイッチ**
自動制御に切り替えます。冷房・暖房の切り替え、吹き出し口、風量の切り替えを自動調節して設定した温度に保ちます。

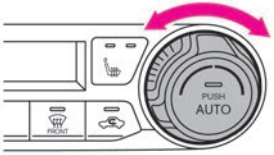
⑪ **温度調節ダイヤル**
ダイヤルを回して設定温度を切り替えます。（LO, 18.0℃～32.0℃, HI）

オートでの使いかた

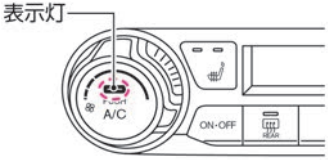
1. ＜AUTO＞スイッチを押します。
（スイッチの表示灯が点灯）



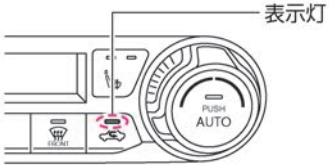
2. 温度調節ダイヤルを回して、設定温度を調節します。
右回し： 設定温度を上げる
左回し： 設定温度を下げる



3. ＜A/C＞スイッチの表示灯が消灯しているときは、＜A/C＞スイッチを押します。(スイッチの表示灯が点灯)
＜A/C＞スイッチ点灯時：冷房・除湿機能ON



4. ＜内外気切り替えスイッチ＞を約2秒間押し続けます。
スイッチの表示灯が2回点滅すると自動制御モードに切り替わります。



知識

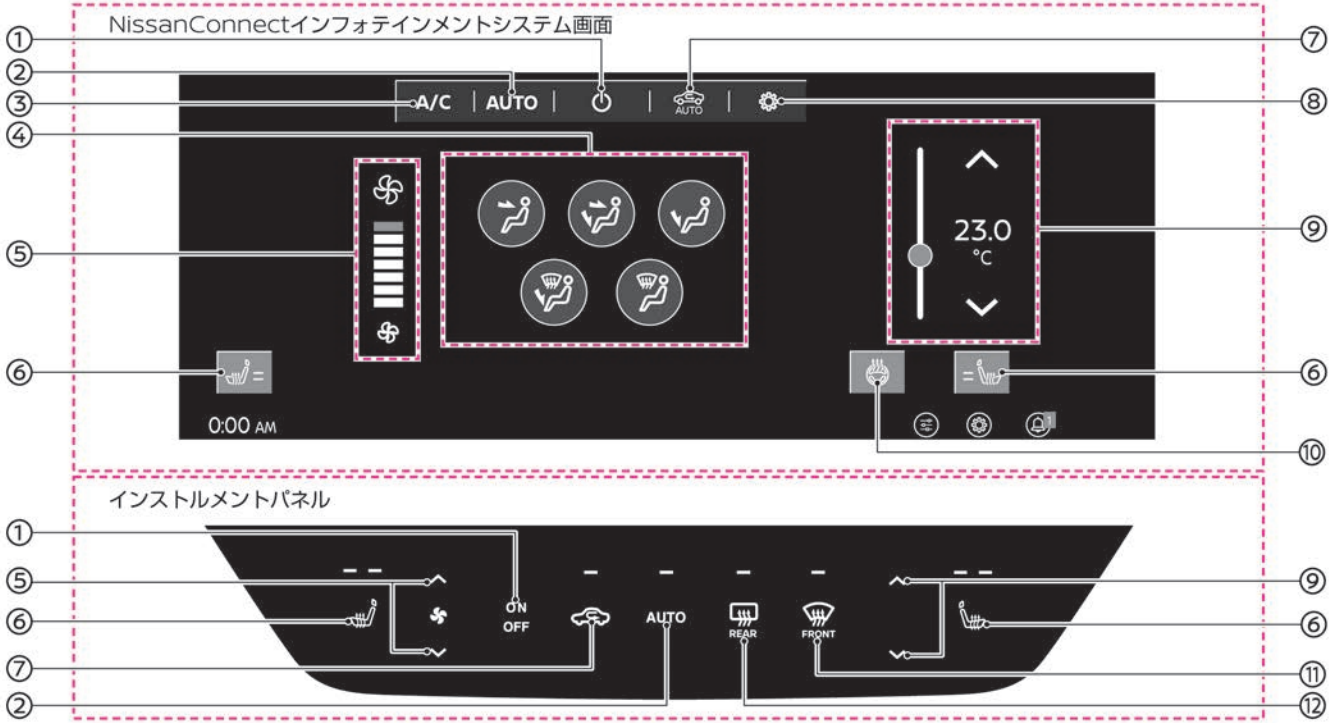
- オートで使用中に風量の調節または吹き出し口の切り替えを行うと＜AUTO＞スイッチの表示灯は消灯しますが、操作した機能以外については引き続き自動制御されます。

  また、内気循環／外気導入が自動制御モード中に＜内外気切り替えスイッチ＞を押すと、マニュアルモードに切り替わります。（スイッチの表示灯が点灯の場合は内気循環、消灯の場合は外気導入の状態になります。）

オートエアコンシステム（タイプB）

吹き出し温度、吹き出し口、風量、内外気切り替えを自動で制御し、設定した温度に保ちます。

各スイッチの名称と機能



● NissanConnectインフォテインメントシステム画面とインストルメントパネルのスイッチで操作します。

エアコンの操作

① **ON・OFFスイッチ**
タッチしてオートエアコンシステムのON・OFFを切り替えます。

② **AUTOスイッチ**
オートエアコンに切り替えます。吹き出し温度、吹き出し口、風量、前席ヒーターシート★の切り替えを自動で制御して設定した温度に保ちます。

③ **A/Cスイッチ**
タッチするごとに冷房・除湿機能のON・OFFが切り替わります。

④ **吹き出し口切り替えスイッチ**
タッチして希望の吹き出し口に切り替えます。（➔P.107）

⑤ **風量調節スイッチ**
タッチして希望の風量に切り替えます。

⑥ **前席ヒーターシートスイッチ★****（➔P.237）**
前席ヒーターシートのON・OFFおよび調節をします。

⑦ **内外気切り替えスイッチ**
タッチするごとに外気導入／内気循環／自動制御モードが切り替わります。（内気循環のとき、表示灯がオレンジ色に点灯します。画面表示は外気導入／内気循環／自動制御モードに合わせて表示が切り替わります。）

⑧ **設定スイッチ**
エアコンの設定画面を表示します。（➔P.105）

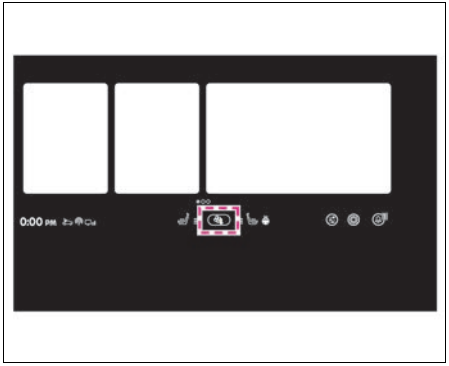
⑨ **温度調節スイッチ**
タッチして希望の設定温度に切り替えます。画面には設定温度が表示されます。（LO, 18.0℃～32.0℃, HI）

⑩ **ステアリングヒータースイッチ★****（➔P.237）**

⑪ **デフロスタースイッチ**
フロントガラスのくもりが取れます。（➔P.286）

⑫ **リヤデフォッガースイッチ**
バックドアガラスのくもりが取れます。また、ドアミラーヒーター付車はドアミラーに内蔵されたヒーターが作動し霜やくもりを取ります。（➔P.286）

● NissanConnectインフォテインメントシステムがオートエアコンシステム操作画面以外を表示している場合は、［ ］をタッチして、オートエアコンシステム操作画面を表示します。



オートエアコンの使いかた

⚠ 注意

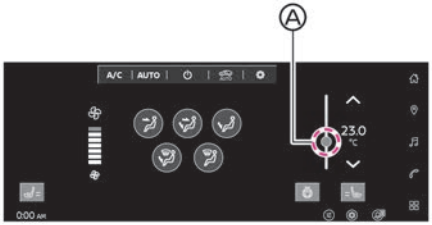
- **インストルメントパネルのスイッチの前には何も置かない。**
  意図しない動作をする場合があります。

1. インストルメントパネルの<AUTO>を押す、またはオートエアコンシステム操作画面の［AUTO］をタッチします。（インストルメントパネルの<AUTO>の表示灯が点灯しオートエアコンシステム操作画面の［AUTO］がオレンジ色に点灯します。）

- オートエアコンシステム操作画面を表示するには［ ］をタッチします。

2. インストルメントパネル右側の< ∧ >/< ∨ >を押す、またはオートエアコンシステム操作画面の［∧］/［∨］をタッチして、設定温度を調節します。
   ［∧］/< ∧ >：設定温度を上げる
   ［∨］/< ∨ >：設定温度を下げる

- 設定温度表示内側のバーにあるⒶを上下に移動しても設定温度を調節できます。



3. オートエアコンシステム操作画面の［A/C］が白色のときは、［A/C］をタッチしてオレンジ色にします。

- <AUTO>の表示灯が点灯し、［AUTO］がオレンジ色のときは、消費電力を抑えた最適な状態でエアコンが作動します。
- オートで使用中に風量の調整または、吹き出し口の切り替えを行うと［AUTO］が白色になり<AUTO>の表示灯が消灯しますが、操作した機能以外については引き続き自動制御されます。
- 吹き出し口の切り替えは、➔ 吹き出し口(P.107)をお読みください。
- <パワースイッチ>をOFFにし、再度<パワースイッチ>をONにすると、エアコンの条件によっては、内気循環/外気導入が自動制御モードになる場合があります。

スイッチ感度の調整のしかた

- インストルメントパネルにあるスイッチの感度を調整できます。
  感度調整が必要な場合は、日産販売会社にお問い合わせください。

スイッチ操作音のON・OFFのしかた

- <パワースイッチ>をOFFにし、オートACC状態のときにインストルメントパネルの<ON・OFF>スイッチを約5秒間押すと、スイッチ操作音をON・OFFすることができます。
- 操作音をONにしたいときは<内外気切り替えスイッチ>と<AUTO>スイッチが点滅する状態にします。操作音をOFFにしたいときは<リヤデフォッガースイッチ>と<デフロスタースイッチ>が点滅する状態にします。

設定

オートエアコンシステム操作画面の［ ］をタッチするとエアコンなどの設定ができます。

■ AUTO時の最大風量の調整

●オートエアコン使用時の最大風量をOFF、1〜3の範囲で設定できます。初期設定はOFFです。

— 1：最大風量を大きく制限

— 3：最大風量を少し制限

■ AUTO時の内外気切り替え

●設定をONにするとオートエアコン使用時に内外気切り替えも自動制御モードで制御されます。

■ デフロスター・リアデフォッガー連動

●設定をONにするとデフロスターに連動してリヤデフォッガーもONになります。

■ AUTO時の温調シート調整（運転席）★

●オートエアコン使用時の運転席側ヒーターシートの温度をOFF、HIGH、LOWで設定できます。初期設定はOFFです。

— HIGH：温度を高めに設定

— LOW：温度を低めに設定

●OFFにするとオートエアコン使用時には連動しません。

■ AUTO時の温調シート調整（助手席）★

●オートエアコン使用時の助手席側ヒーターシートの温度をOFF、HIGH、LOWで設定できます。初期設定はOFFです。

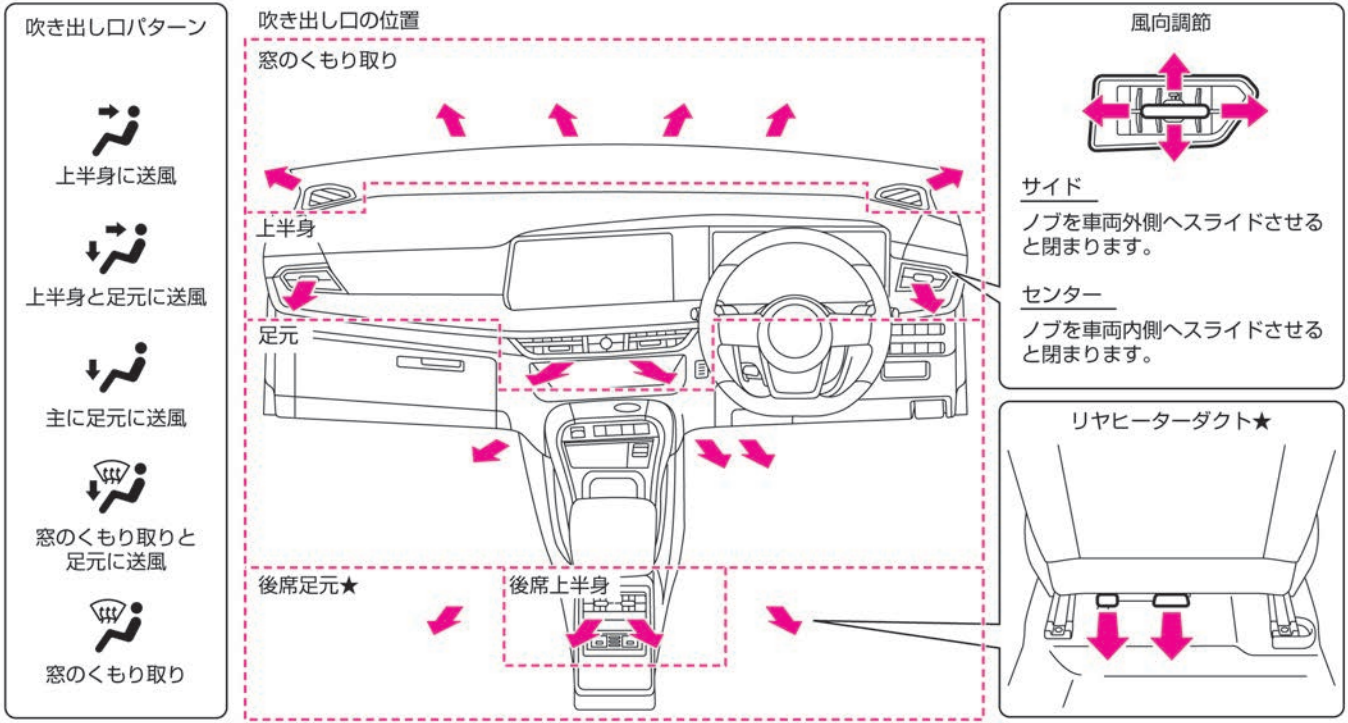
— HIGH：温度を高めに設定

— LOW：温度を低めに設定

●OFFにするとオートエアコン使用時には連動しません。

吹き出し口

<吹き出し口切り替えスイッチ>を押す／タッチするまたは<デフロスタースイッチ>を押すごとに吹き出し口が切り替わります。



エアコンを使うときに注意すること

エアコンに関する注意事項

⚠ 注意

- **A/CスイッチOFF時に内部循環で長時間使用しない。**

  窓ガラスがくもりやすくなり、視界が損なわれ危険なため、一時的にご使用ください。

- **吹き出し風を長時間連続して身体に当てない。**

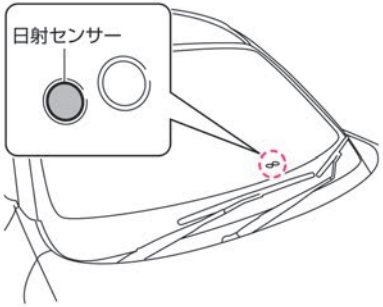
  特に皮膚の弱い方、乳幼児、病人、お年寄り、身体の不自由な方などには、吹き出し風が長時間当たらないように運転者が注意してください。低温やけどや思わぬ傷害を受けるおそれがあります。

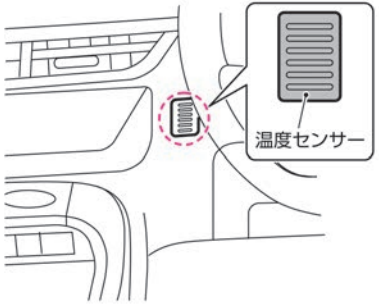
- **<デフロスタースイッチ>をONにしているときに、エアコンの設定温度を低くしない。**

  フロントガラスの外側に露が付き、視界を妨げるおそれがあります。

アドバイス

- オートエアコンの自動温度調節は、日射センサーと温度センサーで行っています。センサーをふさいだり、クリーナーなどを吹きかけないでください。センサーの感度が低下し、正常に作動しなくなります。





- ほこり、花粉、粉じんなどを集じんするためのクリーンフィルターを装着しています。集じん性能を維持するため、クリーンフィルターは定期的に交換してください。

  交換時期：1年ごとまたは12,000km走行ごと

- クリーンフィルターが交換時期に満たない場合でも、吹き出し風量が極端に減少したり、窓ガラスがくもりやすくなった場合は交換してください。なお、取り付け、交換などについては、日産販売会社にご相談ください。
- 外気導入に固定していると、夏場など外気温が高いときは、冷房の効きが悪くなる場合があります。その場合は、一時的に内気循環にしてください。
- エアコン装置のオイル循環を切らさないために、ときどき［A/C］または<A/C>スイッチをONにしてください。なお、外気温が0℃近くまで下がるとエアコン装置が作動しないことがあるため、暖かい日に行ってください。
- エアコンガスは必ず指定のものをご使用ください。エアコンガスの詳細については、ボンネットの裏にあるエアコンラベルをご確認ください。
- 地球温暖化防止のためエアコンガスを大気放出しないでください。
- この車両では、エアコンのシステムに特殊なオイルを使用しています。エアコンの修理、メンテナンスは日産販売会社にご相談ください。

知識

- 冷房時、吹き出し口から霧が吹き出したように見えることがありますが、これは湿った空気が急に冷やされたときに発生するもので、異常ではありません。
- 外気温が0℃近くまで下がると、［A/C］がオレンジ色または<A/C>スイッチの表示灯が点灯していてもエアコンが作動しないことがあります。
- エアコンがONのとき、またはOFFにした直後に、“カチカチ”、“シュー”、“コツン”などの音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 始動直後で吹き出し風の温度が低いときは、足元への吹き出し風量が少なくなります。
- エアコンの運転中または運転後などに車両の下に水が垂れることがあります。
- 外気温が低いときは、外気温に応じてフロントデフロスターへの風量が多くなります。

エアコンのにおいについて

- エアコン装置は、空気中のいろいろなにおいが混ざり合うため、吹き出し風からにおいを感じることがあります。
- エアコン作動時のにおいを抑えるため、駐車時などは外気導入にしておくことをおすすめします。

オーディオの使いかた

安全運転のために

⚠ 警告

- **走行中のオーディオ操作は、絶対にしない。**

  前方不注意となるおそれがあります。
- **音量を大きくしない。**

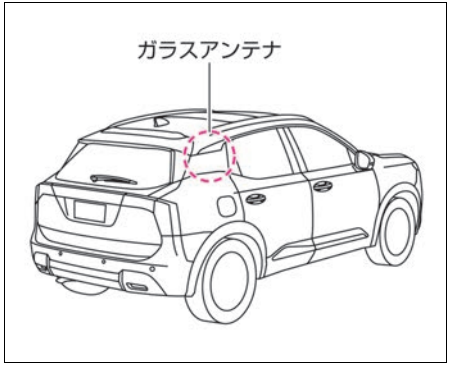
  大きすぎると車外の状況がわからないため、思わぬ事故の原因となります。

- 運転中は車外の音が聞こえる程度の音量でお聞きください。

ラジオの受信について

- ラジオの受信は、車両の移動に伴う電波の変動、障害物や電車、信号機などの影響により、最良な受信状態を維持することができない場合があります。
- オーディオを聞いているとき、車室内または車の近くで携帯電話や無線機を使うと、ノイズ（雑音）が入ることがあります。

ガラスアンテナについて



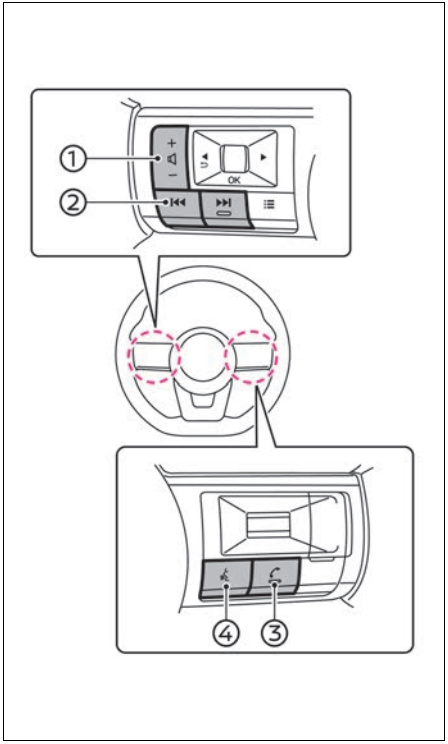
- アンテナ線は、リヤサイドガラスの内側にあります。

アドバイス

- リヤサイドガラスにミラータイプのフィルムや金属物（市販のアンテナなど）を貼り付けないでください。受信感度が低下し、ノイズ（雑音）などが入るおそれがあります。
- リヤサイドガラスの内側を清掃するときは、アンテナ線を切らないように、水を含ませた柔らかい布でアンテナ線にそって軽くふいてください。
- アンテナ線は、手荷物などで傷つけないようにしてください。

ステアリングスイッチ

NissanConnectインフォテインメントシステム★、または日産オリジナルナビゲーションシステムを操作することができます。



① **音量スイッチ（＋／－）**
音量を調節できます。
＋：音量を上げる
－：音量を下げる
押したままにすると連続して音量の増減ができます。

② **選曲／選局スイッチ**
曲や放送局などの切り替えができます。

③ **通話開始／終了スイッチ**
着信中に押すと電話を受けます。通話中に押すと電話を切ります。

④ **音声操作スイッチ**
音声操作画面に切り替えます。

- 取り扱いについては、NissanConnect インフォテインメントシステム取扱説明書も合わせてお読みください。
- 日産純正品以外のナビゲーションシステムでは作動の保証はいたしません。

MEMO

運転のしかた

始動する

パワースイッチ P.114
オートACC機能 P.116

運転する

シフトスイッチ P.117
電動パーキングブレーキ P.118
オートブレーキホールド P.119
発進・走行 P.121
停車・駐車 P.123

ランプをつける、ワイパーを使う

ライトスイッチ P.125
フォグランプスイッチ★ P.132
ヘッドランプレベライザースイッチ★ P.132
ワイパー・ウォッシャースイッチ P.133

運転支援機能

ドライブモードセレクター P.136
e-4ORCE（4WD）車★の扱いかた P.138
エマージェンシーストップシグナル P.139
ABS（アンチロックブレーキシステム） P.139
VDC（ビークルダイナミクスコントロール） P.140
シャシー制御 P.141
ヒルスタートアシスト P.142
車両接近通報装置 P.142
走行支援機能 P.144
プロパイロット P.150
インテリジェント エマージェンシーブレーキ P.161
踏み間違い衝突防止アシスト P.168
BSW（後側方車両検知警報）★／インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）★ P.174
LDW（車線逸脱警報）／インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム） P.181
インテリジェント FCW（前方衝突予測警報） P.185
RCTA（後退時車両検知警報）★ P.187
インテリジェント DA（ふらつき警報） P.190
標識検知機能 P.191
先行車発進お知らせ P.194

駐車支援システム

バックビューモニター★ P.197
バックビューモニター★の注意事項 P.198
インテリジェント アラウンドビューモニター（移動物 検知機能付）★ P.202
インテリジェント アラウンドビューモニター★に関する注意事項 P.213
ソナーシステム（インテリジェント アラウンドビューモニター無車） P.218

パワースイッチ

⚠ 警告

- **e-POWERシステムを始動する前にペダルの位置を確認する。**

  ペダルの踏み間違いは思わぬ事故につながります。右足でアクセルペダルとブレーキペダルを交互に踏み、その位置を確実に覚えてください。

- **換気の悪い場所では、e-POWERシステムを長時間作動したままにしない。**

  排気ガスが車両周辺に滞留したり、車室内に侵入したりすることで、一酸化炭素中毒になるおそれがあります。一酸化炭素を吸い込むと、意識が薄れて事故につながるおそれがあるほか、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。

- **e-POWERシステムを始動するときは、必ず運転席に座る。**

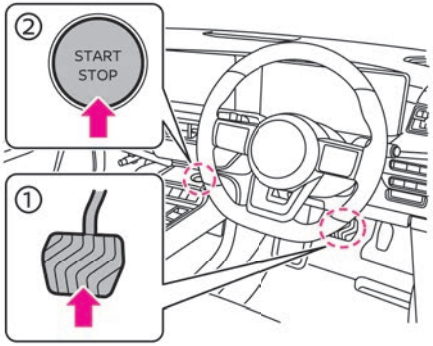
  運転席以外から行うと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- 走行可能表示灯［READY］が点灯しているとき、ボンネットを開けたままにしないでください。12Vバッテリーへの充電が停止するため、12Vバッテリーあがりのおそれがあります。

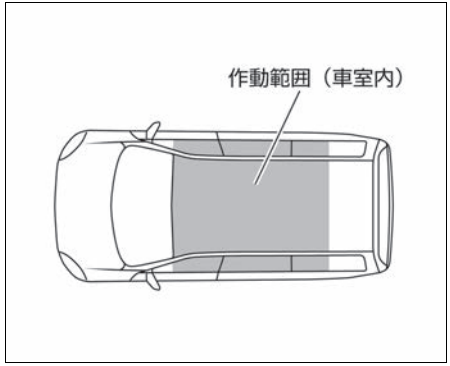
e-POWERシステムの始動のしかた

1. インテリジェントキーを携帯して車両に乗り込みます。
   アクセルペダルとブレーキペダルの位置を確認し、正しい運転姿勢（➔P.22）がとれるようにハンドル、シート、ミラーを調節します。
2. ブレーキペダル①をしっかりと踏み込みながら、<パワースイッチ>②を押します。



3. 走行可能表示灯［READY］が点灯し、走行できるようになります。

- キーが作動範囲（車室内）にあるときに、e-POWERシステムを始動することができます。



- 車両状態によっては<パワースイッチ>を押したあと、走行可能表示灯［READY］が点滅から点灯に変わるまでにエンジンが作動することがあります。
- リチウムイオンバッテリーの残量が低下している状態では<パワースイッチ>を押したあと、走行可能表示灯［READY］が点滅から点灯に変わるまでに数分かかることがあります。その間は、エネルギーモニターは表示されません。
- ブレーキペダルを踏んだり離したりしたとき、"カチッ" と音が聞こえることがありますが異常ではありません。
- システム始動前のペダル操作などにより、ブレーキペダルが硬くなっている場合があります。この場合、ペダルを軽く踏んだ状態ではペダル踏み込み操作が検知されず、走行可能表示灯［READY］が点灯しませんので、ブレーキペダルを通常よりも強く踏み込んでください。
- e-POWERシステムが始動できない場合には、一旦<パワースイッチ>をOFFに

して、5秒以上待ってから再始動してください。

停止のしかた

⚠ 警告

- **<パワースイッチ>をOFFにするときは、パーキングブレーキを確実にかけ、シフトポジションがPであることを確認する。**

  車両が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

1. ブレーキペダルを踏んで、車両を完全に停車させます。
2. ブレーキペダルを踏んだままパーキングブレーキをかけます。

   ➔ 電動パーキングブレーキのかけかた (P.118)
3. <シフトスイッチ>の<P>スイッチを押し、シフトポジションをPに切り替えます。
4. <パワースイッチ>を押します。

   走行可能表示灯［READY］が消灯していることを確認したら、ブレーキペダルからゆっくりと足を離します。

- インテリジェントキーの電池が切れている、または車室内にキーがない場合にe-POWERシステムを停止するときは、<パワースイッチ>を長押ししてください。

パワースイッチでのモードの切り替えかた

- インテリジェントキーを携帯しているときに、次の作動をします。
  - ブレーキペダルを踏まずに<パワースイッチ>を押すと、モードが切り替わります。
  - ブレーキペダルを踏みながら<パワースイッチ>を押すと、e-POWERシステムが始動します。
  - e-POWERシステムが始動中に<パワースイッチ>を押すと、e-POWERシステムが停止します。

モード	働き
OFF	● ドアミラーなどが使える位置（ACC状態のとき） ● e-POWERシステムを停止する位置
ON	● すべての電装品が使える位置

アドバイス

- 12Vバッテリーあがりを防止するため、電装品（NissanConnectインフォテインメントシステム★や電源ソケットなど）はe-POWERシステムを始動した状態でご使用ください。電装品を長時間使用することや同時に複数使用することは避けてください。

- 次の条件がそろった状態でしばらくすると自動的に<パワースイッチ>がOFFになります。
  - <パワースイッチ>がONの状態のとき
  - e-POWERシステムが停止しているとき
- <パワースイッチ>がOFFの位置でも、ACC状態のときはドアミラーなどの電装品を使うことができます。

  ACC状態については、➔ オートACC機能 (P.116)をお読みください。

非常停止のしかた

⚠ 警告

- **非常停止を行うときは、可能な限り減速してから行う。**

  非常停止後は、ブレーキの効きが悪くなり、ハンドルも重くなるため、車両のコントロールが難しくなります。

緊急時など、走行中に強制的にe-POWERシステムを停止（<パワースイッチ>OFF）させるときは、次の操作を行ってください。

- <パワースイッチ>を長押しする。
- <パワースイッチ>をすばやく3回押す。

オートACC機能

<パワースイッチ>がOFFのときでも、特定の条件で、NissanConnectインフォテインメントシステム★やドアミラーなどの電装品が使える状態（ACC状態）に自動で切り替わる機能です。e-POWERシステムの停止後や、<パワースイッチ>をONにする前でも、NissanConnectインフォテインメントシステム★やドアミラーなどの電装品が使用できます。

オートACC機能について

- 次の場合、自動でACC状態に切り替わります。
  - リモコン（インテリジェントキー）機能でドアを施錠または解錠したとき
  - <パワースイッチ>をOFFにしたとき
  - ドアを開けたとき
  - ドアを閉めたとき
- 次の場合、ACC状態が完全に停止します。
  - ドアの開閉やドアロックなどの操作を行わず一定時間経過したとき
  - e-POWERシステム停止後、リモコン（インテリジェントキー）機能で施錠してから一定時間経過したとき
- 状況によりオートACC機能に制限がかかる場合があります。その場合、オートACC状態で作動するシステムが正常に作動しないことがあります。

NissanConnectインフォテインメントシステム装着車

- NissanConnectインフォテインメントシステムは、e-POWERシステム停止後も作動し続けます。
- e-POWERシステム停止後、一定時間経過するとNissanConnectインフォテインメントシステムの画面が消灯し、作動が停止します。
- 運転席ドアを開くとNissanConnectインフォテインメントシステムの画面が消灯し、作動が停止します。画面が消灯しても一定時間以内に< ⏻ >を押すと再度NissanConnectインフォテインメントシステムを使用することができます。

アドバイス

- 12Vバッテリーあがりを防止するため、電装品（NissanConnectインフォテインメントシステム★や電源ソケットなど）はe-POWERシステムを始動した状態でご使用ください。

シフトスイッチ

⚠ 警告

- **<シフトスイッチ>の操作は必ず走行可能表示灯［READY］が点灯したことを確認してから行う。**

  走行可能表示灯［READY］が点灯する前に<シフトスイッチ>を操作すると、目的のシフトポジションに切り替わらず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- **植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）、またはそれ以外の医療電気機器を使用されている方は、装着部位を<シフトスイッチ>に近づけない。**

  強力な磁石が内蔵されているため、医療電気機器の作動に影響を与えるおそれがあります。

⚠ 注意

- **<シフトスイッチ>に磁気カードや磁力のあるものを近づけない。**

  誤作動を引き起こし、事故につながるおそれがあります。

- **次のような操作を行わない。**

  アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告が表示され、正常に作動しない場合があります。

  — アクセルペダルを踏みながら<シフトスイッチ>を押す

  — 前進中に<R>スイッチを押す

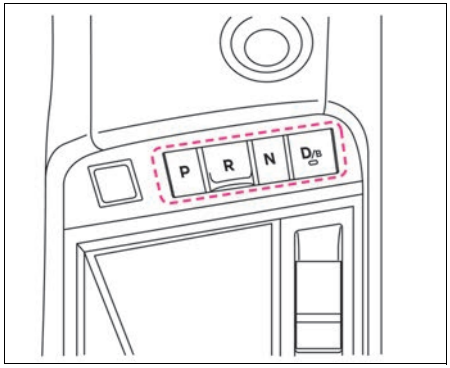
  — 後退中に<D／B>スイッチを押す

  — 走行中<P>スイッチを押す

  — 複数の<シフトスイッチ>を同時に押す

走行可能表示灯［READY］が点灯しているとき、すべてのシフトポジションに切り替えることができます。<シフトスイッチ>を操作したあとは、目的のシフトポジションに切り替わっていることを必ず確認してください。

シフトスイッチの操作



P	ブレーキペダルを踏みながら、<P>スイッチを押します。
R	ブレーキペダルを踏みながら、<R>スイッチを押します。
N	ブレーキペダルを踏みながら、<N>スイッチを押します。
D	ブレーキペダルを踏みながら、<D／B>スイッチを押します。
B	Dのときに<D／B>スイッチを押すとBに切り替わります。もう一度<D／B>スイッチを押すとDに戻ります。

- シフトポジションをRに切り替えるとブザーが鳴ります。
- 次の操作は無効とみなされ、ブザーが鳴るとともにシフトポジションはNに切り替わります。
  — シフトポジションがDまたはBのときに、ブレーキペダルを踏まずにシフトポジションをRに切り替える
- <パワースイッチ>がONでも走行可能表示灯［READY］が点灯していないときは、D・B・Rには切り替えられません。
- 次の条件が重なったとき、シフトポジションが自動でPに切り替わる場合があります。
  — 停車しているとき
  — ブレーキペダルを踏んでいないとき
  — 運転席のシートベルトを外したとき
  — 運転席ドアを開けたとき
- この車両にはオートP機能がありますが、電制シフトが故障した場合は、シフトポジションがP以外で<パワースイッチ>をOFFにしようとしても、ブザーが鳴り、<パワースイッチ>をOFFに切り替えられません。<パワースイッチ>をOFFにできないときは、次の操作を行ってください。

— ①停車してパーキングブレーキをかけます。
— ②ブレーキペダルを踏み込みながら＜パワースイッチ＞を押して、＜パワースイッチ＞をONに切り替えます。
— ③＜P＞スイッチを押してPに切り替えます。
— ④＜パワースイッチ＞を押して、OFFに切り替えます。

各シフトポジションの機能

シフトポジション	役割
P	駐車およびe-POWERシステムを始動するとき
R	後退するとき
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行するとき
B	下り坂などで、強い回生ブレーキが必要なとき

● シフトポジションがBのときは減速力を強くするため、Dのときよりエンジン作動頻度が多くなります。また、エンジン回転数が高くなる場合があります。

■ オートP機能

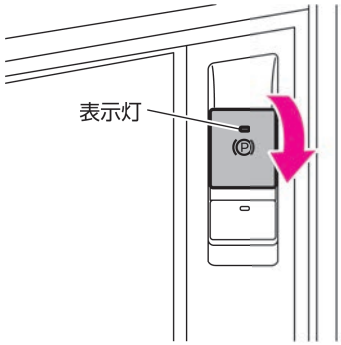
● シフトポジションをPに切り替えずに＜パワースイッチ＞をOFFにすると、自動的にシフトポジションがPに切り替わります。
ただし、自動的にシフトポジションがPに切り替わるのは補助的な機能のため、駐車後は必ず＜P＞スイッチを押してPに切り替えてください。

電動パーキングブレーキ

停車中や駐車時に使用するブレーキです。
＜電動パーキングブレーキスイッチ＞を操作してパーキングブレーキをかけると、後輪が固定されます。

電動パーキングブレーキのかけかた

1. ブレーキペダルをしっかりと踏み込みます。
2. ＜電動パーキングブレーキスイッチ＞を引きます。
スイッチを引くと、＜電動パーキングブレーキスイッチ＞の表示灯が点灯し、電動パーキングブレーキ警告灯［Ⓟ］が、一定時間後に点灯します。



● オートブレーキホールド（➔P.119）が作動しているときにシフトポジションをPにすると、パーキングブレーキがかかります。

電動パーキングブレーキの解除のしかた

1. ブレーキペダルをしっかりと踏み込みます。
2. ＜電動パーキングブレーキスイッチ＞を押します。
スイッチを押すと、スイッチの表示灯が消灯し、電動パーキングブレーキが解除されると電動パーキングブレーキ警告灯［Ⓟ］が消灯します。

● 電動パーキングブレーキは、＜パワースイッチ＞がONのときのみ解除できます。

自動解除のしかた

<電動パーキングブレーキスイッチ>を操作しなくても、パーキングブレーキを解除することができます。

- 電動パーキングブレーキがかかっている状態でシフトポジションをD、BまたはRにし、アクセルペダルをゆっくり踏んでください。
  パーキングブレーキが解除され、電動パーキングブレーキ警告灯［(P)］が消灯します。
- パーキングブレーキの自動解除は、次の条件を満たしている必要があります。
  - 運転席ドアが閉まっている※
  - 走行可能表示灯［READY］が点灯しているとき
  - シフトポジションがP、N以外のとき

  ※：運転席ドアが開いた状態でもシフトポジションをP、N以外に入れて5秒以内に発進したときは、パーキングブレーキが自動解除される場合があります。走行するときは、必ずドアを閉めてください。

電動パーキングブレーキに関する注意事項

警告

- **車両を離れるときは、電動パーキングブレーキをかけたあと、シフトポジションをPに切り替える。**
- **非常時以外は、電動パーキングブレーキを作動させたまま走行しない。**

  ブレーキに不具合が生じ、事故につながるおそれがあります。
- **電動パーキングブレーキをかけたり、解除したりの操作を短時間に繰り返さない。**

  システムの過熱を防ぐために電動パーキングブレーキが作動しなくなる場合があります。作動しなくなった場合は、約1分間経過してから再度操作してください。

- 電動パーキングブレーキをかけたり解除したりすると、車両の後方部から作動音が聞こえることがありますが、これは異常ではありません。
- 走行中、非常事態で電動パーキングブレーキをかける必要が生じたときは、<電動パーキングブレーキスイッチ>を引き続けてください。ブレーキがかかるとともにブザーが鳴り、電動パーキングブレーキ警告灯［(P)］が点灯し、電動パーキングブレーキ戻し忘れ警告（➔P.270）が表示されます。スイッチから手を離すと、電動パーキングブレーキは解除されます。
- <パワースイッチ>がOFFまたはACC状態のときに、<電動パーキングブレーキスイッチ>を引き上げると、スイッチの表示灯がしばらく点灯状態になることがあります。
  ACC状態については、➔オートACC機能(P.116)をお読みください。

アドバイス

- 寒冷時に駐車するときは、電動パーキングブレーキをかけずにシフトポジションをPに入れ、電動パーキングブレーキを解除したまま車輪の前後に適切な輪留めをしてください。寒冷時に電動パーキングブレーキをかけると、パーキングブレーキが凍結し、解除できなくなるおそれがあります。
- 電動パーキングブレーキが12Vバッテリーあがりや故障などで解除できなくなったときは、日産販売会社またはJAFなどのロードサービスにご連絡ください。

オートブレーキホールド

オートブレーキホールド機能は、信号待ちなどの停車中にブレーキペダルを踏み続けなくても、ブレーキ力を保持する機能です。

オートブレーキホールド機能について

- オートブレーキホールド機能は、運転者のブレーキ操作によって停車した際に、ブレーキ力を保持する機能です。
  ブレーキ力が保持されているときにアクセルペダルを踏むと、ブレーキが解除され、発進することができます。

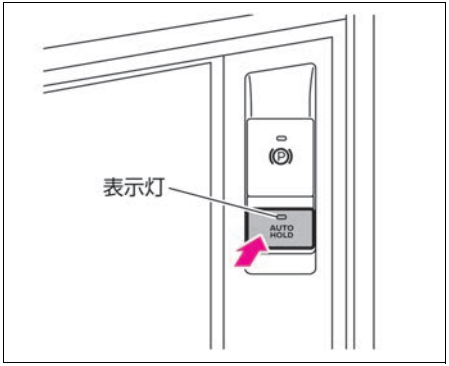
オートブレーキホールド機能の作動について

- オートブレーキホールド機能のON・OFF設定は、再度設定を変更するまで、

＜パワースイッチ＞をOFFにしても、その設定が維持されます。

オートブレーキホールド機能をONにする

● ＜パワースイッチ＞をONにし＜オートブレーキホールドスイッチ＞を押すと、スイッチの表示灯が点灯します。



● オートブレーキホールド機能は、次の条件が満たされたときのみ、オートブレーキホールド表示灯［ Ⓐ HOLD ］（白色）が点灯し、待機状態になります。（➔P.49）
  — 運転席のシートベルトを着用している
  — 電動パーキングブレーキが解除されている
  — シフトポジションがP以外にある
  — 急な坂道の途中に停車していない

オートブレーキホールド機能をOFFにする

オートブレーキホールド機能がONのとき、＜オートブレーキホールドスイッチ＞を押すと、オートブレーキホールドスイッチ表示灯が消灯しオートブレーキホールド機能がOFFになります。

また、ブレーキ力が保持されている状態で、オートブレーキホールド機能をOFFにするときは、必ずブレーキペダルを踏みながら＜オートブレーキホールドスイッチ＞を押します。

オートブレーキホールド機能の使いかた

■ ブレーキ力を保持させる

オートブレーキホールド機能が待機状態（オートブレーキホールド表示灯［ Ⓐ HOLD ］が白色に点灯）のとき、ブレーキペダルを踏んで車両を停止させると、オートブレーキホールド機能によってブレーキ力が保持されます。

ブレーキ力が保持されているときは、オートブレーキホールド表示灯［ Ⓐ HOLD ］が緑色に点灯します。（➔P.49）

■ 発進する

シフトポジションがPまたはN以外にあり、ブレーキ力が保持されている状態でアクセルペダルを踏むと、保持されているブレーキ力が解除されて発進します。

ブレーキ力の保持が解除されると、オートブレーキホールド表示灯［ Ⓐ HOLD ］が白色に点灯し、待機状態に戻ります。

坂道では、オートブレーキホールド機能が作動開始するまでブレーキペダルを強く踏み込む必要があります。

オートブレーキホールド機能使用時の注意事項

⚠ 警告

● **急な坂道や滑りやすい路面で使用しない。**

オートブレーキホールド機能が作動していても、車両が動き出すおそれがあります。

急な坂道などでオートブレーキホールド機能を作動させたとき、運転者にブレーキペダルを踏むよう警告メッセージが表示されることがあります。

● **オートブレーキホールド機能が作動していても停止状態を維持できないときは、ブレーキを使用して車両を停車させる。**

ブレーキ力保持状態のときに外的要因で車両が動くと、警告音が鳴り、警告メッセージが表示されることがあります。

➔オートブレーキホールド警告（P.271）

● **次の場合はオートブレーキホールド機能をOFFにする。**
  — 洗車機を使用するとき
  — 車両にけん引されるとき
  — 車両のけん引時
  — 過積載のとき

⚠ 警告

- **次の場合はシフトポジションをPにしてパーキングブレーキが確実にかかっているか確認する。**

  車両が不意に動き出し重大な傷害や事故を起こすおそれがあります。

  — 駐車するとき

  — 人が乗降するとき

  — 荷物の積み下ろしをするとき

- **VDC警告灯［ ］（➔P.265）、ブレーキシステム警告灯（黄色）［ ］（➔P.264）、電動パーキングブレーキ警告灯［ ］（➔P.264）、またはマスターウォーニング［ ］（➔P.268）が点灯し、シャシー制御表示の警告メッセージ（➔P.272）が表示されたときは、オートブレーキホールド機能は作動しません。**

- **オートブレーキホールド機能をOFFにする際は、ブレーキペダルを踏みながら<オートブレーキホールドスイッチ>を押す。**

  急な坂道では、オートブレーキホールド機能での停止状態からアクセルペダルを踏んでもオートブレーキホールド機能が解除できない場合があります。

- **ブレーキペダルから足を離す前に、オートブレーキホールド表示灯［ ］（緑色）が点灯していることを確認する。**

⚠ 注意

- **オートブレーキホールド機能によってブレーキ力が保持されているときに、オートブレーキホールド機能をOFFにするときは、ブレーキペダルをしっかりと踏む。**

  ブレーキが解除され車両が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- **車両が停止してもブレーキ保持が開始されないときは、オートブレーキホールド表示灯［ ］（緑色）が点灯するまでブレーキペダルを踏み込む。**

  ブレーキペダルが十分な力で踏まれていない、もしくは、車両停止後にブレーキペダルを離すのが早すぎると、オートブレーキホールド表示灯［ ］（緑色）は点灯しません。

- オートブレーキホールド機能がONでブレーキ力が保持されているときに、次の状態になるとパーキングブレーキがかかり、ブレーキ力が解除されます。（オートブレーキホールド表示灯が消灯）

  — オートブレーキホールド機能によるブレーキ力の保持が3分以上継続されたとき

  — シフトポジションをPにしたとき

  — <電動パーキングブレーキスイッチ>を引いたとき

  — 運転席のシートベルトを外したとき

  — 運転席ドアを開けたとき

  — <パワースイッチ>をOFFにしたとき

  — オートブレーキホールド機能に不具合が生じたとき

- ブレーキ力を保持しているときは、車両の停止状態を維持するため、作動音が発生する場合がありますが、異常ではありません。

アドバイス

- 次の場合は、システムに異常が発生しているおそれがあります。ただちに日産販売会社で点検を受けてください。

  — 警告メッセージが表示されたとき

  — <オートブレーキホールドスイッチ>を押してもスイッチの表示灯が点灯しないとき

発進・走行

発進するときの注意事項

⚠ 警告

- **発進するときは、アクセルペダルを踏んだまま <シフトスイッチ>を操作しない。**

  急発進し、重大な事故につながるおそれがあります。

- **停車中、シフトポジションがP、N以外に入っているときは、ブレーキペダルをしっかりと踏む。**

  クリープ現象により車が動き出し、事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- 段差などを通過するときは、ブレーキを踏んで速度を落とし、できるだけゆっくり走行してください。段差を乗り降りするときの衝撃で、駆動系の部品が故障するおそれがあります。
- 電動パーキングブレーキをかけ、運転席ドアが開いた状態でアクセルペダルを踏むと、電動パーキングブレーキが解除されず、電動パーキングブレーキが故障するおそれがあります。

発進のしかた

1. ブレーキペダルを踏んだまま<パワースイッチ>を押して、メーター内の走行可能表示灯［READY］が点灯していることを確認します。
2. ブレーキペダルを右足でしっかりと踏んだまま、<シフトスイッチ>の<D／B>スイッチを押して、シフトポジションをDに切り替えます。
   ➔ シフトスイッチの操作（P.117）
3. ブレーキペダルを右足でしっかりと踏んだまま、パーキングブレーキを解除します。
   ➔ 電動パーキングブレーキの解除のしかた（P.118）
4. ブレーキペダルを徐々に緩め、アクセルペダルをゆっくり踏み発進します。

- 急な上り坂で発進するときは、ヒルスタートアシスト（➔ P.142）が作動します。

走行するときの注意事項

警告

- **走行中はシフトポジションをNに切り替えない。**

  回生ブレーキが作動しないため、事故につながるおそれがあります。
- **下り坂ではフットブレーキと回生ブレーキを併用する。**

  ブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキが過熱して効きが悪くなるおそれがあり危険です。坂の勾配に応じて回生ブレーキを併用してください。
- **回生ブレーキの効きが弱くなった場合は、ブレーキペダルを踏んで減速する。**
- **坂道で駐停車するときは、ブレーキを踏んで車両を停止させる。**

  ブレーキを踏まずにアクセルペダル操作のみで車両を停止させ続けると、走行用モーターが過熱するおそれがあります。停車時にはアクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

アドバイス

- 上り坂では、クリープ現象を利用した停車や、アクセルペダルを踏みながら停車状態を保つような停車はしないでください。車両故障のおそれがあります。
- 上り坂でシフトポジションをDまたはBのまま故意に車両を後退させたり、下り坂でRのまま故意に車両を前進させたりしないでください。車両故障のおそれがあります。
- 冠水路など深い水たまりは無理に走行しないでください。エンジン破損や車両故障につながるおそれがあります。
- 浸水・冠水被害に遭われた場合は、車両故障につながるおそれがあるため、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。

走行のしかた

- シフトポジションをDにしたまま走行します。アクセルペダルとブレーキペダルの操作で、加速、減速を行います。
- 下り坂では、回生ブレーキ（➔ P.14）を併用して走行します。シフトポジションがDのときよりBの方が、回生ブレーキの効きが強くなります。速度が出すぎるときは、必要に応じてブレーキペダルを踏んで減速してください。
- 回生ブレーキは、長い下り坂でリチウムイオンバッテリーが満充電になった場合や低温時、滑りやすい路面ではブレーキの効きが弱くなることがあります。

- リチウムイオンバッテリーが満充電になった場合は、回生で発電した電力を、発電用モーターでエンジンを作動させることで消費させます。その際にエンジン音が大きくなる場合がありますが、異常ではありません。
- 走行中に<シフトスイッチ>の<P>スイッチを押した場合は、操作が無効となります。（ブザーが鳴り、操作前のシフトポジションが維持されます）

停車・駐車

停車・駐車の注意事項

⚠ 警告

- **駐車するときは、ガスライターなどに注意する。**

  操作部が露出しているガスライターをグローブボックスなどの小物入れに入れておいたり、床やシートのすき間に落としたままにしたりしないでください。荷物を押しこんだときやシートを動かしたときに、ガスが噴出して火災につながるおそれがあります。また、ライターを使用したあと、すぐに収納すると火災を起こすおそれがあります。

- **停車中の空ぶかしはしない。**

  万一、シフトポジションがP、N以外に入っていると急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

  停車後に再発進するときは、シフトポジションの位置を目で確認してください。

- **換気の悪い場所では、e-POWERシステムを作動したままにしない。**

  排気ガスが車両周辺に滞留したり、車室内に侵入したりすることで、一酸化炭素中毒になるおそれがあります。一酸化炭素を吸い込むと、意識が薄れて事故につながるおそれがあるほか、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。

- **車から離れるときは、必ずシフトポジションをPにして、e-POWERシステムを停止する。**

  e-POWERシステムが作動したままで、シフトポジションがP、N以外だと、クリープ現象で車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込むと急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **枯れ草、紙、木材、油など燃えやすい物の上や近くには駐停車しない。**

  排気管や排気ガスは高温になるため着火するおそれがあり危険です。

- **長期間車両を駐車していると、小動物が巣を作り、思わぬ火災につながる可能性があるため注意する。**

アドバイス

- 炎天下で駐車するときは、車室内にライターや炭酸飲料の缶、サングラス、カメラなどを置いたままにしないでください。車室内が高温になり、爆発したり変形したりするおそれがあります。
- 駆動系の部品が故障するおそれがあるため、次のことを必ずお守りください。
  - 坂道で駐停車するときは、車両が完全に停止したら先に電動パーキングブレーキをかけ、その後シフトポジションをPに切り替える
  - シフトポジションをPに切り替えるときは、車両が完全に停止していることを必ず確認する

停車・駐車のしかた

1. 停車するときは、シフトポジションはDまたはBのまま、ブレーキペダルをしっかりと踏みます。
2. そのまま駐車するときは、ブレーキペダルを踏んだままパーキングブレーキをかけます。

   ➔ 電動パーキングブレーキのかけかた（P.118）
3. ブレーキペダルを踏んだまま<シフトスイッチ>の<P>スイッチを押し、シフトポジションをPに切り替えます。

4. ＜パワースイッチ＞を押します。
メーター内の走行可能表示灯［READY］が消灯していることを確認してから、ブレーキペダルからゆっくりと足を離します。

ライトスイッチ

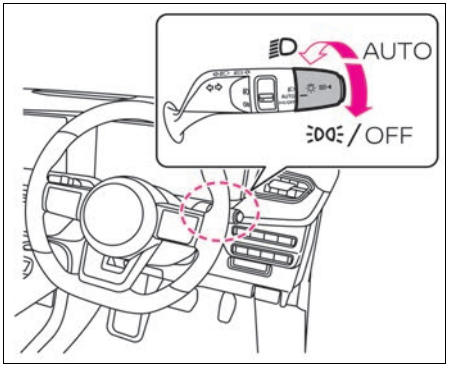
ライトスイッチの注意事項

アドバイス

- 走行可能表示灯［READY］が消灯時に長時間点灯させないでください。12Vバッテリーあがりのおそれがあります。

ライトスイッチの使いかた

スイッチを回すと、次のように点灯、消灯します。



スイッチ位置	点灯するランプ
＜ ＞	ヘッドランプ、車幅灯、尾灯、番号灯が点灯します。
＜AUTO＞	ヘッドランプ、車幅灯、尾灯、番号灯、デイタイムランニングランプが自動点灯・消灯します。
＜/OFF＞（＜/OFF＞の位置にしても手を離すと自動で＜AUTO＞の位置に戻ります）	**ヘッドランプ、車幅灯、尾灯、番号灯が自動点灯しているとき** 停車時に＜/OFF＞の位置に回して保持すると、車幅灯、尾灯、番号灯が点灯します。走行を開始すると周囲の明るさに応じて、ヘッドランプが自動点灯します。 **ヘッドランプ、車幅灯、尾灯、番号灯が消灯しているとき** ＜/OFF＞位置に回して保持すると、ヘッドランプ、車幅灯、尾灯、番号灯が点灯します。 **車幅灯、尾灯、番号灯が点灯しているとき** 停車して、ヘッドランプ消灯時にシフトポジションがPのときまたはパーキングブレーキが作動しているとき＜/OFF＞の位置に回して保持すると、全ランプが消灯します。走行を開始すると周囲の明るさに応じて、ランプが自動点灯します。

- 車幅灯、尾灯、番号灯が点灯しているときはテールランプ表示灯［］が点灯します。
- ライトスイッチを回すと、アドバンスドドライブアシストディスプレイにライトモードガイダンスが表示されます。
- ロービームが点灯しているときはヘッドランプ下向き表示灯［］が点灯します。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［］⇒［画面カスタマイズ］⇒［オペレーションガイダンス］⇒［ライト］を選択すると、ライトスイッチを動かしたときにメーターに表示する機能のON・OFFを切り替えることができます。
  設定の詳細については、画面カスタマイズ（P.57）をお読みください。
- 通常時は＜AUTO＞の位置で使用してください。

バッテリーセーバー

- ランプを点灯したまま＜パワースイッチ＞をOFFにすると、12Vバッテリーあがりを防止するためランプが消灯します。次回、次の操作を行うとランプが再点灯します。
  - ＜パワースイッチ＞をONにする
  - ライトスイッチを操作する（約5分後にランプは再度消灯します）

オートレベライザー★

- ヘッドランプが下向き点灯時に乗車人員や荷物量の違いにより車両姿勢が変化すると、自動的に照射方向を調整するシステムです。

ヘッドランプ消し忘れ警報

- ＜パワースイッチ＞がON以外の位置で運転席ドアを開けたとき、次の場合にブザーが鳴る場合があります。
  - ライトスイッチが＜ ＞の位置にあるとき
  - ライトスイッチを＜ ＞の位置に回して、テールランプ表示灯［ ］が点灯しているとき

デイタイムランニングランプ

- 周囲の車や歩行者などからの視認性を向上させます。
  - 走行可能表示灯［READY］が点灯時に、ライトスイッチが＜AUTO＞の位置でパーキングブレーキを解除すると車外の明るさに応じてデイタイムランニングランプが点灯します。
  - デイタイムランニングランプが点灯すると同時に尾灯も点灯します。
- 次の場合はデイタイムランニングランプが消灯します。
  - 周囲が暗いとき
  - 停車時にライトスイッチを＜ ＞の位置に回して保持したとき、または＜ ＞の位置にしたとき（デイタイムランニングランプが減光し車幅灯として点灯します）
  - デイタイムランニングランプの設定がOFFのとき
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ］⇒［車両設定］⇒［ライト/照明］⇒［デイタイムランニングランプ］を選択すると、デイタイムランニングランプのON・OFFを切り替えることができます。設定の詳細については、車両設定（➔P.57）をお読みください。

＜ ＞の使いかた

- ライトスイッチを＜ ＞の位置に合わせるとヘッドランプ、車幅灯、尾灯、番号灯が点灯します。

AUTO（自動点灯・消灯）の使いかた

- ＜パワースイッチ＞がOFFのときは消灯します。
- ＜パワースイッチ＞がONのときは次のように作動します。

周囲が明るいとき

- 停車中、走行中ともにデイタイムランニングランプ、尾灯が自動点灯します。

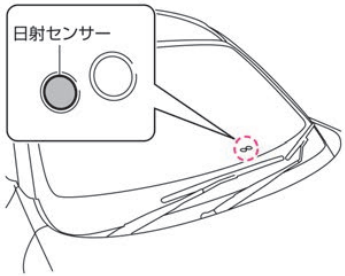
周囲が暗いとき

- 停車中、走行中ともにヘッドランプ、車幅灯、尾灯、番号灯が自動点灯します。

■ フロントワイパー連動、薄暮れ感知「おもいやりライト」機能

- 歩行者事故が多く発生している夕暮れ時や雨天でのワイパー使用時にもランプを自動点灯します。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ］⇒［車両設定］⇒［ライト/照明］⇒［オートライト感度調整］を選択すると、インテリジェントオートライトシステム（フロントワイパー連動、薄暮れ感知「おもいやりライト」機能付）の感度調整ができます。設定の詳細については、車両設定（➔P.57）をお読みください。

アドバイス



- センサーの上に物を置いたり、ガラスクリーナーなどを吹きかけないでください。センサーの感度が低下し、正常に作動しなくなります。

＜ ＞の使いかた

ヘッドランプ、車幅灯、尾灯、番号灯が自動点灯しているとき（周囲が暗いとき、ワイパーが作動しているとき）

- 停車時に＜ ＞の位置に回して保持すると、車幅灯、尾灯、番号灯のみが点灯します。
- ＜ ＞位置に回してすぐに手を放した場合は、ヘッドランプを消灯できません。
- 走行中にライトスイッチを＜ ＞の位置に回して保持してもヘッドランプを消灯できません。

ヘッドランプ、車幅灯、尾灯、番号灯が消灯しているとき（周囲が明るいとき、パワースイッチがOFFのとき）

- ＜⊃OFF＞の位置に回して保持すると、車幅灯、尾灯、番号灯が点灯します。
- ＜⊃OFF＞の位置に回してすぐに手を放した場合は、車幅灯、尾灯、番号灯を点灯できません。

車幅灯、尾灯、番号灯が点灯しているとき

- 停車して、シフトポジションがPのとき、またはパーキングブレーキが作動しているとき、＜⊃OFF＞の位置に回して保持すると、全ランプが消灯します。
  ＜⊃OFF＞の位置に回してすぐに手を放した場合は、全ランプを消灯できません。
- 走行を開始すると周囲の明るさ、ワイパー作動に応じて、ヘッドランプが自動点灯します。

知識

- 次の操作をすると、AUTO（自動点灯・消灯）に戻ります。
  - シフトポジションがP以外であり、パーキングブレーキが作動していないとき、再度ライトスイッチを＜⊃OFF＞の位置に回す
  - 停車して、シフトポジションがPのとき、またはパーキングブレーキが作動している場合は、全ランプを消灯させた後、再度ライトスイッチを＜⊃OFF＞の位置に回す
  - ＜ ≡D ＞の位置にしてから＜AUTO＞（自動点灯・消灯）の位置にする

自動点灯ランプの消灯のしかた（車両停車時）

- 自動点灯したヘッドランプは走行中に消灯できない仕様となっています。

ヘッドランプの消灯方法

- 停車中、ライトスイッチを＜⊃OFF＞の位置に回して保持すると、ヘッドランプが消灯します。

すべてのランプの消灯方法

- 停車中にライトスイッチを＜⊃OFF＞の位置に回して保持して、ヘッドランプを消灯させた後、シフトポジションをPにするか、パーキングブレーキをかけた状態で、再度ライトスイッチを＜⊃OFF＞の位置に回して保持するとすべてのランプが消灯します。

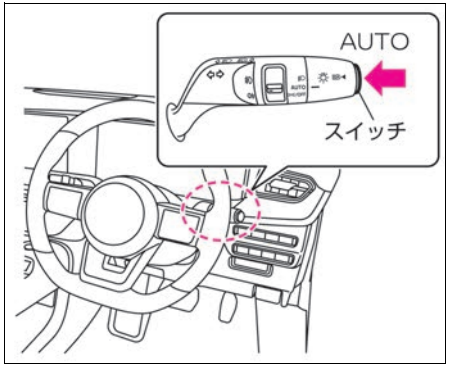
ハイビームアシスト★

先行車または対向車や周囲の明るさなどに応じ、ハイビーム（上向き）とロービーム（下向き）が切り替わります。

約25km/h以上で走行中、ヘッドランプが点灯しているときに切り替えを行い、約15km/h以下になるとロービーム（下向き）に切り替わります。

ハイビームアシストの操作方法

- ライトスイッチが＜AUTO＞の位置でヘッドランプが点灯しているときにスイッチを押すと、ハイビームアシストがONになります。（ハイビームアシスト表示灯［≡Ⓐ］が点灯）
- ライトスイッチが＜AUTO＞の位置でもう一度スイッチを押すと、ハイビームアシストがOFFになります。



- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［画面カスタマイズ］⇒［オペレーションガイダンス］⇒［ハイビームアシスト］を選択すると、ライトスイッチが＜AUTO＞の位置以外でハイビームアシストのスイッチを押したときに、ガイダンスをメーター内にポップアップで表示する機能のON・OFFを切り替えることができます。
  設定の詳細については、画面カスタマイズ（➔P.57）をお読みください。

アドバイス

- ハイビームアシストが正しく作動しなかったり、作動中にメーターにハイビームアシスト表示灯［Ⓐ］が点灯しなかったりしたときは、ハイビームアシストが故障しているおそれがあります。日産販売会社で点検を受けてください。

➔ ハイビームアシスト表示灯★ (P.49)

知識

- 次のいずれかの操作をしても、ハイビームアシストがOFFになります。

ハイビームのとき

— ライトスイッチを< >の位置にする

— ライトスイッチを車両前方に押す（ハイビームに切り替わります）

— ライトスイッチを車両後方に引く（ロービームに切り替わります）

ロービームのとき

— ライトスイッチを< >の位置にする

— ライトスイッチを車両前方に押す（ハイビームに切り替わります）

■ ハイビームとロービームの切り替え制御

- 次のような原因で、ハイビームとロービームの切り替わるタイミングが変化することがあります。
  — 対向車または先行車のランプの明るさ
  — 対向車または先行車の向きや動き
  — 対向車または先行車のランプが片側のみ点灯している
  — 対向車または先行車が二輪車
  — 道路状況（カーブや勾配、路面状況など）
  — 乗車している人数や荷物の量
- ハイビームアシストがONでハイビームのとき、ヘッドランプ上向き表示灯［ ］が点灯します。

➔ ヘッドランプ上向き表示灯 (P.49)

■ マルチセンシングフロントカメラについて

- フロントガラス上部に、ハイビームアシストの制御に必要な周囲の状況を感知するためのカメラがあります。
- ハイビームアシストを正しく作動させるため、次のことをお守りください。
  — フロントガラスが汚れたら清掃してください。
  — カメラの周辺にアクセサリーやステッカーなどを取り付けないでください。
  — カメラのレンズには触れないでください。
  — カメラおよびその周囲に強い衝撃を与えないでください。

➔ マルチセンシングフロントカメラの取り扱い (P.308)

ハイビームアシスト★の注意事項

警告

- **システムを過信しない。**

  常に周囲の状況を確認し、必要に応じて上向きと下向きを手動で切り替えてください。

- **次のようなときは、ハイビームアシストが正しく作動しない場合があるため、必要に応じて上向きと下向きを手動で切り替える。**
  — 悪天候のとき（雨、霧、雪など）
  — 薄暗い早朝や夕暮れなどの暗さが不十分なとき
  — カメラ前方のフロントガラスがくもっていたり、汚れなどが付着したりしているとき
  — カメラの向きがずれているとき
  — 周囲にヘッドランプや尾灯に似た光源があるとき
  — 対向車または先行車が無灯火のとき
  — 対向車のヘッドランプが破損または汚れていたり、光軸がずれているとき
  — 自転車やバイクなど、ライトの明るさや大きさが十分でないとき

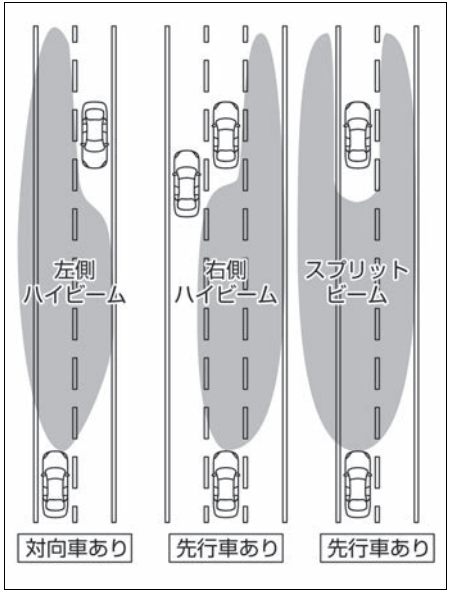
⚠ 警告

- 歩行者など光を発しないもののとき
- 明るさの急激な変化が連続しているとき
- 段差や起伏のある道路を走行しているとき
- カーブが多い道路を走行しているとき
- ミラーや標識など反射の強いものが前方にあるとき
- トレーラーやコンテナなど先行車の後部の反射が強いとき
- パンクやけん引などで車両が傾いているとき

アダプティブLEDヘッドライトシステム★

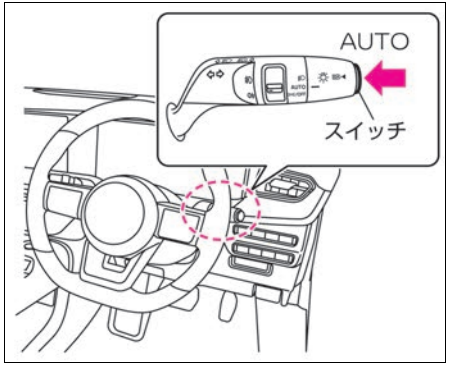
先行車や対向車に照射しないよう、自動的にハイビーム（上向き）の照射範囲を切り替えます。

約25km/h以上で走行中、ヘッドランプが点灯しているときに切り替えを行い、約15km/h以下になるとロービーム（下向き）に切り替わります。



■ アダプティブLEDヘッドライトシステムの操作方法

- ライトスイッチが＜AUTO＞の位置でヘッドランプが点灯しているときにスイッチを押すと、アダプティブLEDヘッドライトシステムがONになります。（アダプティブLEDヘッドライト表示灯［ⅠⒶ］が点灯）
- ライトスイッチが＜AUTO＞の位置でもう一度スイッチを押すと、アダプティブLEDヘッドライトシステムがOFFになります。



- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［画面カスタマイズ］⇒［オペレーションガイダンス］⇒［アダプティブヘッドライト］を選択すると、ライトスイッチが＜AUTO＞の位置以外でアダプティブLEDヘッドライトシステムのスイッチを押したときに、オペレーションガイダンスをメーター内にポップアップで表示する機能のON・OFFを切り替えることができます。
設定の詳細については、画面カスタマイズ（➔P.57）をお読みください。

知識

- 次のいずれかの操作をしても、アダプティブLEDヘッドライトシステムがOFFになります。

知識

アダプティブLEDヘッドライトシステムが制御中のとき

— ライトスイッチを< >の位置にする

— ライトスイッチを車両前方に押す（ハイビームに切り替わります）

— ライトスイッチを車両後方に引く（ロービームに切り替わります）

アダプティブLEDヘッドライトシステムが制御していないとき

— ライトスイッチを< >の位置にする

— ライトスイッチを車両前方に押す（ハイビームに切り替わります）

アダプティブLEDヘッドライトシステム★の注意事項

警告

- **システムを過信しない。**

  常に周囲の状況を確認し、必要に応じて上向きと下向きを手動で切り替えてください。

- **次のようなときは、アダプティブLEDヘッドライトシステムが正しく作動しない場合があるため、必要に応じて上向きと下向きを手動で切り替える。**

  — 悪天候のとき（雨、霧、雪など）

  — 薄暗い早朝や夕暮れなどの暗さが不十分なとき

  — カメラ前方のフロントガラスがくもっていたり、汚れなどが付着したりしているとき

  — カメラの向きがずれているとき

  — 周囲にヘッドランプや尾灯に似た光源があるとき

  — 対向車または先行車が無灯火のとき

  — 対向車のヘッドランプが破損または汚れていたり、光軸がずれているとき

  — 自転車やバイクなど、ライトの明るさや大きさが十分でないとき

  — 歩行者など光を発しないもののとき

  — 明るさの急激な変化が連続しているとき

  — 段差や起伏のある道路を走行しているとき

  — カーブが多い道路を走行しているとき

  — ミラーや標識など反射の強いものが前方にあるとき

  — トレーラーやコンテナなど先行車の後部の反射が強いとき

  — パンクやけん引などで車両が傾いているとき

アドバイス

- アダプティブLEDヘッドライトシステムが正しく作動しなかったり、作動中にメーター内にアダプティブLEDヘッドライト表示灯［ ］が点灯しなかったりしたときは、アダプティブLEDヘッドライトシステムが故障しているおそれがあります。日産販売会社で点検を受けてください。

  アダプティブLEDヘッドライト 表示灯★（P.49）

- システムを正しく作動させるためにカメラ前方のフロントガラスはいつもきれいにしておいてください。マルチセンシングフロントカメラの取り扱いについては、（P.308）をお読みください。

照射範囲切り替え制御★

- 次のような原因で、照射範囲の切り替わるタイミングが変化することがあります。
  — 対向車または先行車のランプの明るさ
  — 対向車または先行車の向きや動き
  — 対向車または先行車のランプが片側のみ点灯している
  — 対向車または先行車が二輪車
  — 道路状況（カーブや勾配、路面状況など）
  — 乗車している人数や荷物の量
- 対向車または先行車を検知し、照射範囲を切り替えているときにも、ヘッドランプ上向き表示灯［ ］が点灯することが

あります。（ハイビームの一部が点灯しているため）

➔ ヘッドランプ上向き表示灯（P.49）

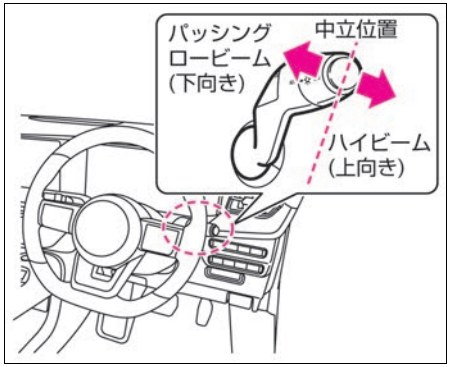
ハイビーム（上向き）への切り替えかた

ライトスイッチが＜ ＞の位置のとき

- ライトスイッチを車両前方に押すと、ハイビームに切り替わります。ロービームに戻したいときは、ライトスイッチを車両前方、または後方に動かします。
- パッシングするときは、ライトスイッチを車両後方に引きます。ハイビームの状態からパッシングしたいときは、ライトスイッチを2回車両後方に引きます。

ライトスイッチが＜AUTO＞の位置のとき

- ヘッドランプが点灯しているとき、ライトスイッチを車両前方に押すとハイビームに切り替わります。
- ロービームに戻したいときは、ライトスイッチを車両前方、または後方に動かします。
- パッシングするときは、ライトスイッチを車両後方に引きます。ハイビームの状態からパッシングしたいときは、ライトスイッチを2回車両後方に引きます。
- ハイビームに切り替えているときは、ヘッドランプ上向き表示灯［ ］が点灯します。
- ハイビームアシスト★またはアダプティブLEDヘッドライトシステム★がONのとき、ライトスイッチを車両前方に押すと、ハイビームに切り替わります。
- ライトスイッチは車両前方に押しても車両後方に引いても、手を離すと自動で中立位置に戻ります。

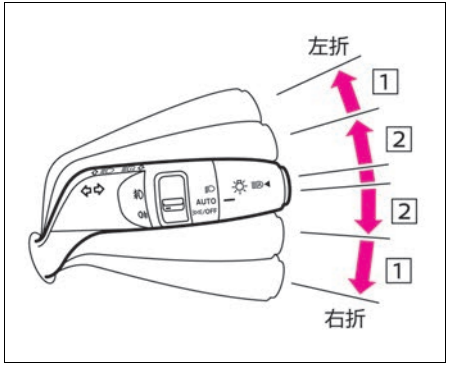


アドバイス

- 対向車があるときや市街地走行などでは下向きにしてください。

方向指示器の使いかた

- ＜パワースイッチ＞がONのとき使えます。
- 右折または左折するときは、ライトスイッチを1の位置まで動かします。
- 車線変更などのときは、ライトスイッチを2の位置まで動かし軽く押さえます。スイッチを押さえている間、方向指示器が点滅します。
  また、スイッチ2の位置まで上または下に押さえたあと、すぐに手を離したときは3回点滅し消灯します。（コンフォートフラッシャー機能）



アドバイス

- 方向指示器のランプと方向指示表示灯の点滅が速くなったときは、日産販売会社で点検を受けてください。

その他の機能について

- 夜間など周囲が暗い場所で車から降りるときに、以下の操作を行うと、ヘッドランプが周囲を照らします。
  - パワースイッチがON以外のとき、ライトスイッチを車両後方に1回引くと、ヘッドランプが約30秒間点灯したあと、消灯します。

■ ウェルカムライト機能（フェアウェル機能付）

- ドアの施錠・解錠時に、車幅灯、尾灯、番号灯が点灯します。（施錠時約10秒、解錠時約30秒）

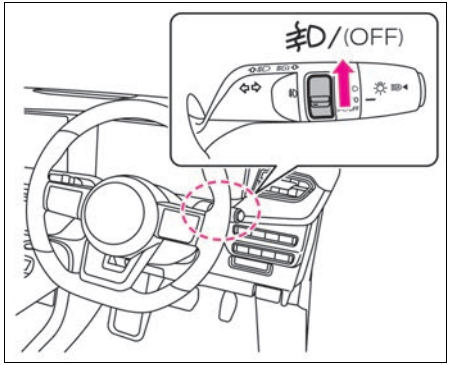
- ドアが施錠された状態でキー（インテリジェントキー）を携帯して車両に近づいたり、離れたりしたときも車幅灯、尾灯、番号灯が点灯します。（ドアを解錠せず、複数回近づいたり離れたりした場合、誤作動防止のため点灯しない場合があります。）
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［車両設定］⇒［ライト/照明］⇒［ウエルカムヘッドライト］を選択すると、ウェルカムライト機能（フェアウェル機能付）の設定を変更することができます。
  設定の詳細については、車両設定（➔P.57）をお読みください。

フォグランプスイッチ★

雨、霧、雪などで視界が悪いとき、ヘッドランプや尾灯の補助として使用します。

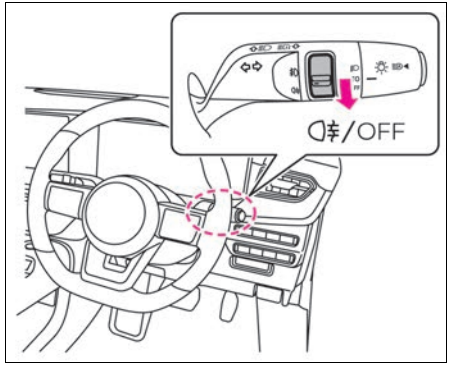
フォグランプの使いかた

- ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。
- スイッチを< ≢D >の位置に合わせます。（リヤフォグランプ付車は、スイッチから手を離すと自動的に中立位置に戻ります）
- 消灯するときは、スイッチを元の位置に戻します。（リヤフォグランプ付車は、再度操作します）
- フォグランプが点灯しているときは、フォグランプ表示灯［ ≢D ］が点灯します。



リヤフォグランプ★の使いかた

- ヘッドランプまたはフォグランプが点灯しているときに使用できます。
- スイッチを< ◯≢ >の位置に合わせます。（スイッチから手を離すと自動的に中立位置に戻ります）
- 消灯するときは、スイッチを再度操作します。
- リヤフォグランプが点灯しているときは、リヤフォグランプ表示灯［ ◯≢ ］が点灯します。



アドバイス

- 降雪時には雪が積もる場合があるため、こまめにリヤフォグランプの雪を取り除いてください。

リヤフォグランプ★の注意事項

⚠ 警告

- **晴天時は使用しない。**
  後続車の視界を悪くするおそれがあります。

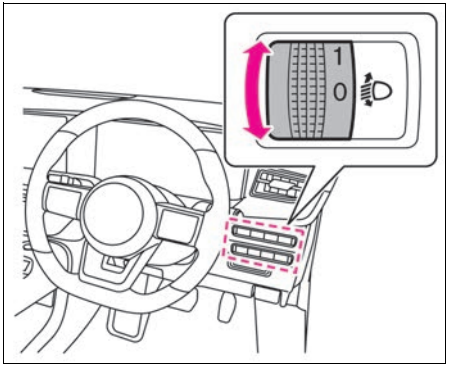
ヘッドランプレベライザースイッチ★

ヘッドランプの照らす方向（光軸）を調節します。乗員の人数や荷物の重さなどに応じ、調節してください。

ヘッドランプレベライザースイッチの使いかた

ヘッドランプが下向きのとき、ダイヤルを回して調節します。

- 通常は、ダイヤルが0の位置で使います。
- ダイヤルを大きな数字の方へ回すほど、照らす方向は下向きになります。



アドバイス

- 乗車人員や荷物量の違いにより、ヘッドランプが上側を照らすときや、アップダウンの多い山道などで、前を走行する車のミラーや対向車のフロントガラスを照らすようなときは、照らす向きを下側に調節してください。

■ ダイヤル位置の目安

次の表を目安に、乗員の人数や荷物の量に応じてダイヤル位置を選択してください。

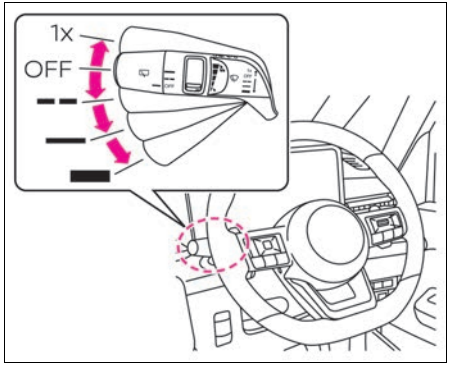
スイッチ位置	前席シート乗員数	後席シート乗員数	ラゲッジルームの積載重量
0	1	0	—
	2	0	—
1	2	3	—
2	2	3	100kg
3	1	0	319kg

ワイパー・ウォッシャースイッチ

<パワースイッチ>がONのとき使用できます。

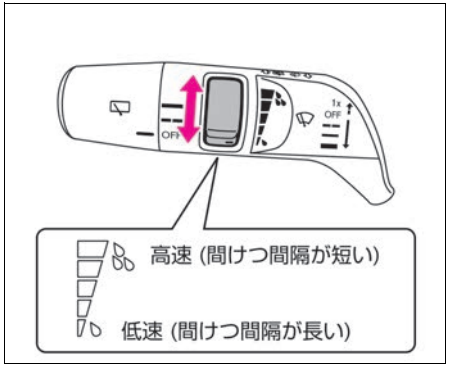
フロントワイパーの使いかた

- スイッチを動かすと、次のように作動します。



スイッチ位置	作動
<1x>	スイッチを上げている間作動します。 手を離すと自動的にOFFに戻ります。
<OFF>	停止します。
<-->	間けつで作動します。 スイッチを回し、ワイパーの間けつ時間を調節します。
<—>	低速で連続して作動します。
<▬>	高速で連続して作動します。

- スイッチを操作するとメーターにスイッチ位置が表示されます。
- 間けつ作動の間隔は、車速が速くなると短くなる車速感知式です。

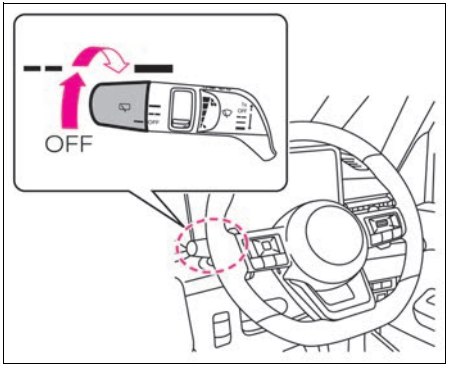


●インテリジェント オートライトシステム（フロントワイパー連動、薄暮れ感知「おもいやりライト」機能付）は、ライトスイッチが＜AUTO＞の位置のときにワイパーが数回作動すると、車外の明るさに関係なくヘッドランプが点灯します。
➔AUTO（自動点灯・消灯）の使いかた（P.126）

●アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［画面カスタマイズ］⇒［オペレーションガイダンス］⇒［ワイパー］⇒［フロント］を選択すると、ワイパースイッチを動かしたときにメーターに表示する機能のON・OFFを切り替えることができます。
設定の詳細については、画面カスタマイズ（➔P.57）をお読みください。

リヤワイパーの使いかた

スイッチを回すと、次のように作動します。



スイッチ位置	作動
＜OFF＞	停止します。
＜ ▬▬ ＞	間けつで作動します。
＜ ▬ ＞	低速で連続して作動します。

●アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［画面カスタマイズ］⇒［オペレーションガイダンス］⇒［ワイパー］⇒［リア］を選択すると、ワイパースイッチを動かしたときにメーターに表示する機能のON・OFFを切り替えることができます。
設定の詳細については、画面カスタマイズ（➔P.57）をお読みください。

■ リバース連動機能

●フロントワイパー作動中にシフトポジションをRに切り替えると、リヤワイパーが作動します。

●アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［車両設定］⇒［ワイパー］⇒［リバース連動］を選択すると、リバース連動機能のON・OFFを切り替えることができます。
設定の詳細については、車両設定（➔P.57）をお読みください。

ウォッシャーの使いかた

■ フロントウォッシャー

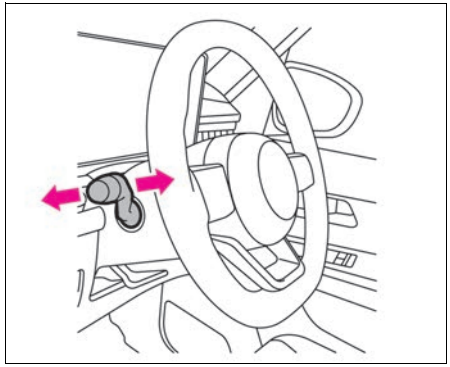
●スイッチを手前に引くと、ウォッシャー液が噴射します。

●スイッチを引いている間はウォッシャー液の噴射とワイパーの作動が続き、レバーを離すとワイパーが数回作動してから停止します。

■ リヤウォッシャー

●スイッチを車両前方に押すと、ウォッシャー液が噴射します。

●スイッチを押している間はウォッシャー液の噴射とワイパーの作動が続き、レバーを離すとワイパーが数回作動してから停止します。



■ ドリップ拭き取り機能

●ウォッシャースイッチを操作したあと、ガラスに残ったウォッシャー液をふき取るため、約3秒後に一度ワイパーが作動します。

●アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［車両設定］⇒［ワイパー］⇒［ドリップ拭き取り］を選

択すると、ドリップ拭き取り機能のON・OFFを切り替えることができます。
設定の詳細については、車両設定（➔P.57）をお読みください。

ワイパー・ウォッシャーを使うときの注意事項

警告

- **寒冷時は、ウォッシャー液を噴射する前に、ヒーターでガラスを温める。また、ウォッシャー液は外気温に合わせた希釈割合にする。**

  寒冷時は、ガラスに吹きつけられたウォッシャー液が凍結し、視界を妨げ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- 雪が降りそうなときや降雪時にはワイパーアームを起こしておいてください。ワイパーに雪が積もり、破損するおそれがあります。
- ワイパー作動中、雪などの障害物によりワイパーが作動できなくなると、モーター保護のためにワイパーの作動が停止することがあります。その場合は、スイッチを<OFF>にして障害物を取り除いたあと、モーターが冷えるまで（約1分間）待ってから、再度スイッチを操作してください。ワイパーが作動を開始します。
- 凍結などでワイパーゴムがガラスに張り付いているときは、ワイパーを作動させないでください。ワイパーが損傷したり、モーターが故障したりするおそれがあります。
- 窓ガラスが乾いているときは、ウォッシャー液を噴射してからワイパーをご使用ください。ガラスが乾いた状態でワイパーを使用すると、ガラスやブレード（ゴム部）を傷つけるおそれがあります。
- ウォッシャー液が出ないときは、連続して30秒以上作動させないでください。モーターが故障する原因となります。
- ウォッシャー液を補給しても液が出ないときは、日産販売会社にご相談ください。

ドライブモードセレクター

複数のドライブモードがあります。目的に応じて使い分けてください。

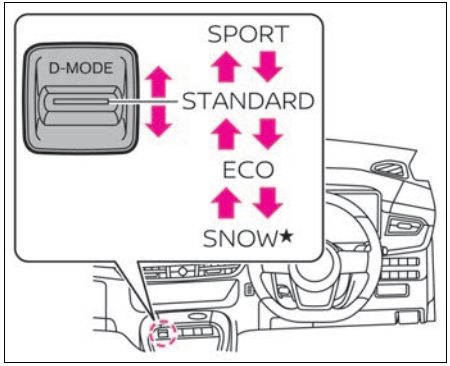
ドライブモードセレクターの注意事項

⚠ 注意

- **走行中に＜ドライブモードセレクター＞や画面を注視しない。**
  前方不注意となり思わぬ事故につながるおそれがあります。

モードの切り替えかた

- ＜パワースイッチ＞がONのとき、＜ドライブモードセレクター＞を操作すると、選択可能なドライブモードがアドバンスドドライブアシストディスプレイに表示されます。
- モードの設定は、＜パワースイッチ＞をOFFにしても、再度設定を変更するまで、その状態が維持されます。



アドバイス

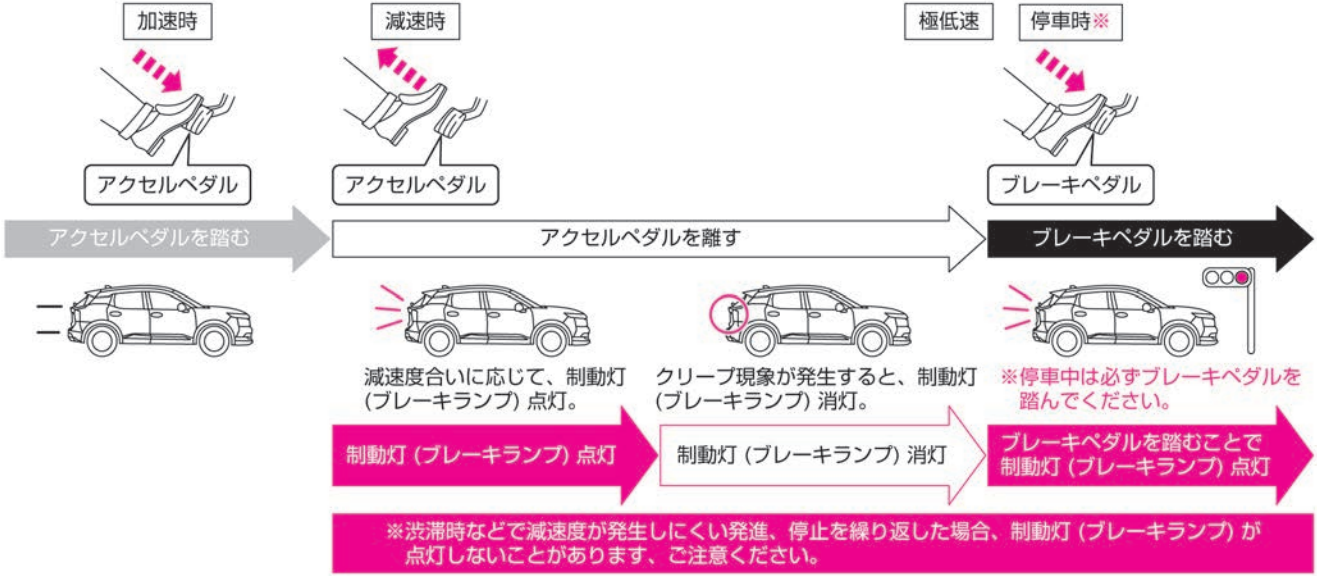
- ＜ドライブモードセレクター＞を操作してもモードが切り替わらない場合は、システムの異常が考えられます。日産販売会社で点検を受けてください。

ドライブモードについて

ドライブモード	特徴
SPORT	**より力強いスポーティな走行に適するモード** ● STANDARDよりもアクセル操作に対する駆動レスポンスが良く、高い加速性能を実現 ● 回生ブレーキを強めることで、アクセル操作に対する加減速コントロール性を向上
STANDARD	**スムーズな加速と燃費を両立するバランスの取れたモード** ● モーター駆動特有のレスポンスよくスムーズな加速と自然な減速によりストレスフリーな走行を実現
ECO	**燃費の向上を重視するモード** ● アクセル操作に対する駆動レスポンスを穏やかにすることで必要以上の加速を抑制 ● 回生ブレーキを強めることで多くのエネルギーを回収して省エネルギーを実現
SNOW★	**雪道や凍結路面での安心走行をサポートするモード** ● モーターのきめ細やかな制御により、滑りやすい路面での発進や走行を容易にする ● 回生ブレーキを強めることで滑り易い路面でブレーキ操作を減らし、緻密なモーター制御によりスリップを抑えて、安定して車両が減速することをサポートする

アクセルOFF時の制動灯（ブレーキランプ）について

アクセルペダルを離した際、発生する減速度合いに応じて制動灯（ブレーキランプ）を点灯させて、極低速でクリープ現象が発生すると消灯します。停車するときはブレーキペダルを踏むことで、制動灯（ブレーキランプ）が点灯します。



エコモード設定

●エコモード設定は、インテリジェント クルーズコントロール、またはエコン機能を燃費重視の設定に切り替える機能です。

●アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［エコ］⇒［エコモード設定］を選択すると、ドライブモードをECOにしたときの燃費重視機能のON・OFFを切り替えることができます。

設定の詳細については、エコ（➔P.57）をお読みください。

知識

● エコモード設定で［クルーズコントロール］をON（燃費優先）にすると、インテリジェント クルーズコントロールの加速度がOFF時に比べて穏やかになり、燃費向上を図ります。

● エコモード設定で［空調］をON（燃費優先）にすると、OFF時に比べて冷房／暖房の効きが弱まり、燃費向上を図ります。

● エコモード設定は、e-POWERシステムを停止しても再度設定を変更するまでその状態が維持されます。

● 次のような場合、エコモード設定で［空調］をON（燃費優先）にしていても、エアコン機能が優先となります。

— エアコンの温度設定をLoまたはHiにしたとき（18℃～32℃に設定すると燃費優先になります）

— ＜デフロスタースイッチ＞（➔P.100または➔P.103）をONにしたとき

e-4ORCE（4WD）車★の扱いかた

e-4ORCEは、前後2つのモーターと4輪のブレーキを瞬間的に統合制御するシステムです。

e-4ORCE（4WD）車は、滑りやすい路面などで優れた走行性能を発揮しますが、万能ではありません。e-4ORCE（4WD）車特有の取り扱いかたを十分理解し、正しい運転をしてください。

⚠ 警告

● **e-4ORCE（4WD）車は万能ではないため、走行するときは次のことを必ず守る。**

— 渡河などの水中走行はしない

— 砂地、ぬかるみなど、車輪が空転しやすいところでの連続走行はしない

— 脱輪などにより車輪が宙に浮いているときは、むやみに空転させない

走行するとき

●オフロード（不整地）走行やラリー走行用ではありません。

●運転操作は一般車と同様です。ハンドル、アクセルおよびブレーキペダルなどの操作は慎重に行い、安全運転を心がけてください。

●e-4ORCE（4WD）車は、2WD車に対し、制動距離が短くなるわけではありません。

タイヤについて

●タイヤの交換は4輪とも同時に行い必ず指定サイズで同一の銘柄、パターン（溝模様）のタイヤを装着してください。

●摩耗差が大きいものやサイズが異なるタイヤを装着すると車の性能を十分に発揮できなくなる場合があります。冬用タイヤも必ず4輪同じものを装着してください。タイヤ交換は日産販売会社にご相談ください。

走行のしかた

⚠ 警告

- **急加速や急ハンドル、急ブレーキなどはしない。**

  タイヤがスリップしたり、横滑りや尻振りなどをおこし、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 雪道など舗装路以外を走行するとき

- ドライブモードセレクターをSNOWに切り替えます。（e-4ORCE（4WD）車）
- 路面の状態に合わせ慎重に走行します。

エマージェンシーストップシグナル

エマージェンシーストップシグナルは、急ブレーキを踏んだとき、後続車に追突される可能性を低減させるため、制動灯を点滅させて後方へ急ブレーキを知らせます。

エマージェンシーストップシグナルについて

- 50km/h以上の速度で走行中、急ブレーキを踏むと作動します。
- 次の場合は作動が停止します。
  - ブレーキペダルから足を離したとき
  - ブレーキペダルを踏んでいても急ブレーキではなくなったとき
- ABS警告灯［(ABS)］（➔ P.263）が点灯しているときは、エマージェンシーストップシグナルが作動しない場合があります。

ABS（アンチロックブレーキシステム）

ABSとは、急ブレーキ時や滑りやすい路面でのブレーキ時に、タイヤのロックを防止して、車両の安定性を向上させるとともにハンドル操作による障害物回避をしやすくするシステムです。

ABSに関する注意事項

⚠ 警告

- **カーブの手前では十分に減速する。**

  ABSはあくまでも運転者のブレーキ操作を補助するシステムです。ABSの付いていない車両と同様に、カーブの手前では十分な減速が必要です。早めの操作で安全運転を心がけてください。

- **でこぼこ道、砂利道、積雪路などでは、特に速度を控え、車間距離を十分にとる。**

  ABSはブレーキ時の車両の安定性、操舵性を確保しようとするための装置で、制動距離が短くなるとは限りません。でこぼこ道、砂利道、積雪路などでは、ABSの付いていない車より制動距離が長くなることがあります。このような道を走行するときは、特に速度を抑え、車間距離を十分にとって運転してください。

- **タイヤ交換時は、必ず指定サイズのタイヤを4輪に装着する。**

  ABSは各車輪の回転速度をセンサーで検出しています。指定サイズ以外ではABSが正常に作動しなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ABSについて

急ブレーキを踏まなければいけないような状況に陥らないよう、安全運転を心がけることが大切です。万一の危険な状況では次のようにしてください。

- 危険だと感じたら、ためらわず思い切りブレーキペダルを踏み込んでください。
- ABSが作動すると、ブレーキペダルに振動が伝わったり、作動音が聞こえたりします。これはABSの正常な作動によるものです。そのままブレーキペダルを踏み続けてください。
- 障害物回避の際には、ブレーキペダルを踏みながらハンドル操作をしてください。
- ＜パワースイッチ＞をONにしたときや、e-POWERシステム始動後最初の発進時に、エンジンルーム内から音が聞こえることがありますが、これはシステムの作動をチェックしている音で異常ではありません。

なお、車両を確実に停車させるため、ABSは低速では作動しません。路面の状況により異なりますが約10km/h以下では作動しません。

VDC（ビークルダイナミクスコントロール）

VDCは、横滑りや駆動輪の空転を抑えて走行時の車両安定性を向上させるシステムです。

VDCの機能について

●VDCのシステムには次の機能があります。
— VDC機能：走行中の横滑り状態をセンサーで判別し、走行時の車両安定性を向上させる機能です。
— トラクションコントロール機能（TCS）：滑りやすい路面などで駆動輪が空転した場合、走行用モーターの出力を抑えることにより、駆動力およびハンドルの操作性を向上させる機能です。
— ブレーキLSD機能：滑りやすい路面などで駆動輪が空転した場合、空転している駆動輪にブレーキをかけることにより、もう一輪の駆動力を確保する機能です。
— ABS機能：ABS（➔P.139）

●VDC作動時は、ブレーキの作動により音や振動を発生する場合がありますが異常ではありません。

VDCの作動について

●VDCの作動と警告灯
— VDCが作動しているときは、VDC警告灯［ ］が点滅します。
— トラクションコントロール機能のみが作動しているときもVDC警告灯［ ］が点滅します。VDC警告灯が点滅したときは、車両が滑りやすい状態になっていますので特に慎重に運転してください。

●次の場合、VDC警告灯［ ］が点灯することがあります。一度<パワースイッチ>をOFFにし、再度ONにするとVDC警告灯は消灯します。
— 駐車場の入り口などにあるターンテーブルや動く物の上に車があるとき
— 極端に傾いた特殊な路面（サーキット路に見られるバンクなど）を走行したとき

VDCに関する注意事項

⚠ 警告

● **滑りやすい路面やカーブの手前では速度を落とす。**
この装置は車両の走行安定性を向上させるもので事故を防止するものではありません。VDCの作動にも限界があるため、滑りやすい路面やカーブの手前では、特に速度を落とし安全運転を心がけてください。

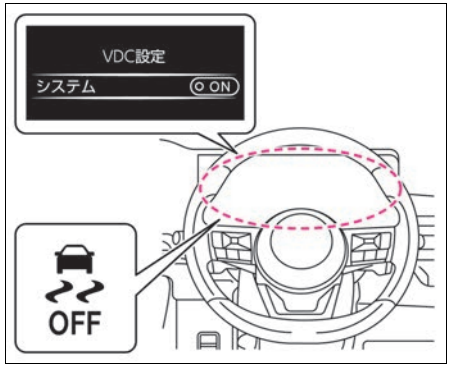
● **次の場合、VDC警告灯［ ］が点灯し正常に作動しないことがあるため注意する。**
— サスペンション、タイヤ、ブレーキなどを純正品以外に交換したり、改造したとき
— サスペンション、タイヤ、ブレーキなどの関係部品が著しく摩耗および劣化した状態で走行したとき

● **VDC付車でも雪道などでは冬用タイヤやタイヤチェーンを装着する。**

VDCのON・OFFのしかた

■ VDC OFFスイッチ無車

●アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ］⇒［VDC設定］⇒［システム］を選択すると、VDC機能のON・OFFを切り替えることができます。設定の詳細については、VDC設定（➔P.57）をお読みください。



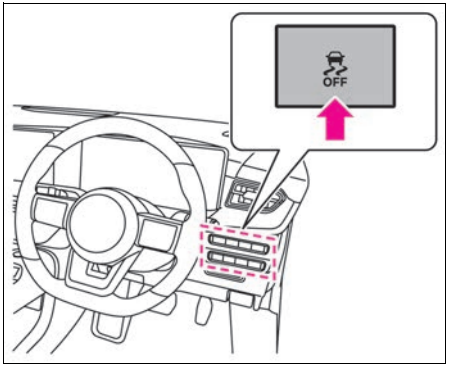
●VDC機能をOFFに切り替えると、VDCが停止し、VDC OFF表示灯［ ］が点灯します。

●再度、VDCを使用（ON）するときは、もう一度アドバンスドドライブアシスト

ディスプレイでVDC機能をONに切り替えます。VDC OFF表示灯［ ］が消灯し、VDCがON になります。

■ **VDC OFFスイッチ付車**

● VDC OFFスイッチを長押し（約2秒）すると、VDCが停止し、VDC OFF表示灯［ ］が点灯します。



● 再度、VDCを使用（ON）するときは、もう一度VDC OFFスイッチを単押しします。VDC OFF表示灯［ ］が消灯し、VDCがON になります。

● VDCが作動しているときは、ぬかるみや雪道から脱出するときに、スリップ状態を検知するため、アクセルペダルを踏み込んでもタイヤの回転数が上がらないことがあります。タイヤの回転数を上げたいときはアドバンスドドライブアシストディスプレイまたはVDC OFFスイッチでVDCを停止してください。

● VDC機能をOFFにすると、VDCのすべての機能と、次の機能が停止します。（ABS機能およびブレーキLSD機能を除く）
  — プロパイロット（➔P.150）
  — インテリジェント エマージェンシーブレーキ（➔P.161）
  — 踏み間違い衝突防止アシスト（➔P.168）
  — インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）（➔P.181）
  — インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）（➔P.174）

● ＜パワースイッチ＞をONにするたびに、VDCは自動的にONになります。

● VDCが作動すると発進時や加速時に車体およびペダルにわずかな振動と作動音が発生しますが異常ではありません。

● ＜パワースイッチ＞をONにしたときや、e-POWERシステム始動後最初の発進時に、エンジンルーム内から音が聞こえることがありますが、これはシステムの作動をチェックしている音で異常ではありません。

シャシー制御

シャシー制御には、インテリジェント トレースコントロール（コーナリング安定性向上システム）があります。

⚠ 警告

● **インテリジェント トレースコントロール（コーナリング安定性向上システム）の機能を過信しない。**

インテリジェント トレースコントロール（コーナリング安定性向上システム）は、すべての走行環境において効果があるわけではないため、機能を過信せず安全運転を心がけてください。

アドバイス

● アドバンスドドライブアシストディスプレイに［シャシー制御システム故障］と警告が表示されたときは、故障により機能が正しく作動しないことがあります。警告が表示されたときは、日産販売会社で点検を受けてください。

➔シャシー制御表示（P.272）

インテリジェント トレースコントロール（コーナリング安定性向上システム）について

運転者のハンドル、アクセル、ブレーキ操作を検知し、それらの情報から各輪のブレーキ、駆動トルク（e-4ORCE（4WD）車）、前後駆動力配分（e-4ORCE（4WD）車）を制御して、車両の挙動を滑らかにすると同時に、応答性を高めるなどして安定感のあるコーナリングを実現します。

● インテリジェント トレースコントロール（コーナリング安定性向上システム）を

OFFにしていても、急ハンドル時などには作動する場合があります。

- VDCをOFFにすると、インテリジェント トレースコントロール（コーナリング安定性向上システム）もOFFになります。ぬかるみや雪道から脱出するためにVDCをOFFにした場合でも、トラクションを確保するため前後駆動力配分制御（e-4ORCE（4WD）車）はOFFになりません。
- システムが作動すると、ブレーキペダルに振動を感じたり、音が聞こえたりする場合がありますが、システムの作動音で異常ではありません。また、減速感を感じることがありますが、異常ではありません。
- ＜ドライブモードセレクター＞のモード位置により、インテリジェント トレースコントロール（コーナリング安定性向上システム）は影響を受けます。
  ➲ ドライブモードセレクター（P.136）
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［運転支援］⇒［シャシー制御］⇒［トレースコントロール］を選択すると、インテリジェント トレースコントロール（コーナリング安定性向上システム）機能のON・OFFを切り替えることができます。（前後駆動力配分制御（e-4ORCE（4WD）車）はOFFになりません）
  設定の詳細については、運転支援をお読みください。
  ➲ 設定（各種設定画面）（P.57）

ヒルスタートアシスト

ヒルスタートアシストは、上り坂での発進を補助するシステムです。

⚠ 警告

- **ヒルスタートアシストの機能を過信しない。**

  凍結している路面や泥状の坂道では、車両がスリップして後退することがあります。特に安全運転を心がけてください。

  緩やかな坂道ではヒルスタートアシストが作動せず後退する場合があります。その際はブレーキペダルを踏むか、パーキングブレーキをかけてください。

- **停車するときは、思わぬ事故につながるおそれがあるため、ブレーキペダルを踏み続ける。**

  この装置は、ブレーキペダルから足を離すと約2秒間ブレーキ力を保持しますが、その後ブレーキ力が解除されます。駐車するときは確実にシフトポジションをPに入れ、パーキングブレーキをかけてください。

ヒルスタートアシストについて

- 上り坂で発進するとき、ブレーキペダルからアクセルペダルへ踏み替える間に発生する車両の後退を防ぎます。
- シフトポジションがP、N以外のとき、ブレーキペダルから足を離すと、約2秒間ブレーキ力を保持します。
- ＜シフトスイッチ＞を操作した直後はブレーキペダルを踏んだ状態で約1秒間待ってから発進してください。シフトポジションをPからDまたはNからDに操作した直後は、ヒルスタートアシストが作動しないことがあります。
- VDC警告灯［ 🚗 ］（➲ P.265）が点灯したときは作動しません。
- ヒルスタートアシストが作動しているとき、ブレーキペダルの踏みごたえが変化したり、音や振動が発生したりすることがありますが、異常ではありません。

車両接近通報装置

⚠ 警告

- **車両接近通報装置の音が聞こえないときは、日産販売会社で点検する。**

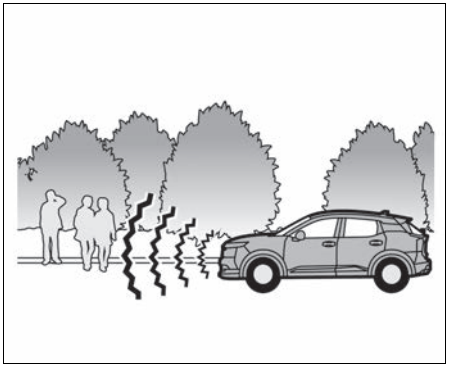
  車両接近通報装置の音が聞こえないときは、安全で静かな場所に停車し、音が聞こえるか確認してください。ブレーキペダルを確実に踏みながら、シフトポジションをRにし、窓を開けて音が聞こえるか確認します。車両前方から音が聞こえないときは、日産販売会社で点検を受けてください。

車両接近通報装置について

車両接近通報装置は、走行可能表示灯［READY］が点灯中にエンジンが停止していると、次の場合に作動します。

- 発進時、車速が30km/h以下のとき

- 減速時、車速が25km/h以下になったとき
- シフトポジションがRのとき

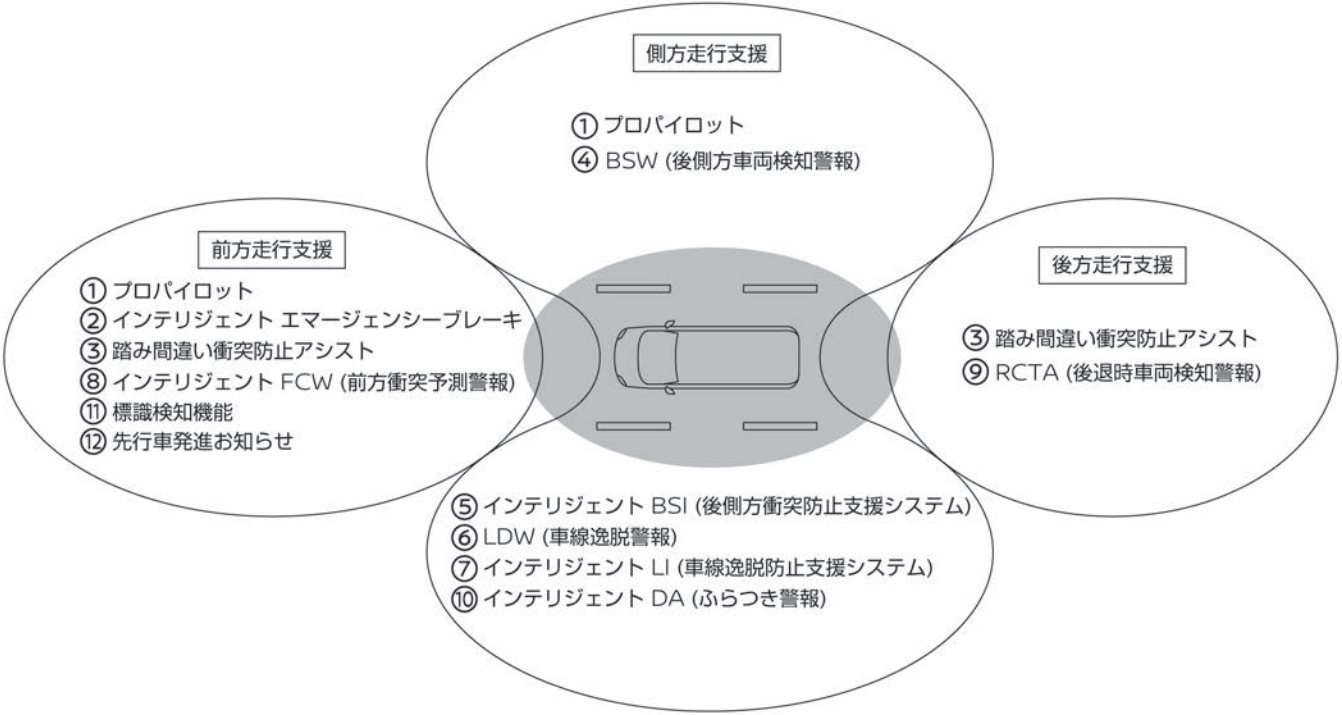


車両接近通報装置の故障について

- システムに異常があると、車両接近通報システム警告灯［ OFF ］が点灯します。車両接近通報システム警告灯
（➔P.268）
- 次の条件がそろうと<パワースイッチ>をOFFにし忘れることを防止するため、車両接近通報装置が作動します。
  - シフトポジションがPのとき
  - 走行可能表示灯［READY］が点灯しているとき
  - 運転席のシートベルトが非装着のとき
  - 運転席ドア、助手席ドアまたは後席ドアを開けたとき（ドアを閉めても鳴り続けます）

走行支援機能

走行支援機能について



範囲		機能名	機能説明	支援内容	使用するセンサー※1			
					レーダー	カメラ（フロント）	ソナー	カメラ（アラウンドビューモニター）★
前方側方	①	プロパイロット	前方車両との車間距離を制御し、前方車両停車時は停車してその状態を保持します。また、走行車線内を走行するようにハンドルを制御することで運転操作の負担を減らします。（➔P.150）	支援	○	○	–	–
前方	②	インテリジェントエマージェンシーブレーキ	前方の車両や歩行者、自転車と衝突のおそれがあるとき、警報とブレーキにより、運転者の衝突回避操作を支援します。（➔P.161）	支援	○	○	–	–
前方後方	③	踏み間違い衝突防止アシスト	ブレーキペダルとアクセルペダルの踏み間違えや、ブレーキ操作遅れが起きたときに警報音と表示で警告し、さらに過度な加速の防止や障害物への衝突防止を支援します。（➔P.168）	支援	–	○※2	○	○※3
前方	⑧	インテリジェントFCW（前方衝突予測警報）	前方を走行する2台前の車両を検知し、急な減速などにより、自車の回避操作が必要と判断した場合に警報します。（➔P.185）	情報提供警報	○	–	–	–
	⑪	標識検知機能	運転者に最高速度標識／はみ出し通行禁止標識／車両進入禁止標識／一時停止標識があることを知らせます。（➔P.191）		–	○	–	–
	⑫	先行車発進お知らせ	先行車が発進しても自車が停止し続けた場合に、音と表示でお知らせする機能です。（➔P.194）		○	○	–	–

範囲		機能名	機能説明	支援内容	使用するセンサー※1			
					レーダー	カメラ（フロント）	ソナー	カメラ（アラウンドビューモニター）★
側方	⑤	インテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）★	隣車線に車両がいるときに車線変更を開始した場合、警報とともに車両を元の車線内に戻すよう支援します。（➔P.174）	支援	○	○	–	–
	⑦	インテリジェントLI（車線逸脱防止支援システム）	運転者が意図せず走行車線から逸脱しそうなとき、車線内に戻す操作を支援します。（➔P.181）		–	○	–	–
	④	BSW（後側方車両検知警報）★	車線変更時、隣車線に車両がいる場合に警報します。（➔P.174）	警報	○	–	–	–
	⑥	LDW（車線逸脱警報）	運転者が意図せず走行車線から逸脱しそうなとき、警報します。（➔P.181）		–	○	–	–
	⑩	インテリジェントDA（ふらつき警報）	ハンドル操作から運転者の注意力が低下していると判断したとき、警報音と表示により運転者に休憩を促します。（➔P.190）		–	–	–	–
後方	⑨	RCTA（後退時車両検知警報）★	後退時、後方を横切ろうとする車両があるとき、警報します。（➔P.187）	警報	○	–	–	–

※1：レーダーセンサー／カメラ類の取り扱い注意に従って、お手入れをお願いします。適切なお手入れを行わないと、システムが正常に作動しないおそれがあります。（➔レーダーセンサーの取り扱い（P.308））、（➔マルチセンシングフロントカメラの取り扱い（P.308））、（➔ソナーの取り扱い（P.310））、（➔フロントビューカメラ★／サイドビューカメラ★の取り扱い（P.309））、（➔リヤビューカメラ★の取り扱い（P.309））

※2：後方への支援には使用されません。

※3： 後方への支援時にリヤビューカメラ★が使用されます。

走行支援機能

⚠ 警告

- **走行支援機能は、自動で運転する装置ではありません。運転者は交通法規を遵守し、常に周囲の状況に注意して運転してください。道路・交通・自車の状況に応じてハンドル、ブレーキ、アクセルを確実に操作し、安全な運転を行う責任があります。性能には限界があるため、システムだけに頼った運転はせず、常に安全運転を心がけてください。**
- **レーダー、カメラ、ソナーの性能には限界があります。詳細については、各検知条件と制限をお読みください。**

➲ レーダーセンサーの検知条件と制限（P.147）

➲ マルチセンシングフロントカメラの検知条件と制限（P.148）

➲ ソナーの検知条件と制限（P.149）

フロントガラスに装備されたマルチセンシングフロントカメラ、フロントグリルとフロントバンパー、およびリヤバンパーに装備されたレーダーセンサー、フロントバンパーおよびリヤバンパーに装備されたソナーセンサーで構成された、走行を支援するシステムです。

■ 作動させるためにプロパイロットスイッチ操作が不要な機能（メーターでのON・OFF設定が可能）

- インテリジェント エマージェンシーブレーキ
- 踏み間違い衝突防止アシスト
- インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）
- BSW（後側方車両検知警報）★
- インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）★
- LDW（車線逸脱警報）
- インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）
- RCTA（後退時車両検知警報）★
- インテリジェント DA（ふらつき警報）
- 標識検知機能
- 先行車発進お知らせ

■ 作動させるためにプロパイロットスイッチ操作が必要な機能

- プロパイロット

走行支援機能の設定

- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［運転支援］⇒必要な機能を選択すると、設定を切り替えることができます。

車線維持支援（ハンドル支援）

ハンドル支援

側方支援

LDW（車線逸脱警報）、インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）

後側方支援

BSW（後側方車両検知警報）★、インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）★

緊急支援

インテリジェント エマージェンシーブレーキ、インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）、踏み間違い衝突防止アシスト

先行車発進お知らせ

お知らせタイミング

標識検知支援

最高速度標識検知 、はみ出し通行禁止標識検知、進入禁止標識検知、一時停止標識検知

駐車支援

RCTA（後退時車両検知警報）★、移動物検知機能★、ソナー機能など

ドライバーモニター

インテリジェント DA（ふらつき警報）

レーダーセンサーの検知条件と制限

- レーダーセンサーは次のような物体は検知できないことがあります。
  - 歩行者、自転車、動物など
  - 対向車
  - 前方の車両がオートバイのような幅の狭い車両

- RCTA（後退時車両検知警報）★のレーダーセンサーは、次のような物体は検知できないことがあります。
  - 約30km/h以上の速度で通過する車両
  - 約8km/h以下の速度で通過する車両
- 次のような場合は、前方の車両を検知できないことがあります。
  - 悪天候（雨、雪、霧など）で視界が悪いとき
  - 前方の車両や対向車などにより水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
  - 雪や氷、泥などがレーダーセンサー周辺に付着しているとき
  - 放送局・レーダー搭載車両など周辺の電波源により影響を受けているとき
  - トンネル内を走行しているとき
  - 前方の車両がけん引を行っているとき
  - 前方の車両との距離が極端に近いとき
  - 急なカーブや、勾配の変化があるところを走行しているとき
- 次のような状況では、レーダーセンサーが接近する車両を検知できず、RCTA（後退時車両検知警報）★が警報を出さない場合があります。
  - 隣に駐車している車両などが、レーダーセンサーの検出エリアを妨げているとき
  - 駐車枠線が斜めに引かれた駐車場に駐車しているとき
  - 回り込むようにして自車後方へ車両が接近してきたとき
  - 接近してきた車両の向きが、自車の向きと同じまたはそれに近いとき
- 次のような状況では、隣の車線の車両を検知できないことがあります。
  - 車線の幅が極端に広い道路を運転しているとき
  - 悪天候（雨、雪、霧など）で視界が悪いとき
  - 水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
  - 雪や氷、泥などがレーダーセンサー周辺に付着しているとき
  - 放送局・レーダー搭載車両など周辺の電波源により影響を受けているとき
- 次のような車両は、正確に検知できない場合があります。
  - 背の低い車両や、オートバイなどの幅の狭い車両
  - 停車状態から検知範囲に居続ける車両
  - 後方から速い速度で接近してくる車両
  - 自車が速い速度で追い越した車両
  - 合流や車線変更で自車の横にほぼ同じ速度で移動してきた車両

マルチセンシングフロントカメラの検知条件と制限

- マルチセンシングフロントカメラは次のような障害物を検知できないことがあります。
  - 子供などの背の低い人、動物、自転車
  - 対向車両
  - 道路構造物（ガードレール、ポールなど車両と歩行者以外の障害物）
- マルチセンシングフロントカメラは車両の後端を認識するため、次のような車両を検知しないもしくは検知できない場合があります。
  - バンパー形状などにより、タイヤが見えにくい車両
  - 幌がはみ出し、後端形状がはっきりしない車両
  - 前方を横切って通過する車両
  - 斜めもしくは前向きに止まっている車両
- マルチセンシングフロントカメラは次のような場合、前方の車両、歩行者を検知できないことがあります。
  - 悪天候（雨、雪、霧、風塵、砂塵、吹雪など）で視界が悪いとき
  - 前方の車両や対向車などにより水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
  - カメラ前方のフロントガラスのくもりや、汚れ、油膜、虫汚れ、水滴、氷、雪、泥などが付着しているとき
  - 前方から強い光（太陽光や対向車両のハイビームなど）を受けているとき
  - 前方の強い光により前方車両のタイヤの部分が影になり見えにくいとき
  - 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、あるいはヘッドランプのレンズが極端に汚れている、または光軸調整が適切に行われていないとき
  - 夜間やトンネル内などで前方の車両のテールランプが点灯していないとき
  - トンネルの出入り口や日陰など、急に明るさの変化が起こったとき
  - カーブを走行しているとき

— 勾配の変化があるところを走行しているとき
— 未舗装路など凹凸のある路面を走行しているとき
— 歩行者が大きな荷物を持っている、背景と同じ色の服を着ているなど人特有の輪郭が認識できないとき
— 前方車両からの太陽光などを強く反射されたとき
— 対象物の位置や動きが大きく変化した場合（自車の車線変更・右左折、前方車両の右左折・急ハンドル・急加速・急減速など）
— 始動してから約15秒間
— カメラの向きがずれているとき

● マルチセンシングフロントカメラは次の例のような周辺状況では対象物の形状を正しく検出できずシステムが作動しない場合があります。
— 対象物が背景と似た色合いで区別ができない場合
— 対象物が道路標示（道路上の横断歩道、制限速度などの標示）の近くにある場合
— 対象物が路面の水たまりの付近にある場合（周りの風景が水たまりに映り込むなど）
— 対象物が建物や街路樹などの影と重なっているとき
— 対象物と自車の間に水蒸気や煙などがあるとき
— 夜間やトンネル内など暗い場所にいる歩行者
— 車高の低い車両または最低地上高（地面から車体までの高さ）が極端に低いもしくは極端に高い車両
— 特殊な形状の車両（タンクローリー、サイドカーなど）
— 前方の至近距離に割り込んだ車両
— 前方の至近距離に飛び出してきた歩行者
— 自車の正面から横にずれた位置に存在する車両や歩行者、人が乗車している自転車
— 後端面積が小さい車両（空荷のトラックなど）
— リヤタイヤから車両後端までが長い車両
— 四輪車以外の車両（二輪車など）
— 荷台から荷物や幌がはみ出している車両

● マルチセンシングフロントカメラは次の例のような場合、衝突するおそれがある対象を正しく検出できない場合があります。
— 複数の対象物同士が近接している場合
— 衝突するおそれのある対象の二輪車または車高の低い車両の前方近くに車両がいる場合
— 自車の正面から横にずれた位置に存在する車両や歩行者

ソナーの検知条件と制限

● 次のような場合、ソナーは正しく検出できないことがあります。
— 人、動物などの動いているもの、特に人は衣服の種類によっても検出できない場合があります。
— 背の低い障害物
— 溝や穴など地面より低い場所
— ポールなどの幅の狭い障害物
— 針金、ロープ、チェーンなどの細い障害物
— 金網、フェンス、ショッピングカートなどのすき間が多い障害物
— 鋭角的な形の障害物
— 壁などに配置されている配管などの障害物
— 地面から高い位置に存在する障害物
— 柱などで構成されている平面ではない障害物
— スポンジ状のものや雪などの表面が柔らかく音波を吸収しやすい障害物
— バンパーに非常に近い障害物
— 急に進行方向に現れた障害物
— 急にソナーの検出範囲に飛び込んできた障害物
— 急に近づいてきた障害物
— 車両側方にある障害物
— 障害物の面が車両の前面、または後面に対して斜めのとき
— ソナーセンサー部や周辺が凍結したり、雨、雪、氷、汚れなどが付着したりしているとき
— 車両姿勢が大きく傾いているとき
— 炎天下や寒冷時でセンサー周辺が著しく高温または低温のとき
— でこぼこ道、坂道、砂利道、草むらを走行しているとき
— 他車のホーン、オートバイの排気音や工事など、付近で大きな音がしたとき

— 車両感応センサーや他車のソナーなど、超音波を発するものが付近にあるとき

●次のような場合、ソナーは検知することがあります。

— 周囲に草が生い茂っているとき
— 車両側面の近くに壁があるとき
— 高さのあるゲート、狭いトンネル、料金所のバーなど
— マンホールやスピードバンプなど路面上に段差や突起物があるとき
— 垂れ下がった旗、ビニールカーテンなどをくぐって走行するとき
— 車両周辺に雪のかたまりがあるとき
— 勾配路
— 車両感応センサーや他車のソナーなど、超音波を発するものが付近にあるとき
— 他車のホーン、オートバイの排気音や工事など、付近で大きな音がしたとき
— 背が高く上部が張り出しているものがあるとき
— 雨、雪、氷、汚れなどがソナーセンサーに付着しているとき
— 凸形状または凹形状の構造物の近くを通過しているとき
— 車両側方の近くに構造物（壁、料金所設備、駐車場のゲート設備など）があるとき

プロパイロット

プロパイロットは、高速道路や自動車専用道路を運転者が設定した車速を上限に、先行車と車速に応じた車間距離を保ちながら、車線中央付近を走行するための運転操作を支援します。

プロパイロットに関する注意事項

⚠ 警告

● **プロパイロットは自動で運転する装置ではありません。また、脇見運転やぼんやり運転などの前方不注意での運転操作を補助するものではありません。**

運転者はシステムを過信せず、常に周囲に注意し、道路・交通・自車の状況に応じて確実にハンドル、アクセルペダル、ブレーキペダルを操作して、安全な運転を行う責任があります。

● **プロパイロットは高速道路や自動車専用道路の直線や緩やかなカーブでの使用を想定して設計されています。**

一般道での使用は思わぬ事故につながるおそれがあるため使用しないでください。

● **プロパイロットは同一方向に走行する車両を検出し、車間距離を保つようアクセル、ブレーキを制御します。**

対向車両、前方を横切る車両、車線外（路肩など）にいる車両、歩行者、自転車、工事用のパイロン、落下物などの車両以外のものに反応しません。

● **プロパイロットは車線中央付近を走行するようにステアリングを制御します。側方から車両が近づいてきても反応しません。**

交通法規を遵守する責任は運転者にあります。走行している地域や道路の交通法規を遵守し、安全な走行を行ってください。

● **プロパイロットの性能には限界があるため、システムだけに頼った運転はせず、常に安全運転を心がけてください。**

自車の前への急な割り込みや先行車が急ブレーキをかけたとき、急なカーブを走行するとき、悪天候などでは、適切な減速や操舵制御が行えず先行車に接近したり、レーンマーカーに近づいたりすることがあります。先行車との車間距離、自車の車線内の位置、周囲の状況に応じて自らアクセルペダル、ブレーキペダル、ハンドルを操作し、常に安全運転を心がけてください。

レーンマーカーとは、走行車線の右側もしくは、左側に引かれた線のことを示します。

● **プロパイロットを解除せずに降車しないでください。**

車両を停止し続ける能力をもっていません。降車する場合は<プロパイロットスイッチ>を押してシステムをOFFにし、シフトポジションをPに切り替え、電動パーキングブレーキを作動させてください。

● **次のような状況では適切な制御ができず、思わぬ事故につながるおそれがあるため使用しないでください。**

⚠ 警告

- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行しているとき
- 悪天候（雨、雪、霧など）のとき
- 急カーブや曲がりくねった道を走行しているとき
- 急な上り坂、下り坂を走行しているとき
- 頻繁な加減速により、車間距離が保ちにくい交通状況のとき
- 料金所を通るとき
- タイヤの空気圧が適正ではないとき
- 摩耗しているタイヤ、日産純正品もしくは日産販売会社で購入したタイヤ以外を使用しているときや、タイヤチェーンを装着しているとき
- 純正品以外のブレーキ部品やサスペンション部品を使用しているとき
- レーダー部に雪、氷、泥などの付着物があるとき
- マルチセンシングフロントカメラおよびその前方のフロントガラスに汚れ、油膜、水滴、氷、雪、泥などの付着物があるとき
- マルチセンシングフロントカメラおよび、その前方のフロントガラスにくもりや結露があるとき
- レーダー、カメラ、ソナー、GPSアンテナ★の機能を妨げるものを取り付けたとき
- 極端に重い荷物を積んでいるとき
- けん引されているとき

プロパイロットの機能

プロパイロットには次の機能があります。

機能名	概要説明	参照先
車速・車間制御機能	● 先行車を検出していないときは、運転者が設定した車速を維持するように制御します。 ● 先行車を検出しているときは、運転者が設定した車速を上限に、車速に応じた車間距離を保つように制御します。	➔P.157
車線維持機能（ハンドル支援）	● 車線中央付近を走行するようにステアリングを制御し、運転者のハンドル操作を支援します。	➔P.159

システム構成

⚠ 警告

- **プロパイロットは次のような障害物には反応しません。**
  - 歩行者、動物など
  - 落下物
  - 工事などで設置されるパイロンなど
  - 特殊な形状をした車両
- **次のような状況では先行車の検出が遅れる、または検出ができないことがあります。運転者は常に前方の状況に注意し、必要に応じてブレーキペダルやハンドルを操作してください。**
  - 前方に急な割り込みがあったとき
  - 停止車両など自車速よりも極端に遅い車両がいたとき
  - 見通しの悪いカーブを走行しているとき
  - 前方に車線の端を走行する二輪車がいるとき
  - 先行車や他車線の車両が路上の水や雪などを巻き上げて走行しているとき
  - 急な上り坂、下り坂が繰り返される道を走行しているとき
  - 後席やラゲッジルームに極端に重い荷物を積んだとき
  - 悪天候のとき（雨、霧、雪など）
- **次のような状況では正しくレーンマーカーの検出ができず車線変更支援機能（ハンドル支援）、車線維持機能が使用できないことがあります。**
  - レーンマーカーが消えかかっている、汚れているなど不明瞭なとき
  - レーンマーカーが路面の色と似ており見えにくいとき
  - レーンマーカーが多重に描かれているとき
  - 消されたレーンマーカーが、まだ薄く残っているとき
  - 工事などによる車線規制や仮設のレーンマーカーがあるとき
  - 料金所や交差点手前などでレーンマーカーが大きく変化しているとき
  - 車線幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
  - 停止禁止部分、または立ち入り禁止部分がある道を走行しているとき
  - 出口路、分岐路など車線数が増えるとき
  - 濡れているまたは水たまりのある路面を走行しているとき
  - 道路構造物、街路樹、建物などの影が差している路面を走行しているとき
  - 悪天候（雨、雪、霧、風塵、砂塵、吹雪など）で視界が悪いとき

警告

— 先行車や他車線の車両が路上の水や雪などを巻き上げて走行しているとき

— 前方から強い光（太陽光や対向車両のハイビームなど）を受けているとき

— 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、あるいはヘッドランプのレンズが極端に汚れているとき

— トンネルの出入り口や日陰など急に明るさの変化が起こったとき

— 急な上り坂、下り坂が繰り返される道を走行しているとき

— 後席やラゲッジルームに極端に重い荷物を積んでいるとき

● **次のような状況では隣の車線の車両の検出が遅れる、または検出ができないことがあります。運転者は常に周囲の状況に注意し、必要に応じてハンドルを操作してください。**

— 背の低い車両や、オートバイなどの幅の狭い車両が走行しているとき

— 後方から速い速度で接近してくる車両が走行しているとき

— 後方から近づいてくる車両が車線変更などにより隣の車線に移動したとき

— 自車や周囲の車両が路上の水や雪などを巻き上げて走行しているとき

— 急な上り坂、下り坂が繰り返される道を走行しているとき

— 後席やラゲッジルームに極端に重い荷物を積んだとき

— 放送局・レーダー搭載車両など周辺の電波源により影響を受けているとき

— 悪天候のとき（雨、霧、雪など）

● **フロントレーダー、サイドレーダーの汚れを自動的に判定する機能を備えておりますが万全ではありません。**

状況によってはレーダーが汚れていても判定できない場合があります。また雪、氷などが付着したときも判定できない場合があります。

このような状況では適切な作動ができなくなるおそれがあるため、常に周囲に注意して走行してください。またフロントレーダー、サイドレーダーおよびその周辺はいつもきれいにしておいてください。

➔ レーダーセンサーの取り扱い (P.308)

● **フロントカメラの汚れを自動的に判定する機能を備えておりますが万全ではありません。**

状況によってはフロントカメラが汚れていても判定できない場合があります。また雪、氷などが付着したときも判定できない場合があります。

このような状況では適切な作動ができなくなるおそれがあるため、常に前方に注意して走行してください。またフロントカメラおよびその周辺はいつもきれいにしておいてください。

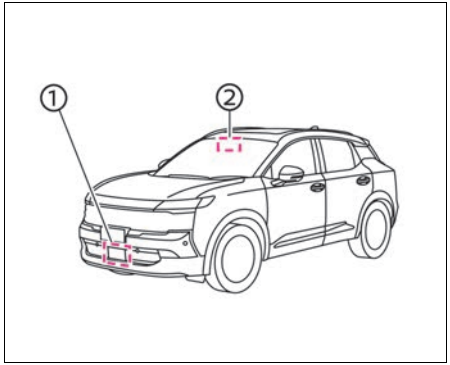
➔ マルチセンシングフロントカメラの取り扱い (P.308)

アドバイス

● プロパイロットを正しく作動させるために、カメラ前方のフロントガラス、レーダーセンサーおよびソナーセンサー周辺のお手入れを行ってください。

➔ 外装のお手入れ (P.306)

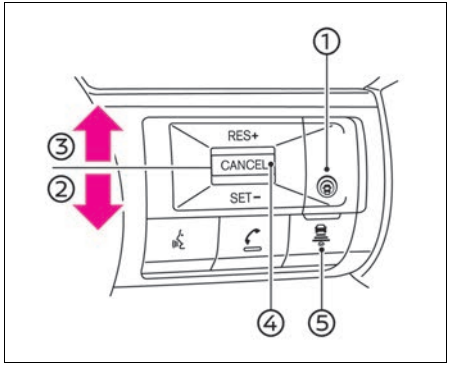
プロパイロットは次のような部品で構成されています。



① **フロントレーダーセンサー**
前方の車両を検知し、インテリジェント クルーズコントロールに使用

② **マルチセンシングフロントカメラ**
隣車線の他車両の有無、および車線のレーンマーカーを検知し、ステアリングアシストに使用

プロパイロットに関連するスイッチ



① **プロパイロットスイッチ**
プロパイロットのON・OFFができます。

② **SET-操作（下押し）**
＜SET-＞方向に押したときの車速でプロパイロットを開始できます。
設定車速を下げることができます。

③ **RES+操作（上押し）**
設定車速を上げることができます。
プロパイロットを解除後、解除前の設定車速で再び開始することができます。

④ **CANCELスイッチ**
プロパイロットの解除ができます。

⑤ **車間設定スイッチ**
車間距離を「長」「中」「短」の3段階に切り替えることができます。

プロパイロットの使いかた

1. ＜プロパイロットスイッチ＞を押します。（1.5秒未満）

● プロパイロットがONになります。

● アドバンスドドライブアシストディスプレイにプロパイロットの状態が表示されます。（➔P.156）

知識

● ＜プロパイロットスイッチ＞を1.5秒以上押し続けると定速制御機能に切り替わり、車線維持機能（ハンドル支援）を行いません。

2. ＜SET-＞方向に押したときの車速でプロパイロットを開始します。

● 先行車を検出していない場合、運転者が設定した車速を維持するように制御します。

■ 車間距離設定のしかた

⚠ 警告

● **プロパイロットは脇見運転やぼんやり運転などの前方不注意での運転操作を補助するものではありません。**
先行車との車間距離、車線内の位置、周囲の状況に応じてアクセルペダル、ブレーキペダル、ハンドルを操作するなどして、常に安全運転を心がけてください。

＜車間設定スイッチ＞を押すと、車間距離を設定できます。車両アイコン下のバーの本数で設定を表示します。

アイコン下のバーの本数	車間距離
3本	長
2本	中
1本	短

● 車間設定は、e-POWERシステムを停止しても再度設定を変更するまでその状態が維持されます。

■ 設定車速の変更のしかた

加速したいとき：

● 設定車速を上げたいときは、＜RES+＞方向に押します。

減速したいとき：

● 設定車速を下げたいときは、＜SET-＞方向に押します。

設定車速は5km/hきざみで変更できます。スイッチを押し続けると設定車速が5km/hずつ連続して変わります。希望の速度でスイッチを離してください。

■ 一時的に加速、減速をしたいとき

⚠ 警告

● **アクセルペダルを操作して加速しているときは、ブレーキ制御、接近警報を行いません。**

通常、車間制御中は先行車の速度に合わせて自動的に加速、減速を行います。車線変更などで加速が必要なときや、先行車が急減速したり、他車が割り込むなどして先行車に接近しそうになったときなどはアクセルペダル、またはブレーキペダルを踏んで周囲の状況に応じた適切な加速、減速を行ってください。

● ハンドルを持ってアクセルペダルを踏むと加速します。

● アクセルペダルを踏んで加速したときなど、設定車速より実際の車速が高くなった場合は、設定車速表示が点滅します。

● アクセルペダルを離すと再び車速車間制御を行います。

● ブレーキペダルを踏むと減速します。（プロパイロットは解除されます）

● 解除前の設定車速で再び開始したいときは、＜RES+＞方向に押します。

■ 車線維持機能（ハンドル支援）のON・OFFのしかた

● アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［運転支援］⇒［車線維持支援］⇒［ハンドル支援］を選択すると、車線維持機能（ハンドル支援）のON・OFFを切り替えることができます。

● 車線維持機能（ハンドル支援）のON・OFF設定はe-POWERシステムを停止しても再度設定が変更されるまで、その状態を維持します。

■ プロパイロットの解除のしかた

⚠ 警告

● **プロパイロットをOFFにせずに降車しないでください。**

降車する場合は＜プロパイロットスイッチ＞を押してシステムをOFFにし、電動パーキングブレーキを作動させ、シフトポジションをPにしてください。

次のいずれかの操作でプロパイロットが解除されます。

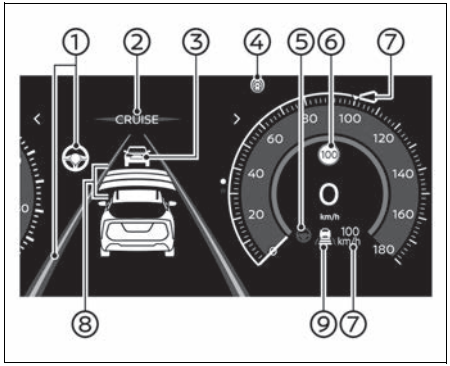
● ＜プロパイロットスイッチ＞を押す

● ＜CANCEL＞スイッチを押す

● ブレーキペダルを踏む（車速・車間制御機能により、自車が停止しているときを除く）
解除前の設定車速で再び開始したいときは、＜RES＋＞方向に押します。
車速・車間制御機能により自車が停止しているとき、システムを解除すると電動パーキングブレーキが作動します。

アドバンスドドライブアシストディスプレイ表示

プロパイロットが作動すると、画面が自動的にプロパイロット画面に切り替わります。この機能を停止するには、アドバンスドドライブアシストディスプレイで次の操作をし、設定をOFFにしてください。設定［ ⚙ ］⇒［画面カスタマイズ］⇒［クルーズ画面切替］



① **ハンドル支援作動灯**
灰色⇒ハンドル支援待機中
緑色⇒ハンドル支援中

② **プロパイロット作動状態**
プロパイロット作動中は青色に点灯

③ **先行車検出表示**
車両アイコン非表示⇒先行車検出無し
車両アイコン表示⇒先行車検出有り

④ **プロパイロット作動灯**
白色⇒プロパイロットON
青色⇒プロパイロット作動開始

⑤ **ハンドル支援作動灯／警告灯**
灰色⇒ハンドル支援待機中
緑色⇒ハンドル支援中
黄色⇒車線維持機能（ハンドル支援）が故障状態
赤色⇒ハンドルを離している状態（手放し警報のみ）

⑥ **標識検知表示**
標識検知機能で検出した標識を表示

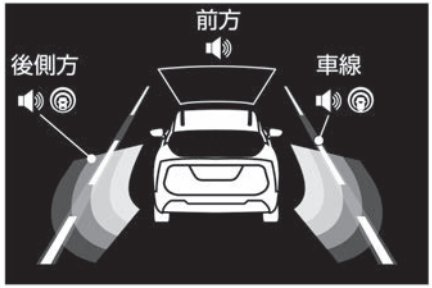
⑦ **設定車速表示**
設定車速を表示

⑧ **車間設定表示**
車間設定状態を表示

⑨ **車速・車間制御作動灯**
車両アイコン非表示⇒先行車検出無し（定速制御中）
車両アイコン表示⇒先行車検出有り（定車間制御中）
車間距離の設定状況を表示
レーンマーカーアイコン灰色⇒ハンドル支援待機中
レーンマーカーアイコン緑色⇒ハンドル支援中

運転支援ステータス画面

プロパイロットを起動したあと、車速を設定する前に運転支援ステータス画面が表示されます。画面は、後側方、前方運転支援、および側方運転支援のステータスを表示します。



● 運転支援ステータスを変更するには、アドバンスドドライブアシストディスプレイで次のようにメニューを選択し、設定を変更してください。（➔P.147）
設定［ ⚙ ］⇒［運転支援］

運転支援機能をONに設定している場合の表示

範囲	運転支援機能名称	機能	表示
前方	インテリジェント エマージェンシーブレーキ	支援	[🔊]
	インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）	警報	

範囲	運転支援機能名称	機能	表示
車線	LDW（車線逸脱警報）	警報	[🔊]
	インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）	支援	[⊕]
後側方	BSW（後側方車両検知警報）★	警報	[🔊]
	インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）★	支援	[⊕]

［🔊］：警報機能がONになっている場合に表示

［⊕］：支援機能がONになっている場合に表示

［OFF］：どの機能もONになっていない場合に表示

車速・車間制御機能（インテリジェント クルーズコントロール）

インテリジェント クルーズコントロールは、プロパイロットの機能の一部です。このシステムを使用する前に、システムの操作方法（➔P.154）やディスプレイの理解（➔P.156）を含め、プロパイロット全体（➔P.150）をお読みください。

インテリジェント クルーズコントロールは、フロントレーダーセンサーを使用して制御します。

- 先行車を検出していない場合は運転者が設定した車速で定速走行します。
- 先行車を検出しているときは、運転者がセットした車速（約30km/h以上）を上限に、車速に応じた車間距離を保つように車間制御を行い走行します。先行車が停止したときは、先行車に続いて自車も停止します。一度停止すると、インテリジェント クルーズコントロールは停止した状態を保持します。
- 先行車がいなくなると設定車速まで加速します。
- 設定車速は設定車速表示を確認しながら変更してください。
- インテリジェント クルーズコントロールの制御によりブレーキが作動した場合は、自車の制動灯が点灯します。

インテリジェント クルーズコントロールは、車両ブレーキ力の最大40%しか適用しないため、車速を一定に保ちやすい交通状況で使用してください。

アクセルペダルを操作して加速しているときは、ブレーキ制御、接近警報を行いません。

車速・車間制御の自動解除

次の場合は、警告音とともに車速・車間制御機能が自動的に解除されます。

- 先行車を検出していないときに、車速が約25km/hを下回ったとき
- 運転席、助手席、後席、またはバックドアのいずれかのドアを開けたとき
- 運転席のシートベルトを外したとき
- 車速・車間制御機能により自車が停止後、約3分が経過したとき
- シフトポジションをDまたはB以外にしたとき
- ドライブモードをSNOWにしたとき（e-4ORCE（4WD）車）
- 電動パーキングブレーキをかけたとき
- VDCをOFFにしたとき
- VDC／TCSが作動したとき
- タイヤが空転したとき
- 周辺の電波源の影響を受けているとき
- 周辺の電波源や環境による反射などにより、一時的に電波を受信できなかったとき
- レーダーセンサーが汚れているとき

次の場合は、プロパイロットの制御を開始することができません。（設定車速表示が約2秒間点滅します）

- 運転席、助手席、後席、またはバックドアのいずれかのドアが開いているとき
- 運転席のシートベルトを着用していないとき
- 車速が約30km/hを下回っていて、先行車を検出していないとき
- シフトポジションがDまたはB以外のとき
- ドライブモードをSNOWにしたとき（e-4ORCE（4WD）車）
- 電動パーキングブレーキが作動しているとき
- ブレーキペダルを踏んでいるとき
- VDCをOFFにしたとき

●VDC／TCSが作動したとき
●タイヤが空転したとき

システム作動

警告

● **運転者は周囲の状況に注意し、必要に応じてブレーキペダルを操作してください。**

車速・車間制御機能で停止したあと、前方に車両が割り込んできた場合、位置や車両の向きによっては検出することができず、先行車が発進すると自車も動き出し割り込んできた車両に接近するおそれがあります。

インテリジェント クルーズコントロールは、次の2つのモードのいずれかに設定できます。

●定速制御機能（➔P.161）
●車速・車間制御機能（➔P.157）
●車線維持機能（ハンドル支援）は定速制御機能では使用できません。ハンドル支援なしで車速・車間制御機能を使用するには、設定メニューで車線維持機能（ハンドル支援）をOFFにします。詳細については、➔車線維持機能（ハンドル支援）のON・OFFのしかた（P.159）を参照してください。

知識

● インテリジェント クルーズコントロールで自車が停止したとき、停止した状態を保持するまでは周囲に注意してください。

■ 先行車を検出していないとき

先行車がいないときは、運転者が設定した車速を維持するように制御します。

先行車がいなくなると先行車検出表示と車速制御作動灯が消灯し、運転者が設定した車速まで加速します。

知識

● 設定車速までは機能の制御によって加速しますが、すばやく加速したいときはアクセルペダルを踏んで加速してください。
● 先行車を検出していない場合、車速が約25km/h以下になると、インテリジェント クルーズコントロールは解除されます。

■ 先行車を検出しているとき

先行車検出表示と車速制御作動灯が点灯し、運転者が設定した車速を上限に、車速に応じた車間距離を保つように制御します。

■ 先行車が停止したとき

●インテリジェント クルーズコントロールで走行中に先行車が停止したときは、先行車に続いて自車も停止します。一度停止すると、インテリジェント クルーズコントロールは停止した状態を保持します。（停止した状態を保持しているときは、［RES+で発進します］と表示されます）

■ 先行車が発進したとき

●インテリジェント クルーズコントロールで停止状態を保持しているときに先行車が発進したときは、＜RES+＞方向に押すか、アクセルペダルを踏むと停止状態は解除され、再びインテリジェント クルーズコントロールによる追従走行を開始します。
●車両停止保持状態のときに、＜RES+＞方向に押すと、約3秒間は発進待機状態になります。

割り込み検知

自車に近い位置に他車が割り込んできたときは、"ポーン" という音とともに先行車検出表示が点滅し、運転者にお知らせします。

接近警報

●車間制御中に先行車の減速度合いが大きい場合や他車の割り込みなどによって、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、ブザーとアドバンスドドライブアシストディスプレイの表示によって運転者に注意を促します。この場合は、ブレーキペダルを踏んで減速し、適切な車間距離を確保してください。
●先行車に接近し、車間距離が十分でないと判断されるときはブザーが "ピッ、ピッ、ピッ、ピッ…" と鳴り、アドバンスドドライブアシストディスプレイの先行車検出表示および接近警報表示が点滅します。

- 短い車間距離でも、次の場合には接近警報が作動しないことがあります。
  - 先行車とほぼ同じ速度で走っているとき
  - 先行車の方が自車より速いとき（車間距離が次第に離れていくとき）
  - 他車が至近距離に割り込んできたとき

追い越し時加速機能

- 設定車速が70km/h以上で車速・車間制御中、先行車が設定車速以下のとき、方向指示器を右折側に操作すると、車両が加速し先行車を追い越す準備を始めます。
- 運転者がハンドルを操作し、追い越すために車線を変更したときに先行車を検出した場合は、運転者が設定した車速に応じた車間距離を保つように車間制御を行い走行します。先行車を検出しなかった場合は運転者が設定した車速で定速走行します。
- 方向指示器を右折側に操作し、車両が加速しているときに先行車との距離が近づきすぎると加速は停止し、設定してある車間距離に戻ります。
- 次の場合は追い越し時加速機能が解除されます。
  - ブレーキペダルを踏んだとき
  - ＜CANCEL＞スイッチを押したとき

車線維持機能（ハンドル支援）について

⚠ 警告

- **車線中央付近を走行するようにステアリングを制御します。側方の車両が近づいてきても反応しません。**
- **手放し運転はしない。**

車線維持機能（ハンドル支援）は、プロパイロットの機能の一部です。このシステムを使用する前に、システムの操作方法（➔P.154）やディスプレイの理解（➔P.156）を含め、プロパイロット全体（➔P.150）をお読みください。

- 車線維持機能（ハンドル支援）は、マルチセンシングフロントカメラを使用して、左右のレーンマーカーを検出し、車線中央付近を走行するようにステアリングを制御し、運転者のハンドル操作を支援します。
- レーンマーカーとは、走行車線の右側もしくは左側に引かれた線のことを示します。車線維持機能（ハンドル支援）は、車速・車間制御機能と組み合わせた場合にのみ利用できます。
- 次の条件を満たすとハンドル支援作動表示が緑色で点灯し、作動を開始します。
  - 車速・車間制御機能が作動しているとき
  - 両側のレーンマーカーを検出しているとき
  - 車速が約50km/h以上のとき
  - 車速が約50km/h以下で、先行車を検出しているとき
  - 運転者がハンドルを持っているとき
  - 車線の中央付近を走行しているとき
  - 方向指示器が作動していないとき
  - ワイパーが高速で作動していないとき
  - 車線維持機能（ハンドル支援）がONのとき
- カーブまたは強い横風により、ハンドル支援中に走行車線の右側、もしくは左側のレーンマーカーに近づいたと判断すると、警報音とともにインテリジェントLI（車線逸脱防止支援システム）表示がオレンジ色に点滅します。
  インテリジェントLI（車線逸脱防止支援システム）（➔P.181）

■ 車線維持機能（ハンドル支援）のON・OFFのしかた

- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［運転支援］⇒［車線維持支援］⇒［ハンドル支援］を選択すると、車線維持機能（ハンドル支援）のON・OFFが切り替えられます。
- 車線維持機能（ハンドル支援）のON・OFF設定はe-POWERシステムを停止しても再度設定が変更されるまで、その状態を維持します。

■ 車線維持機能（ハンドル支援）の解除

- 次の場合は、音とともにハンドル支援作動表示が灰色になり、車線維持機能（ハンドル支援）が一時待機状態になります。（再び作動条件を満たすと作動を再開します）

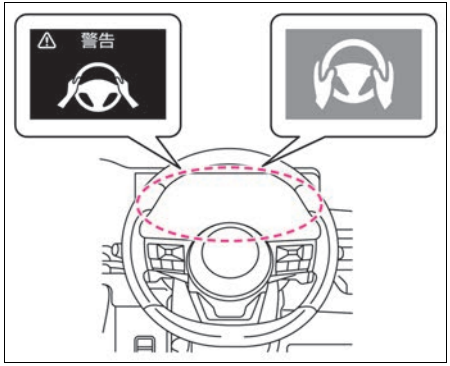
- レーンマーカーを検出しなくなったとき
- 方向指示器を作動させたとき
- 前方から強い光を受けたとき
- カメラおよびカメラ周辺の温度が高いとき
- 運転者がハンドル操作をしたとき
- 車速が50km/h以下で、先行車を検知していないとき

●次の場合は、音とともにハンドル支援作動表示が消灯し、車線維持機能（ハンドル支援）が解除されます。
- 車速・車間制御機能が解除されたとき
- ワイパーが高速で作動しているとき
- 雨、雪、霧または、カメラ前方のフロントガラスの凍結、汚れなどで、カメラの視界が確保できなくなったとき

●ワイパーの高速作動が不要になったら高速作動を解除し、その後、プロパイロットを再度セットしてください。

■ 手放し警告について

運転者がハンドルを持っていない、または操作していない場合、アドバンスドドライブアシストディスプレイに手放し警告が表示されます。



一次警報

（概要及び対処）

●ハンドルを持っていない、またはハンドルを操作していないときに表示します。

●運転者のハンドル操作を検出すると警告は消灯します。

二次警報

（概要及び対処）

●表示による警告後、運転者がハンドルを操作しないときに表示します。
- 音、表示（赤点滅）、および短時間のブレーキ制御で段階的に警告します。

●運転者のハンドル操作を検出すると警告は消灯します。

緊急停止

（概要及び対処）

●警告後、運転者のハンドル操作がない状態が継続したときに表示します。
- 緊急警報音が鳴るとともに車両を減速、緊急停止します。

●緊急警報音が作動し、自車が減速したとき、車速が約65km/hを下回ると非常点滅表示灯が自動で作動します。ハンドル操作をすると、非常点滅表示灯は自動で消灯します。

●車両を緊急停止させたあと、SOSコールサービスのオペレーターに接続し、オペレーターから公共機関（警察・消防・医療機関）に救援要請を行います。（SOSコールのシステムを利用するにはNissanConnect サービスの契約が必要です）

➔ 先進事故自動通報システム★ (P.227)

知識

● 次のような状況ではハンドルを持っていることを正しく検出できず、ハンドルを持っていても警告が表示されることがあります。
- 運転者が手袋を着用しているとき
- ハンドルにカバーが取り付けられているとき
- 革の繋ぎ目やスポーク部などを握っているとき
- ハンドルに手を軽く添えて運転をしているとき

プロパイロット警告メッセージ

警告メッセージが表示されたときは、プロパイロット警告メッセージ（➔ P.282）「説明・対処方法」に従ってください。表示は、グレード、オプションなどにより異なります。

定速制御機能について

⚠ 警告

- **定速制御中は車間制御を行わないため、ブレーキ操作も警報も行いません。**

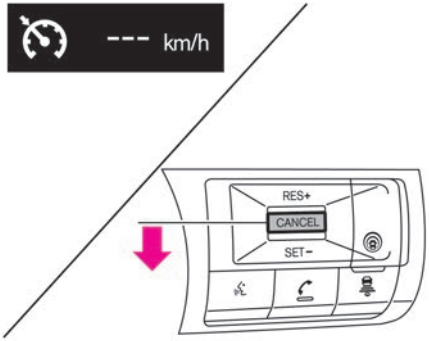
  先行車との車間距離、周囲の状況に応じてブレーキペダルを踏んで減速するなどして車間距離を確保し、安全運転を心がけてください。

＜プロパイロットスイッチ＞をONにすると点灯し、システムの作動状態を色で表示します。セットすると設定した速度を表示します。

1. ＜プロパイロットスイッチ＞を1.5秒以上押し、システムがONになると表示します。

- 白色：システムがONになると表示
- 緑色：車速を設定すると表示
- オレンジ色（警告灯）：システム故障

2. ＜SET-＞方向に押したときの車速で定速制御機能をセットします。



- 定速走行中、一時的に加速したいときはアクセルペダルを踏みます。加速後にアクセルペダルを離すと、徐々に設定車速に戻ります。

■ 設定車速の変更のしかた

速度を上げる

- 定速走行中に＜RES+＞方向に押し続けると加速します。設定したい速度で手を離します。

速度を下げる

- 定速走行中に＜SET-＞方向に押し続けると減速します。設定したい速度で手を離します。

■ 定速走行の解除のしかた

次の操作をすると、定速走行が解除されます。

- ＜CANCEL＞スイッチを押す
- ＜プロパイロットスイッチ＞を押す
- ブレーキペダルを踏む
- 次の場合は、"ピー" という音とともに制御が解除されます。
  - 速度が約25km/h以下になったとき
  - VDCをOFFにしたとき
  - VDC／TCSが作動したとき
  - タイヤが空転したとき
  - シフトポジションを、DまたはB以外にしたとき
  - システムに異常があるとき

インテリジェント エマージェンシーブレーキ

インテリジェント エマージェンシーブレーキは、前方の車両、対向車や歩行者、人が乗車している自転車と衝突のおそれがあるとき、警報とブレーキにより、運転者の衝突回避操作を支援します。

システムに関連する表示

⚠ 警告

- **機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がける。**

  インテリジェント エマージェンシーブレーキは、前方の車両や歩行者、人が乗車している自転車との衝突回避操作の支援、または衝突時の被害や傷害の軽減を目的としています。あらゆる状況で効果があるわけではありません。

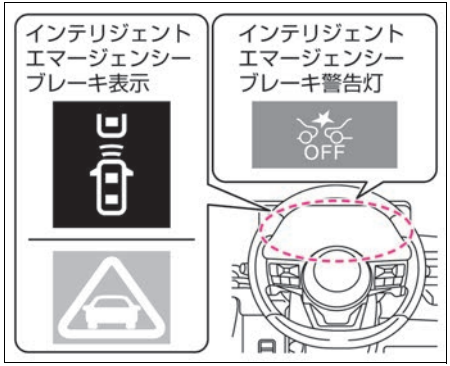
  必ず周囲の安全確認を行い、前方車両との車間距離を十分に維持して安全運転を心がけて走行してください。

⚠ 警告

- **レーダーやマルチセンシングフロントカメラの性能には限界があるため、システムだけに頼った運転はせず、常に安全運転を心がけてください。詳細については、各検知条件と制限をお読みください。**

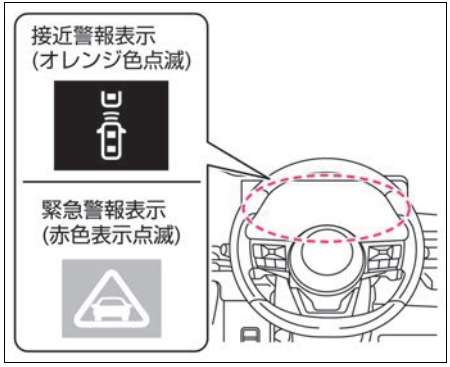
➔ レーダーセンサーの検知条件と制限 (P.147)

➔ マルチセンシングフロントカメラの検知条件と制限 (P.148)



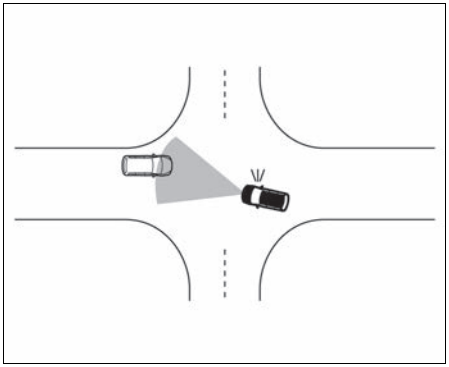
インテリジェント エマージェンシーブレーキについて

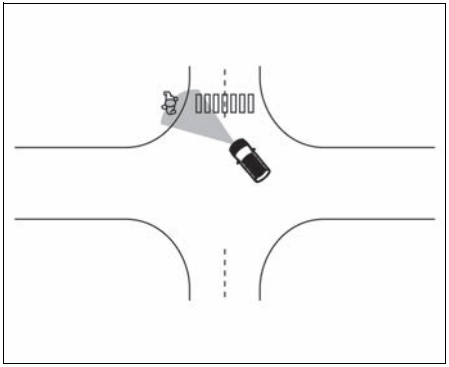
- フロントガラス上部のマルチセンシングフロントカメラおよび車両前部のレーダーセンサーにより前方の車両、対向車★や歩行者、人が乗車している自転車を検知します。
- 車速約5km/hから作動します。
  歩行者・人が乗車している自転車には約10km/h~80km/hの範囲で作動します。
  （車速約100km/h以上では停止車両に対しては作動しません）
- 同じ車線の対向車には約30km/hから作動します。
- 衝突するおそれがあると判断すると、警報音（ブザー）とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイのインテリジェント エマージェンシーブレーキ表示（接近警報表示）がオレンジ色に点滅します。
- 運転者の衝突回避操作が不十分で、衝突の危険性が高まったときには、アドバンスドドライブアシストディスプレイのインテリジェント エマージェンシーブレーキ表示が赤色の緊急警報表示になり、警報音（ブザー）とともに軽いブレーキがかかります。



- さらに衝突の危険性が高まったときには、衝突の直前に強いブレーキがかかります。
- 次の場合、システムによるブレーキの作動が解除されます。
  - アクセルペダルを強く踏み込んだとき
  - ハンドルを大きく、またはすばやく切ったとき
  - 前方の車両や歩行者、人が乗車している自転車との衝突の危険がなくなったと判断したとき
- システムによるブレーキで車両が停止したときは、車両が停止してから約2秒後にブレーキが解除されます。
- 運転者がハンドルやアクセルペダル、ブレーキペダルを操作している場合は、インテリジェント エマージェンシーブレーキの作動が遅れる、または作動しない場合があります。
- 前方車両と自車の速度の差が小さいときは作動しません。
- システムによるブレーキが作動しているときは、制動灯が点灯します。
- システムによるブレーキ作動中にブレーキペダルを踏んだとき、ブレーキペダルの踏みごたえが変化したり、音や振動が発生したりすることがありますが異常ではありません。また踏力を加えることで、ブレーキ力を増すことができます。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイを運転支援またはクルーズ（CRUISE）に切り替えると、インテリジェント エマージェンシーブレーキの作動状態をアドバンスドドライブアシストディスプレイ内で確認することができます。
  詳しくは、➔ 走行支援グループ（表示項目） (P.55)をお読みください。

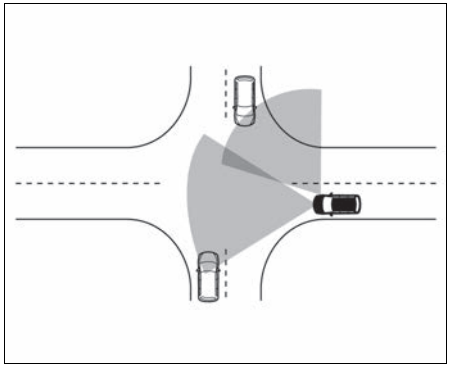
交差点支援（右左折）★

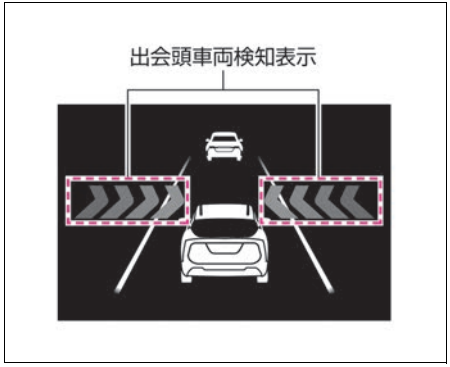




- 次の場合に、衝突するおそれがあるとシステムが判断するとインテリジェント エマージェンシーブレーキが作動します。
  - 右折して対向車の進路を横切るとき
  - 右折または左折時、前方の歩行者または自転車が自車の進路に入ってきたとき
- 車速約10km/h～30km/hの範囲で作動します。
- 対向車に対しては、方向指示器を作動させているときのみ作動します。

交差点支援（出会頭車両）★

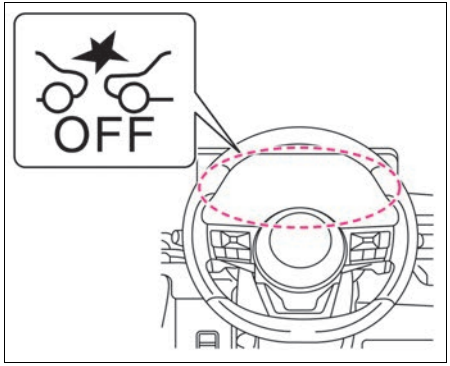




- 車両前部のレーダーセンサーおよびサイドレーダーセンサーにより側方から接近する車両を検知します。
- 車速約5～80km/hの範囲で作動します。
- 交差点などで側方から車両が接近してきたとき、衝突するおそれがあるとシステムが判断すると、警報音（ブザー）とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイに出会頭車両検知表示（赤）を表示します。
- 衝突の危険が高まったときには、ブレーキがかかります。
- 車両が停止しているとき、側方から車両が接近してきたときは、アドバンスドドライブアシストディスプレイに出会頭車両検知表示（白）を表示します。

インテリジェント エマージェンシーブレーキの停止のしかた

- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［運転支援］⇒［緊急支援］⇒［前方衝突防止支援］を選択すると、インテリジェント エマージェンシーブレーキのON・OFFを切り替えることができます。
  設定の詳細については、運転支援（➔P.57）をお読みください。
  - 走行中はインテリジェント エマージェンシーブレーキをOFFにすることができません。ただし、車速が約10km/h以下のときは、OFFにすることができます。
- 機能をOFFにすると、システムが停止します。（インテリジェント エマージェンシーブレーキ警告灯が点灯）



- e-POWERシステムを再始動するとONになります。
- インテリジェント エマージェンシーブレーキをOFFにすると、インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）も連動してOFFになります。

➔ インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）（P.185）

インテリジェント エマージェンシーブレーキに関する注意事項

⚠ 警告

- **次のような障害物は検知しません。**
  - 子供などの背の低い人、動物
  - 対向車両
  - 道路構造物（ガードレール、ポールなど車両と歩行者、人が乗車している自転車以外の障害物）

- **システムは車両の後端を認識するため、次の例のような車両を検知しないもしくは検知できない場合があります。**
  - バンパー形状などにより、タイヤが見えにくい車両
  - 幌がはみ出し、後端形状がはっきりしない車両
  - 前方を横切って通過する車両
  - 斜めもしくは対面で止まっている車両

- **次のような場合は、前方の車両や歩行者、人が乗車している自転車を検知できないことがあります。**
  - 悪天候（雨、雪、霧、風塵、砂塵、吹雪など）で視界が悪いとき
  - 前方の車両や対向車などにより水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
  - カメラ前方のフロントガラスに汚れ、油膜、水滴、氷、雪などの付着やワイパーのふき残しがあるとき
  - カメラ前方のフロントガラスがくもっているとき
  - 前方から強い光（太陽光や対向車のハイビームなど）を受けているとき
  - 前方の強い光により前方車両のタイヤの部分が影になり見えにくいとき
  - 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、あるいはヘッドランプのレンズが極端に汚れているとき
  - 夜間やトンネル内などで前方の車両のテールランプが点灯していないとき
  - トンネルの出入り口や日陰など、急に明るさの変化が起こったとき
  - カーブを走行しているとき
  - 勾配の変化があるところを走行しているとき
  - 未舗装路など凹凸のある路面を走行しているとき
  - 歩行者が大きな荷物を持っている、背景と同じ色の服を着ているなど人特有の輪郭が認識できないとき
  - 太陽光などが前方車両から強く反射しているとき
  - 対象物の位置や動きが大きく変化した場合（自車の車線変更・右左折、前方車両の右左折・急ハンドル・急加速・急減速など）
  - e-POWERシステムを始動してから約15秒間
  - e-POWERシステム始動後、走行してからインテリジェント エマージェンシーブレーキシステムが1回も障害物を検知していないとき
  - カメラの視界が遮られているとき（フロントガラスの汚れ、油膜、虫汚れ、ワイパーブレード）

⚠ 警告

— カメラの向きがずれているとき

— 雪や氷、泥などがレーダーセンサー周辺に付着しているとき

— 放送局など周辺の電波源により影響を受けているとき

— オートバイのような幅が狭い車両が前方を走行しているとき

— 子供用の自転車、大きい荷物を載せた自転車、2人以上乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンデム自転車など）

● **次の例のような周辺状況では対象物の形状を正しく検出できずシステムが作動しない場合があります。**

— 対象物が背景と似た色合いで区別ができない場合

— 対象物が道路標示（道路上の横断歩道、制限速度などの標示）の近くにある場合

— 対象物が路面の水たまりの付近にある場合（周りの風景が水たまりに映り込むなど）

— 対象物が建物や街路樹などの影と重なっているとき

— 対象物と自車の間に水蒸気や煙などがあるとき

● **次の対象物にはシステムが作動しない場合があります。**

— 歩行者、人が乗車している自転車の移動速度が速いとき

— 対向して接近する歩行者、自転車

— 歩行者の姿勢や手足の状態（手を上げているなど）により、歩行していると特定できないとき

— 夜間やトンネル内など暗い場所にいる歩行者

— 車高の低い車両または最低地上高（地面から車体までの高さ）が極端に低いもしくは極端に高い車両

— 特殊な形状の車両（タンクローリー、サイドカーなど）

— 前方の至近距離に割り込んだ車両

— 前方の至近距離に飛び出してきた歩行者、自転車

— 自車の正面から横にずれた位置に存在する車両や歩行者、人が乗車している自転車

— 後端面積が小さい車両（空荷のトラックなど）

— リヤタイヤから車両後端までが長い車両

— 四輪車以外の車両（二輪車など）

— 荷台から荷物や幌がはみ出している車両

— ショッピングカート、ベビーカー、自転車などを押しているとき

● **次の例のような場合、衝突するおそれがある対象を正しく検出できない場合があります。**

— 複数の対象物同士が近接している場合

— 衝突するおそれのある対象の二輪車または車高の低い車両の前方近くに車両がいる場合

● **外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。**

● **次のような場合は、システムが機能を十分に発揮できないことがあります。**

— 滑りやすい路面を走行しているとき

— 勾配のある路面を走行しているとき

— 外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき

— 下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき

— 水たまり走行後や洗車後などブレーキが濡れてブレーキの効きが悪くなっているとき

— 長期間駐車などで、ブレーキの性能が十分に発揮できないとき

— 摩耗しているタイヤ、空気圧不足のタイヤ、スペアタイヤのような非常用タイヤ、日産純正品以外のタイヤ、日産販売会社以外で購入したタイヤを使用しているとき

— タイヤチェーンを装着しているとき

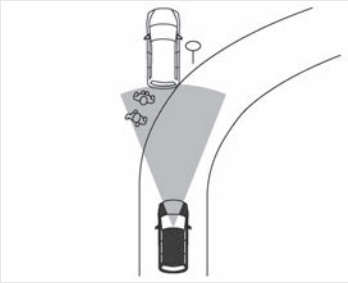
— 純正品以外のブレーキ部品、サスペンション部品を使用しているとき

⚠ 警告

— 車両が傾いているとき（車両後部に極端に重い荷物を積んでいるとき）

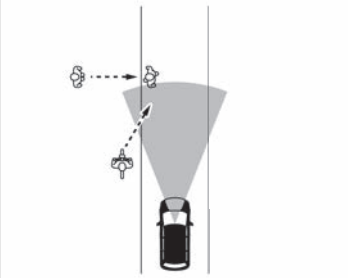
- **路面または壁面の影や模様・ペイント（かすれた道路標示や漢字で構成される特殊な道路標示、濡れた路面に映り込んだ模様、わだちなどや光の反射を含む）、前方の道路構造物（トンネル、高架橋、交通標識、道路脇に設置された反射器（リフレクター）、反射シート、ガードレール、カーブミラー、電柱や電線、看板）などで構成される形状が、車両や歩行者、自転車の輪郭の特徴や車両のテールランプの大きさ・位置などと似通っている場合、システムが作動する場合があります。**
- **右左折中の先行車にシステムが作動を継続する場合があります。**
- **前の車両に接近し追い越す場合、システムが作動する場合があります。**
- **道路形状（カーブ、カーブの出入り口、ワインディング、車線規制や工事中など）によっては、一時的に自車正面の対向車にシステムが作動する場合があります。**
- **自転車で走行している人を歩行者と検知し、システムが作動する場合があります。**
- **次のような物に反応し、システムが作動する場合があります。**

— 道路脇にある物（道路標識、ガードレール、歩行者、自転車、人が乗車している自転車、車両など）



— 道幅が狭い路地などを走行する際の歩行者・人が乗車している自転車

— 路肩の障害物を避けるため、一時的に自車前方の走行レーンにはみ出したり、近づいたりする歩行者や人が乗車している自転車



— 路面上にある物（線路、格子、鉄板など）

— 駐車場内にある物（梁など）

— 走行車線または隣接する車線の歩行者、車両など

— 走行車線または隣接する車線に近づいてくる歩行者、車両など

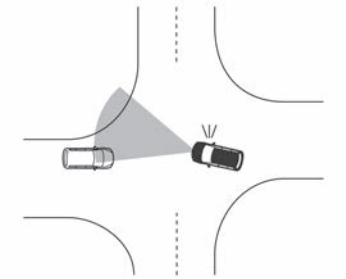
— 対向して接近する歩行者

— 走行路にある物（近接する樹木など）

交差点支援（右左折）★について

- **交差点支援（右左折）は次のような障害物を検知しません。**

— 自車正面の対向車両



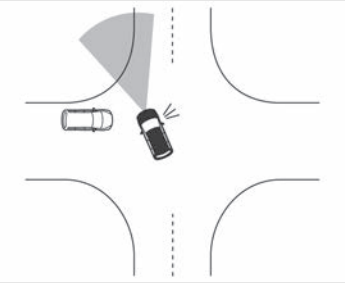
- **次の場合、交差点支援（右左折）が正しく作動しないか、衝突するおそれがある対象を正しく検出できない場合があります。**

— 対向車から2車線以上離れた車線を走行しているとき

— 対向車が自車の正面から大きく外れているとき

⚠ 警告

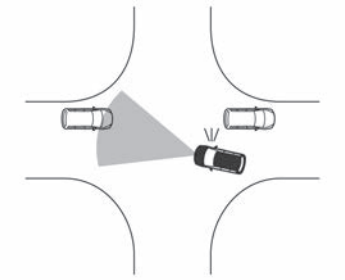
— 対向車線を横断しているときに、対向車が接近してきたとき



— 急カーブを曲がるとき

— 中央線を認識していないとき

— 対向車が連続しているとき



— 車線幅が極端に広いもしくは狭いとき

— 中央線が道路標示の近くにあるとき

● **次の場合、衝突のおそれがあるとシステムが判断し、交差点支援（右左折）が作動する場合があります。**

— 対向車または横断歩行者が前方を通過したとき

— 対向車または横断歩行者の手前を通過しようとしたとき

— 対向車または横断歩行者が自車の進路に入る手前で停止したとき

— 対向車が自車の前方で右折または左折したとき

● **次のようなものに反応し、交差点支援（右左折）が作動する場合があります。**

— 急ハンドルや急減速などで、動きが予測できない対向車

交差点支援（出会頭車両）★について

● **次の場合、交差点支援（出会頭車両）は車両を検知できない場合があります。**

— 車両の全長が長い場合（大型トラック、トレーラーなど）

— 車両が構造物や他の車両によって隠れている場合

● **次の場合、交差点支援（出会頭車両）は、車両が接近していなくても作動する場合があります。**

— 壁、ガードレール、または他の車両など、電波を反射する物体が自車に近い場合

— 車両の上を横切る物体がある場合（高架道路など）

インテリジェント エマージェンシーブレーキの作動が停止するとき

● 次の場合、インテリジェント エマージェンシーブレーキ警告灯［ ］が点灯し、作動が停止します。

— インテリジェント エマージェンシーブレーキの設定をOFFにしたとき

● 次の場合、インテリジェント エマージェンシーブレーキ警告灯［ ］が点灯するとともに、アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告を表示し、システムが一時的に作動しなくなります。

— VDCをOFFにしたとき

— フロントガラスの汚れなどにより、カメラの前方視界が遮蔽されていると判断したとき

— 前方からの強い光により、カメラが前方を認識できなくなったとき

— 炎天下に駐車したときなど、カメラが高温になったとき
（車室内の温度が下がると、作動を復帰します）

— 悪天候（雨、雪、霧、風塵、砂塵、吹雪など）で視界が悪いとき

— フロントガラスの結露やくもりなどにより、マルチセンシングフロントカメラが前方を認識できなくなったとき

— 周辺の電波源の影響を受けているときシステムが停止したときの状態が改善されると、自動的に作動を再開します。

— 車両前部に取り付けられたレーダーセンサー周辺に雪や氷、泥などが付着しているとき
上記警告が表示されたときは、安全な場所に停車し、一度e-POWERシステムを停止してからレーダーセンサーおよびその周辺の汚れを取り除き、e-POWERシステムを再始動してください。
— 道路形状や周辺の建造物（長い橋、雪原、長い壁の横など）により、レーダーセンサーが先行車を正確に検知できないとき
上記の状況から離れるとシステムは自動的に作動を再開します。
— 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯せず、真っ暗な状態が継続したとき
— インテリジェント エマージェンシーブレーキのシステムチェックが正常に終了しなかったとき
— けん引されているとき

● システムに異常があると、警告音が鳴るとともにインテリジェント エマージェンシーブレーキ警告灯［ ］が点灯し、アドバンスドドライブアシストディスプレイ内に警告が表示され、システムが停止します。
➔インテリジェント エマージェンシーブレーキ警告灯（P.267）
➔インテリジェント エマージェンシーブレーキシステム故障警告（P.279）

● e-POWERシステムが始動してから約15秒間はシステムチェックのためインテリジェント エマージェンシーブレーキシステムは作動しません。
（システムチェックが完了しなかった場合、アドバンスドドライブアシストディスプレイ内に［現在一部の運転支援を制限しています］という警告が表示されます）

● VDCをOFFにしたときは、接近警報のみ作動します。

アドバイス

● システムを正しく作動させるためにカメラ前方のフロントガラスはいつもきれいにしておいてください。マルチセンシングフロントカメラの取り扱いについては、（➔P.308）をお読みください。

● インテリジェント エマージェンシーブレーキ警告灯［ ］が点灯したときは、安全な場所に停車し、一度e-POWERシステムを停止してから再始動してください。
上記の操作をしても、警告灯が点灯し続けるときはシステムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。
➔インテリジェント エマージェンシーブレーキ警告灯（P.267）

踏み間違い衝突防止アシスト

踏み間違い衝突防止アシストは、マルチセンシングフロントカメラ、インテリジェント アラウンドビューモニターカメラ（リヤビューカメラ）★とソナーで進行方向に壁などの障害物、車両や歩行者を検知し、駐車操作時など低速のときにブレーキペダルと間違えてアクセルペダルを踏み込む、あるいはブレーキ操作が遅れたときに運転者に音と表示で警告します。

さらにe-POWERシステムやブレーキを制御することで、過度な加速の防止や障害物への衝突防止を支援します。

システムに関連する表示

警告

● **機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がける。**
踏み間違い衝突防止アシストは、アクセルペダルとブレーキペダルの踏み間違えにより引き起こされる暴走や衝突事故の軽減を目的とした補助機能です。あらゆる状況で効果があるわけではありません。運転者は周囲の安全確認を行い、常に注意深い運転操作を心がけて走行してください。

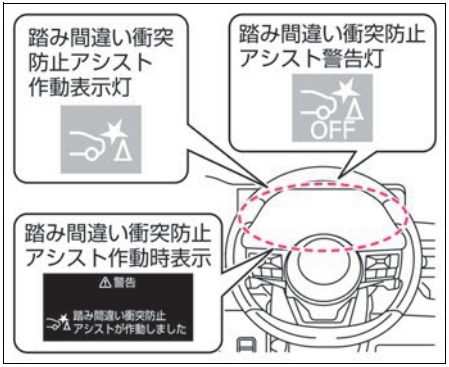
● **ソナーやマルチセンシングフロントカメラ、インテリジェント アラウンドビューモニターカメラ（リヤビューカメラ）★の性能には限界があるため、システムだけに頼った運転はせず、常に安全運転を心がけてください。詳細については、各検知条件と制限をお読みください。**
➔マルチセンシングフロントカメラの検知条件と制限（P.148）

⚠ 警告

➲ ソナーの検知条件と制限 (P.149)

➲ インテリジェント アラウンドビューモニターカメラの検知条件と制限 (P.217)

- 踏み間違い衝突防止アシストが作動すると、警告音（ブザー）が鳴るとともに作動時表示と作動表示灯が表示されます。インテリジェント アラウンドビューモニター付車は、インテリジェント アラウンドビューモニター画面に赤枠が表示されます。



踏み間違い衝突防止アシストの作動

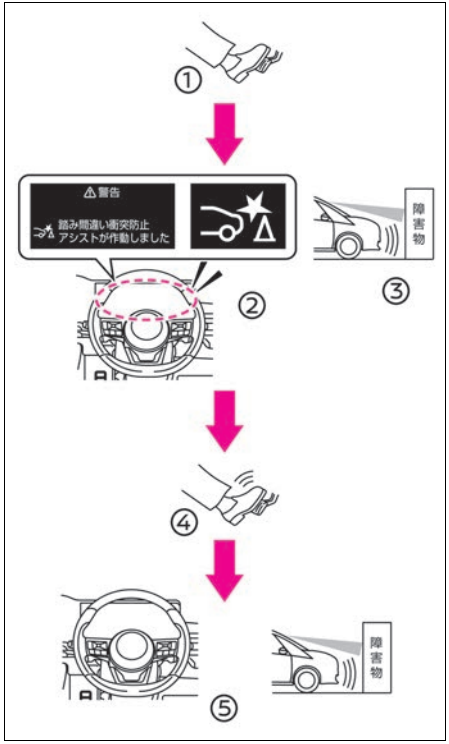
前進時

- フロントガラス上部のマルチセンシングフロントカメラにより前方の車両や歩行者を検知し、フロントバンパーに取り付けられたソナーにより、前方の障害物を検知します。

後退時

- リヤナンバープレート上部のインテリジェント アラウンドビューモニターカメラ（リヤビューカメラ）★とリヤバンパーに取り付けられたソナーにより、後方の障害物を検知します。
- 踏み間違い衝突防止アシストには、2つの機能があります。
  - 低速加速抑制機能
  - 低速衝突軽減ブレーキ機能

低速加速抑制機能

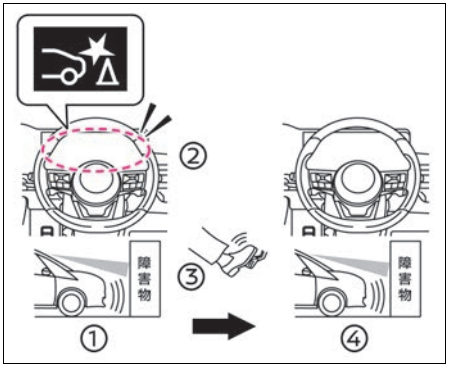


① アクセル誤踏み込み
② 警報音と作動表示
③ 低速加速抑制
④ ブレーキ
⑤ 停車、作動停止

- 前進または後退時（停車時含む）、進行方向に車両や歩行者（前進時）、壁などの障害物を検出している場合に、アクセルペダルが必要以上に踏み込まれたとシステムが判断すると、約6秒間加速を抑制したり、弱いブレーキをかけたりすることで車速が上がることを抑えます。
- 次の車速範囲で作動します。
  - 車両、歩行者に対しては、車速約0～25km/h
  - 壁などの障害物に対しては、車速約0～15km/h
- 低速加速抑制機能が作動しているときは、警報音（ブザー）と踏み間違い衝突防止アシスト作動表示灯が表示します。また、アドバンスドドライブアシストディスプレイの表示によって運転者に警告します。

➔ 踏み間違い衝突防止アシスト作動時表示（P.272）

低速衝突軽減ブレーキ機能



① 低速衝突軽減ブレーキ
② 警報音と作動表示
③ ブレーキ
④ 停車、作動停止

- 前進、または後退時、進行方向に車両や壁などの障害物を検知し、衝突するおそれがあるとシステムが判断すると、e-POWERシステムの出力の制御、およびブレーキをかけて衝突を回避、または被害の軽減をします。
- 歩行者検知機能★は、後退時、進行方向に歩行者を検知し、衝突する恐れがあるとシステムが判断すると、e-POWERシステムの出力の制限、およびブレーキをかけて衝突を回避、または被害の軽減をします。
- 低速衝突軽減ブレーキ機能は、車速約15km/h以下のとき作動します。
- 低速衝突軽減ブレーキ機能が作動すると、警報音（ブザー）と踏み間違い衝突防止アシスト作動表示灯の表示によって運転者に警告します。
- 低速衝突軽減ブレーキ機能が作動したときは、制動灯が点灯します。
- 低速衝突軽減ブレーキ機能が作動しているときは、作動音が聞こえることがありますが異常ではありません。

低速衝突軽減ブレーキが作動するとき・しないとき

車止めのない駐車場などで、壁などに衝突しそうになったとき

万一、運転者のブレーキ操作が遅れ、壁などに衝突するおそれがあるとシステムが判断すると、警報音（ブザー）と踏み間違い衝突防止アシスト作動表示灯が表示し、ブレーキをかけて衝突を回避または被害を軽減します。

- ブレーキ制御が作動したあと、再び同じ障害物に近づいたときは作動しません。
- アクセルペダルまたはブレーキペダルを踏んで前進・後退する状況などでは作動が遅れ十分に機能しない場合があります。

縦列駐車をするとき

シフトポジションをDからR、またはRからDに切り替えたときは、<シフトスイッチ>の操作を繰り返すたびに進行方向の障害物を検知してブレーキ制御が作動します。

- ブレーキ制御が作動したあと、シフトポジションを切り替えずにさらに同じ障害物に向かって前進、または後退をした場合は、ブレーキ制御は作動しません。
- アクセルペダルを踏んでいるときは作動が遅れることがあります。
- シフトポジションがRのときは、前方の障害物に対しては作動しません。同様に、シフトポジションがDまたはBのときは後方の障害物に対して作動しません。
- 障害物に対し斜めに接近すると作動しないことがあります。
- 幅の狭い障害物に対しては作動しないことがあります。
- 他の車両が自車に対して横にずれた位置にあるときは、作動しないまたは作動が遅れることがあります。

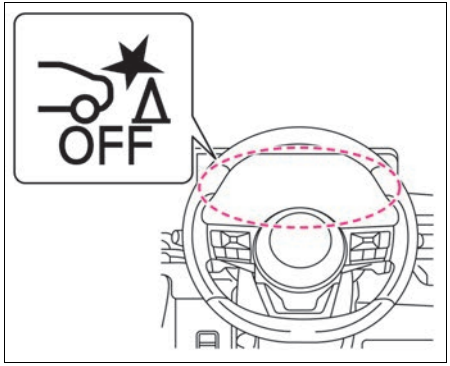
並列駐車をするとき

- 狭いスペースに進入するときに作動することがあります。

- 他の車両の角部に向かって接近したときは作動しません。
- 他の車両が自車に対して横にずれた位置にあるときは、作動しないまたは作動が遅れることがあります。
- シフトポジションがRのときは、前方の障害物に対しては作動しません。同様に、シフトポジションがDまたはBのときは後方の障害物に対して作動しません。
- 壁から突き出している柱や配管などの障害物に対しては作動しません。
- 低い障害物に対しては作動しません

踏み間違い衝突防止アシストの停止のしかた

- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［運転支援］⇒［緊急支援］⇒［踏み間違い衝突防止支援］を選択すると、踏み間違い衝突防止アシストのON・OFFを切り替えることができます。
  設定の詳細については、運転支援（➔P.57）をお読みください。
- 機能をOFFにすると、踏み間違い衝突防止アシスト警告灯が点灯し、システムが停止します。



- シフトポジションをRにしてソナー表示中にステアリングスイッチの<OK>スイッチを押すと、一時的に後方の低速加速抑制機能、低速衝突軽減ブレーキ機能を停止できます。
- e-POWERシステムを再始動するとONになります。

踏み間違い衝突防止アシストに関する注意事項

⚠ 警告

- **故意にアクセルペダルを踏み込まない。**

  車両が急に動き出し思わぬ事故につながるおそれがあります。また、低速加速抑制機能は、アクセルペダルをゆっくりと深く踏み込んだときには作動しません。

- **次の場合は、予期せずシステムが作動し、思わぬ事故につながるおそれがあるため、踏み間違い衝突防止アシストをOFFにする。**
  - けん引するとき
  - トレーラーなどに積載するとき
  - 点検などでシャシーダイナモを使用するとき
  - 純正品以外のサスペンション部品を使用しているとき
    （車高や車両の傾きが変わると正しく障害物を検知できないことがあります）
  - センサーを妨げるようなバイクラックなどを装着しているとき
- **外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。**

低速衝突軽減ブレーキ機能について

- **ブレーキ制御は短時間しか作動しません。必ず運転者がブレーキペダルを踏んでください。**

  低速加速抑制機能が作動したあとに低速衝突軽減ブレーキ機能が作動したときは、車両が停車してから約2秒後にブレーキが解除され、車両が動き出します。

⚠ 注意

低速衝突軽減ブレーキ機能について

- **システムの作動を待たず、すみやかにブレーキ操作を行う。**

⚠ 注意

車両の状態、走行状況、交通環境、天候、路面状況などにより作動しない場合や、本来の性能を発揮できないことがあります。

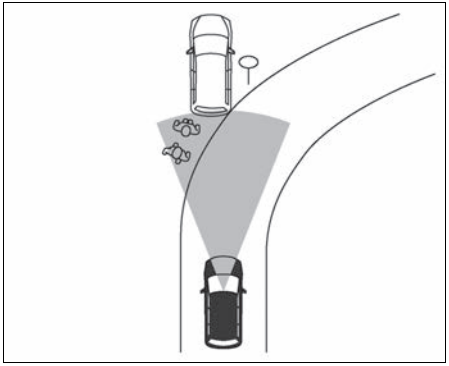
- **アクセルペダルを踏んだ状態で障害物に接近したときは、作動が遅れることがあります。**

アドバイス

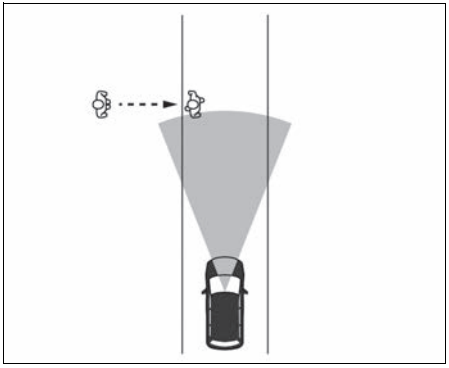
- 次の場合は、システムが正常に作動しない、または機能を十分に発揮できないことがあります。
  - 悪天候（雨、霧、雪など）のとき
  - 勾配が急な坂道を走行しているとき
  - 段差などをまたいでいるときなど車両姿勢が変化しているとき
  - 滑りやすい路面を走行しているとき
  - ハンドルを大きく切って旋回しているとき
  - 外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
  - 下り坂などでブレーキが過熱、または水たまり走行後や洗車後などでブレーキが濡れてブレーキの効きが悪くなっているとき
  - 長期間駐車などで、ブレーキの性能が十分に発揮できないとき
  - 摩耗しているタイヤ、空気圧不足のタイヤ、スペアタイヤのような非常用タイヤ、日産純正品もしくは日産販売会社で購入したタイヤ以外を使用しているときや、タイヤチェーンを装着しているとき
  - 車両が傾いているとき（後席やラゲッジルームに極端に重い荷物を積んでいるとき）
- 動いている物体に対しては踏み間違い衝突防止アシストは作動しません。（前方の車両、歩行者を除く）

低速加速抑制機能について

- ソナーで検出した壁や車両などの大きな障害物に対して作動します。車両の幅以下の障害物は検知しません。
- マルチセンシングフロントカメラで検出した衝突のおそれのある前方の車両や歩行者に対して作動します。
- 低速加速抑制機能は、運転者がアクセルペダルを戻すと解除されます。
- 渋滞中などで前方にいる車両を追い越すときなどに低速加速抑制機能が一時的に作動することがあります。
- 信号待ちや右折待ちなどで、車間距離の短い状態から前の車に続いて発進する際、アクセルペダルをすばやく深く踏み込むと低速加速抑制機能が一時的に作動することがあります。
- 次の場合は作動しません。
  - アクセルペダルをゆっくりと踏み込んだとき
  - ブレーキペダルを踏んでいるとき
  - シフトポジションがD、B、R以外のとき
  - トラクションコントロール機能（TCS）が作動しているとき
  - タイヤが空転しているとき
- 路面または壁面の模様・ペイント（かすれた道路標示や漢字で構成される特殊な道路標示を含む）、前方の道路構造物（トンネル、高架橋、交通標識、車両脇に設置された反射器（リフレクター）、反射シート、ガードレール）などで構成される形状が、車両や歩行者の輪郭の特徴や車両のテールランプの大きさ・位置などと似通っている場合、マルチセンシングフロントカメラが対象物の形状を正しく検出できずシステムが作動する場合があります。
- 自転車で走行している人を歩行者と検知し、システムが作動する場合があります。
- 次のような物に反応し、システムが作動する場合があります。
  - 道路脇にある物（道路標識、ガードレール、歩行者、車両など）



— 歩行者が自車前方の走行レーンに近づいた場合



— 道路上方にある物（低い橋、道路標識など）
— 路面上にある物（線路、格子、鉄板など）
— 駐車場内にある物（梁など）
— 走行車線または隣接する車線の歩行者、車両など
— 走行車線または隣接する車線に近づいてくる歩行者、車両など
— 対向して接近する歩行者
— 走行路にある物（近接する樹木など）

低速衝突軽減ブレーキ機能について

- ブレーキ制御が作動したあと、再び同じ障害物に近づいても作動しません。
- 次の場合は作動しません。
  — シフトポジションがD、B、R以外のとき
- シフトポジションがRのときは、前方の障害物に対しては作動しません。同様に、シフトポジションがDまたはBのときは後方の障害物に対して作動しません。

踏み間違い衝突防止アシストの作動が停止するとき

- 次の場合、踏み間違い衝突防止アシスト警告灯［ ］が点灯し、作動が停止します。
  — 踏み間違い衝突防止アシストの設定をOFFにしたとき
  — VDCをOFFにしたとき
  — 駐車支援機能（フロントソナー、コーナーソナー、バックソナー）に異常が発生しているとき
- 踏み間違い衝突防止アシストが一時的に作動できなくなったときは、踏み間違い衝突防止アシスト警告灯［ ］がゆっくり点滅します。
- システムに異常があると、警告音が鳴るとともに踏み間違い衝突防止アシスト警告灯［ ］が点灯し、アドバンスドドライブアシストディスプレイ内に警告が表示され、システムが停止します。

➔ 踏み間違い衝突防止アシスト警告灯（P.267）
➔ 踏み間違い衝突防止アシスト作動時表示（P.272）

アドバイス

- システムを正しく作動させるためにソナー、マルチセンシングフロントカメラ、インテリジェント アラウンドビューモニターカメラ（リヤビューカメラ）★はいつもきれいにしておいてください。各センサー、カメラ類の取り扱いについては（➔P.308）、（➔P.309）、（➔P.310）をお読みください。
- 踏み間違い衝突防止アシスト警告灯［ ］が点灯したときは、安全な場所に停車し、一度e-POWERシステムを停止してから再始動してください。

  上記の操作をしても、警告灯が点灯し続けるときはシステムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

  ➔ 踏み間違い衝突防止アシスト警告灯（P.267）

BSW（後側方車両検知警報）★／インテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）★

BSW（後側方車両検知警報）は、車線変更をするとき、隣車線に車両がいる場合に警報によって運転者に注意を促します。インテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）は、隣車線に車両がいるときに運転者が車線変更を開始した場合、警報とともに車両を元の車線内に戻す方向に力を発生させ、隣接車両との接触を回避するよう支援します。

システムに関連する表示

⚠ 警告

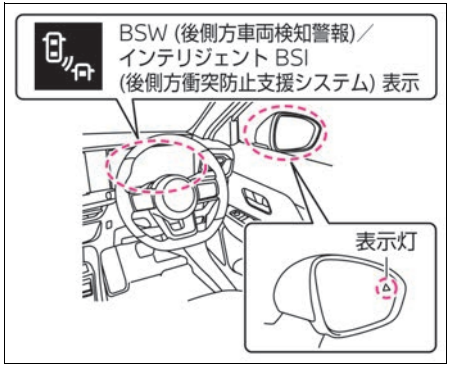
- **機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がける。**

  BSW（後側方車両検知警報）およびインテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）は、ドアミラーによる周囲の検知を代わりに行ったり、車両や障害物との接触を防いだりする機能ではありません。車線変更を行うときは、機能に頼った確認をせず、必ずドアミラーおよびルームミラーで側方および後方の安全を確認してください。

- **レーダーやマルチセンシングフロントカメラの性能には限界があるため、システムだけに頼った運転はせず、常に安全運転を心がけてください。詳細については、各検知条件と制限をお読みください。**

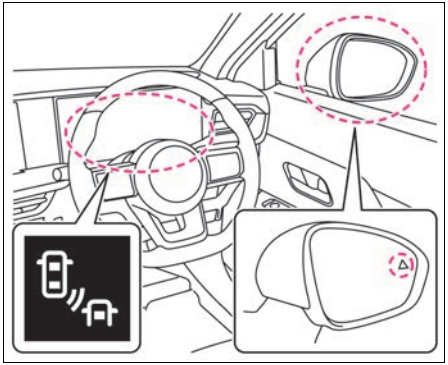
➔ レーダーセンサーの検知条件と制限（P.147）

➔ マルチセンシングフロントカメラの検知条件と制限（P.148）



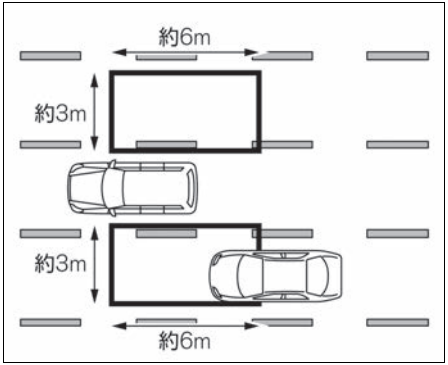
BSW（後側方車両検知警報）について

- 車両後部のレーダーセンサーにより隣車線の車両を検知します。
- 車速約30km/h以上で作動します。
- レーダーセンサーにより隣車線の車両を検知すると、検知した側のドアミラー鏡面の表示灯が点灯します。
- 隣車線の車両を検知しているときに、検知している側に方向指示器を作動させると、警報音（ブザー）とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイのBSW（後側方車両検知警報）表示と、ドアミラー鏡面の表示灯が点滅します。



検知範囲について

- レーダーセンサーは、自車の左右にある検知範囲内にいる車両を検知します。
- 検知範囲は、自車のドアミラーから後方に約6m、車両の側面から横方向に約3mです。

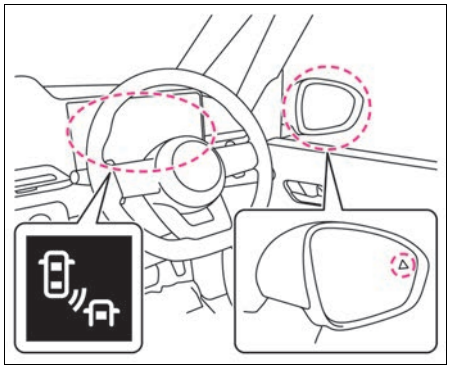


- ドアミラー鏡面の表示灯は<パワースイッチ>をONにすると点灯し、数秒後に消灯します。
- ドアミラー鏡面の表示灯の明るさは車両周囲の明るさによって切り替わります。
- 方向指示器が作動しているときに、レーダーセンサーにより隣車線の車両を検知した場合には、表示灯は点滅しますが警報音（ブザー）は鳴りません。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイを運転支援に切り替えると、BSW（後側方車両検知警報）の設定状態をアドバンスドドライブアシストディスプレイ内で確認することができます。
  詳しくは、➔ 走行支援グループ（表示項目）（P.55）をお読みください。

インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）について

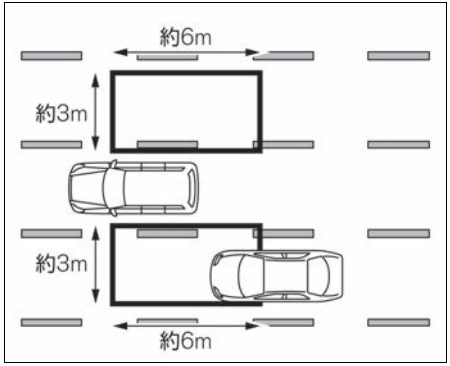
- 車両後部のレーダーセンサーにより隣車線の車両を検知します。また、ルームミラー上方に取り付けられたカメラを使用し、走行している車線のレーンマーカーを検知します。
- 約60km/h以上で走行中に隣車線の車両を検知しているとき、検知している側のレーンマーカーに自車が接近すると、警報音（ブザー）とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイのインテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）表示と、ドアミラー鏡面の表示灯が点滅します。同時にステアリングを制御し、車両を車線内に戻す操作を支援します。

レーンマーカーとは、車線の右側もしくは左側に引かれた線のことを示します。



検知範囲について

- レーダーセンサーは、自車の左右にある検知範囲内にいる車両を検知します。
- 検知範囲は、自車のドアミラーから後方に約6m、車両の側面から横方向に約3mです。



- あらかじめ表示灯が点灯した状態で自車がレーンマーカーに接近すると、警報とステアリング制御の両方が作動します。ただし、自車がレーンマーカーと交差してから検知範囲に車両が入ってきたときは、警報とステアリング制御は作動しません。
- インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）は、インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）よりも先に作動します。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイを運転支援に切り替えると、インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）の作動状態をアドバンスドドライブアシストディスプレイ内で確認することができます。
  詳しくは、➔ 走行支援グループ（表示項目）（P.55）をお読みください。

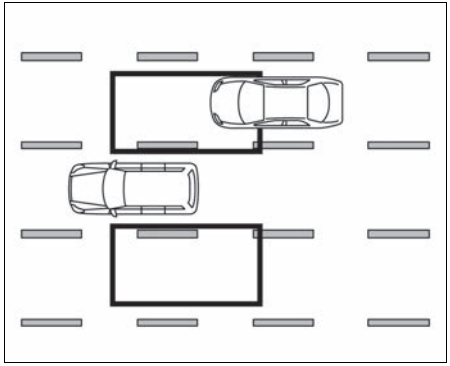
作動するとき・しないとき

⚠ 注意

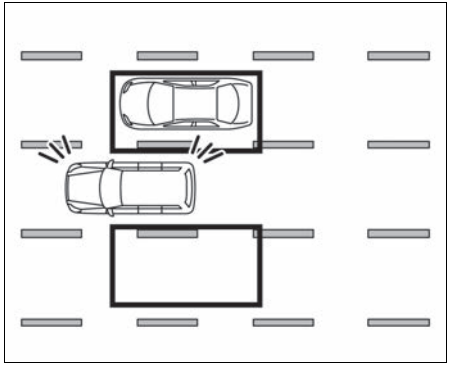
- **車線変更を行うときは、必ずドアミラーおよびルームミラーを使用して周囲の安全を確認する。**
  自車より極端に速い速度で接近してくる車両は検知できないことがあります。

後方から車両が接近してくるとき

- 後方から車両が接近してくる場合、その車両が検知範囲内に入るとドアミラー鏡面の表示灯が点灯します。



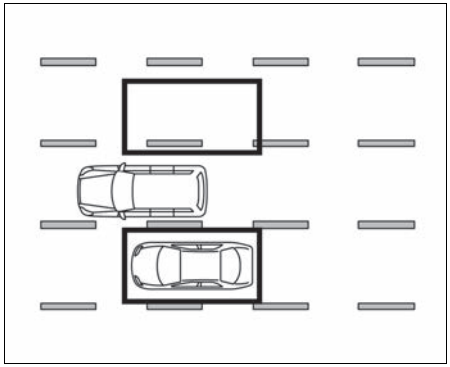
● 車両を検知しているときに、検知している側に方向指示器を作動させると警報音（ブザー）が鳴るとともに、BSW（後側方車両検知警報）／インテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）表示とドアミラー鏡面の表示灯が点滅します。



● 方向指示器を作動したあとに、検知範囲に車両が入ってきたときは、BSW（後側方車両検知警報）／インテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）表示とドアミラー鏡面の表示灯は点滅しますが警報音（ブザー）は鳴りません。

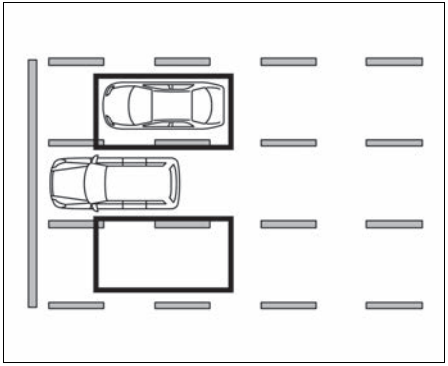
● 自車がレーンマーカーと交差してから検知範囲に車両が入ってきたときは、警報とステアリング制御は作動しません。

● 車両を検知しているときに、検知している側のレーンマーカーに接近すると、警報音（ブザー）が鳴るとともにBSW（後側方車両検知警報）／インテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）表示とドアミラー鏡面の表示灯が点滅します。同時にステアリングを制御し、車両を車線内に戻す操作を支援します。



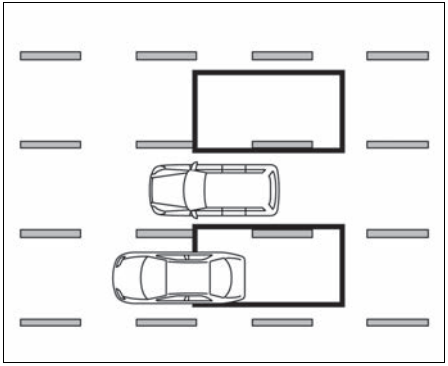
発進するとき

● 停車状態から検知範囲に居続ける車両は検知できないことがあります。



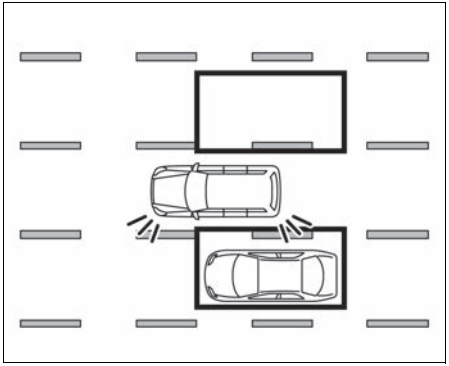
他の車両を追い越すとき

● 他の車両を追い越すとき、追い越される車両が検知範囲内に2秒以上とどまるとドアミラー鏡面の表示灯が点灯します。



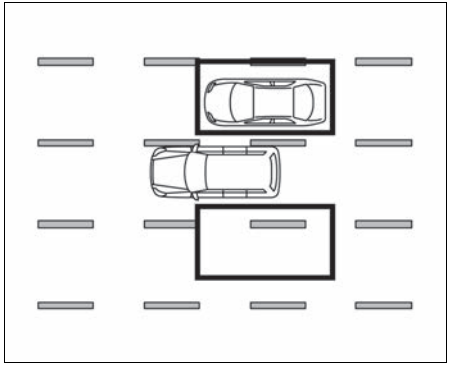
● 車両を検知し表示灯が点灯しているときに、検知している側に方向指示器を作動させると警報音（ブザー）が鳴るとともに、BSW（後側方車両検知警報）／イン

テリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）表示とドアミラー鏡面の表示灯が点滅します。



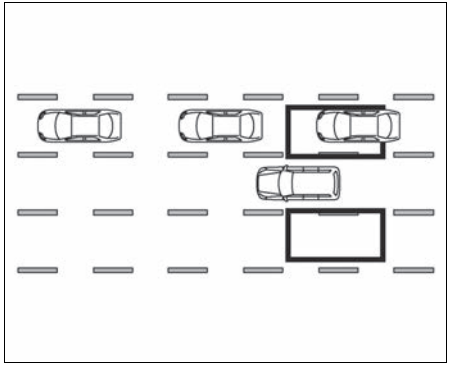
● 速度の遅い車両をすばやく追い越したときはシステムが検知しません。

● 車両を検知しているときに、検知している側のレーンマーカーに接近すると、警報音（ブザー）が鳴るとともにBSW（後側方車両検知警報）／インテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）表示とドアミラー鏡面の表示灯が点滅します。
同時にステアリングを制御し、車両を車線内に戻す操作を支援します。



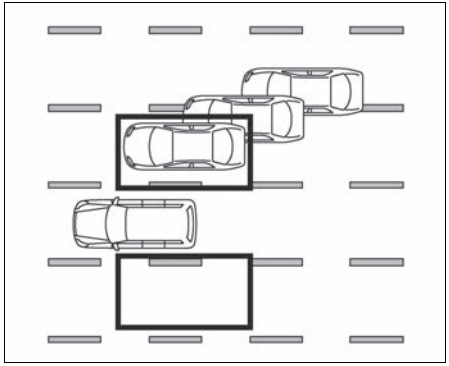
他の車両に追い越されるとき

● 複数の車両に連続して追い越されるとき、追い越す車両の車間距離が短い場合は、2台目以降が検出されないことがあります。

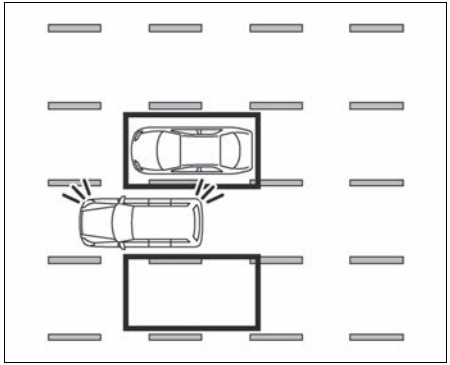


他の車線から車両が接近してきたとき

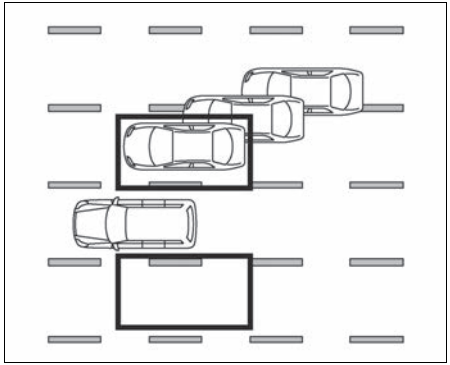
● 車線変更などで車両が接近してきたときは、検知範囲内に入るとドアミラー鏡面の表示灯が点灯します。



● 車両を検知しているときに、検知している側に方向指示器を作動させると警報音（ブザー）が鳴るとともに、BSW（後側方車両検知警報）／インテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）表示とドアミラー鏡面の表示灯が点滅します。

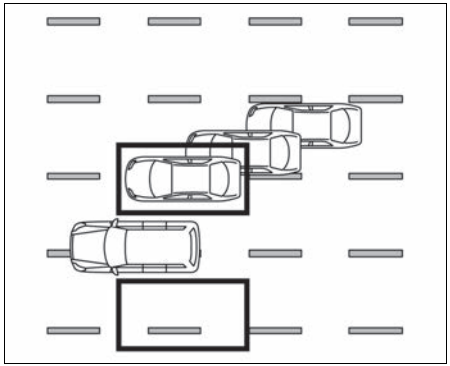


- 自車とほぼ同じ速度で走行する車両が車線変更してきた場合、検出できないことがあります。
- 方向指示器を作動させたあとに、検知範囲に車両が入ってきたときは、BSW（後側方車両検知警報）／インテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）表示とドアミラー鏡面の表示灯は点滅しますが警報音（ブザー）は鳴りません。
- 車両を検知しているときに、検知している側のレーンマーカーに接近すると、警報音（ブザー）が鳴るとともにBSW（後側方車両検知警報）／インテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）表示とドアミラー鏡面の表示灯が点滅します。
  同時にステアリングを制御し、車両を車線内に戻す操作を支援します。



自車がレーンマーカーの上を走行しているとき

- 検知範囲に車両が入ってもインテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）は作動しません。
  この場合、BSW（後側方車両検知警報）のみが作動します。



BSW（後側方車両検知警報）／インテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）の使いかた

BSW（後側方車両検知警報）

- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［運転支援］⇒［後側方支援］⇒［後側方車両検知警報］を選択すると、BSW（後側方車両検知警報）機能のON・OFFを切り替えることができます。
  設定の詳細については、運転支援（➔P.57）をお読みください。

インテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）

- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［運転支援］⇒［後側方支援］⇒［後側方衝突防止支援］をONにするとシステムがONになります。
  設定の詳細については、運転支援（➔P.57）をお読みください。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［運転支援］⇒［後側方支援］⇒［後側方衝突防止支援］でOFFにすると、インテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）だけをOFFにできます。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイのON・OFF設定は、e-POWERシステムを停止しても再度設定を変更するまでその状態が維持されます。

BSW（後側方車両検知警報）／インテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）に関する注意事項

⚠ 警告

- **次のような状況では、思わぬ事故につながるおそれがあるためインテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）を使用しないでください。**
  - 悪天候（雨、雪、霧など）のとき
  - 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
  - 急なカーブ、急な上り坂・下り坂が繰り返されるとき
  - 工事中の道路や車線規制がある道路を走行するとき
  - 車線の幅が狭い道路を走行するとき
  - 摩耗しているタイヤ、空気圧不足のタイヤ、スペアタイヤ、タイヤチェーンを装着しているときや、日産純正品もしくは日産販売会社で購入したタイヤ以外のタイヤを使用しているとき
  - 日産純正品以外のステアリング部品、ブレーキ部品、サスペンション部品を使用しているとき
- **次のような車両は、正確に検知できず、システムが正しく作動しないおそれがあります。**
  - 背の低い車両や、オートバイなどの幅の狭い車両
  - 停車状態から検知範囲に居続ける車両
  - 後方から速い速度で接近してくる車両
  - 自車が速い速度で追い越した車両
  - 合流や車線変更で自車の横にほぼ同じ速度で移動してきた車両
- **次のような状況では、隣の車線の車両を検知できないことがあります。**
  - 車線の幅が極端に広い道路を運転しているとき
  - 悪天候（雨、雪、霧など）で視界が悪いとき
  - 水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
  - 雪や氷、泥などがレーダーセンサー周辺に付着しているとき
- **次のような状況では、レーンマーカーを正確に検出できず、適切な作動ができない場合があります。**
  - 検出しにくいレーンマーカー（不明瞭なレーンマーカー、黄色のレーンマーカー、一般的でないレーンマーカー、水たまり・汚れ・雪などで隠れているレーンマーカー）がある道路を走行するとき
  - 急なカーブのある道路を走行するとき
  - 消されたレーンマーカーがまだ見えている道路を走行するとき
  - 道路上に影、雪、水たまり、わだち、道路のつなぎ目、線状の補修痕などがあるとき（これらのものをレーンマーカーとして検出して警報したり、制御したりする場合があります）
  - 車線の分岐・合流のある道路を走行したとき
  - 自車がレーンマーカーに対してまっすぐに走行していないとき
  - 先行車との車間距離が短く、マルチセンシングフロントカメラの検出範囲が遮られるとき
  - 雨、雪、汚れなどがフロントガラスに付着しているとき
  - 放送局・レーダー搭載車両など周辺の電波源により影響を受けているとき
  - 汚れなどでヘッドランプの明るさが不十分なときやヘッドランプの光軸調整が適切に行われていないとき
  - 前方から強い光（太陽光など）を受けているとき
  - 急な明るさの変化が起こったとき（トンネルの出入り口など）
- **レーダーセンサー周辺へのステッカー（透明なものを含む）の貼り付け、アクセサリー類の取り付け、追加の塗装をしないでください。**

  車両を検知する性能が低下するおそれがあります。

⚠ 注意

- **レーダーセンサーは次のような障害物は検知しません。**
  - 歩行者、自転車、動物など
  - 対向車

- 車線の幅が極端に広い道路を運転する場合、隣車線の車両を検知できないことがあります。また、車線の幅が極端に狭い道路を運転する場合、2つ隣の車線にいる車両を検知することがあります。
- レーダーセンサーは静止している障害物を検知しないよう設計されていますが状況によっては、ガードレール、壁、植物、駐車された車両などを検知してしまうことがあります。
- 次の場合はステアリング制御を行いません。
  - 大きな減速が車にかかったとき
  - すばやいハンドル操作を行ったとき
  - インテリジェント クルーズコントロールの接近警報が鳴っているとき
  - インテリジェント エマージェンシーブレーキが作動しているとき
  - 非常点滅表示灯を作動させているとき
  - カーブでスピードを出して走行しているとき
- ステアリング制御しているとき、運転者がアクセルペダルを踏み増すとステアリング制御を中止します。

アドバイス

- 外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。

BSW（後側方車両検知警報）の作動が停止するとき

- 次の場合はアドバンスドドライブアシストディスプレイに［サイドレーダー及びその周辺が汚れています 拭いてください］と警告が表示され、一時的にシステムが停止します。
  - レーダーセンサーが汚れているとき
  - レーダーセンサーに雨、雪、氷などが付着しているとき
- システムに異常があると、アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告が表示され、システムが停止します。
  ➔ システム故障警告（P.273）

アドバイス

- レーダーセンサーの周辺が汚れているときは安全な場所に停車し、レーダーセンサー周辺の汚れなどを取り除いてからe-POWERシステムを再始動してください。レーダーセンサーの取り扱いについては、（➔P.308）をお読みください。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告が表示されたときは、安全な場所に停車し、一度e-POWERシステムを停止してから再始動してください。

e-POWERシステム再始動後も表示され続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）の作動が停止するとき

- 次の場合は“ポー”というブザー音とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイに［作動範囲外のため 現在使用できません］と警告が表示され、作動を解除します。
  - VDCをOFFにしたとき
  - ドライブモードをSNOWにしたとき（e-4ORCE（4WD）車）
- 次の場合は“ポー”というブザー音とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイに［滑りやすい路面のため 現在使用できません］と警告が表示され、作動を解除します。
  - ABSまたはVDC（トラクションコントロール機能（TCS）は含まない）が作動したとき

システムを再び作動させる場合は、解除されたときの状態が改善されてから一度システムをOFFにし、再度インテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）をONにしてください。

- 炎天下に駐車したときなど、マルチセンシングフロントカメラが高温になったときは、“ポー”というブザー音とともにアドバンスドドライブアシストディスプ

レイに警告が表示され、作動を解除します。システムを再び作動させる場合は、車室内の温度が下がってから再度システムをONにしてください。

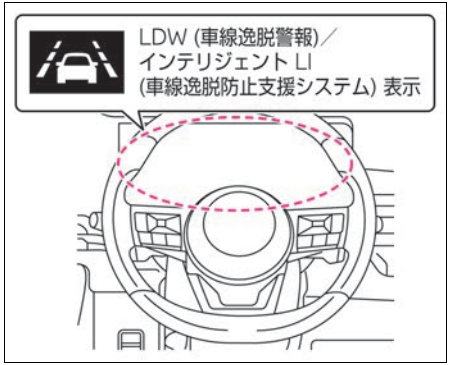
- 次の場合は "ポー" というブザー音とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイに［サイドレーダー及び その周辺が汚れています 拭いてください］と警告が表示され、システムが停止します。
  - サイドレーダー周辺が汚れているとき
  - サイドレーダー周辺に雨、雪、氷などが付着しているとき
- システムに異常があると、警告音が鳴るとともにアドバンスドドライブアシストディスプレイに［システム故障 取扱説明書を見てください］および、インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）表示がオレンジ色に点灯し、作動が停止します。

LDW（車線逸脱警報）／インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）

LDW（車線逸脱警報）は、運転者が意図せず走行車線から逸脱しそうなとき、警報によって注意を促します。

インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）は、運転者が意図せず走行車線から逸脱しそうなとき、運転者が車線内に戻す操作を支援します。

システムに関連する表示



⚠ 警告

- **機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がける。**

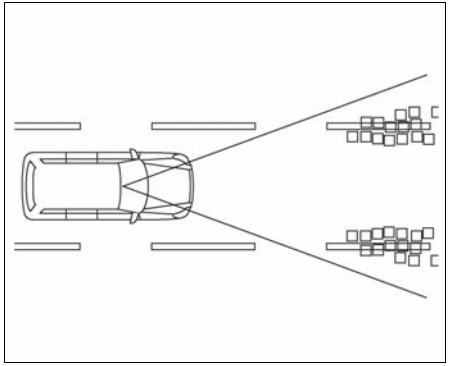
  LDW（車線逸脱警報）／インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）は、脇見運転やぼんやり運転などの前方不注意および雨、霧などの視界不良による危険を回避するものではありません。周囲の状況に応じてハンドル操作を行い、常に安全運転を心がけてください。

- **マルチセンシングフロントカメラの性能には限界があるため、システムだけに頼った運転はせず、常に安全運転を心がけてください。詳細については、検知条件と制限をお読みください。**

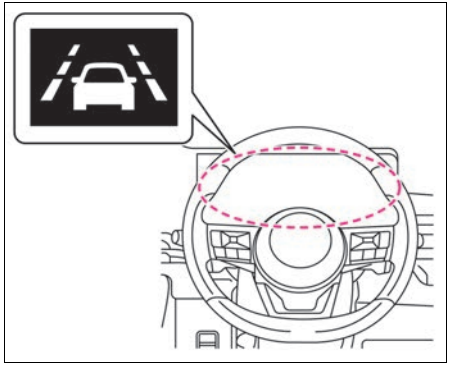
➔ マルチセンシングフロントカメラの検知条件と制限（P.148）

LDW（車線逸脱警報）について

- フロントガラス上部のマルチセンシングフロントカメラにより走行車線のレーンマーカーを検知します。



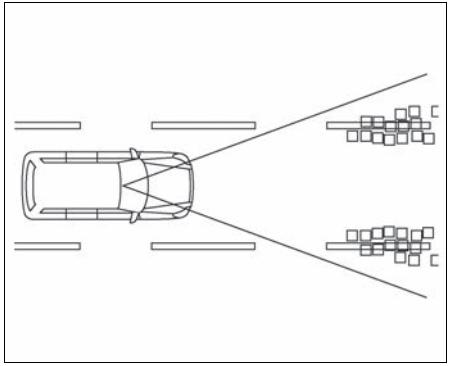
- 車速約60km/h以上で作動します。
- 走行車線の右側もしくは、左側のレーンマーカーに近づいたと判断すると、ハンドルの振動とともにLDW（車線逸脱警報）表示がオレンジ色に点滅します。レーンマーカーとは、走行車線の右側もしくは左側に引かれた線のことをいいます。



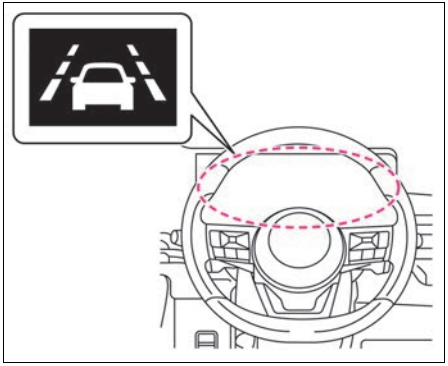
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで［設定］⇒［運転支援］⇒［側方支援］⇒［ステア振動］を選択すると、LDW（車線逸脱警報）作動時のステアリングホイール（ハンドル）振動を調節することができます。設定の詳細については、運転支援（➔P.57）をお読みください。
- 車両の移動する方向に方向指示器を作動させている場合は警報を行いません。（方向指示器を解除したあと、約2秒間は警報を行いません）
- アドバンスドドライブアシストディスプレイを運転支援またはクルーズ（CRUISE）に切り替えると、LDW（車線逸脱警報）の設定状態をアドバンスドドライブアシストディスプレイ内で確認することができます。
  詳しくは、➔走行支援グループ（表示項目）（P.55）をお読みください。

インテリジェントLI（車線逸脱防止支援システム）について

- フロントガラス上部のマルチセンシングフロントカメラにより走行車線のレーンマーカーを検知します。



- 車速が約60km/h以上で作動します。
- 走行車線の右側もしくは、左側のレーンマーカーに近づいたと判断すると、ハンドルの振動とともにインテリジェントLI（車線逸脱防止支援システム）表示がオレンジ色に点滅します。
  同時にステアリングを制御し、車両を車線内に戻す操作を支援します。
  レーンマーカーとは、走行車線の右側もしくは、左側に引かれた線のことをいいます。



- 車両の移動する方向に方向指示器を使用している場合は、警報もステアリング制御も行いません。（方向指示器を解除したあと、約2秒間は作動しません。）
- アドバンスドドライブアシストディスプレイを運転支援またはクルーズ（CRUISE）に切り替えると、インテリジェントLI（車線逸脱防止支援システム）の作動状態をアドバンスドドライブアシストディスプレイ内で確認することができます。
  詳しくは、➔走行支援グループ（表示項目）（P.55）をお読みください。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで［設定］⇒［運転支援］⇒［側方支援］⇒［ステア振動］を選択すると、インテリジェントLI（車線逸脱防止支援システム）作動時のステアリングホイール（ハンドル）振動を調節することができます。
  設定の詳細については、運転支援（➔P.57）をお読みください。

●アドバンスドドライブアシストディスプレイで［設定］⇒［運転支援］⇒［側方支援］⇒［警報感度］を選択すると、インテリジェントLI（車線逸脱防止支援システム）作動時の感度を調節することができます。
— 推奨値：標準
設定の詳細については、運転支援（➔P.57）をお読みください。

●インテリジェントLI（車線逸脱防止支援システム）によるステアリング制御中に、ハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態だとシステムが判断したうえで連続して制御が作動した場合は警報音（ブザー）が鳴り、作動回数が増えるごとに警報音（ブザー）の継続時間が長くなります。ハンドルを操作したとシステムが判断しても一定時間警報ブザーが鳴り続けます。

ON・OFFのしかた

■ LDW（車線逸脱警報）

●アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［運転支援］⇒［側方支援］⇒［車線逸脱警報］を選択すると、LDW（車線逸脱警報）機能のON・OFFを切り替えることができます。
設定の詳細については、運転支援（➔P.57）をお読みください。

■ インテリジェントLI（車線逸脱防止支援システム）

●アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［運転支援］⇒［側方支援］⇒［車線逸脱防止支援］をONにするとシステムがONになります。
設定の詳細については、運転支援（➔P.57）をお読みください。

●アドバンスドドライブアシストディスプレイのON・OFF設定は、e-POWERシステムを停止しても再度設定を変更するまでその状態が維持されます。

LDW（車線逸脱警報）／インテリジェントLI（車線逸脱防止支援システム）に関する注意事項

⚠ 警告

● **次のような状況では、思わぬ事故につながるおそれがあるため、インテリジェントLI（車線逸脱防止支援システム）を使用しないでください。**
— 悪天候（雨、雪、霧など）のとき
— 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
— 急なカーブ、急な上り坂･下り坂が繰り返されるとき
— 工事中の道路や車線規制がある道路を走行するとき
— 車線の幅が狭い道路を走行するとき
— 摩耗しているタイヤ、空気圧不足のタイヤ、スペアタイヤ、タイヤチェーンを装着しているときや、日産純正品もしくは日産販売会社で購入したタイヤ以外のタイヤを使用しているとき
— 日産純正品以外のステアリング部品、ブレーキ部品、サスペンション部品を使用しているとき

● **次のような状況では、レーンマーカーを正確に検出できず、適切な作動ができない場合があります。**
— 検出しにくいレーンマーカー（不明瞭なレーンマーカー、黄色のレーンマーカー、一般的でないレーンマーカー、水たまり・汚れ・雪などで隠れているレーンマーカー）がある道路を走行するとき
— 急なカーブのある道路を走行するとき
— 消されたレーンマーカーがまだ見えている道路を走行するとき
— 道路上に影、雪、水たまり、わだち、道路のつなぎ目、線状の補修痕などがあるとき（これらのものをレーンマーカーとして検出して警報する場合があります）
— 車線の分岐・合流のある道路を走行したとき
— 自車がレーンマーカーに対してまっすぐに走行していないとき
— 先行車との車間距離が短く、カメラの検出範囲が遮られるとき

⚠ 警告

- 雨、雪、汚れなどがフロントガラスに付着しているとき
- 汚れなどでヘッドランプの明るさが不十分なときやヘッドランプの光軸調整が適切に行われていないとき
- 前方から強い光（太陽光など）を受けているとき
- 急な明るさの変化が起こったとき（トンネルの出入り口など）

● 次の場合はステアリング制御を行いません。
- 大きな減速が車にかかったとき
- すばやいハンドル操作を行ったとき
- インテリジェント クルーズコントロールの接近警報が鳴っているとき
- インテリジェント エマージェンシーブレーキが作動しているとき
- 非常点滅表示灯を作動させているとき
- カーブでスピードを出して走行しているとき

● ステアリング制御中に、運転者がアクセルペダルを踏み増すとステアリング制御を中止します。

アドバイス

● 外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。

作動が停止するとき

LDW（車線逸脱警報）

● 炎天下に駐車したときなど、カメラが高温になったときは、アドバンスドドライブアシストディスプレイに［カメラが高温のため現在使用できません］と警告が表示され、一時的にシステムが停止します。（車室内の温度が下がると、作動を復帰します）

● システムに異常があると、アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告が表示され、システムが停止します。
➔ システム故障警告（P.273）

インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）

● 次の場合は、"ポー" というブザー音とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイに［作動範囲外のため 現在使用できません］と警告が表示され、作動を解除します。
- VDCをOFFにしたとき
- ドライブモードをSNOWにしたとき（e-4ORCE（4WD）車）

● 次の場合は、"ポー" というブザー音とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイに［滑りやすい路面のため 現在使用できません］と警告が表示され、作動を解除します。
- ABSまたはVDC（トラクションコントロール機能（TCS）は含まない）が作動したとき

システムを再び作動させる場合は、解除されたときの状態が改善されてから一度システムをOFFにし、再度インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）をONにしてください。

● 炎天下に駐車したときなど、マルチセンシングフロントカメラが高温になったときは、"ポー" というブザー音とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイに警告が表示され、作動を解除します。 システムを再び作動させる場合は、車室内の温度が下がってから再度システムをONにしてください。

● システムに異常があると、警告音が鳴るとともにアドバンスドドライブアシストディスプレイに［システム故障 取扱説明書を見てください］および、インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）表示がオレンジ色に点灯し、作動が停止します。

アドバイス

● システムを正しく作動させるためにカメラ前方のフロントガラスはいつもきれいにしておいてください。マルチセンシングフロントカメラの取り扱いについては、（➔ P.308）をお読みください。

● アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告が表示されたときは、安全な場所に停車し、一度e-POWERシステムを停止してから再始動してください。

アドバイス

e-POWERシステム再始動後も警告が表示され続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）

前方を走行する2台前の車両を検知し、急な減速などにより、自車の回避操作が必要と判断した場合には、警報によって運転者に注意を促します。

システムに関する表示

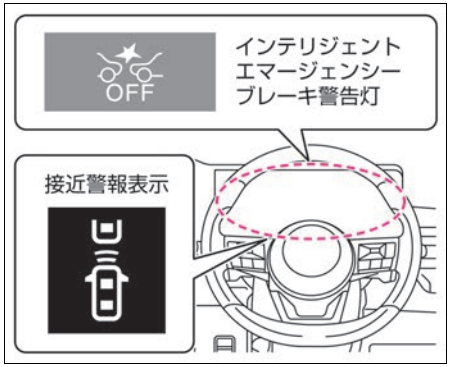
警告

- **インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）は前方を走行する2台前の車両の急な減速などを検知したとき運転者に警報を行いますが、衝突を回避する機能はありません。**
- **インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）は脇見運転やぼんやり運転などの前方不注意および雨、霧などの視界不良による危険を回避するものではありません。**

  前方の車両との車間距離、周囲の状況に応じてブレーキペダルを踏んで減速するなどして車間距離を確保し、安全運転を心がけてください。

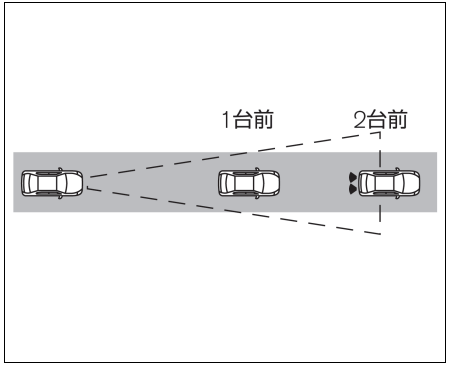
- **レーダーの性能には限界があるため、システムだけに頼った運転はせず、常に安全運転を心がけてください。詳細については、検知条件と制限をお読みください。**

➔ レーダーセンサーの検知条件と制限（P.147）

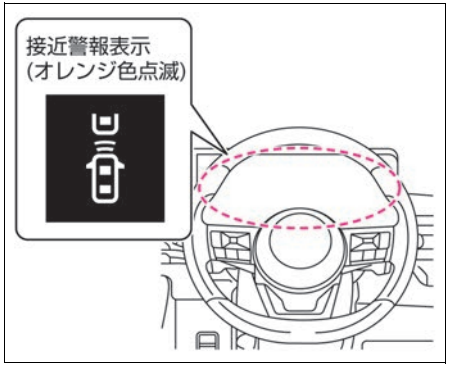


インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）について

- インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）は車速が約5km/h以上で作動します。
- 車両前部に取り付けられたレーダーセンサーにより前方の2台前の車両との距離を計測します。



- 自車の回避操作が必要と判断すると、アドバンスドドライブアシストディスプレイの接近警報表示がオレンジ色に点滅するとともに警報音（ブザー）を鳴らして、運転者に注意を促します。



- インテリジェント エマージェンシーブレーキのON・OFFを切り替えると、イ

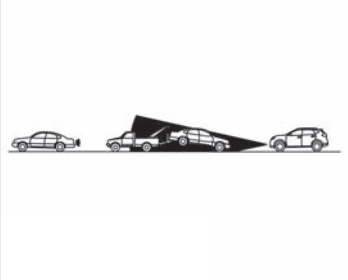
ンテリジェント FCW（前方衝突予測警報）も連動してON・OFFされます。

➲インテリジェント エマージェンシーブレーキ (P.161)

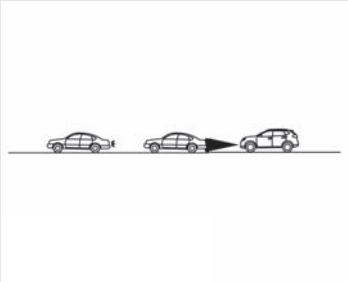
インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）に関する注意事項

⚠ 警告

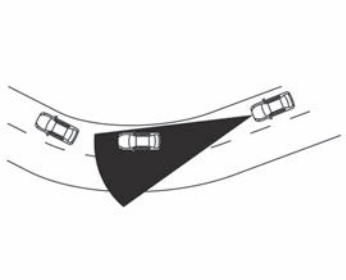
- **次のような障害物は検知しません。**
  - 歩行者、自転車、動物、道路上に落ちている障害物
  - 対向車
  - 前方を横切って通過する車両
- **次のような場合は、前方の2台前の車両を検知できないことがあります。**
  - 悪天候（雨、雪、霧など）で視界が悪いとき
  - 前方の車両や対向車などにより水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
  - 雪や氷、泥などがレーダーセンサー周辺に付着しているとき
  - 放送局など周辺の電波源により影響を受けているとき
  - トンネル内を走行しているとき
  - 前方の車両がけん引を行っているとき



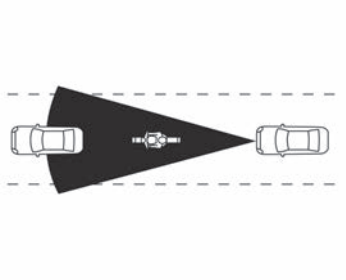
  - 前方の車両との距離が極端に近いとき



  - 急なカーブや、勾配の変化があるところを走行しているとき



- **前方の車両がオートバイのような幅の狭い車両のときは、前方の車両を検知できず、インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）は警報を行わないことがあります。**



- **外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。**

インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）の作動が停止するとき

- 次の場合、インテリジェント エマージェンシーブレーキ警告灯［ ］が点灯し、作動が停止します。
  - インテリジェント エマージェンシーブレーキの設定をOFFにしたとき
  - インテリジェント エマージェンシーブレーキが異常により作動を停止したとき
- 次の場合、インテリジェント エマージェンシーブレーキ警告灯［ ］が点灯するとともに、アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告を表示し、システムが一時的に作動しなくなります。
  - フロントガラスの汚れなどにより、カメラの前方視界が遮蔽されていると判断したとき
  - 前方からの強い光により、カメラが前方を認識できなくなったとき
  - 炎天下に駐車したときなど、カメラが高温になったとき（車室内の温度が下がると、作動を復帰します）
  - 悪天候（雨、雪、霧、風塵、砂塵、吹雪など）で視界が悪いとき
    システムが停止したときの状態が改善されると、自動的に作動を再開します。
  - 周辺の電波源の影響を受けているとき
  - 車両前部に取り付けられたレーダーセンサー周辺に雪や氷、泥などが付着しているとき
    上記警告が表示されたときは、安全な場所に停車し、一度e-POWERシステムを停止してからレーダーセンサーおよびその周辺の汚れを取り除き、e-POWERシステムを再始動してください。
  - 道路形状や周辺の建造物により、レーダーセンサーが先行車を正確に検知できないとき（例：長い橋、雪原、長い壁の横など）
    上記の状況から離れるとシステムは自動的に作動を再開します。
  - 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯せず、真っ暗な状態が継続したとき
- システムに異常があると、警告音が鳴るとともにインテリジェント エマージェンシーブレーキ警告灯［ ］が点灯し、アドバンスドドライブアシストディスプレイ内に警告が表示され、システムが停止します。

上記警告が表示されたときは、安全な場所に停車し、一度e-POWERシステムを停止してから再始動してください。

アドバイス

- インテリジェント エマージェンシーブレーキをONにできない、または警告灯が点灯したときは、安全な場所に停車し、一度e-POWERシステムを停止してから再始動してください。上記の操作をしても、警告灯が点灯し続けるときはシステムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

➔ インテリジェント エマージェンシーブレーキ警告灯（P.267）

- レーダーセンサーの周辺が汚れているときは安全な場所に停車し、レーダーセンサー周辺の汚れなどを取り除いてからe-POWERシステムを再始動してください。レーダーセンサーの取り扱いについては、（➔ P.308）をお読みください。

RCTA（後退時車両検知警報）★

RCTA（後退時車両検知警報）は、後退時に後方を横切ろうと接近する車両を検知した場合、警報によって運転者に注意を促します。

システムに関連する表示

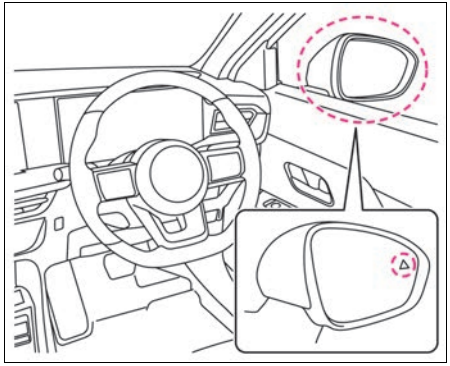
警告

- **機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がける。**

  RCTA（後退時車両検知警報）は、運転者の代わりに周囲を確認したり、車両と障害物との接触を防いだりする機能ではありません。駐車スペースから後退するときは、機能に頼らず、必ず運転者自身で周囲の安全を確認してください。
- **レーダーの性能には限界があるため、システムだけに頼った運転はせず、常に安全運転を心がけてください。詳細については、検知条件と制限をお読みください。**

⚠ 警告

➲ レーダーセンサーの検知条件と制限（P.147）

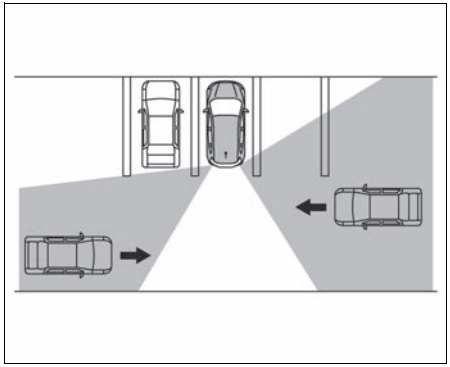


RCTA（後退時車両検知警報）について

- 車両後部のレーダーセンサーにより後方を横切ろうとする車両を検知します。
- シフトポジションがRで、車速約8km/h以下のとき作動します。
- レーダーセンサーにより後方を横切ろうとする車両を検知すると、警報音（ブザー）とともに検知した側のドアミラー鏡面の表示灯が点滅します。
- RCTA（後退時車両検知警報）の設定をOFFにしているときにシフトポジションをRにすると、アドバンスドドライブアシストディスプレイに［システムOFF］と表示されます。
- RCTA（後退時車両検知警報）が作動しているときは、インテリジェント アラウンドビューモニター画面★に黄色枠が表示されます。

検知範囲について

- レーダーセンサーは、約20m先から近づいてくる車両を検知します。



- ドアミラー鏡面の表示灯は＜パワースイッチ＞をONにすると点灯し、数秒後に消灯します。
- ドアミラー鏡面の表示灯の明るさは車両周囲の明るさによって切り替わります。

RCTA（後退時車両検知警報）の使いかた

- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［運転支援］⇒［駐車支援］⇒［後退時車両検知警報］を選択すると、RCTA（後退時車両検知警報）機能のON・OFFを切り替えることができます。
  設定の詳細については、運転支援（➲P.57）をお読みください。
- 設定は、e-POWERシステムを再始動しても維持されます。

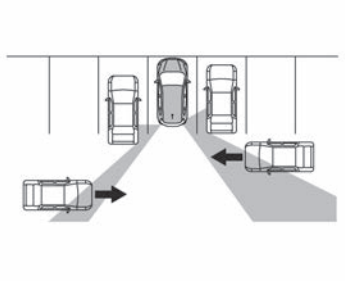
RCTA（後退時車両検知警報）に関する注意事項

⚠ 警告

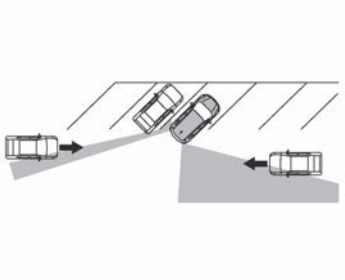
- **後退する前に、必ず目視で周囲の状況を確認してください。レーダーセンサーは接近している（動いている）車両を検知します。次のようなものは検知できないことがあります。**
  - 歩行者、自転車、動物、児童用の玩具の車など
  - 約30km/h以上の速度で通過する車両
  - 約8km/h以下の速度で通過する車両
- **次のような状況では、レーダーセンサーが接近する車両を検知できないことがあります。**

⚠ 警告

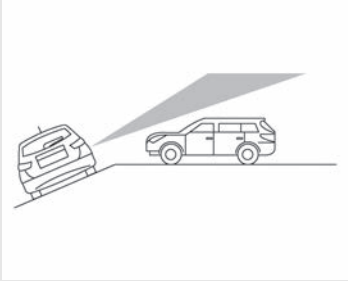
— 隣に駐車している車両などが、レーダーセンサーの検出エリアを妨げているとき



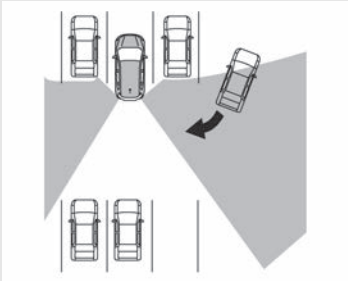
— 駐車枠線が斜めに引かれた駐車場に駐車しているとき



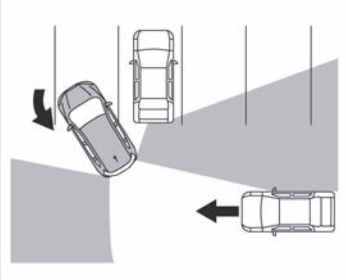
— 傾斜した地面に駐車しているとき



— 回り込むようにして自車後方へ車両が接近してきたとき



— 接近してきた車両の向きが、自車の向きと同じまたはそれに近いとき



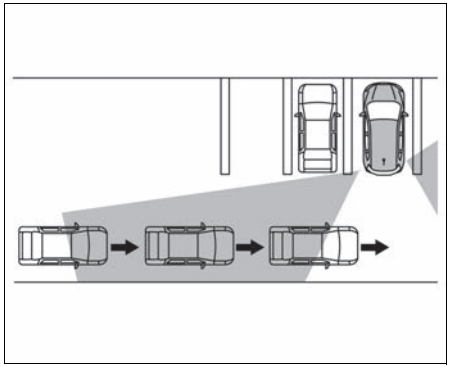
- **次のような場合は、思わぬ事故につながるおそれがあるため、システムを使用しないでください。**
  - — 悪天候（雨、雪、霧など）で視界が悪いとき
  - — 放送局・レーダー搭載車両など周辺の電波源により影響を受けているとき
  - — 水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
  - — 雪や氷、泥などがレーダーセンサー付近に付着しているとき
- **レーダーセンサーは静止している障害物を検知しないように設計されていますが状況によっては、ガードレール、壁、駐車された車両などを検知してしまうことがあります。**
- **外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。**

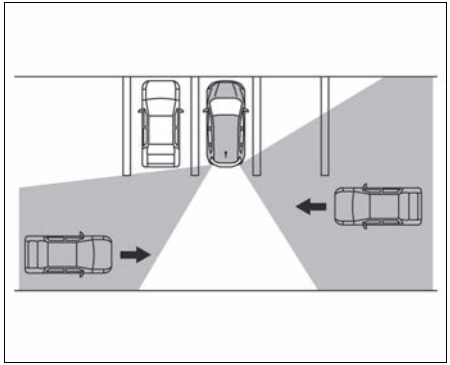
⚠ 警告

- **レーダーセンサー周辺へのステッカー（透明なものを含む）の貼り付け、アクセサリー類の取り付け、追加の塗装をしないでください。**

  車両を検知する性能が低下するおそれがあります。

- 複数の車両が連続して後方を通過する場合や、最初に検知した車両と逆方向から車両が接近してきた場合、2台目以降に対して警報が作動しない場合があります。





RCTA（後退時車両検知警報）の作動が停止するとき

- 次の場合はアドバンスドドライブアシストディスプレイに［サイドレーダー及びその周辺が汚れています 拭いてください］と警告が表示され、一時的にシステムが停止します。
  - レーダーセンサーが汚れているとき
  - レーダーセンサーに雨、雪、氷などが付着しているとき
- システムに異常があると、アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告が表示され、システムが停止します。

➔ システム故障警告（P.273）

アドバイス

- レーダーセンサー周辺が汚れているときは安全な場所に停車し、レーダーセンサー周辺の汚れなどを取り除いてからe-POWERシステムを再始動してください。レーダーセンサーの取り扱いについては、（➔ P.308）をお読みください。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告が表示されたときは、安全な場所に停車し、一度e-POWERシステムを停止してから再始動してください。

  e-POWERシステム再始動後も表示され続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

インテリジェント DA（ふらつき警報）

インテリジェント DA（ふらつき警報）は、ハンドル操作から運転者の注意力が低下していると判断したときに、アドバンスドドライブアシストディスプレイの表示と音により運転者に休憩を促します。

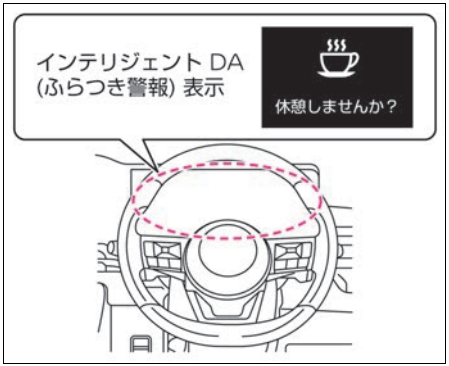
システムに関連する表示

⚠ 警告

- **機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がける。**

⚠ 警告

このシステムは疲労時の運転を補助するものではありません。疲労時の運転は重大な事故にいたる危険があるため、運転前に十分に休憩をとり、安全運転を心がけてください。



インテリジェント DA（ふらつき警報）について

- 車速約60km/h以上で走行中、運転者のハンドル操作から注意力が低下していると判断したときに、警報音（ブザー）とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイに［休憩しませんか？］と警告メッセージを表示します。
  ➔ インテリジェントDA（ふらつき警報）表示（P.274）

インテリジェント DA（ふらつき警報）の停止のしかた

- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［運転支援］⇒［ドライバーモニター］⇒［ふらつき警報］を選択すると、インテリジェント DA（ふらつき警報）機能のON・OFFを切り替えることができます。
  設定の詳細については、運転支援（➔ P.57）をお読みください。
- 設定は、e-POWERシステムを再始動するとONになります。
- プロパイロットのハンドル支援中は、インテリジェント DA（ふらつき警報）のシステムはOFFになります。
  ➔ プロパイロット（P.150）

インテリジェント DA（ふらつき警報）の作動が停止するとき

- システムに異常があると、アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告が表示され、作動が停止します。
  ➔ インテリジェントDA（ふらつき警報）システム異常警告（P.273）

アドバイス

- 安全な場所に停車し、一度e-POWERシステムを停止してから再始動してください。
- 再始動後もメッセージを表示するときは、システムの異常が考えられます。
  通常走行に支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

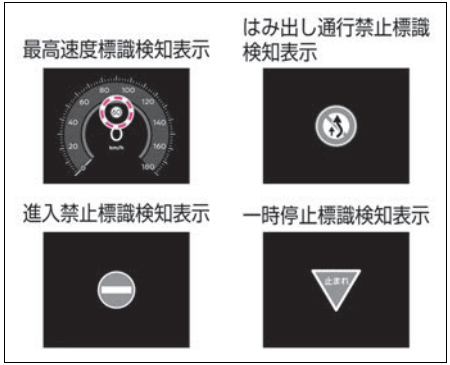
標識検知機能

フロントガラス上部にあるマルチセンシングフロントカメラにより標識を検知し、アドバンスドドライブアシストディスプレイに表示します。

システムに関連する表示

⚠ 警告

- **走行中は運転者の責任で実際の標識を確認する。**
  標識検知機能は、運転者の安全運転を支援する機能です。
  標識検知機能には限界があり、状況によっては標識を検知できなかったり、実際とは異なる標識を表示したりする場合があります。
  運転の際は、必ず運転者の責任で実際の標識を確認してください。
- **マルチセンシングフロントカメラの性能には限界があるため、システムだけに頼った運転はせず、常に安全運転を心がけてください。詳細については、検知条件と制限をお読みください。**
  ➔ マルチセンシングフロントカメラの検知条件と制限（P.148）

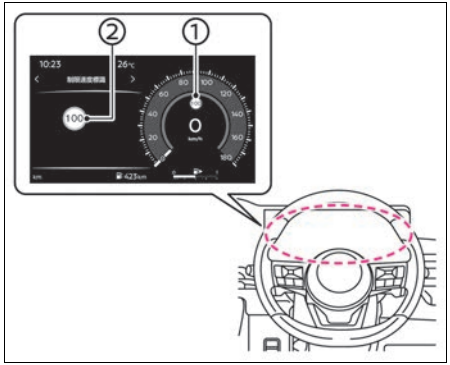


標識検知機能について

● 標識検知機能には次の機能があります。

最高速度標識検知

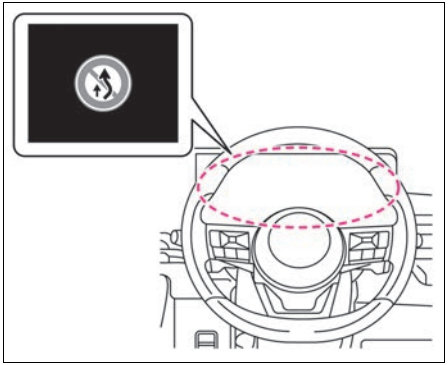
● 前方の最高速度標識を検知した場合には、アドバンスドドライブアシストディスプレイ①、および走行支援グループ②に表示します。
アドバンスドドライブアシストディスプレイとは（メインメニュー）（➔P.51）



● 次の場合は、最高速度標識の表示を終了します。
　－ 最高速度標識を検知し、車両がその標識を通過してから一定の距離を走行したとき
　－ 右左折などで走行している路線が変わったとシステムが判断したとき

はみ出し通行禁止標識検知

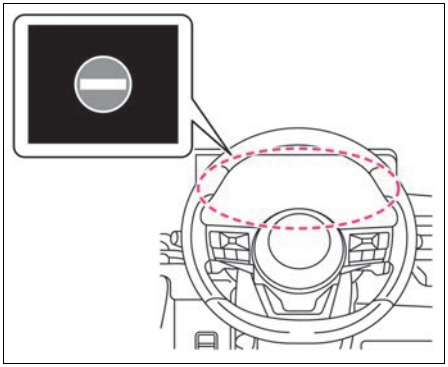
● 前方のはみ出し通行禁止標識を検知した場合には、アドバンスドドライブアシストディスプレイに表示します。



進入禁止標識検知

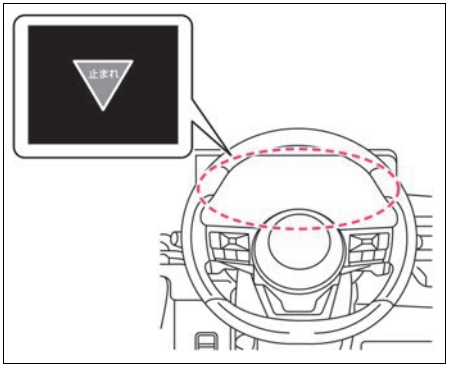
● 前方の車両進入禁止標識を検知し、一方通行路へ進入する可能性がある場合にはアドバンスドドライブアシストディスプレイに警告表示します。

● 万一、車両進入禁止標識を通過した場合には警告音が鳴ります。



一時停止標識検知

● 前方の一時停止標識を検知した場合には、アドバンスドドライブアシストディスプレイに表示します。



進入禁止標識／一時停止標識検知の停止のしかた

● アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［運転支援］⇒［標識検知支援］⇒［道路標識］を選択すると、進入禁止標識／一時停止標識検知機能のON・OFFを切り替えることができます。
設定の詳細については、運転支援（➔P.57）をお読みください。

● いずれの設定も、e-POWERシステムを再始動しても維持されます。

最高速度標識検知／はみ出し通行禁止標識検知の停止のしかた

● アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［運転支援］⇒［標識検知支援］⇒［制限速度標識］を選択すると、最高速度標識検知機能／はみ出し通行禁止標識検知機能のON・OFFを切り替えることができます。
設定の詳細については、運転支援（➔P.57）をお読みください。

● e-POWERシステムを再始動しても維持されます。

標識検知機能に関する注意事項

⚠ 警告

● **次のような場合は、標識の検知が遅れたり、検知できなかったりすることがあります。**

— 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、あるいはヘッドランプのレンズが極端に汚れているとき

— カメラ前方のフロントガラスに汚れ、油膜、水滴、氷、雪、虫汚れなどが付着しカメラの視界が遮られているとき

— カメラ前方のフロントガラスがくもっているとき

— 前方から強い光（太陽光や対向車のハイビームなど）を受けているとき

— 前方車両から反射した強い光（太陽光など）を受けているとき

— トンネルの出入り口や日陰など、急に明るさの変化が起こったとき

— 悪天候（雨、雪、霧、風塵、砂塵、吹雪など）で視界が悪いとき

— 前方の車両や対向車などにより水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき

— 勾配の変化があるところを走行しているとき

— 未舗装路など凹凸のある路面を走行しているとき

— 隣を走る車で視界が遮られているとき

— 標識が曲がり角やカーブの先にあるとき

— 標識の周辺が煩雑で標識を認識しにくいとき

— 標識が自車から遠く離れた位置にあるとき

— 夜間で標識に自車のヘッドランプの光が届きにくい位置にあるとき

— 標識が色あせたり、折れ曲がったりしているとき

— 標識が破損しているなど形状が変わってしまっているとき

— 標識が泥、雪、または霜などで覆われているとき

— 標識の一部が樹木や汚れなどによって隠れて不明瞭なとき

⚠ 警告

- 標識に光（街灯など）や影が映り込んでいるとき
- 標識が大きすぎたり、小さすぎたりするとき
- 標識が低すぎたり、高すぎたりするとき
- 標識が明るすぎたり、暗すぎたりしたとき
- カメラの向きがずれているとき
- 始動してから約15秒間は標識を検知しません

● **次のような場合は、標識の検知が適正に行えず、実際の規制内容とは異なるものを表示したり、 実際には対象となる標識がないのに表示したりすることがあります。（最高速度標識においては、実際の最高速度よりも高い数字や、低い数字を表示したりすることがあります）**

- 数字が認識しにくい標識（数字が消えかかっているなど）
- 検知対象となる標識の色、形に似たものが周辺にある場合（類似の標識、電光掲示板、看板、のぼり旗、構造物、案内標識上の数字など）
- 自車の路線に対しての標識ではないが、自車の路線付近にあり、その標識が自車の路線に向いている場合（本線から分岐する側道の一時停止標識や最高速度標識など）

- コントラストが低い電光標識
- 数字が認識しにくい電光標識 （遠く離れた位置にある標識、3桁の標識など）
- 標識の近傍に補助標識（区間の始まり、終わり、曜日、時間など）があるとき

- 工事などの通行規制区間に標識があるとき

● 外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。

アドバイス

● システムを正しく作動させるためにカメラ前方のフロントガラスはいつもきれいにしておいてください。マルチセンシングフロントカメラの取り扱いについては、（➔P.308）をお読みください。

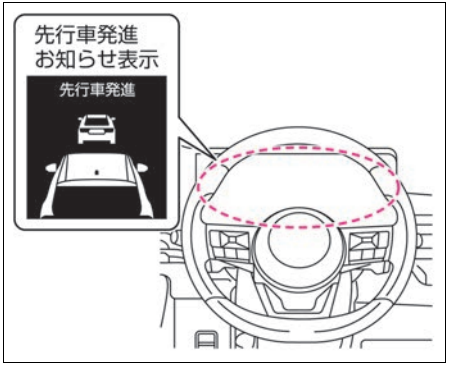
先行車発進お知らせ

先行車が発進しても自車が停止し続けた場合に、音と表示でお知らせする機能です。

システムに関連する表示

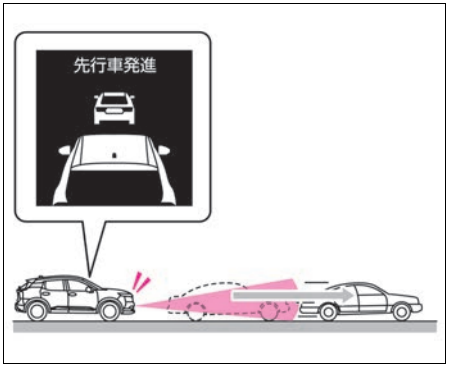
⚠ 注意

● **先行車との車間距離や周囲の状況を目視で直接確認し、常に安全運転を心がけてください。**



先行車発進お知らせについて

● 自車と先行車が停止したあと、先行車が発進しても自車が停止し続けた場合に、ブザー音とアドバンスドドライブアシストディスプレイの表示でお知らせします。



● 次のいずれかの条件を満たしているときに作動します。
  - シフトポジションがP、R以外でブレーキペダルを踏んで停止している
  - シフトポジションがP、R以外でオートブレーキホールド機能が作動している
  - シフトポジションがNで停止している
  - インテリジェント クルーズコントロールで停止状態を保持している

先行車発進お知らせの設定のしかた

● アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［運転支援］⇒［先行車発進お知らせ］を選択すると、先行車発進お知らせの設定（OFF／遅め／標準／早め）を切り替えることができます。設定の詳細については、運転支援（➔ P.57）をお読みください。

先行車発進お知らせに関する注意事項

● 次の場合は作動しません。
  - インテリジェント エマージェンシーブレーキのシステム異常などにより、インテリジェント エマージェンシーブレーキ警告灯が点灯しているとき（インテリジェント エマージェンシーブレーキやVDCをOFFにしているときを除く）
  - 先行車との車間距離が長いとき

● システムを正しく作動させるために車両前部に取り付けられたレーダーセンサーとその周辺、およびマルチセンシングフロントカメラ前方のフロントガラスのお手入れを行ってください。

➔ レーダーセンサーの取り扱い (P.308)
➔ マルチセンシングフロントカメラの取り扱い (P.308)

● 次のような場合は、作動が遅れたり、作動しないことがあります。
  - 自車と先行車との間に別の車両や歩行者、自転車などが割り込んだり横切ったとき
  - 先行車がオートバイのような幅の狭い車両のとき
  - 先行車との車間距離が極端に短いとき
  - 先行車が自車に対して左右にずれているとき
  - 先行車が右左折、車線変更、急旋回をしたとき
  - 先行車が極端に遅い速度で移動しているとき
  - 急勾配の坂道、急カーブで停止しているとき
  - 未舗装路など凹凸のある路面で停止しているとき
  - 車両が傾いているとき（後席シートやラゲッジルームに極端に重い荷物を積んでいるとき）
  - ハンドルが大きく切れているとき
  - 悪天候（雨、雪、霧、風塵、砂塵、吹雪など）のとき
  - 前方の車両や対向車などにより水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき

- 雪や氷、泥などがレーダーセンサー周辺に付着しているとき
- カメラの視界が遮られているとき（フロントガラスの汚れ、油膜、虫汚れ、ワイパーブレード）
- カメラ前方のフロントガラスがくもっているとき
- アドバンスドドライブアシストディスプレイにソナー表示されているとき

● 道路状況や交通状況などにより不必要な作動をすることがあります。周囲の状況を目視で直接確認してください。

バックビューモニター★

バックビューモニターについて

⚠ 警告

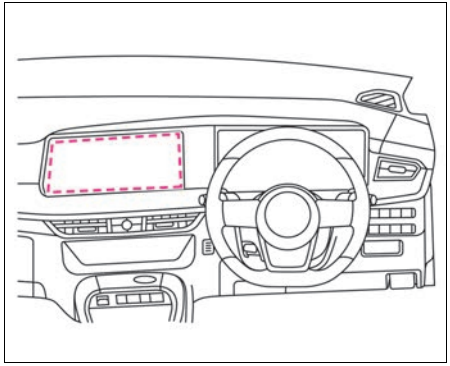
- **バックビューモニターの機能を過信しない。**

  バックビューモニターは、後退操作を補助するシステムです。後退するときは、直接目で後方および周囲の安全を確認しながら運転してください。

- **実際の距離感を間違えないように注意する。**

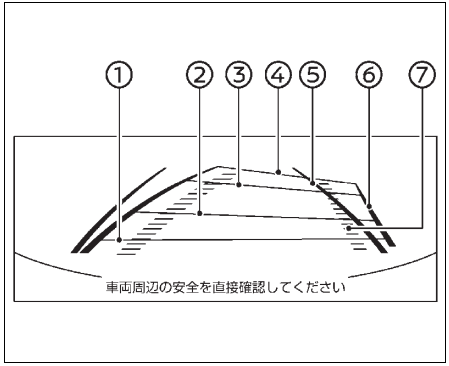
  バックビューモニターの映像はレンズの特性により、画面に映る人や障害物の感覚が実際の位置や距離と異なります。

- バックビューモニターはNissanConnectインフォテインメントシステムに表示されます。



- <パワースイッチ>がONのとき、シフトポジションをRに入れると作動します。車の後方の状況を確認しながら後退させることができます。
- バックビューモニターを表示中にシフトポジションをRから他の位置にすると、バックビューモニターがOFFになります。
- 取り扱いについては、NissanConnectインフォテインメントシステム用取扱説明書も合わせてお読みください。

各表示線について



距離目安ライン

- 車両後方の距離の目安を示します。
  - ①赤色：約0.5m
  - ②水色：約1m
  - ③水色：約2m
  - ④水色：約3m

⑤車幅目安ライン

- 後退したときの車幅の目安を示します。

⑥予想進路線

- 運転操作時に予想進路を表示します。ハンドルを切った角度に応じて移動します。

⑦タイヤ予想進路線

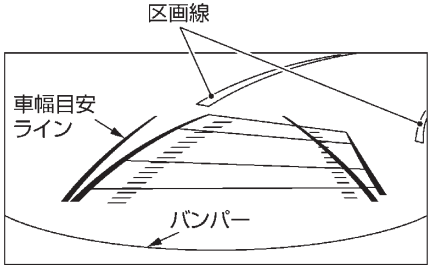
- タイヤの予想進路を表示します。ハンドルを切った角度に応じて移動します。

バックビューの見かた

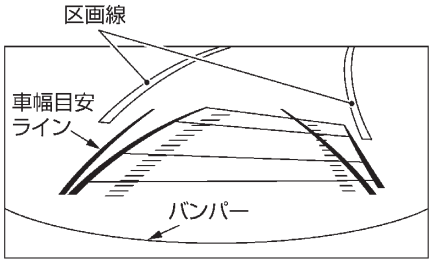
画面に表示される目安ラインを利用して駐車する例を説明します。

1. シフトポジションをRにして、駐車スペースに入るようにゆっくりと後退します。

2. 車の後部が駐車スペースの中に入ったら、車幅目安ラインと駐車スペースの左右の区画線が平行になるようにハンドルを操作します。



3. 車幅目安ラインと駐車スペースの区画線が平行になったらハンドルをまっすぐ（直進状態）にして、ゆっくりと後退します。



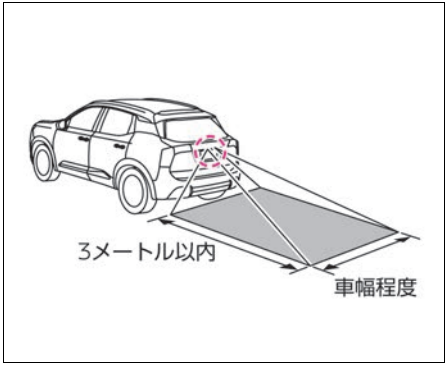
知識

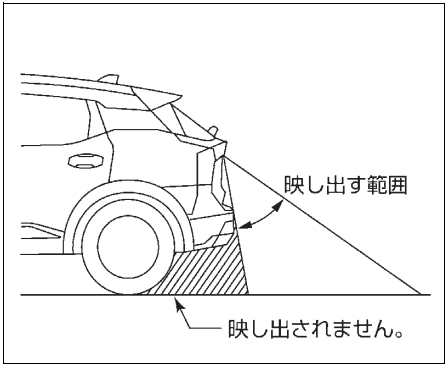
- 画面では車幅目安ラインと駐車スペースの区画線が平行に見えても、実際には平行ではない場合があります。
- 前記と逆方向の駐車スペースに駐車するときは、ハンドルの操作も左右逆になります。

バックビューモニター★の注意事項

映し出す範囲

●バンパー後端から車の後方を映します。





⚠ 注意

- **バックビューモニターだけを見ながら後退しない。**

⚠ 注意

絶対に画面の映像だけを見ながら後退しないでください。映像と実際の状況は異なることがあるため、車をぶつけたり、思わぬ事故を起こすおそれがあります。後退するときは、後方や周囲の安全を目視やミラーなどで直接確認してください。

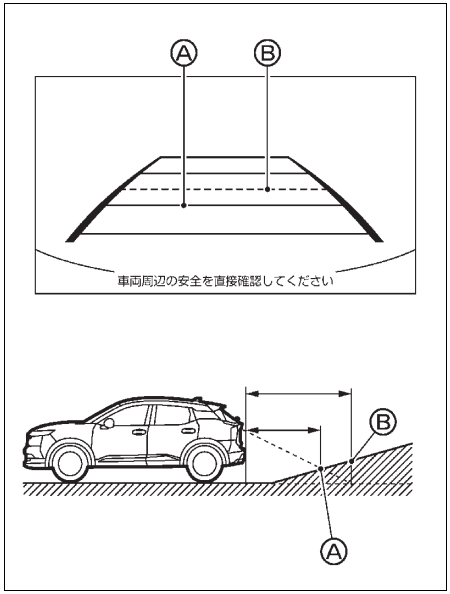
アドバイス

- 車や路面の状況により、映る範囲が異なることがあります。
- バックビューモニターの映像は、ルームミラーやドアミラーで見るのと同様に左右反転させた鏡像です。
- 画面に表示される距離目安ライン、車幅目安ラインはあくまでも目安です。また、車両の乗車人数、車両姿勢などによって距離目安ライン、車幅目安ラインの位置がずれます。実際のまわりの状況を直接目で確認してご使用ください。

映像と実際の路面との誤差

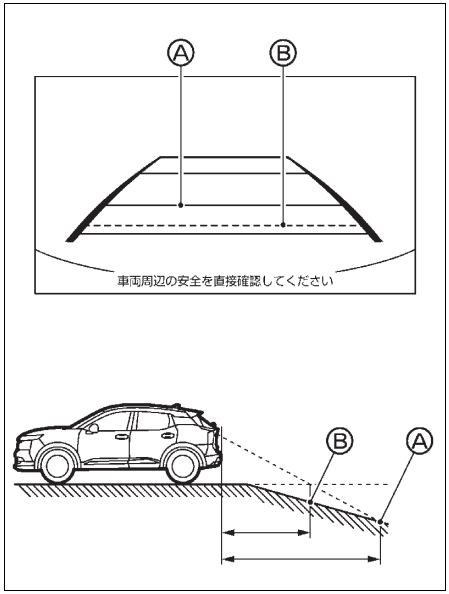
- バックビューモニターに表示される距離目安ラインと車幅目安ラインは、舗装された平坦な路面上での目安として使用してください。画面に表示される距離はあくまでも目安であり、自車と映し出されている障害物までの距離は、実際とは異なることがあります。

急な上り坂が後方にあるとき



- 距離目安ライン、車幅目安ラインは実際の距離よりも手前に表示されます。例えば、位置Ⓐまでの距離が1mと表示されていても、実際に1mの距離にあるのは、位置Ⓑです。上り坂に障害物があるときは、障害物は実際よりも遠くにあるように見えます。

急な下り坂が後方にあるとき

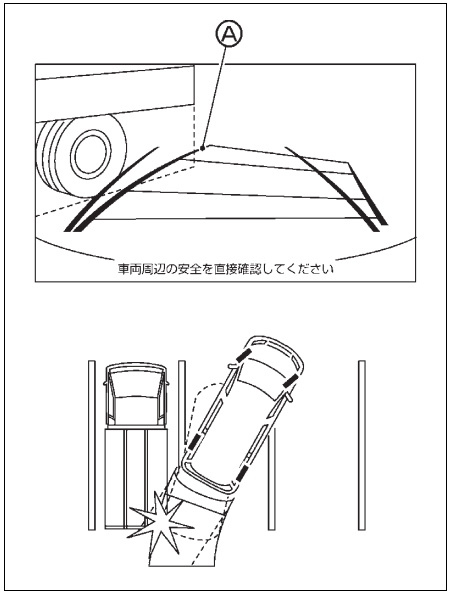


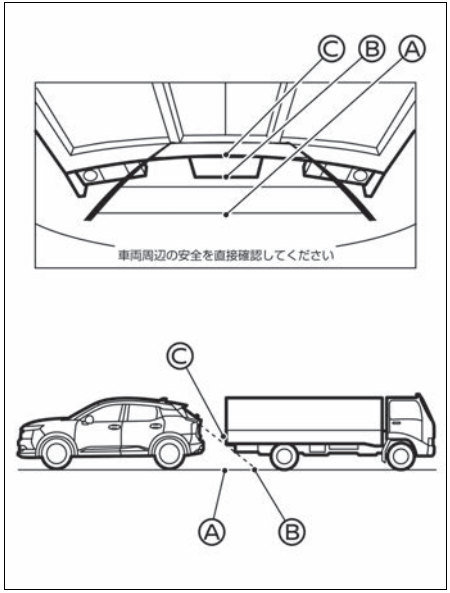
- 距離目安ラインと車幅目安ラインは実際の距離よりも後ろに表示されます。 例えば、位置Ⓐまでの距離が1mと表示されていても、実際に1mの距離にあるのは、位置Ⓑです。下り坂に障害物があるときは、障害物は実際よりも近くにあるように見えます。

立体物が近くにあるとき

- 立体物が近くにある場合には実際の距離と異なって表示される場合があります。
- 例：予想進路線Ⓐは表示されているトラックの車体に触れていません。しかし、

トラックの車体が実際の進路上に張り出している場合は、ぶつかることがあります。





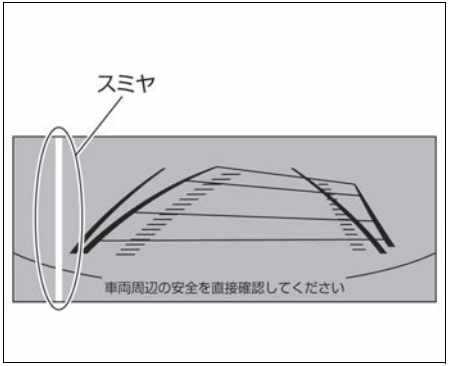
立体物に接近するとき

- Ⓒの位置はⒷの位置よりも遠くにあるように見えますが、実際はⒶの位置と同じ距離です。トラックの車体が実際の進路上に張り出している場合は、Ⓐの位置まで下がるとぶつかることがあります。

故障かなと考える前に

故障かな？	確認すること	対処方法
映像の映りが悪い	カメラレンズが汚れていませんか？	カメラレンズを清掃してください。 ➔ リヤビューカメラ★の取り扱い (P309)
	カメラレンズに雨、雪などの水滴が付着していませんか？	
	太陽光や他車のヘッドランプの光が直接カメラレンズ面に当たっているためで故障ではありません。当たっている光がなくなれば元に戻ります。	
	温度の急な変化によってカメラレンズ部が結露したためで故障ではありません。しばらく走行すると元に戻ります。	
	暗いところや夜間時には映りが悪くなることがありますが故障ではありません。	
映像にちらつきが出る	蛍光灯などの照明の下にいるためで故障ではありません。	
実際の色味と異なる	カメラの特性のためで故障ではありません。	
映像が映らない	シフトポジションがRになっていますか？	シフトポジションをRにしてください。
映像が正しい方向を向いていない	バックドアが開いていませんか？	バックドアを閉めてください。
映像が見づらい	カメラに強い光や反射光が入ったためで故障ではありません。	
映像にスミヤ（※）が入る	バンパーなどから強い反射光が入ったためで故障ではありません。	

※スミヤ ： 方向指示器の強い光が上下方向に光の帯のように出たもの。



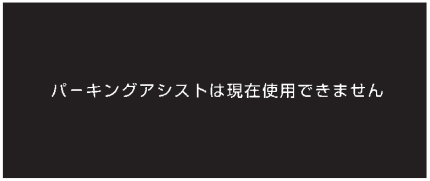
カメラ映像が正常に表示されない場合

シフトポジションをRに入れ、バックビューモニターを作動させた状態でも次のような画面表示が続く場合は、カメラシステムの異常が考えられます。通常走行には支障ありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

- バックビューモニター画面がカメラ画面に切り替わらず、前の画面（NissanConnectインフォテインメントシステムなど）を表示し続けているとき

カメラの故障により映像に異常がある場合

- バックビューモニター画面に次の画面が表示されるなど、異常なカメラ映像が表示されるとき



インテリジェント アラウンドビューモニター（移動物 検知機能付）★

インテリジェント アラウンドビューモニターは、自車位置を映し出すことにより、駐車スペースへの駐車時や縦列駐車時に運転者を補助します。

インテリジェント アラウンドビューモニターについて

⚠ 警告

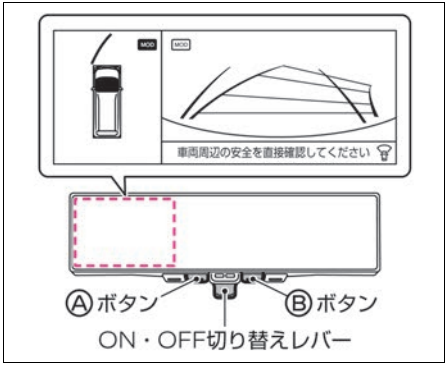
- **インテリジェント アラウンドビューモニターの機能を過信しない。**

  インテリジェント アラウンドビューモニターは障害物などの確認を補助するシステムです。車両の操作をするときは、周囲の安全をミラーや目視で直接確認してください。特に車両の四隅は、トップビュー、フロントビュー、リヤビューに障害物が映らない死角になります。必ず窓から目視し、安全を確認してから車両を操作してください。常に低速で車両を移動させてください。

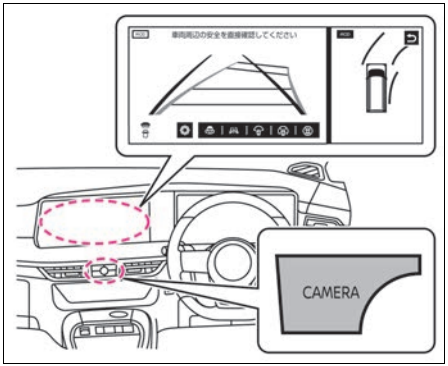
- **実際の距離感を間違えないように注意する。**

  インテリジェント アラウンドビューモニターに映し出される障害物までの距離は、実際とは異なることがあります。

- NissanConnectインフォテインメントシステム非装着車は、<パワースイッチ>がONのときに、<Ⓐボタン>を押すか、シフトポジションをRにするとインテリジェント ルームミラーに表示します。



- NissanConnectインフォテインメントシステム装着車は、<パワースイッチ>がONのときに、<CAMERA>スイッチを押すか、シフトポジションをRにするとNissanConnectインフォテインメントシステムに表示します。



インテリジェント アラウンドビューモニターの使いかた

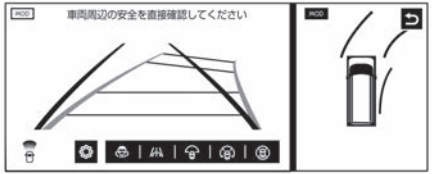
⚠ 警告

- **ドアミラーを格納した状態で使用しない。**

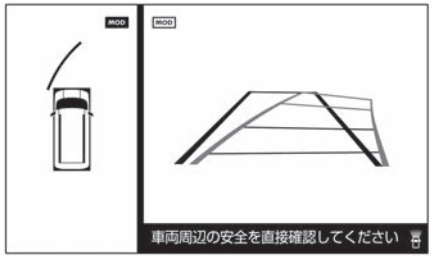
  適切な範囲を映すことができません。また使用するときは、バックドアが確実に閉まっているか確認してください。

- シフトポジションをRにするとインテリジェント アラウンドビューモニターがONになり、トップビュー／リヤビューを表示します。
- シフトポジションをR以外にするとフロントビューを表示します。
- フロントビューは、車速が一定速度を超えると表示されなくなります。
- シフトポジションがDまたはBのときに、ソナーが障害物を検知したときはインテリジェント アラウンドビューモニターがONになり、トップビュー／フロントビューを表示します。障害物の検知がなくなると、インテリジェント アラウンドビューモニターはOFFになります。
- インテリジェント ルームミラーの<Ⓐボタン>（NissanConnectインフォテインメントシステム非装着車）または<CAMERA>スイッチ（NissanConnectインフォテインメントシステム装着車）を押すとインテリジェント アラウンドビューモニターがONになり、トップビュー／フロントビューを表示します。

3Dビュー機能付車



3Dビュー機能無車



知識

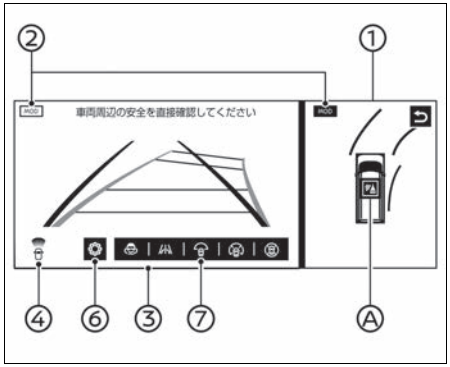
- インテリジェント ルームミラーの<Ⓑボタン>（NissanConnectインフォテインメントシステム非装着車）または<CAMERA>スイッチ（NissanConnectインフォテインメントシステム装着車）を押すと、次のとおり画面を切り替えることができます。
  - シフトポジションがRのとき
    トップビュー／リヤビュー
    ⇒サイドブラインドビュー／リヤビュー
    ⇒リヤワイドビュー
    ⇒トップビュー／リヤビュー
  - シフトポジションがR以外のとき
    トップビュー／フロントビュー
    ⇒サイドブラインドビュー／フロントビュー
    ⇒フロントワイドビュー
    ⇒インビジブルフードビュー★
    ⇒インテリジェント アラウンドビューモニターOFF
- フロントビューが表示されているときにシフトポジションをRにすると、リヤビューに切り替わります。シフトポジションをR以外にすると、再度、フロントビューに切り替わります。

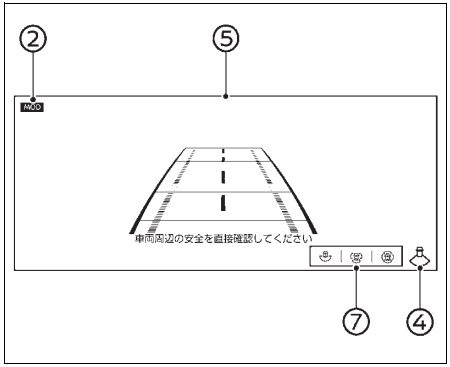
知識

- **3分タイマー機能**
  インテリジェント ルームミラーの<Ⓐボタン>（NissanConnectインフォテインメントシステム非装着車）または<CAMERA>スイッチ（NissanConnectインフォテインメントシステム装着車）を押してから約3分後にインテリジェント アラウンドビューモニター表示が消える機能です。シフトポジションがR以外のときに作動します。（ただし、タイマー作動中にインテリジェント ルームミラーの<Ⓑボタン>（NissanConnectインフォテインメントシステム非装着車）または<CAMERA>スイッチ（NissanConnectインフォテインメントシステム装着車）を押したり、ソナーまたは移動物 検知機能が作動したりするとタイマーがリセットされます。）

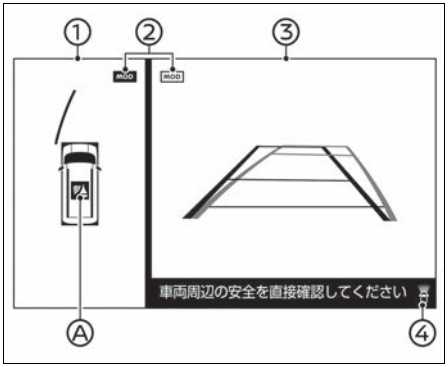
画面の見かた

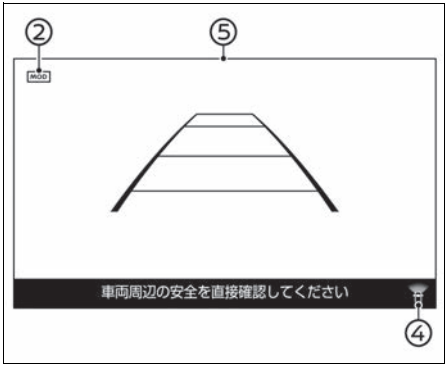
3Dビュー機能付車





3Dビュー機能無車





①右側画面（3Dビュー機能付車）／左側画面（3Dビュー機能無車）

- トップビューまたはサイドブラインドビューを表示します。
- <パワースイッチ>をONにしてから初めてインテリジェント アラウンドビューモニターを表示したときに、アイコン

Ⓐの色と点滅（約3秒間）で、ソナーの作動状況を表します。
— 赤色に点滅：ソナーON
— 灰色に点滅：ソナーOFF（ソナーをOFFにした直後も点滅します）

● 3Dビュー機能付車のサイドブラインドビューは画面の左右に表示されます。

②移動物 検知機能作動状態アイコン

● どちらのビューで移動物 検知機能が作動するかを表します。
— MOD（緑色）：移動物 検知機能が作動します
— MOD（灰色）：移動物 検知機能が作動しません

● 表示しているビューで映している範囲でのみ移動物 検知機能が作動します。例えば、リヤビューで移動物 検知機能を作動させている場合には、車両前方の移動物は検知しません。

③左側画面（3Dビュー機能付車）／右側画面（3Dビュー機能無車）

● シフトポジションがRのときはリヤビューを、R以外のときはフロントビューを表示します。

● 3Dビュー機能付車は、サイドブラインドビュー表示時にリヤビューまたはフロントビューが画面の中央に表示されます。

④方向指示アイコン

● 画面の映している方向を表します。
— ：リヤビュー表示
— ：フロントビュー表示
— ：リヤワイドビュー表示
— ：フロントワイドビュー表示

⑤ワイドビュー画面

● フロントまたはリヤワイドビューを表示します。

⑥インテリジェント アラウンドビューモニター設定アイコン★

● タッチするとインテリジェント アラウンドビューモニターの設定を変更できます。
➔ インテリジェント アラウンドビューモニターの設定（3Dビュー機能付車）（P.209）

⑦画面切替アイコン★

● アイコンをタッチして、各ビューに切り替えます。
アイコンの詳細については、画面切替アイコン（➔ 画面切替アイコン（3Dビュー機能付車）（P.209））

※グレード、オプションなどにより表示は異なります。

画面表示に関する注意事項

⚠ 警告

- **リヤビューに表示される障害物までの距離は、実際とは異なることがあります。**
- **ドアミラー、車両前方、車両後方に装着されているカメラからの映像を組み合わせて処理した疑似的な映像のため、トップビューは、障害物を実際より遠く映します。**
- **囲いや車両といった高さのある障害物は、映像の継ぎ目で位置がずれたり、表示されなかったりすることがあります。**
- **カメラの高さよりも上にある障害物は表示されません。**
- **トップビューの映像は、カメラの位置が変化するとずれることがあります。**
- **路上の線は映像の継ぎ目でずれたり、曲がって見えたりすることがあります。ずれは、車両から遠ざかるにつれて大きくなります。**
- **3Dビューに表示される障害物までの距離は、実際の距離とは異なります。**

画面表示の種類について

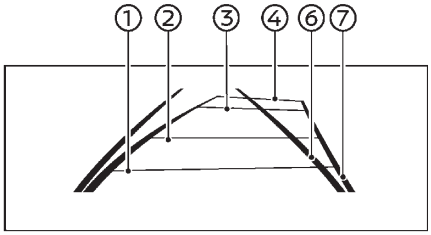
※各ビューの表示位置はグレード、オプションなどにより異なります。

■ フロントビュー／リヤビュー

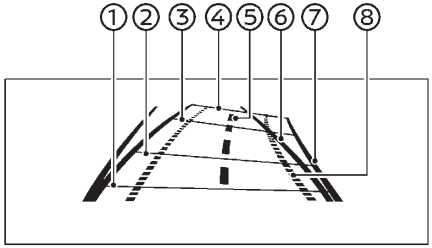
● 車両の前方／後方の映像をインテリジェント アラウンドビューモニターに表示します。

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

<フロントビュー>



<リヤビュー>



距離目安ライン

● 車体からの距離の目安を表示します。

— ①赤色：約0.5m

— ②水色：約1m

— ③水色：約2m

— ④水色：約3m

⑤車両中心線

● 車両中心の予想進路を示します。

⑥車幅目安ライン

● 車幅の目安を表示します。

⑦予想進路線

● 運転操作時に予想進路を表示します。ハンドルを切った角度に応じて移動します。

⑧タイヤ予想進路線

● タイヤの予想進路を表示します。ハンドルを切った角度に応じて移動します。

アドバイス

● フロントビューが表示されているときに、中立位置から約90度の範囲内でハンドルを切ると、予想進路線が左右に表示されます。約90度以上ハンドルを切ると、予想進路線はハンドルを切った方向とは逆方向にのみ表示されます。

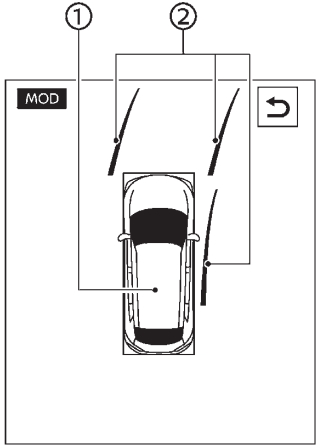
● リヤビューモニターの映像は、ルームミラーやドアミラーで見るのと同様に左右反転させた映像です。

● 雪道や滑りやすい路面では、予想進路線と実際の進路が異なることがあります。

● リヤビューカメラは車幅の中心よりずれた位置に取り付けられているため、リヤビューの表示は多少中心からずれて見えます。

■ トップビュー

● 自車位置や駐車スペースへの進入コースが分かりやすい、車両を上から見たような映像をインテリジェント アラウンドビューモニターに表示します。



① 自車

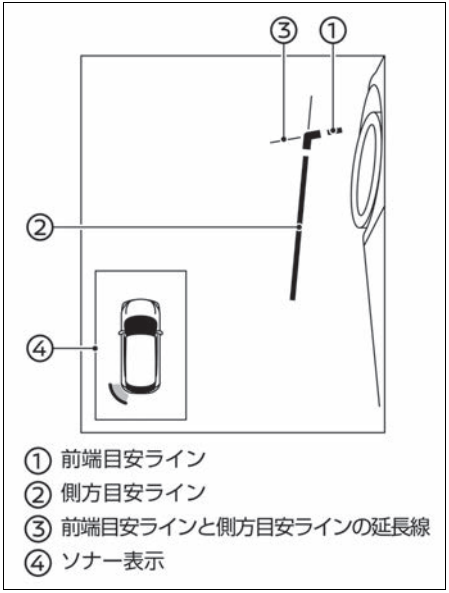
② 予想進路線

● 自車①は、自車位置を示しています。トップビューに表示される障害物までの距離は、実際とは異なることがあります。

● 予想進路線②はハンドルを切った角度のまま進んだときの予想進路を表示します。

■ サイドブラインドビュー

● 車両の前輪付近から前方を、インテリジェント アラウンドビューモニターに表示します。道路端への幅寄せ駐車などに便利です。



目安ライン

- モニターには車幅と車両の前端を示す目安ラインが表示されます。
  - ①前端目安ラインは、車両前部の位置の目安を示します。
  - ②側方目安ラインは、ドアミラーを含めた車幅の目安を示します。
  - ③前端目安ラインと側方目安ラインの延長線は、水色の破線で表示します。

ソナー表示

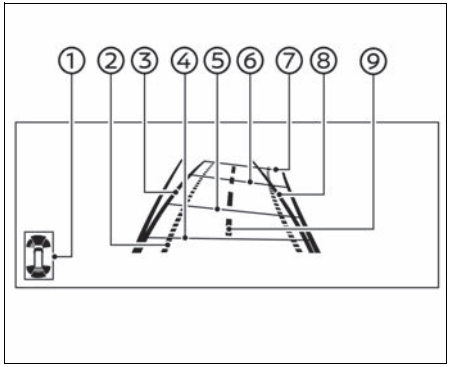
- ④ソナー表示は、ソナーが障害物を検知すると、表示されます。

アドバイス

- 方向指示器の光が側方目安ラインと重なる場合がありますが、異常ではありません。
- サイドブラインドビュー表示中に、車速が一定速度を超えると画面の一部がグレーとなりますが、異常ではありません。

■ フロントワイドビュー（3Dビュー機能無車）／リヤワイドビュー

- 車両の前方／後方の映像を画面幅いっぱいに表示します。



①ソナー表示

- ソナーが障害物を検知すると表示します。

②タイヤ予想進路線（リヤワイドビューのみ）

- タイヤの予想進路を表示します。ハンドルを切った角度に応じて移動します。

③予想進路線

- 運転操作時に予想進路を示します。ハンドルを切った角度に応じて移動します。

距離目安ライン

- 車体からの距離の目安を表示します。
  - ④赤色：約0.5m
  - ⑤水色：約1m
  - ⑥水色：約2m
  - ⑦水色：約3m

⑧車幅目安ライン

- 車幅の目安を示します。

⑨車両中心線

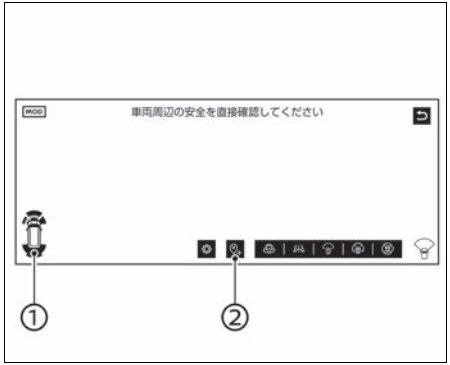
- 車両中心の予想進路を示します。

アドバイス

- リヤビューモニターの映像は、ルームミラーやドアミラーで見るのと同様に左右反転させた映像です。
- 雪道や滑りやすい路面では、予想進路線と実際の進路が異なることがあります。
- リヤビューカメラは車幅の中心よりずれた位置に取り付けられているため、リヤビューの表示は多少中心からずれて見えます。

■ ひずみ補正機能付フロントワイドビュー（3Dビュー機能付車）

- 車両の前方の映像を画面幅いっぱいに表示します。
- 距離感のつかみやすい映像が広角で表示され、見通しの悪い交差点などで死角の確認がしやすくなります。



①ソナー表示

●ソナーが障害物を検知すると表示します。

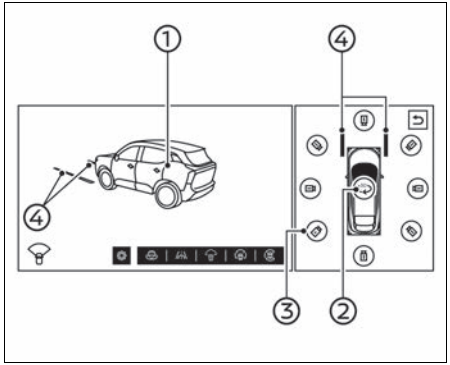
②自動表示地点ボタン

●フロントワイドビューを表示しているときにタッチすると、自動的にフロントワイドビューが表示される地点を登録することができます。
運転者が見通しの悪い交差点で死角を確認する必要がある場合などに役立ちます。
次の場合はフロントワイドビューが自動表示されないことがあります。
— 登録地点から約30mの範囲内で走行を開始したとき
— 車速20km/h以上で走行しているとき

●登録した地点は、確認、編集、削除することができます。
➔インテリジェント アラウンドビューモニターの設定（3Dビュー機能付車）(P.209)

■ 3Dビュー（3Dビュー機能付車）

●車両の周囲360°の映像をインテリジェント アラウンドビューモニター左側画面に表示します。



①車両画像

●車両画像を表示します。

②回転アイコン

●シフトポジションがPのときにタッチすると、車両画像①が360°回転し、車両の周囲を確認できます。

③カメラ位置アイコン

●タッチすると、8種類のカメラ方向を選択することができます。

④予想進路線

●タイヤの予想進路を表示します。ハンドルを切った角度に応じて移動します。

3Dビュー自動回転

●＜パワースイッチ＞をONにしてから初めて＜CAMERA＞スイッチを押すと、車両画像とその周辺の画像が表示され、自動的に360°回転して車両の周囲を確認します。

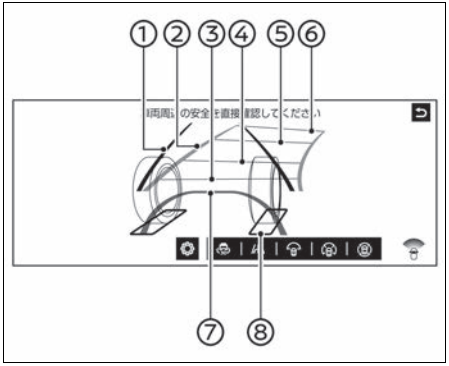
●［ ⚙ ］をタッチすると、3Dビュー自動回転のON・OFFを切り替えることができます。
設定の詳細については、➔インテリジェント アラウンドビューモニターの設定（3Dビュー機能付車）(P.209)をお読みください。

アドバイス

● 3Dビュー表示中に車速が一定速度を超えると、進行方向にある3台のカメラしか選択できなくなりますが、異常ではありません。

■ インビジブルフードビュー（3Dビュー機能付車）

●エンジンルーム下の映像を画面幅いっぱいに表示します。



①車幅目安ライン

● 車幅の目安を表示します。

②予想進路線

● 運転操作時に予想進路を表示します。ハンドルを切った角度に応じて移動します。

距離目安ライン

● 車体からの距離の目安を表示します。
- ③赤色：約0.5m
- ④水色：約1m
- ⑤水色：約2m
- ⑥水色：約3m

⑦車両輪郭線

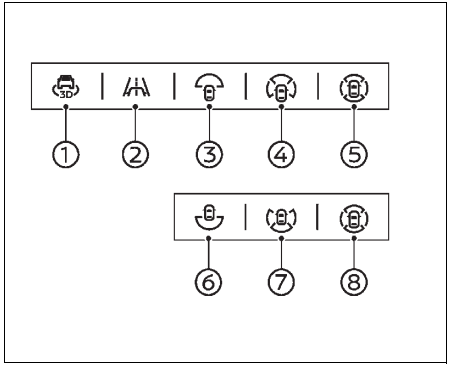
● 車両前部の目安を表示します。

⑧タイヤ目安線

● 前輪タイヤの目安を表示します。

画面切替アイコン（3Dビュー機能付車）

● 画面下部にあるアイコンをタッチして、各ビューに切り替えます。



①3Dビュー

②インビジブルフードビュー

③フロントワイドビュー

④フロントビュー／サイドブラインドビュー

⑤トップビュー／フロントビュー

⑥リヤワイドビュー※

⑦リヤビュー／サイドブラインドビュー※

⑧トップビュー／リヤビュー※

※：シフトポジションをRにしたときに表示します。

インテリジェント アラウンドビューモニターの設定（3Dビュー機能付車）

● インテリジェント アラウンドビューモニター画面の［ ⚙ ］をタッチすると、インテリジェント アラウンドビューモニターの設定をすることができます。

● ［ ⚙ ］は、シフトポジションがR以外のときに表示されます。

項目1	項目2	機能
画質調整	明るさ	● ［+］、［-］をタッチして明るさを調整します。
	コントラスト	● ［+］、［-］をタッチしてコントラストを調整します。
	色合い	● ［+］、［-］をタッチして色合いを調整します。
	色の濃さ	● ［+］、［-］をタッチして色の濃さを調整します。
	黒レベル	● ［+］、［-］をタッチして黒レベルを調整します。
自動表示地点		● 自動地点登録の一覧の確認、編集および削除ができます。
3Dビュー自動回転		● 3Dビュー自動回転機能のON・OFFを切り替えます。

項目1	項目2	機能
ボディーカラー		● トップビューと3Dビューに表示される車両の色を選択します。

移動物 検知機能について

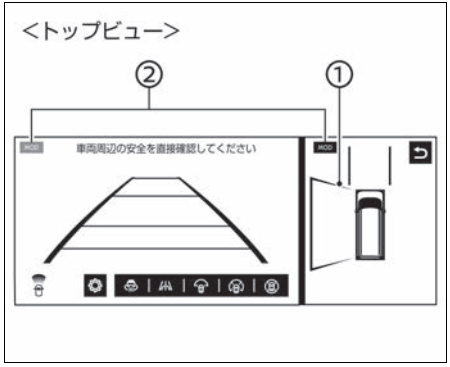
⚠ 注意

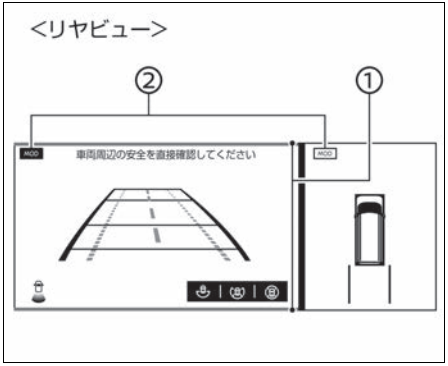
- **車両の操作をするときは、周囲の安全をミラーや目視で直接確認してください。**

- 車庫入れや駐車場からの発進時などに自車周辺の移動物を運転者にお知らせすることで、安全確認をサポートする機能です。
- 車両周辺に移動物があるときに、音と黄枠を表示してお知らせします。
- トップビューに MOD （緑色）表示がある場合には移動物を検知したエリア（前後左右）に黄枠を表示します。
- 移動物 検知機能は次の条件のとき、MOD （緑色）が表示されている画面で作動します。
  - シフトポジションがPまたはNで停車しているときに、トップビュー側で作動します。
  - シフトポジションがDまたはBで低車速時に、フロントビューで作動します。
  - シフトポジションがRで低車速時に、リヤビューで作動します。
- ソナーブザーが鳴っている場合は移動物検知機能ブザーは鳴りません。
- サイドブラインドビュー、3Dビュー★およびインビジブルフードビュー★には移動物 検知機能がないため、移動物 検知機能作動状態アイコンを表示しません。

画面の見かた

※各ビューの表示位置はグレード、オプションなどにより異なります。





①移動物 検知表示

- 移動物 検知機能で移動物を検知したときに、黄枠でお知らせします。

②移動物 検知機能作動状態アイコン

- 移動物 検知機能を作動させる側の画面のアイコンを緑色で表示します。
  - MOD （緑色）：移動物 検知機能が作動します
  - MOD （灰色）：移動物 検知機能が作動しません
- 次の場合には移動物 検知機能は作動しません。
  - 車速やシフトポジションの位置が移動物 検知機能の作動条件から外れている場合
  - トップビューによる移動物 検知機能作動中でいずれかのドアが開いている場合
  - リヤビューによる移動物 検知機能作動中でバックドアが開いている場合

● トップビューによる移動物 検知機能作動中で電動格納式ドアミラーの開閉作動中は、MOD（灰色）が表示され、移動物 検知機能が作動しません。

ソナー機能について

⚠ 警告

- **バンパーにへこみなどがあると正確な距離が測定できず、正常に作動できない場合があります。**
- **適正なタイヤの空気圧を維持してください。誤作動の原因になります。**
- **日産純正品以外のバンパーを取り付けたとき、正常に作動できない場合があります。**
- **ソナーの性能には限界があるため、システムだけに頼らず、常に安全を心がけてください。詳細については、検知条件と制限をお読みください。**

➔ ソナーの検知条件と制限 (P.149)

⚠ 注意

- **気温や天候、路面状態などの周囲の状況や、障害物の大きさ、形状によってはソナーが検知できないことがあります。また、音波を吸収しやすいものにも、ソナーが検知できないことがあります。必ず周囲を確認して運転をしてください。**
- **次のような障害物には作動しません。**
  - 背の低い障害物
  - 幅の狭い障害物
  - 針金、金網、ロープなどの細い障害物
  - ソナーに非常に近い障害物
  - 急に進行方向に現れた障害物
- **次のような障害物は検知しないことや作動が遅れることがあります。**
  - 地面から高い位置に存在する障害物
  - スポンジ状のものや雪など表面が柔らかく音波を吸収しやすい障害物
- **ソナーは次のような場合は検知しない、もしくは正しく検知できない場合があります。**
  - 雨、雪、氷、汚れなどがソナーセンサー部や周辺に付着しているとき
  - 障害物の面が車両の前面、または後面に対して斜めのとき
  - 周囲に草が生い茂っているとき
  - 車両側面の近くに壁があるとき
  - 路面上に段差や突起物があるとき
  - 垂れ下がった旗、ビニールカーテンなどをくぐって走行するとき
  - 車両周辺に雪のかたまりがあるとき
  - 周囲で大きな音が鳴っているとき
  - 車両感応センサーやホーン、他車のソナー、オートバイの排気音など超音波を発生するものが付近に存在するとき
  - 炎天下や寒冷時
  - 表面が一様でない障害物（複数の障害物が積載されて凹凸な形状の場合）
- **外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。**
- **ソナー部が凍結したときは異常表示が出たり、壁などの障害物があったりしてもソナーが検知しないことがあります。**

  （氷が解ければ、正常に復帰します）
- **ソナーは前後バンパーについています。バンパーには、ステッカーを貼ったりアクセサリーなどを取り付けたりしないでください。**
- **適正なタイヤの空気圧を維持してください。誤警報や誤操作の原因になります。**

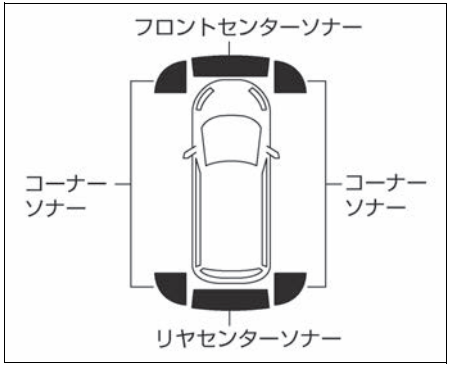
● 次の場合にソナー機能が作動します。
  - シフトポジションをRにしたとき
  - シフトポジションがDまたはBで障害物を検知したとき（約10km/h 以下）

● ソナー表示中にステアリングスイッチの＜OK＞スイッチ、＜◀▶＞スイッチを押す、または＜OK＞スイッチを回すと一時的にソナー機能を停止できます。

● ただし次の場合は、一時停止が解除されます。

— シフトポジションを、N、Pにしたとき
— 約12km/h以上で走行したとき

- NissanConnectインフォテインメントシステム非装着車は、インテリジェントルームミラーがインテリジェント ルームミラーモードのときにソナー表示が使用できます。
- インテリジェント アラウンドビューモニター（移動物 検知機能付）を表示させて、走行中にソナーが静止した障害物を検知した場合は、ソナー表示とブザーでお知らせします。
- ソナー表示はトップビュー、サイドブラインドビュー、リヤワイドビュー、フロントワイドビュー★、3Dビュー★またはインビジブルフードビュー★画面に表示されます。
- 障害物を検知してから、ソナー表示とブザーが出るまでに多少時間がかかります。



アドバイス

- システムを正しく作動させるためにソナーはいつもきれいにしておいてください。ソナーの取り扱いについては、（➔P.310）をお読みください。

■ タイプA

コーナーソナー

障害物までの距離（目安）	60～50cm	50～30cm	30cm以下
表示色	緑	黄（オレンジ）	赤
表示点滅速度	遅い	速い	点灯
ブザー音	ピッ、ピッ、ピッ…	ピピピピピ…	ピー

フロントセンターソナー

障害物までの距離（目安）	100～70cm	70～50cm	50～30cm	30cm以下
表示色	緑	緑	黄（オレンジ）	赤
表示点滅速度	遅い	遅い	速い	点灯
ブザー音	なし	ピッ、ピッ、ピッ…	ピピピピピ…	ピー

リヤセンターソナー

障害物までの距離（目安）	150～50cm	50～30cm	30cm以下
表示色	緑	黄（オレンジ）	赤
表示点滅速度	遅い	速い	点灯
ブザー音	ピッ、ピッ、ピッ…	ピピピピピ…	ピー

■ タイプB

フロントコーナーソナー

障害物までの距離（目安）	60～50cm	50～30cm	30cm以下
表示色	緑	黄（オレンジ）	赤
表示点滅速度	遅い	速い	点灯
ブザー音	ピッ、ピッ、ピッ…	ピピピピピ…	ピー

フロントセンターソナー

障害物までの距離（目安）	100～50cm	50～30cm	30cm以下
表示色	緑	黄（オレンジ）	赤
表示点滅速度	遅い	速い	点灯
ブザー音	ピッ、ピッ、ピッ…	ピピピピピ…	ピー

リヤコーナーソナー

障害物までの距離（目安）	100～50cm	50～30cm	30cm以下
表示色	緑	黄（オレンジ）	赤
表示点滅速度	遅い	速い	点灯
ブザー音	ピッ、ピッ、ピッ…	ピピピピピ…	ピー

リヤセンターソナー

障害物までの距離（目安）	150～50cm	50～30cm	30cm以下
表示色	緑	黄（オレンジ）	赤
表示点滅速度	遅い	速い	点灯
ブザー音	ピッ、ピッ、ピッ…	ピピピピピ…	ピー

■ ソナー表示色

- ソナー表示の色は、障害物に近づくに従って、緑、黄（オレンジ）、赤と変化します。ソナーの表示の色と距離目安線とでは障害物までの距離は異なります。

■ 警報音（ブザー）

- 障害物との距離が近づくに従って、断続音の間隔が短くなります。表示が赤の場合は連続音になります。
- 障害物との距離が広がった場合は断続音が消え、ソナー表示のみとなります。
- フロントソナーが検知したときは低音、バックソナーが検知したときは高音でお知らせします。
- ソナー表示中にステアリングスイッチの<OK>スイッチでソナーの音がOFFになります。

■ ソナー機能OFF

- アドバンスドドライブアシストディスプレイで［設定］⇒［運転支援］⇒［駐車支援］を選択すると、フロント／バック★ソナー機能のON・OFFを設定できます。

■ ソナーによるカメラ画面の自動表示機能★

- シフトポジションがDかつ低車速で走行中でカメラ画面が表示されていない場合に、車両前方の障害物を検知した場合はインテリジェント アラウンドビューモニター画面を自動で表示します。
- 障害物がなくなると、自動的にインテリジェント アラウンドビューモニターはOFFになります。

■ ソナーシステムの作動が停止するとき

- システムに異常があると、アドバンスドドライブアシストディスプレイ内に警告が表示され、システムが停止します。
ソナーシステム異常警告（➔P.273）

インテリジェント アラウンドビューモニター★に関する注意事項

⚠ 警告

- **カメラの作動を妨げるような物をカメラ部分に取り付けないでください。字光式ナンバープレートやナンバープレートリムを装着すると、フロントビューおよびリヤビューモニターの映像が一部映らなくなることがあります。**

➔外観フロント（P.2）
➔外観リヤ（P.4）

⚠ 警告

- **距離目安ラインと車幅目安ラインは、舗装された平坦な路面上での目安として使用してください。画面に表示される距離は目安であり、自車と映し出されている障害物までの距離は、実際とは異なることがあります。**
- **目安ラインや予想進路線は、乗車人数や燃料の容量などの影響により実際の距離と異なることがあります。目安としてお使いください。**
- **サイズが異なるタイヤと交換すると、予想進路線とトップビューが不適切に表示されることがあります。**
- **上り坂では、モニターに表示される障害物は実際よりも遠くにあるように見えます。下り坂では、モニターに表示される障害物は実際よりも近くにあるように見えます。ミラーを併用するか、目視によって正確な距離を判断してください。**
- **フロントビューおよびリヤビューの表示線は、路面の状況により障害物への距離が実際と異なって見えることがあります。特徴をよく理解してください。**

- カメラレンズの特性により、画面上の距離と実際の距離が異なって見えたり、対象物が変形して見えたりすることがあります。車幅目安ラインと予想進路線は、実際の車幅と進路よりも広くなっています。
- シフトポジションが R 以外のとき、インテリジェント ルームミラーの<Ⓐボタン>（NissanConnectインフォテインメントシステム非装着車）または<CAMERA>スイッチ（NissanConnectインフォテインメントシステム装着車）を押してインテリジェント アラウンドビューモニターを表示させたあと、ソナーまたは移動物 検知機能が作動しない状態で約3分間操作を行わないでいると、インテリジェント アラウンドビューモニター表示が消えます。（3分タイマー機能）
- 画面の切り替わり後は、映像の表示が遅れることがあります。インテリジェント アラウンドビューモニターが完全に表示されるまでは、映像が一時的にゆがむことがあります。
- 外気温が極端に高いか、低いときは、映像の映りが悪くなることがありますが、異常ではありません。
- カメラに直接強い光を当てると、映像の映りが悪くなることがありますが、異常ではありません。
- 蛍光灯照明が当たると、映像にちらつきが出ることがありますが、異常ではありません。
- インテリジェント アラウンドビューモニター映像の色味は、実際とはわずかに異なって見えることがあります。
- 暗い所や夜間時には映りが悪くなり、色味が異なって見えることがありますが、異常ではありません。
- トップビューの各カメラの映像に鮮明さの違いが生じることがあります。
- トップビューの画像は、4つのカメラからの映像を加工処理して表示するため、次のように表示される場合があります。
  - 立体物が倒れこんで見える
  - 路面よりも高い位置にある車両などが実際より遠くに見える
  - 高さのあるものが画像の継ぎ目でずれて表示される
  - 各カメラ画像の明るさが違う

アドバイス

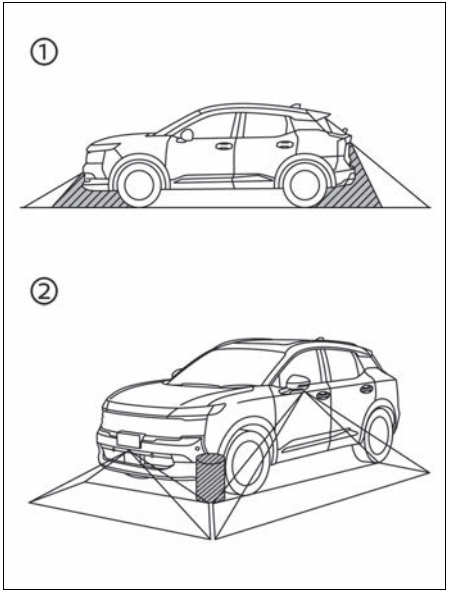
- カメラに汚れ、雨、雪が付着すると、映像の映りが悪くなることがあります。カメラを清掃してください。

  ➔ フロントビューカメラ★／サイドビューカメラ★の取り扱い (P.309)

  ➔ リヤビューカメラ★の取り扱い (P.309)
- アルコール、ベンジン、シンナーなどを使用してカメラを清掃しないでください。変色する原因となります。中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませてふき取ったあと、乾いた柔らかい布でふいてください。
- モニター映像に悪影響が生じるため、カメラに傷をつけないよう注意してください。
- カメラにはワックスを使用しないでください。中性洗剤を薄めて含ませた清潔な布でワックスをふき取ってください。

映し出す範囲

● 特定の領域は、カメラに映し出されません。フロントビューまたはリヤビューでは、バンパー下側または地上面の部分は表示されないことがあります①。トップビューではカメラの映し出す範囲の境目付近にあるもの、路面より高さのあるものは表示されないことがあります②。

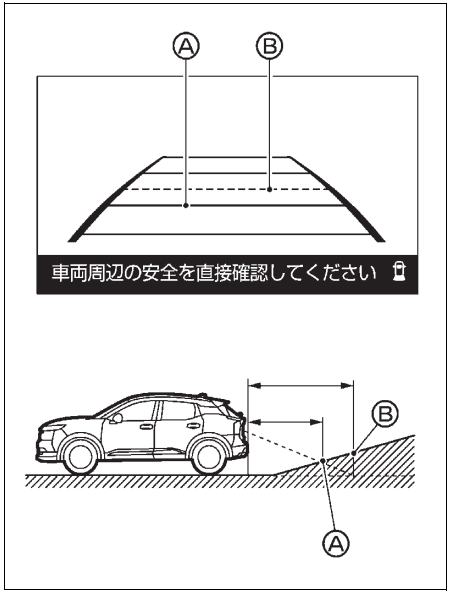


映像と実際の路面との誤差

● フロントビューとリヤビューに表示される距離目安ラインと車幅目安ラインは、舗装された平坦な路面上での目安として使用してください。画面に表示される距離はあくまでも目安であり、自車と映し出されている障害物までの距離は、実際とは異なることがあります。

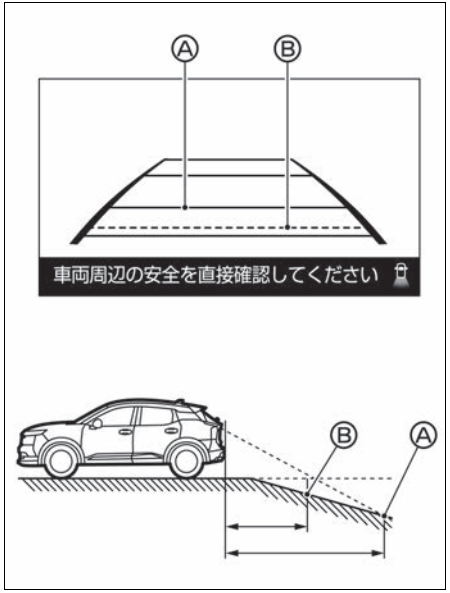
急な上り坂が後方にあるとき

● 距離目安ライン、車幅目安ラインは実際の距離よりも手前に表示されます。例えば、位置Ⓐまでの距離が1mと表示されていても、実際に1mの距離にあるのは、位置Ⓑです。上り坂に障害物があるときは、障害物は実際よりも遠くにあるように見えます。



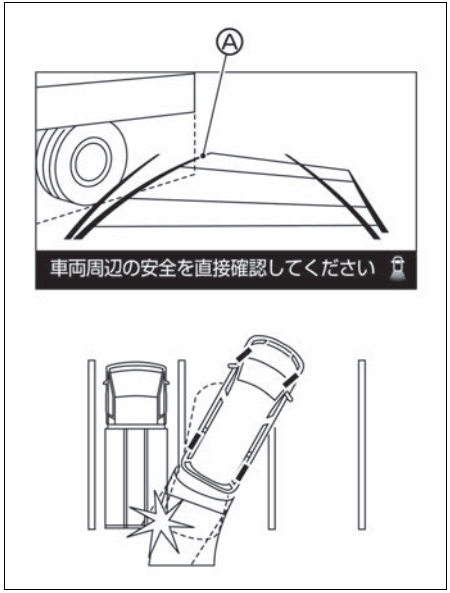
急な下り坂が後方にあるとき

● 距離目安ラインと車幅目安ラインは実際の距離よりも後ろに表示されます。例えば、位置Ⓐまでの距離が1mと表示されていても、実際に1mの距離にあるのは、位置Ⓑです。下り坂に障害物があるときは、障害物は実際よりも近くにあるように見えます。

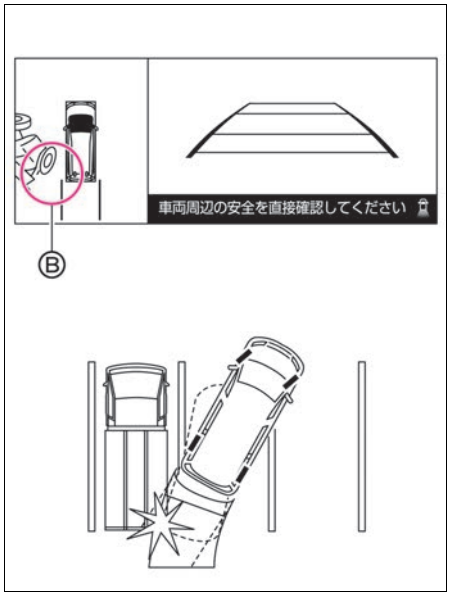


立体物が近くにあるとき

- 立体物が近くにある場合には実際の距離と異なって表示される場合があります。
- 例1：予想進路線Ⓐは表示されているトラックの車体に触れていません。しかし、トラックの車体が実際の進路上に張り出している場合は、ぶつかることがあります。



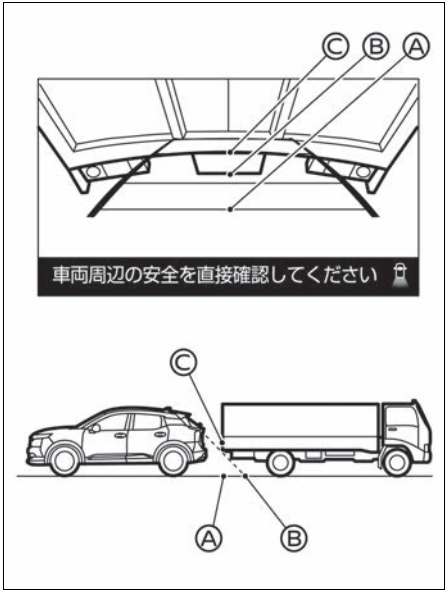
- 例2：表示されているトップビューⒷでは、自車とトラックの車体との間にはわずかな距離があるように見えます。しかし、実際の距離は表示されているよりも短く、トラックの車体にぶつかることがあります。



※表示位置はグレード、オプションなどにより異なります。

立体物に接近するとき

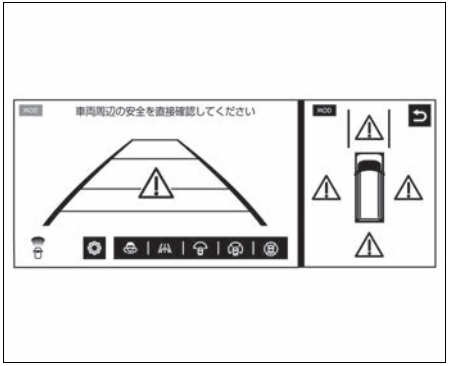
- Ⓒの位置はⒷの位置よりも遠くにあるように見えますが、実際はⒶの位置と同じ距離です。トラックの車体が実際の進路上に張り出している場合は、Ⓐの位置まで下がるとぶつかることがあります。



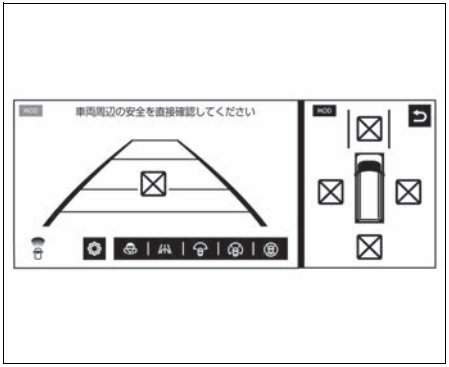
画面のエラー表示について

※各ビューの表示位置はグレード、オプションなどにより異なります。

⚠アイコンが画面内に表示された場合は、インテリジェント アラウンドビューモニター（移動物 検知機能付）の異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。



☒ アイコンが画面内に表示された場合は、カメラ映像が一時的に周囲の電子機器の影響を受けている可能性があります。頻繁に表示される場合は日産販売会社で点検を受けてください。



インテリジェント アラウンドビューモニターカメラの検知条件と制限

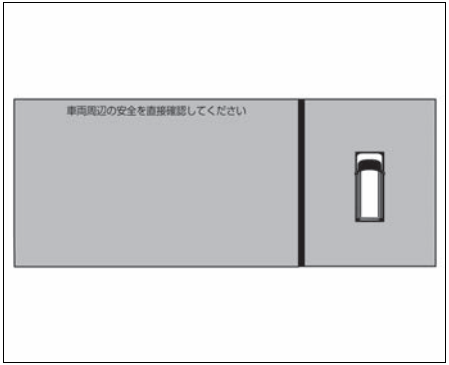
● インテリジェント アラウンドビューモニターカメラは次のような場合、障害物や区画線などを検知できないことがあります。
- 雨や水しぶきがかかったとき
- 夜間、地下、立体駐車場など周囲が暗いとき
- 悪天候（雨、雪、霧、粉じん、砂じん、吹雪など）などで視界が悪いとき
- カメラにお湯や水をかけたときなど、レンズがくもっているとき
- 太陽や電灯の光が路面に映っているとき
- 太陽や電灯の強い光が路面にあたっているとき
- 降雨時や雨上がりなど、路面が濡れて光っていたり、水たまりがあったりするとき
- 朝日や夕日など、太陽の光がカメラに入るとき
- カメラのレンズのくもりや、汚れ、油膜、虫汚れ、水滴、氷、雪、泥などが付着しているとき
- カメラの視界を妨げるようなものを取り付けたとき
- カメラのレンズに強い光（太陽光や対向車両のハイビームなど）を受けているとき
- 急ブレーキや積載によって車両姿勢が大きく傾いたとき
- トンネルの出入り口や日陰など、急に明るさの変化が起こったとき
- 勾配の変化があるところを走行しているとき
- バックドアが開いているとき
- シフトポジションがR以外のとき
- 至近距離に歩行者が飛び出してきたとき
- 子供などの背の低い人や動物、自転車
- 前屈や後屈など直立・歩行以外の姿勢の人
- 乗り物に乗っている人
- ショッピングカートやベビーカーなどを押している人
- 合羽やワンピースなど輪郭が曖昧になる服装の人
- 傘や大きなカバンを所持していて身体の一部が隠れている人
- 歩行者が大きな荷物を持っている、背景と同じ色の服を着ているなど人特有の輪郭が認識できないとき

カメラ映像が正常に表示されない場合

インテリジェント アラウンドビューモニター作動中に、次のような画面表示が続く場合は、カメラシステムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

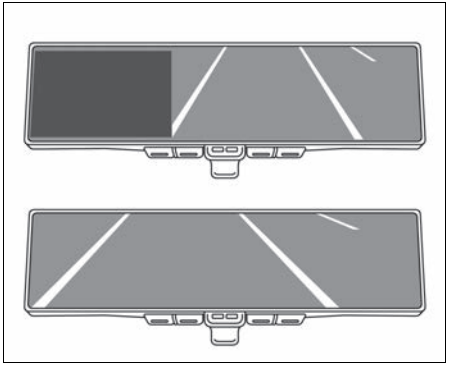
NissanConnectインフォテインメントシステム画面★

● 画面が黒色または灰色に表示されたとき



ディスプレイ付インテリジェント ルームミラー画面★

- インテリジェント アラウンドビューモニター画面が黒色に表示されたとき
- インテリジェント アラウンドビューモニター画面が表示されなくなったとき



ソナーシステム（インテリジェント アラウンドビューモニター無車）

低速走行で前進中または後退中にソナーが障害物を検知した場合は、ブザー音でお知らせします。

ソナー機能について

⚠ 警告

- **バンパーにへこみなどがあると正確な距離が測定できず、正常に作動できない場合があります。**
- **適正なタイヤの空気圧を維持してください。誤作動の原因になります。**
- **日産純正品以外のバンパーを取り付けたとき、正常に作動できない場合があります。**
- **ソナーの性能には限界があるため、システムだけに頼らず、常に安全を心がけてください。詳細については、検知条件と制限をお読みください。**

➲ ソナーの検知条件と制限 (P.149)

⚠ 注意

- **気温や天候、路面状態などの周囲の状況や、障害物の大きさ、形状によってはソナーが検知できないことがあります。また、音波を吸収しやすいものにも、ソナーが検知できないことがあります。必ず周囲を確認して運転をしてください。**
- **次のような障害物には作動しません。**
  - 背の低い障害物
  - 幅の狭い障害物
  - 針金、金網、ロープなどの細い障害物
  - ソナーに非常に近い障害物
  - 急に進行方向に現れた障害物
- **次のような障害物は検知しないことや作動が遅れることがあります。**
  - 地面から高い位置に存在する障害物
  - スポンジ状のものや雪など表面が柔らかく音波を吸収しやすい障害物
- **ソナーは次のような場合は検知しない、もしくは正しく検知できない場合があります。**
  - 雨、雪、氷、汚れなどがソナーセンサー部や周辺に付着しているとき
  - 障害物の面が車両の前面、または後面に対して斜めのとき
  - 周囲に草が生い茂っているとき
  - 車両側面の近くに壁があるとき
  - 路面上に段差や突起物があるとき
  - 垂れ下がった旗、ビニールカーテンなどをくぐって走行するとき
  - 車両周辺に雪のかたまりがあるとき
  - 周囲で大きな音が鳴っているとき

⚠ 注意

— 車両感応センサーやホーン、他車のソナー、オートバイの排気音など超音波を発生するものが付近に存在するとき

— 炎天下や寒冷時

— 表面が一様でない障害物（複数の障害物が積載されて凹凸な形状の場合）

- **外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。**
- **ソナー部が凍結したときは異常表示が出たり、壁などの障害物があってもソナーが検知しないことがあります。**

  （氷が解ければ、正常に復帰します）
- **ソナーは前後バンパーについています。バンパーには、ステッカーを貼ったりアクセサリーなどを取り付けたりしないでください。**
- **適正なタイヤの空気圧を維持してください。誤警報や誤操作の原因になります。**

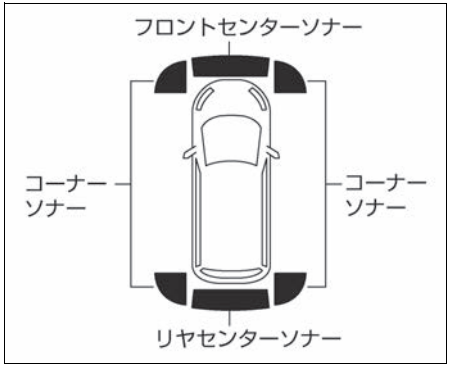
- 車両が障害物に近づくと、アドバンスドドライブアシストディスプレイのソナー表示色が緑⇒黄（オレンジ）⇒赤の順に切り替わり、警報音（ブザー）が鳴ります。同時にメーターのソナー検知表示灯も緑⇒黄（オレンジ）⇒赤の順に点滅します。
- 次の場合にソナー機能が作動します。

  — シフトポジションをRにしたとき

  — シフトポジションがDまたはBで障害物を検知したとき（約10km/h 以下）
- ソナー表示中にステアリングスイッチの＜OK＞スイッチ、＜◀▶＞スイッチを押す、または＜OK＞スイッチを回すと一時的にソナー機能を停止できます。
- ただし次の場合は、一時停止が解除されます。

  — シフトポジションを、N、Pにしたとき

  — 約12km/h以上で走行したとき



アドバイス

- システムを正しく作動させるためにソナーはいつもきれいにしておいてください。ソナーの取り扱いについては、（➔P.310）をお読みください。

■ フロントコーナーソナー

障害物までの距離（目安）	60～50cm	50～30cm	30cm以下
表示色	緑	黄（オレンジ）	赤
表示点滅速度	遅い	速い	点灯
ブザー音	ピッ、ピッ、ピッ…	ピピピピピ…	ピー

■ フロントセンターソナー

障害物までの距離（目安）	100～50cm	50～30cm	30cm以下
表示色	緑	黄（オレンジ）	赤
表示点滅速度	遅い	速い	点灯
ブザー音	ピッ、ピッ、ピッ…	ピピピピピ…	ピー

■ リヤコーナーソナー

障害物までの距離（目安）	100～50cm	50～30cm	30cm以下
表示色	緑	黄（オレンジ）	赤
表示点滅速度	遅い	速い	点灯

障害物までの距離（目安）	100～50cm	50～30cm	30cm以下
ブザー音	ピッ、ピッ、ピッ…	ピピピピピ…	ピー

■ リヤセンターソナー

障害物までの距離（目安）	150～50cm	50～30cm	30cm以下
表示色	緑	黄（オレンジ）	赤
表示点滅速度	遅い	速い	点灯
ブザー音	ピッ、ピッ、ピッ…	ピピピピピ…	ピー

■ ソナー表示色

●ソナー表示の色は、障害物に近づくにしたがって、緑、黄（オレンジ）、赤と変化します。ソナーの表示の色と距離目安線とでは障害物までの距離は異なります。

■ ブザー音

●障害物との距離が近づくにしたがって、断続音の間隔が短くなります。表示が赤の場合は連続音になります。
●障害物との距離が広がった場合は断続音が消え、ソナー表示のみとなります。
●フロントソナーが検知したときは低音、バックソナーが検知したときは高音でお知らせします。

●ソナー表示中にステアリングスイッチの＜OK＞スイッチでソナーの音がOFFになります。

■ フロントソナー機能OFF

●アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［運転支援］⇒［駐車支援］⇒［前方ソナー］を選択すると、フロントソナー機能のON・OFFを設定できます。

室内装備

室内灯

マップランプ／ルームランプ／ラゲッジランプ P.222

収納装備

グローブボックス P.224
センターコンソールボックス P.224
ロアコンソールトレイ P.224
カップホルダー/ボトルホルダー P.225
オーバーヘッドコンソール★ P.226

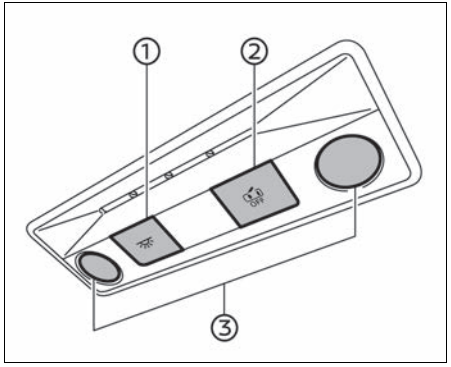
その他の室内装備

先進事故自動通報システム★ P.227
ドライブレコーダー★ P.230
ステアリングヒーター★ P.237
ヒーターシート★ P.237
電源ソケット P.238
USB電源ポート P.239
100V AC電源（1500W）★ P.240
ワイヤレス充電器★ P.243
フロアカーペット P.244
サンバイザー／バニティミラー（照明付き★） P.245
チケットホルダー P.246
アシストグリップ P.246

マップランプ／ルームランプ／ラゲッジランプ

マップランプの使いかた

- マップランプは、前席天井部の中央にあります。
- 次のように点灯・消灯します。



スイッチ	点灯・消灯のしかた
①< >	スイッチを押すと、マップランプ、ルームランプおよびラゲッジランプが点灯します。もう一度押すと消灯します。
②< >	スイッチが押し込まれていないとき、ドアを開けるとマップランプ、ルームランプ、ラゲッジランプが点灯し、閉めると消灯します。スイッチが押し込まれているとき、消灯します。
③	ランプを押すごとに点灯・消灯します。

- 走行可能表示灯［READY］が点灯していないときは、マップランプを長時間点灯させないでください。12Vバッテリーあがりのおそれがあります。

キー連動室内照明システム

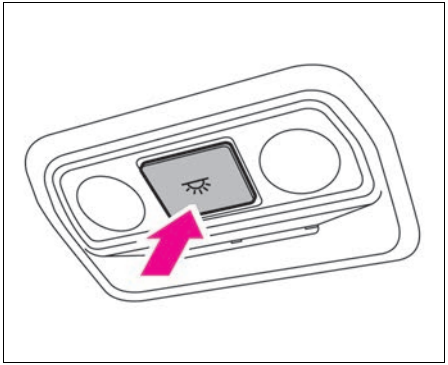
- < >スイッチが押し込まれていないとき、次の条件で点灯します。
  - ＜パワースイッチ＞をOFFにしてから約20秒間
  - ＜パワースイッチ＞がOFFのとき、ドアを解錠してから約20秒間
  - ＜パワースイッチ＞がOFFのとき、ドアを閉めてから約20秒間
  - ドアが開いているとき

バッテリーセーバー

- 12Vバッテリーあがりを防止するため、マップランプは10分以上点灯し続けると、自動的に消灯します。

ルームランプの使いかた

- ルームランプは、後席天井部の中央にあります。
- < >スイッチを押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。



キー連動室内照明システム

- マップランプの< >スイッチが押し込まれていないとき、次の条件で点灯します。
  - ＜パワースイッチ＞をOFFにしてから約20秒間
  - ＜パワースイッチ＞がOFFのとき、ドアを解錠してから約20秒間
  - ＜パワースイッチ＞がOFFのとき、ドアを閉めてから約20秒間
  - ドアが開いているとき

バッテリーセーバー

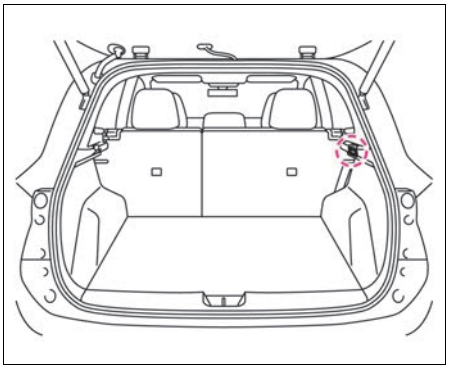
- 12Vバッテリーあがりを防止するため、ルームランプは10分以上点灯し続けると、自動的に消灯します。

ラゲッジランプの使いかた

- ラゲッジランプはラゲッジルームの右にあります。

室内灯

●バックドアを開けると自動で点灯し、
バックドアを閉めると消灯します。



アドバイス

● 走行可能表示灯［READY］が点灯していないときは、ラゲッジランプを長時間点灯させないでください。12Vバッテリーがあがるおそれがあります。

バッテリーセーバー

●12Vバッテリーあがりを防止するため、ラゲッジランプは10分以上点灯し続けると、自動的に消灯します。

グローブボックス

グローブボックスの使いかた

⚠ 注意

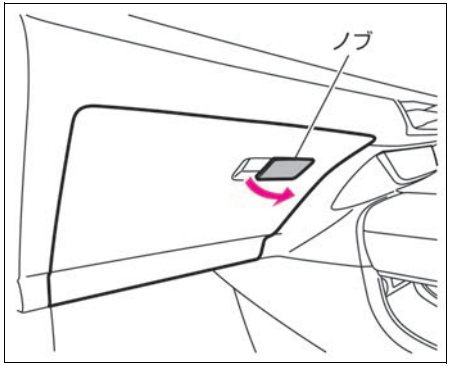
- **グローブボックスを開けたまま走行しない。**

  ブレーキをかけたときに、収納した物が飛び出したり、ふたに当たったりするなどして、思わぬケガをするおそれがあります。

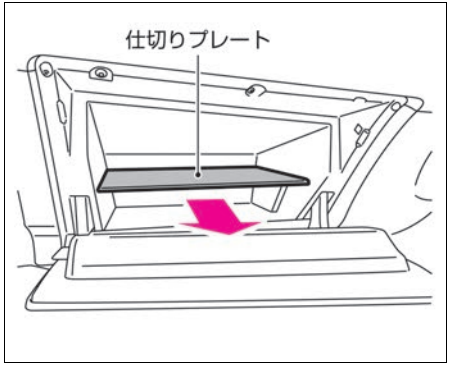
- **ふたを開けるときは、ゆっくり開ける。**

  ふたを全開にしたとき身体に当たるおそれがあります。

- ノブを引くと、ふたが開きます。
- 閉めるときは、ロックするまでふたを押します。



- グローブボックス内の仕切りプレートは、手前に引くと取り外すことができます。



アドバイス

- 仕切りプレートを取り付けるときは、ロックするまで奥に押し込んでください。開いたグローブボックスのふたの上に物を置いたまま閉めると、収納したものや仕切りプレートが破損するおそれがあります。

センターコンソールボックス

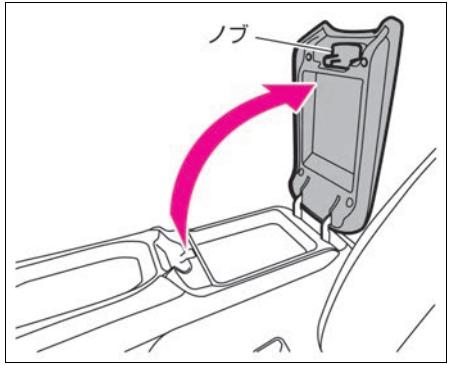
センターコンソールボックスの使いかた

⚠ 注意

- **センターコンソールボックスを開けたままにしない。**

  開けたふたで思わぬケガをするおそれがあります。

- 開けるときは、ノブを引きながらふたを引き上げます。
- 閉めるときは、ロックするまでふたを押します。



ロアコンソールトレイ

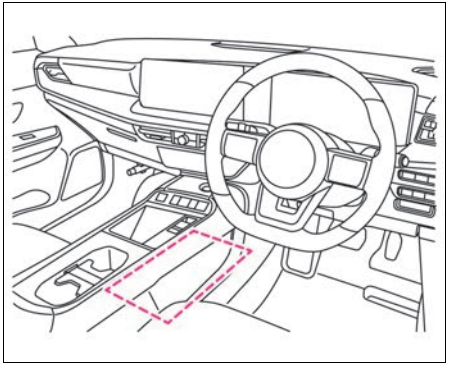
ロアコンソールトレイについて

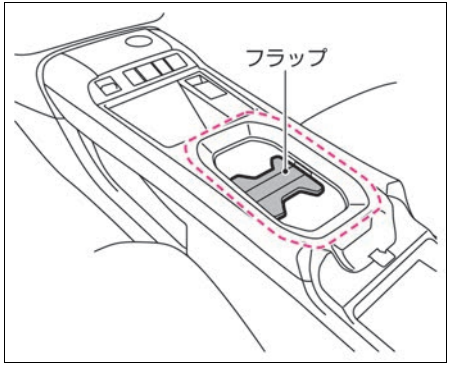
⚠ 注意

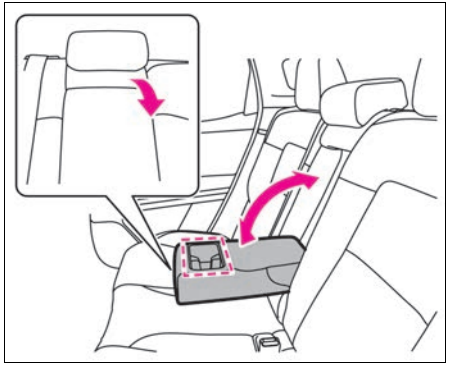
- **ロアコンソールトレイに飛び出すおそれがあるものを置かない。**

  急ブレーキ時や衝突時に物が飛び出し、思わぬケガをするおそれがあります。

- ロアコンソールトレイは、センターコンソールの下部にあります。







カップホルダー/ボトルホルダー

前席用カップホルダーについて

- 前席用カップホルダーは、センターコンソールにあります。
- フラップを取り外してスペースを大きくすることができます。フラップを取り外す場合は、開いた状態で取り外してください。

アドバイス

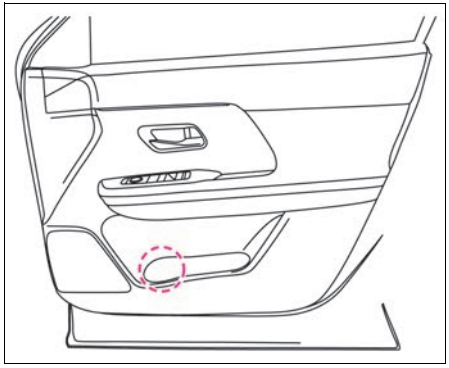
- フラップを戻す場合は、取り外した向きで戻してください。

後席用カップホルダーについて

- アームレストを前に倒して使います。
- 元に戻すときは、アームレストを起こします。

ボトルホルダーについて

- ボトルホルダーは、前席および後席のドアポケットにあります。



カップホルダー／ボトルホルダーに関する注意事項

⚠ 警告

- **運転中に飲物を出し入れしない。**

  運転中に飲物を出し入れすると前方不注意となり、思わぬ事故につながるおそれがあります。運転中は信号待ちなどの停車中に飲物を出し入れしてください。

- **ビンなどの硬いものは入れない。**

  側面衝突などの事故のとき、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **熱い飲物を置かない。**

  熱い飲物をカップホルダーに置くと、走行中にこぼれたり、飛び散ったりして、乗員がやけどを負うおそれがあります。

- **飲物をこぼさないように注意する。**

  飲物の容器の形によっては、確実に固定されないおそれがあります。

- **車室内のスイッチや画面などに飲物をこぼさないようにする。**

  故障や火災のおそれがあります。

アドバイス

- 飲物や液体がいっぱいに満たされた容器をカップホルダーに置くと、走行中にこぼれたり、漏れ出したりして、車両の電子機器などに損傷を与えるおそれがあります。

オーバーヘッドコンソール★

サングラスなどを収納できます。

オーバーヘッドコンソールの使いかた

⚠ 警告

- **炎天下で駐車するときは、サングラス、メガネ、ライターなどを入れたままにしない。**

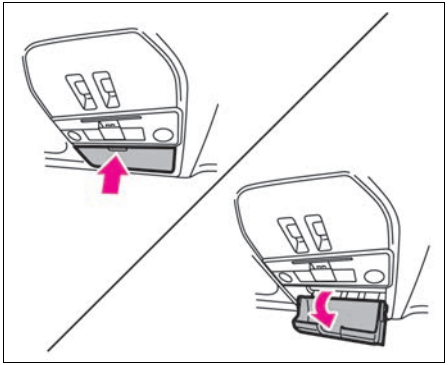
  炎天下での駐車は大変高温になるため、サングラスやメガネが変形したり、ライターが爆発したりするおそれがあります。

⚠ 注意

- **オーバーヘッドコンソールを開けたまま走行しない。また、重いものを入れない。**

  収納物が落下して思わぬケガをするおそれがあります。開閉は停車中に行い、重いものを入れないでください。

- 開けるときは、ふたを押します。
- 閉めるときは、ロックするまで押し戻します。

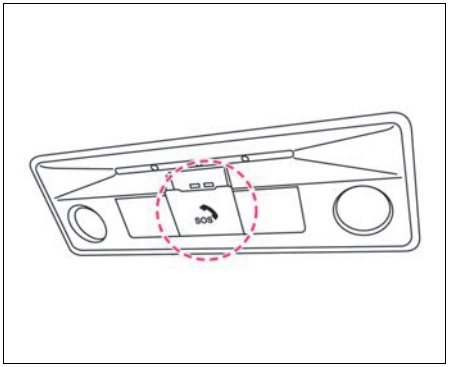


先進事故自動通報システム★

<SOSコールスイッチ>を押すことでSOSコールを開始できます。また、エアバッグやプリテンショナーシートベルトが作動するレベルの事故では、自動でSOSコールを開始します。

先進事故自動通報システムについて

- <パワースイッチ>がONのとき、<SOSコールスイッチ>を押すと、SOSコールを開始できます。
- <SOSコールスイッチ>は、マップランプ中央にあります。



- プロパイロット緊急停止支援システム（SOSコール機能付）により緊急停止したときには自動でSOSコールを開始します。
- SOSコールとは、急病・犯罪・事故などの緊急時に警察・消防・医療機関への連絡を補助するサービスです。
- SOSコールのサービス提供は、（株）日本緊急通報サービスからのものです。
- 日産販売会社でサービスのお申し込みと、車両側での初期設定が完了していないと、SOSコールを利用することができません。
- エアバッグ展開を伴う自動通報（SOSコール）後は、自動通報機能が使用できなくなります。リセット作業が必要ですので、日産販売会社へお問い合わせください。

先進事故自動通報システムの使いかた

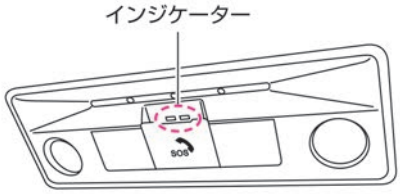
⚠ 警告

- **<SOSコールスイッチ> を押すときは、安全な場所に停車してから行う。**

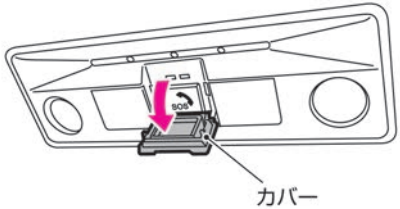
  走行中に運転者がスイッチを押そうとすると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- **SOSコールは無線通信機能を利用しています。心臓ペースメーカーなどの医療用電気機器を使用している場合は、当該の医療用電気機器メーカー、もしくは販売業者に電波の影響について必ず確認してください。**

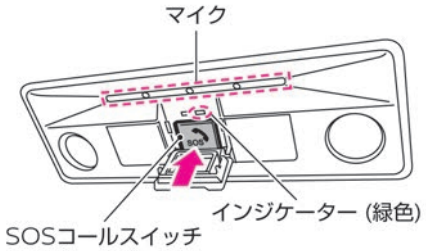
1. <パワースイッチ>をONにします。
   <SOSコールスイッチ>のインジケーターが赤色・緑色ともに点灯し、一定時間経過後に緑色のみ点灯を続けます。



2. <SOSコールスイッチ>のカバーを開きます。



3. <SOSコールスイッチ>を約1秒間押します。
   緑色のインジケーターが点滅し、オペレーターに繋がります。



4. SOSコールサービスのオペレーターと通話します。
状況に応じてオペレーターからの折り返し、もしくは公共機関（警察・消防・医療機関）からの通話着信があります。着信時は自動で音声接続します。
通話が終了したら、カバーを戻し、ロックするまで押します。

●SOSコールサービスのオペレーターや公共機関との通話中は、車両側から通話を終了させることはできません。

アドバイス

● 次の場合は、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。
　— ＜パワースイッチ＞をONにしても、インジケーターが赤色・緑色ともに点灯状態にならないとき
　— インジケーターが赤色・緑色ともに点灯してから一定時間経過後、赤色のインジケーターのみ点灯しているとき
● インジケーターが赤色・緑色ともに消灯している場合は、電波環境の良い場所まで車を移動させてください。

SOSコールスイッチのインジケーターについて

● <SOSコールスイッチ>には、システムの状態を表すインジケーターがあります。

インジケーターの点灯パターン		システム状態	説明・対処方法
赤色	緑色		
(消灯)	(消灯)	システムOFF サービスエリア外	● システムがOFFの状態です。 ● <パワースイッチ>をONにすると電源が入ります。<パワースイッチ>をONにしても、インジケーターが赤色・緑色ともに点灯状態にならないときは日産販売会社で点検を受けてください。 ● 電波環境が悪く、SOSコールを開始できない状態です。車を電波環境の良い場所へ移動させてください。
(点灯)	(点灯)	システムON通知	● システムがONになったことを知らせます。 ● システムがONになると、一定時間点灯します。 ● 初期設定が完了していないと点灯を続けます。
(消灯)	(点灯)	SOSコール開始可能	● SOSコールを開始できる状態です。
(消灯)	(点滅)	SOSコール利用中	● オペレーターセンターと通信中、またはオペレーターと通話中の状態です。
(点灯)	(消灯)	システム異常 SOSコールサービス契約なし 先進事故自動通報システム使用不可	● システム異常またはSOSコールサービス契約がなく、サービスを正常に提供できない状態です。すみやかにサービスの利用契約期限をご確認いただき、日産販売会社で点検を受けてください。

先進事故自動通報システムに関する注意事項

● 先進事故自動通報システムは、国内でのみ利用できます。

● 先進事故自動通報システムは、NissanConnect サービスを申し込みいただくことで利用できます。

● <SOSコールスイッチ>の赤色のインジケーターが点灯していても、SOSコールを開始することができます。ただし、発生している異常によっては、音声通話や救急車両の案内を正常に行えないことがあります。すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。

- SOSコール開始後は通話のキャンセルはできません。いたずらや機能確認など、緊急の場合以外で＜SOSコールスイッチ＞を押さないでください。
- SOSコールは車載された通信機を使用するため、お客さまの携帯電話がなくても利用できます。
- 通話中の音声は、ボリュームを変更することができません。
- SOSコールサービスの契約期限後、継続利用を希望しない場合、日産販売会社にて退会手続きを行ってください。
- 本システムは、オープンソースを使用したソフトウェアを実装しています。ライセンスについて、次のwebサイトを参照してください。
https://www.oss-valeo.com/nissan/default.html

アドバイス

- ＜SOSコールスイッチ＞の赤色のインジケーターのみ点灯する場合は、システムに異常があるか、サービスの契約期限が切れています。契約期限をご確認いただき、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。
- 12Vバッテリーあがりにつながるため、SOSコール利用中は安全を確認したうえでe-POWERシステムを停止せずにご使用ください。
- 通話中は、マップランプにあるマイクに向かって話してください。

- 先進事故自動通報システムは、携帯電話と同様のデータ網を使用しています。圏外エリア（トンネル内、地下駐車場など）や電波の届きにくい場所（山間部）では利用できない場合があります。
- 救急車両は車両位置／車種／車体色／登録ナンバーをもとに現場の通報車両を特定します。元の車体色がわからなくなるほど塗り替えをしてしまっていると、救急車両の到着が遅れる場合があります。
- システムを利用する前に車側で初期設定が必要です。サービス契約後は日産販売会社で初期設定を完了してください。
- 車の登録ナンバーを変更したときは、NissanConnect お客さまセンターへ必ずご連絡ください。SOSコール利用時、会員登録上の車のナンバーと実際の車のナンバーが一致しない場合、救急隊員の到着が遅れることがあります。
- SOSコールサービス契約中に車を手放す場合は、NissanConnect お客さまセンターに必ずご連絡いただき、解約を行ってください。

NissanConnect お客さまセンター：

0120-981-523

受付時間 9:00～17:00（年末年始を除く）

ドライブレコーダー★

車両前方および後方の映像を動画や写真で保存し、NissanConnectインフォテインメントシステムやスマートフォンで確認することができます。

設定については、➔ ドライブレコーダーの設定（P.235）をお読みください。

ドライブレコーダーについて

- ドライブレコーダーの録画機能には、一定時間ごとに連続で録画する常時録画と、手動操作や車両への衝撃で録画を開始する緊急録画があります。
- 常時録画のデータは、microSDカードの録画領域を超えると古いデータから自動的に上書き保存されます。定期的にバックアップをとることをおすすめします。
- 緊急録画や写真データは上書きされません。microSDカードの録画領域を超えるとデータを保存できなくなり、ドライブレコーダー画面にメッセージが表示されます。
日頃から不要なデータはこまめに削除することをおすすめします。

ドライブレコーダーの注意事項

- ＜パワースイッチ＞をONにした直後は、ドライブレコーダーが起動していないため、録画することができません。ドライブレコーダーが起動するまでお待ちください。
- microSDカードを挿入した直後は、microSDカードを読み込むため、録画す

ることができません。microSDカードの読み込みが完了するまでお待ちください。

- 車室内が高温または低温の場合、部品保護のため、録画機能やWi-Fi通信機能が停止する場合があります。エアコンなどを使用して、車室内を適切な温度に調整してください。
- 録画ファイルの時刻情報は、フロントカメラとリヤカメラで差異が生じる場合があります。
- 次の場合、予期せず録画が開始される可能性があります。
  - 車体に強い衝撃を加えた場合
  - ドアを強く開閉した場合
- 衝突が発生しても、衝撃が軽微だと録画されない場合があります。
- 車室内の音や、周囲の騒音で正しく録音できない場合があります。
- 周囲の明るさや距離によって、映像が見えにくくなる場合があります。
- LED式信号機などを録画すると、点滅して見えたり、色を識別できない場合があります。
- 録画した映像は、事故などの証拠としての効力を保証するものではありません。
- すべての状況において映像／音声の品質や記録を保証するものではありません。
- 火災や地震、第三者による行為、その他の事故、お客さまの故意または過失、誤使用、異常な条件下での使用により故障および損害が生じた場合、補償はできません。
- ドライブレコーダーの使用や使用不能から生じる付随的な損害（事業利益の損失、記憶内容の変化・消失など）に関しては、補償できません。
- 機能を使用したことによる車の12Vバッテリーあがりについては補償できません。
- 次の場合も、補償はできません。
  - 誤使用や、静電気などの電気的なノイズを受けたことにより本機が正常に動作しなくなった場合
  - 誤使用や、静電気などの電気的なノイズを受けたとき、または故障・修理のときなどにmicroSDカードに記録されていたファイルが変化・消失した場合

知識

- 走行中はカメラ画面や、保存した動画、静止画を表示することはできません。
- microSDカードを挿入した状態で、本機を譲渡または処分するときは、プライバシー保護のため、保存された記録データをすべて削除してください。
- 本製品には、次のソフトウェアが含まれています。

① パナソニック オートモーティブシステムズ株式会社（「パナソニック」）により、またはパナソニックのために開発されたソフトウェア

② パナソニックにライセンスされた第三者所有のソフトウェア

③ オープンソースソフトウェア

- 上記③に分類されるソフトウェアには、次のwebサイトに記載されているライセンス情報が適用される様々なソフトウェアを含むオープンソースソフトウェア（OSS）が含まれています。

  http://car.panasonic.jp/oss/l01yvn7c

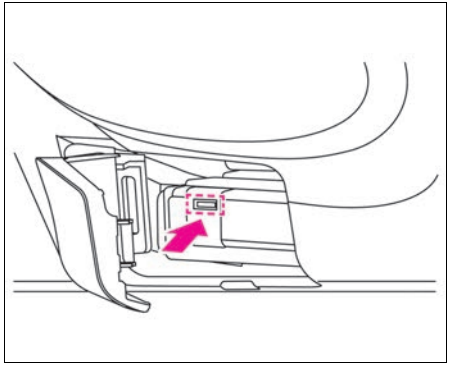
microSDカードについて

警告

- **microSDカードはお子さまに触れさせない。**

  誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害につながります。また最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ドライブレコーダーで保存した動画や静止画は、ハンドル下のインストルメントパネルに挿入されているmicroSDカードに保管されています。



●次の場合、正しくデータを保存できない可能性があります。
- 本機以外で初期化をした場合
- 本機以外で作成したファイルが混在している場合
- microSDカード内に記録されたファイル名を変更した場合
- 本機付属のmicroSDカード以外を使用した場合
- microSDカードが正しく挿入されていない場合

アドバイス

● 録画および再生中にmicroSDカードを取り出すと、データが破損するおそれがあります。

著作権について

●著作物を無断で複製、放送、公開演奏、レンタルすることは法律により禁じられています。

●撮影した映像や画像は、個人で使用する以外は、権利者に無断で使用できません。個人使用目的でも撮影が制限されている場合があります。

●本機を利用して、本人の同意なしに他人の肖像を撮影したり不特定多数に公開することは、肖像権を侵害するおそれがあるためお控えください。

●お客さまが本機を利用して公衆に著しく迷惑をかける不良行為などを行う場合、法律・条例（迷惑防止条例など）に従い処罰されることがあります。

Nissan Drive Recorderアプリで利用できる機能について

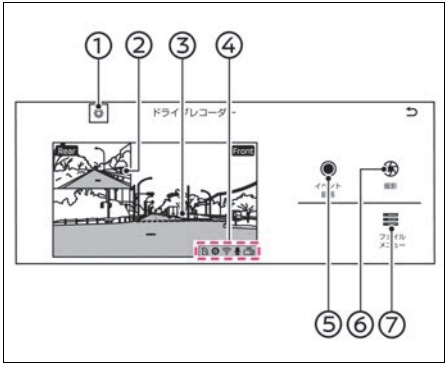
●Nissan Drive Recorderアプリを使用すると、次のようなことができます。これらの機能はNissanConnect サービスを申し込みいただくことで利用できます。
- 遠隔操作で写真を撮影する
- 駐車中にぶつけられたり、ロックが壊れたりしたとき、Nissan Drive Recorderアプリに通知と画像を送信する

ドライブレコーダー画面を表示する

NissanConnectインフォテインメントシステムで次の操作をすると、ドライブレコーダー画面を表示することができます。

［ ］ ⇒［ドライブレコーダー］

NissanConnectインフォテインメントシステムの操作方法は、NissanConnectインフォテインメントシステム取扱説明書をお読みください。



① ［ ］
ドライブレコーダー設定画面を表示します。

② **カメラ画面（副）**
リヤカメラの映像が表示されます。タッチすると、カメラ画面（主）と表示を入れ替えることができます。

③ **カメラ画面（主）**
フロントカメラの映像が表示されます。

④ **情報表示**
ドライブレコーダーの作動状況を示すアイコンが表示されます。

⑤ **［イベント録画］**
緊急時などに手動で録画を開始することができます。

⑥ **［撮影］**
カメラ画面（主）に映っている映像を静止画で保存することができます。

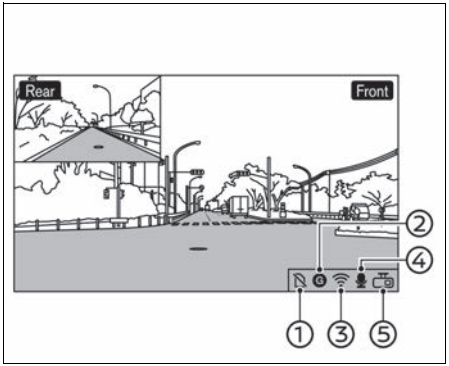
⑦ ［ファイルメニュー］
撮影した写真、録画ファイルの閲覧や削除をすることができます。

知識

- カメラ画面（主）／（副）の映像は、実際よりも遅れて表示されることがあります。
- 走行中にカメラ画面は表示されませんが、［撮影］と［イベント録画］は使用できます。

情報表示

ドライブレコーダー画面には、ドライブレコーダーの作動状態を示すアイコンが表示されます。



位置	アイコン	状態
①	無し	microSDカード認識中
		microSDカード未挿入
②	G（赤色）	衝突録画機能ON
		衝突録画機能OFF
③	（白色）	Wi-Fi接続ON
	無し	Wi-Fi接続OFF
④		録音設定ON
		録音設定OFF
⑤		緊急・手動・常時録画中
		録画停止中

アドバイス

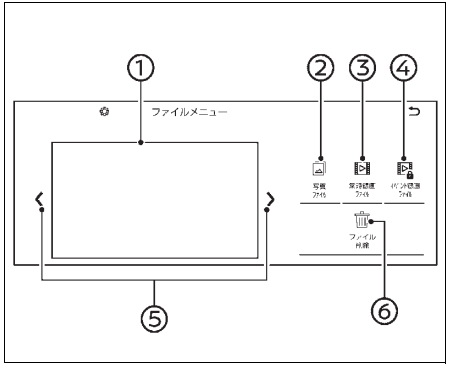
- 表示場所①にアイコンが表示されていない状態で、撮影や録画したデータが保存されない場合は、microSDカードの空き容量が不足している可能性があるため、不要なデータを削除してください。
- が表示された場合は、microSDカードが故障している可能性があります。microSDカードを初期化しても消えない場合は、新しいmicroSDカードに差し替えてください。
- 、G（灰色）または（灰色）が表示された場合は、車両またはドライブレコーダーが故障している可能性があるため、日産販売会社で点検を受けてください。

ファイルメニュー

NissanConnectインフォテインメントシステムで次の操作をすると、撮影した写真、録画ファイルの閲覧や削除をすることができます。

［ ］⇒［ドライブレコーダー］⇒［ファイルメニュー］

NissanConnectインフォテインメントシステムの操作方法は、NissanConnectインフォテインメントシステム取扱説明書をお読みください。



① **ファイル一覧**
ファイルの一覧が表示されます。
一覧からファイルを選択すると、動画の再生や写真の表示ができます。

動画や写真を削除することもできます。

② **写真ファイル**
ファイル一覧で写真を選択して表示することができます。

③ **常時録画ファイル**
ファイル一覧で常時録画ファイルを選択して再生することができます。

④ **イベント録画ファイル**
ファイル一覧でイベント録画ファイルを選択して再生することができます。

⑤ **<／>**
ページを切り替えることができます。

⑥ **ファイル削除**
撮影した写真や動画を選択して削除することができます。

知識

- 走行中にファイル一覧の表示やファイルの閲覧はできません。
- ファイル一覧が表示されているときや動画を再生しているときなどは、録画機能を使用することができません。

ドライブレコーダーの設定

NissanConnectインフォテインメントシステムで次の操作をすると、ドライブレコーダー設定画面を表示します。

［ ］⇒［ドライブレコーダー］⇒［ ］

スマートフォンの専用アプリを使って、ドライブレコーダーにスマートフォンをWi-Fi接続すると、スマートフォンでドライブレコーダーに保存されているファイルの確認やダウンロードができます。

NissanConnectインフォテインメントシステムの操作方法は、NissanConnectインフォテインメントシステム取扱説明書をお読みください。

※画面に表示される項目名はソフトウェアバージョンなどによって変わる可能性があります。

項目1	項目2	機能
常時録画		常時録画のON・OFFを設定します。
録画時の録音		録音のON・OFFを設定します。
駐車録画モード		駐車時に車両が衝撃を受けた際に自動で録画を開始する機能のON・OFFを設定します。
衝撃によるイベント録画		走行中または停車中に車両が衝撃を受けた際に自動で録画を開始する機能のON・OFFを設定します。
録画時間		常時録画の1ファイルの録画時間を［1分］、［3分］、［5分］から選択します。
画質		画質を［高画質］、［標準］、［長時間］から選択します。
録画への情報表示		車両情報アイコンの表示・非表示を設定します。 ONにすると、録画ファイルに車両情報アイコンが表示されます。
衝撃感度		衝撃による緊急録画や駐車録画モードを開始する衝撃の感度を［低］、［中］、［高］から選択します。

項目1	項目2	機能
デバイスのWi-Fi接続		ドライブレコーダーのWi-FiのON・OFFを設定します。 ONのときに、スマートフォンの専用アプリを使って、ドライブレコーダーにスマートフォンをWi-Fi接続すると、ドライブレコーダーに保存されているファイルの確認やダウンロードができます。 専用アプリは次の項目よりダウンロードできます。 **アプリ名称：Nissan Drive Recorder** **Androidの場合：Google Play** **iOSの場合：App Store** 初期Wi-Fi名称：dvr_ssid 初期Wi-Fiパスワード：dvr_pass Wi-Fi名称とWi-Fiパスワードを忘れた場合は、［ドライブレコーダ初期化］で初期に戻すことができます。 ドライブレコーダーにスマートフォンを初めてWi-Fi接続するときは、セキュリティ対策としてドライブレコーダーに設定されている初期Wi-Fi名称およびWi-Fiパスワードを変更する必要があります。 パスワードには、アルファベット大文字・小文字、数字、記号をそれぞれ1文字以上使用することをおすすめします。 他人から簡単に推測されるパスワードは使用しないでください。
カメラ角度調整		カメラの角度を調整します。
ドライブレコーダーシステム	ソフトバージョン	ドライブレコーダーのソフトウェアバージョン情報を表示します。
	SDカードのフォーマット	microSDカードを初期化します。
	ドライブレコーダ初期化	ドライブレコーダーを初期化します。
フロントカメラ		カメラの明るさとコントラストを調整します。
リヤカメラ		

知識

- 初めてドライブレコーダーをご使用になるときに録画設定がOFFになっていた場合は、ドライブレコーダーの初期化を行ってください。

- microSDカードを初期化するとすべてのデータが消去されます。あらかじめバックアップをとることをおすすめします。

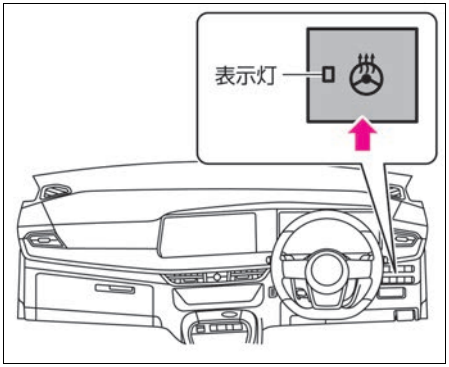
ステアリングヒーター★

ハンドルを温めます。

ステアリングヒーターの使いかた

スイッチ操作

●スイッチを押すと一定時間作動します。（スイッチの表示灯が点灯）



●作動中にスイッチを押すと作動が停止します。（スイッチの表示灯が消灯）

●ハンドルの表面温度が一定温度以上のときは、スイッチを押してもステアリングヒーターは作動しません。

センターディスプレイ操作★

1. センターディスプレイの［ ］をタッチしてオートエアコンシステム操作画面を表示させます。
2. スイッチをタッチするごとにON・OFFが順に切り替わります。

●スイッチを押すと一定時間作動します。（スイッチの表示灯がオレンジ色に点灯）

●ハンドルの表面温度が一定温度以上のときは、スイッチをタッチしてもステアリングヒーターは作動しません。

アドバイス

● 12Vバッテリーあがりを防止するため、メーター内の走行可能表示灯［READY］が点灯しているときに使用してください。

ヒーターシート★

前席シートを温めます。

⚠ 注意

● **長時間の連続使用はしない。**

低温やけどの原因になります。特に皮膚の弱い方、乳幼児、病人、お年寄り、身体の不自由な方、眠気をもよおす薬を服用された方、深酒や疲労の激しい方は注意してください。

● **硬くて重い物や突起がある物をシートに載せたり、ピンや針などの鋭い物でシートを突き刺したりしない。**

モード	表示灯	働き
HI	2つ点灯	強
LO	1つ点灯	弱
OFF	消灯	停止

アドバイス

● 過熱するおそれがあるため、シートに毛皮や座布団を載せたり、シートカバーを使用したりしないでください。

● シートを清掃するときは、シンナー、ベンジン、アルコールなどの有機溶剤を使用しないでください。

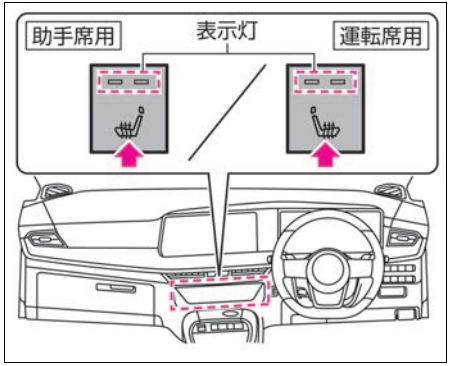
● 水などをこぼしたときは、乾いた布ですぐにふき取ってください。

● 12Vバッテリーあがりを防止するため、走行可能表示灯［READY］が点灯しているときに使用してください。

ヒーターシートの使いかた

スイッチ操作

●スイッチを押すと作動します。（スイッチの表示灯が点灯）



●スイッチを押すごとに
HI⇒LO⇒OFF⇒HIの順に切り替わります。

●e-POWERシステムを再始動すると助手席側はOFFになります。

センターディスプレイ操作★

1. センターディスプレイの［ ］をタッチしてエアコン操作画面を表示させます。
2. スイッチをタッチするごとに
HI⇒LO⇒OFF⇒HIの順に切り替わります。（表示灯が赤色に点灯）

電源ソケット

カーアクセサリーの電源をとるときに使います。

電源ソケットの使いかた

⚠ 警告

● **電源ソケットを使うときは、次のことを守る。**

電源ソケットの不適切な使用は、車両のヒューズが切れるだけでなく、最悪の場合、車両火災ややけどのおそれがあります。

— 複数の電源ソケットを持つアダプターを使用して、一度にたくさんの機器を接続しないでください。

— 消費電力120W以下のものを使ってください。

— 相手プラグをソケットの奥まできちんと挿入してください。

— 使用中や使用後はソケットやプラグの取り扱いに十分注意してください。

— シガーライターをソケットに差し込まないでください。

— ソケットに水をかけたり、指や金属などを入れたりしないでください。

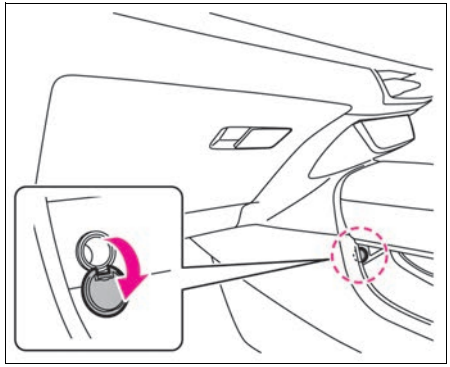
●電源ソケットはロアコンソールトレイにあります。

●ふたを開けて使います。

●使用しないときは、ふたを閉めます。

●容量は、12V（ボルト）、10A（アンペア）、120W（ワット）です。

●プラグを挿入したり抜いたりするときは、使用機器側の電源をOFFにするか、＜パワースイッチ＞をOFFにしてください。



アドバイス

- 12Vバッテリーあがりを防止するため、走行可能表示灯［READY］が点灯しているときに使用してください。

USB電源ポート

USB電源ポートでモバイル機器などを充電できます。NissanConnectインフォテインメントシステム装着車は、センターコンソール前方のUSB電源ポートで通信も可能です。

USB電源ポートの使いかた

警告

- **SRSエアバッグの作動を妨げるような場所に、モバイル機器や接続用のケーブルを設置しない。**

  SRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、SRSエアバッグの作動時にモバイル機器が飛ばされたりして、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。

  ➔ SRSエアバッグの種類（P.29）

- **USB電源ポートを使用するときは、次のことを守る。**

  USB電源ポートの不適切な使用は、車両のヒューズが切れるだけでなく、最悪の場合、車両火災ややけどにつながるおそれがあります。

  - 複数のUSB電源ポートを持つアダプターを使用して、一度にたくさんのモバイル機器を充電しない
  - 消費電力15W以下のものを使用する
  - ケーブルはしっかり奥まで挿入する
  - ポートに水をかけたり、指や金属などを入れたりしない
  - ポートの向きに注意し、無理な接続や取り外しをしない

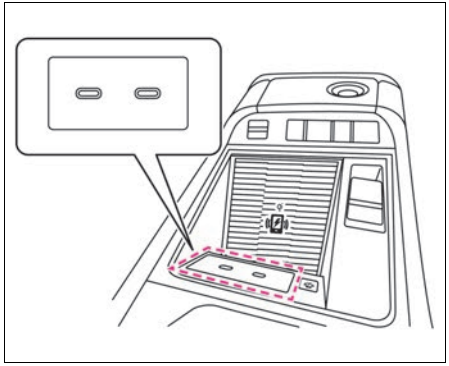
注意

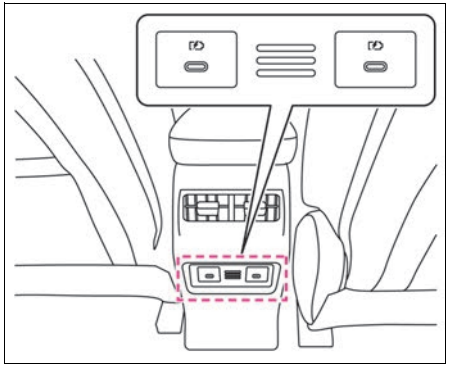
- **モバイル機器または接続用のケーブルは、運転の邪魔にならない場所に固定する。**

  運転に支障をきたし、思わぬ事故につながるおそれがあります。

モバイル機器を充電するのに便利なUSB電源ポートが用意されています。

- USB電源ポートはセンターコンソール前方および後方にあります。
- USB Type-Cの容量は、5V（ボルト）、3A（アンペア）、15W（ワット）です。
- NissanConnectインフォテインメントシステム装着車のセンターコンソール前方のUSB電源ポートについては、NissanConnectインフォテインメントシステム取扱説明書をお読みください。





アドバイス

- 12Vバッテリーあがりを防止するため、走行可能表示灯［READY］が点灯しているときに使用してください。

アドバイス

- シートを操作するときは、USB電源ポートにUSB端子がささっていないことを確認してください。USB電源ポートやモバイル機器が破損するおそれがあります。

100V AC電源（1500W）★

電気製品の電源をとるときに使います。

100V AC電源（1500W）について

警告

- **換気の悪い場所では、100V AC電源（1500W）を使用しない。**

  排気ガスが車両周辺に滞留したり、車室内に侵入したりすることで、一酸化炭素中毒になるおそれがあります。一酸化炭素を吸い込むと、意識が薄れて事故につながるおそれがあるほか、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。

- **駐停車中に100V AC電源（1500W）を使用するときは、シフトポジションを確実にPに切り替え、パーキングブレーキをかける。**

  万一シフトポジションがP以外だと、急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- **お客さまが接続される電気製品の取扱説明書や製品に記載の警告・注意事項を守って使用する。**

  火災、感電、ケガ、やけどのおそれがあります。

- **故障した電気製品や破損した電源プラグ、水没や浸水した、またはそのおそれのある電気製品は使用しない。**

  火災、感電、ケガ、やけどのおそれがあります。

- **電気製品は確実に固定する。また、調理機器などは、内容物を入れたまま走行しない。**

  振動・急停止などにより電気製品が転倒・落下したり、内容物が飛び出したりするおそれがあります。

- **アース線のある電気製品を使用するときは、アース端子を備えたコンセントにプラグを差し込み、アース線をアース端子に接続して使用する。**

- **使用する電気製品のプラグ形状と車両側のコンセント形状が一致しない場合は、市販の変換アダプターを使用してアース線を接続する。**

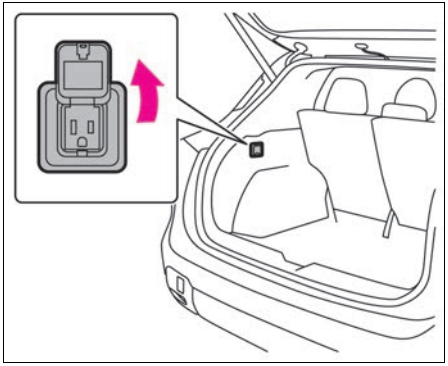
注意

- **お子さまだけで100V AC電源（1500W）のコンセントを触らせない。**

- **車室内で蒸気が出る電気製品を使用しない。**

  窓ガラスがくもり、運転する際に視界を妨げるおそれがあります。

- 100V AC電源（1500W）はラゲッジルームにあります。



- AC100V（ボルト）最大負荷1500W（ワット）の電源としてお使いください。
- 最大負荷1500W以下の電気製品を使用してください。1500Wを超える電気製品を使用すると、100V AC電源（1500W）の保護機能が作動し、コンセントが使用できなくなる場合があります。
- 最大負荷が1500W以下でも、次のような電気製品は正常に作動しないことがあります。
  - 一時的に大きな電流が発生する電気製品
  - データ測定をする電気製品
  - 安定した電力供給を必要とする電気製品
  - タイマー設定する機器など、コンセントの出力が連続して必要な電気製品
- 最大負荷1500Wで連続使用したとき、作動しない場合があります。

- 接続する電気製品によって、ラジオ★やTV★が聞こえなくなることがあります。
- 100V AC電源（1500W）を使用しているとき、冷却ファンの音がする場合がありますが、異常ではありません。

アドバイス

- 車室内が高温のときは、100V AC電源（1500W）が使用できない場合があります。車室内の温度が下がるまで風通しの良い日陰などに駐車し、窓やドアなどを開けて換気してください。
- 長い延長コードやコードリールを使用したとき、正常に電気製品が作動しないことがあります。
- 電源周波数は50Hzに設定されています。周波数を切り替えたい場合は、日産販売会社にお問い合わせください。
- 車両の状態によっては、一時的に給電が停止することがあります。
- 災害などに起因する停電時に、他に安定した電源が確保できない場合には、電動車活用社会推進協議会が発行している「災害時における電動車から医療機器への給電活用マニュアル」を参照してください。
- 測定機器は使用しないでください。誤作動するおそれがあります。

100V AC電源（1500W）の使いかた

⚠ 警告

- **濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。**

  感電するおそれがあります。
- **コンセントに水がかからないようにする。**

  感電するおそれがあります。
- **コンセントに金属製の鋭利なもの（ピン・針金など）を差し込まない。**

  感電するおそれがあります。
- **100V AC電源（1500W）の分解・修理・改造をしない。**

  感電するおそれがあります。
- **車外で電気製品を使用しているときに、雷が鳴ったらすぐに電気製品の使用を中止してコンセントから抜く。**

  感電、火災のおそれがあります。
- **100V AC電源（1500W）を家屋内のコンセントや配電盤などに接続し、電気を供給する電源として使用しない。**

⚠ 注意

- **100V AC電源（1500W）を使用するときは、車両から離れない。**
- **e-POWERシステム警告灯が点灯しているときは100V AC電源（1500W）を使用しない。**
- **100V AC電源（1500W）をONにするときは、接続する電気製品の電源がOFFになっていることを確認する。**

  電源がONになっていると、電気製品が突然作動するおそれがあります。

  電気製品の電源スイッチがないものについては、先に100V AC電源（1500W）をONにしてからコンセントに接続してください。
- **車室内で電気製品を使用するときは、落下や転倒などしないように安定した場所で使用する。**

  ケガをするおそれがあります。
- **100V AC電源（1500W）のコンセントを使用して、電気自動車やプラグインハイブリッド車などへの充電はしない。**
- **接続する電気製品のプラグを、確実にコンセントの根元まで挿入して使用する。**
- **100V AC電源（1500W）を使用して、車外で電気製品を使用する場合は、ドアや窓にコードを挟まない。**
- **100V AC電源（1500W）を使用しない場合は、コンセントのふたを閉める。**

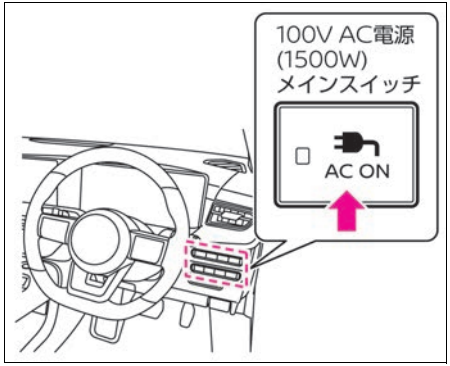
  コンセントにゴミ、ほこりがたまるとショートするおそれがあります。
- **コンセントに電気製品のプラグを差し込んだときに、緩いと感じた場合は日産販売会社に問い合わせる。**

⚠ 注意

- **タコ足配線をしない。**
- **ACアダプター付プラグを直接コンセントに取り付けない。**

  ACアダプターの重さにより、プラグが抜けかかり、場合によっては発熱のおそれがあります。

●ブレーキペダルを踏んだまま＜パワースイッチ＞を押して、走行可能表示灯［READY］が点灯していることを確認します。
＜100V AC電源（1500W）メインスイッチ＞を押すと、100V AC電源（1500W）を使用できます。
（スイッチの表示灯が点灯）



●使用するときは100V AC電源（1500W）のふたを開けます。

●プラグをコンセントに差し込み、電気製品の電源を入れて使用してください。

●アース線のある電気製品を使用するときは、電気製品の電源を入れる前にアース線を接続してください。

●100V AC電源（1500W）をOFFにするときは、再度＜100V AC電源（1500W）メインスイッチ＞を押します。

●使用後は、100V AC電源（1500W）のふたを閉めてください。

●100V AC電源（1500W）使用中に、＜パワースイッチ＞をOFFにすると、100V AC電源（1500W）もOFFになります。再始動しても、100V AC電源（1500W）は自動的にONになりません。

●駐停車中に100V AC電源（1500W）を使用しエンジンが始動した場合、アイドリングストップに関する条例違反により罰則の対象となるおそれがあります。アイドリングストップの詳しい条例については、関係する自治体に確認してください。

●キャンプ場や災害のときなど、100V AC電源（1500W）で電化製品を使用する場合、次の操作を行うと、車両接近通報装置の音が一時的に作動しなくなります。

— ＜100V AC電源（1500W）メインスイッチ＞を、1.5秒以上押し続ける

➔ 車両接近通報装置（P.142）

アドバイス

- 定格消費電力が大きな電気製品（ホットプレートなど）の中には、コンセントを単独で使うことを必須としているものがあります。その場合、他の電気製品と併用しないでください。複数の電気製品を使用した場合、電気製品の組み合わせにより正常に作動しないことがあります。
- 100V AC電源（1500W）を使用しない場合は、＜100V AC電源（1500W）メインスイッチ＞をOFFにすることを推奨します。
（100V AC電源（1500W）システムの待機電力分の節約のため）
- 走行中の振動や炎天下時などの車室内温度によっては電気製品が故障するおそれがあるので車室内で使用しないでください。
- 水平設置が必要な電気製品は正常に動作しない可能性あるため、車室内で使用しないでください。
- 粉塵の多い場所、直射日光の当たる場所、防水仕様の電気製品を除き、雨や水のかかる場所では使用しないでください。

100V AC電源（1500W）で困ったときは

100V AC電源（1500W）が使用できず困ったときは、次のことをご確認ください。これらを確認しても問題が解決できないときは、車両または100V AC電源（1500W）の故障のおそれがあるため、日産販売会社にご連絡ください。

■ 100V AC電源（1500W）がONにならない

- 車室内が高温になっている
  - 車室内の温度が下がるまで風通しの良い日陰などで、窓やドアなどを開けて換気してください。
- 走行可能状態になっていない
  - 走行可能状態にして使用してください。

■ 接続する電気製品が使用できない

- 接続する電気製品の最大負荷が1500Wを超えている
  - 最大負荷1500W以下の電気製品を使用してください。
- 接続する電気製品が一時的に大きな電流を流している
  - 一時的に大きな電流が流れない電気製品を使用してください。
- 接続する電気製品にあった周波数（50Hz／60Hz）になっていない
  - 電気製品の周波数を変更してください。または、お近くの日産販売会社で電源周波数を変更してください。
- 接続する電気製品のプラグ形状が、曲がっている
  - プラグ形状が曲がった電気製品を使用しないでください。
- 接続する電気製品が、故障している
  - 故障した電気製品を使用しないでください。

ワイヤレス充電器★

ワイヤレス充電器はQi対応スマートフォンの充電専用です。

ワイヤレス充電器の使いかた

⚠ 警告

- **充電エリアとスマートフォンの間にコインなどの金属物を置かない。**

  車両火災ややけどにつながるおそれがあります。
- **植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）、またはそれ以外の医療電気機器を使用されている方は、医療電気機器製造業者などへ影響を確認してから使用する。**

  ワイヤレス充電器の電波が医療電気機器の動作に影響を与える場合があります。
- **充電中はスマートフォンに布などをかぶせない。**

  車両火災ややけどにつながるおそれがあります。
- **スマートフォンが濡れた状態で充電しない。**

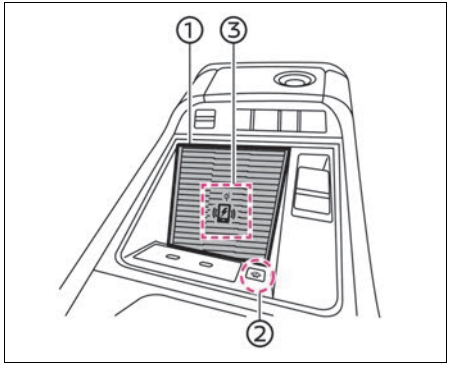
  故障、火災または感電のおそれがあります。
- **充電中は金属物やインテリジェントキー、メモリードライブなどを充電エリア内に置かない。**
- **充電エリアに水や飲物などの液体をこぼさないように注意する。**

  故障、火災または感電のおそれがあります。

⚠ 注意

- **充電エリアにほこりや汚れが付着した状態で使用しない。**
- **充電エリアの表面を叩かない。**
- **充電エリアの清掃にはグリース、オイル、アルコールを使用しない。**

- ワイヤレス充電器はセンターコンソールにあります。
- スマートフォンを充電エリア①内に置くと充電が始まります。（インジケーター②がオレンジ色に点灯）
- スマートフォンを置くときは、スマートフォンの受電部分がQiロゴ［③］の上にくるように置いてください。
- 充電が完了するとインジケーター②が緑色に点灯します。（すべての機種について作動の保証はいたしません）



- 誤作動が発生したり、充電が停止したりすると、インジケーター②がオレンジ色で点滅後消灯します。
- 充電位置はスマートフォンによって異なる場合があります。
- 充電中に電波障害が発生した場合は充電が停止します。充電が停止したときは、スマートフォンの受電部分がQiロゴの上にくるように置き直してください。
- インテリジェントキーと車両が通信をしているときは充電を停止することがあります。
- スマートフォンにUSBケーブルが接続されていると、インジケーターがオレンジ色に点灯、または点滅する場合がありますが、充電は開始されません。
- スマートフォンの種類によっては、充電が完了してもインジケーターがオレンジ色に点灯したままになる場合があります。
- スマートフォンの機種によっては、うまく動作しない場合があります。スマートフォンに付属の取扱説明書をお読みください。
- 金属物やキー（インテリジェントキー）だけをトレイに置いたとき、数秒間インジケーターが点滅することがありますが、充電は開始しておりません。

アドバイス

- トレイに置くことができないサイズのスマートフォンは、充電することはできません。
- 132×65mm以下のサイズのスマートフォンは、充電できない場合があります。
- 12Vバッテリーあがりを防止するため、メーター内の走行可能表示灯［READY］が点灯しているときに使用してください。
- 充電エリアとスマートフォンの間に磁気カード、および充電エリアの近くにクレジットカード・ETCカードや磁気記録メディアなどを置かないでください。データが破損する可能性があります。
- スマートフォンのケースやアクセサリーによっては充電に影響をおよぼす可能性があるため、充電を行う前に取り外してください。
- 充電する前にスマートフォンのバイブレーション機能をOFFにしてください。
- アプリ起動中、またはアプリ使用直後に充電を行うとスマートフォンやワイヤレス充電器の温度が上がり、スマートフォンやワイヤレス充電器の保護機能により充電が停止する場合がありますが、故障ではありません。スマートフォンやワイヤレス充電器が冷えてから充電を再開してください。
- Qi対応スマートフォンを置かなければ充電は開始しませんので、トレイを小物置きとしてご使用できます。
- 走行時の振動や急旋回などにより、スマートフォンが充電エリアからずれた場合は、Qiロゴの上に置き直してください。

フロアカーペット

この車（年式）専用のフロアカーペットが設定されています。

固定のしかた

警告

- **この車（年式）専用のフロアカーペットを、床の上にしっかりと固定して正しく使用する。**

  フロアカーペットがずれて各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たりブレーキが効きづらくなったりするなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

- **運転席にフロアカーペットを敷くときは、次のことを守る。**

⚠ 警告

- 日産純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアカーペットは使用しない。
- フロアカーペットでペダルを覆わない。
- フロアカーペットを重ねて敷かない。
- 運転席専用のフロアカーペットを使用する。
- フロアカーペットを前後さかさまにしたり、裏返しにしたりして使用しない。

● **運転する前にフロアカーペットが正しく固定されていることを定期的に確認し、洗車後は必ず確認する。**

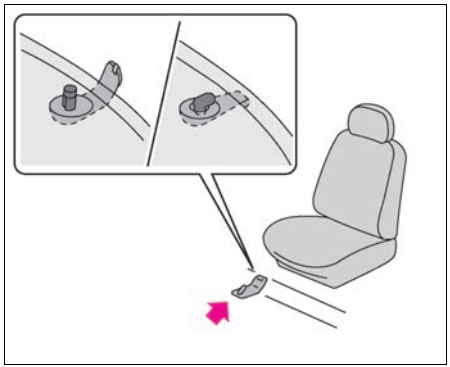
● **運転に支障がないことを確認する。**

運転する前、<パワースイッチ>がOFFの状態で各ペダルをいっぱいに踏み込み、フロアカーペットと干渉しないことを確認してください。

● **タバコの火種をフロアカーペットなどに落とさない。**

火災につながるおそれがあります。

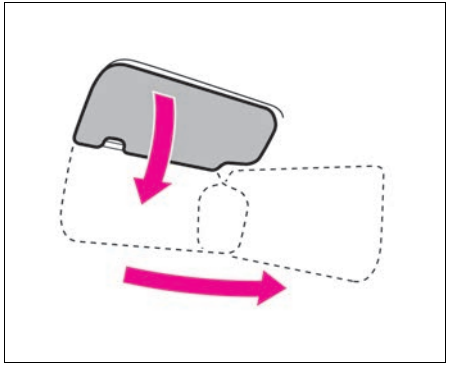
● 床面には日産純正フロアカーペット用の固定クリップが付いています。
● フロアカーペットを床の形状に合わせて敷き、取り付け穴に固定クリップのピンを通して確実に固定します。
● 車種により、固定クリップ・ピンの形状や、各シートごとに設定されている数量は異なります。詳しい固定方法は、日産販売会社にお問い合わせください。



サンバイザー／バニティミラー（照明付き★）

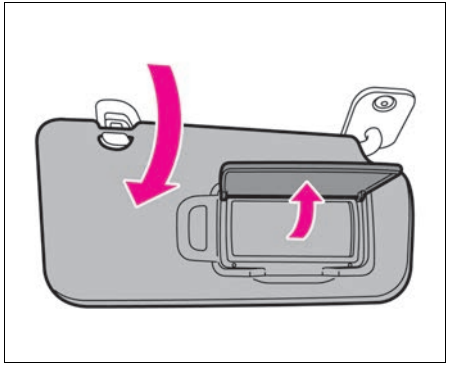
サンバイザー

● 前方からの日差しを防ぐときは、下に下げて使います。
● 横からの日差しを防ぐときは、下に下げてフックから外し、横にして使います。



バニティミラーの使いかた

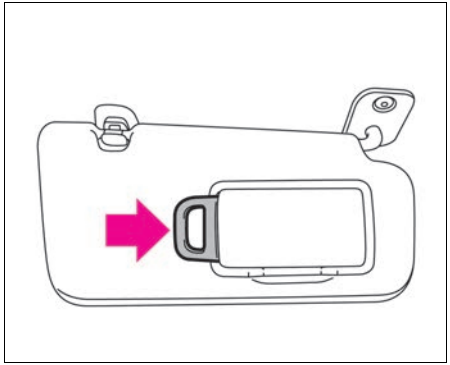
● サンバイザー裏側にバニティミラー（鏡）が付いています。
● サンバイザーを下に下げて、カバーを開けて使います。カバーを開けると、天井のランプ★が点灯します。



チケットホルダー

チケットホルダーの使いかた

- サンバイザーにチケットホルダーが付いています。
- カードをスライドさせ、差し込みます。



アドバイス

- 炎天下での駐車は車室内が大変高温になりますので、カードを入れたままにしないでください。カードが変形するおそれがあります。

アシストグリップ

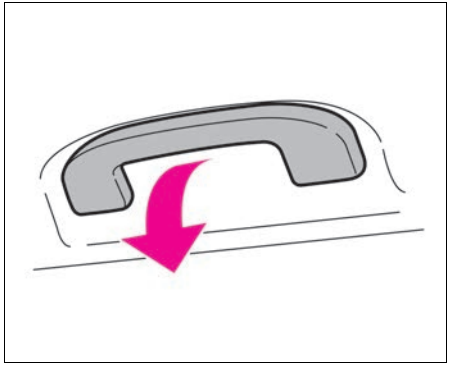
アシストグリップの使いかた

⚠ 注意

- **アシストグリップに手をかけて乗り降りしない。**

アシストグリップは、走行中などシートに座った状態で身体を支えるために使用してください。乗降用ではないため、手をかけて乗り降りしないでください。万一、アシストグリップが外れた場合は、思わぬケガをするおそれがあります。

- アシストグリップは、前席および後席シート左右にあります。



トラブルがおきたときは

まずはじめに

故障したときは	P.248
発炎筒	P.249
けん引について	P.250

緊急時の対処法

パンクしたときは	P.253
ドアが開かないときは	P.257
e-POWERシステムを始動できないときは	P.258
12Vバッテリーがあがったときは	P.258
出力制限表示灯が点灯したときは	P.261
警告灯がついたときは	P.262
警告メッセージが表示されたときは	P.268
ブザー（警報音）が鳴ったときは	P.285
窓ガラスがくもったときは	P.286
オーバーヒートしたときは	P.286
雪道やぬかるみにはまったときは	P.288
水没したときは	P.288
外装ランプが点灯しないときは	P.289
ヒューズが切れたときは	P.289

故障したときは

車両が故障したときは、次の手順で対処してください。

故障したときの対処のしかた

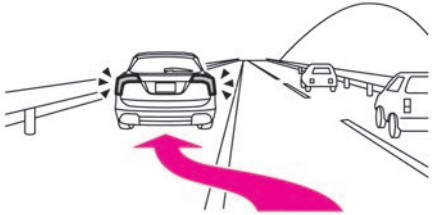
⚠ 警告

- **発炎筒はトンネル内では使用しない。**
  煙で視界が悪くなり、他車の走行の妨げとなり、事故につながるおそれがあります。非常点滅表示灯を使ってください。

⚠ 注意

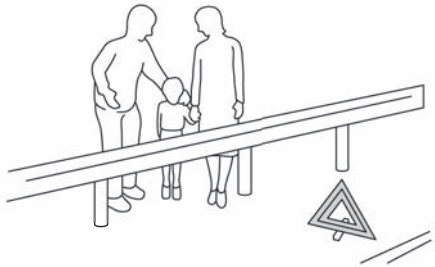
- **走行中に走行可能表示灯［READY］が消灯したときは、慎重に運転する。**
  故障により走行可能表示灯［READY］が消灯すると、ブレーキやパワーステアリングが正しく機能せず、極度にブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルの操作力が重くなったりすることがあります。すみやかに安全な場所に停車してください。

1. 非常点滅表示灯で後続車に危険を知らせながら、できるだけ路肩に寄せて停車します。
   路肩がない場所では、可能な限り広いところまで自走します。

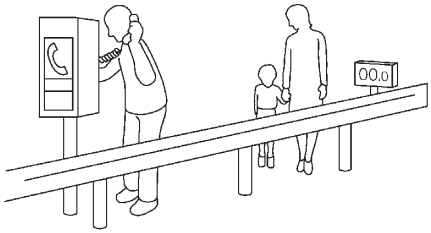


2. 同乗者をガードレールの外側などに避難させ、車両の50m以上後方に発炎筒と停止表示板（停止表示灯）を置きます。
   ➔ 発炎筒（P.249）
   避難するときは、停止車両への追突事故が発生したときに巻き込まれないよう注意してください。

3. 運転者もガードレールの外側などに避難します。



4. 非常電話や携帯電話などで救援依頼をします。



アドバイス

- 高速道路や自動車専用道路では、停止表示板（停止表示灯）の表示が法律で義務付けられています。
- 高速道路上では1kmごとに非常電話が設置されています。

発炎筒

高速道路や踏み切りなどで故障・事故により緊急停車したとき、周囲に危険を知らせるために使います。

発炎時間は約5分です。非常点滅表示灯と併用してください。

発炎筒の使いかた

警告

- **お子さまには触らせない。**

いたずらなどで発火するおそれがあり危険です。

- **可燃物の近くで使用しない。**

  引火するおそれがあります。

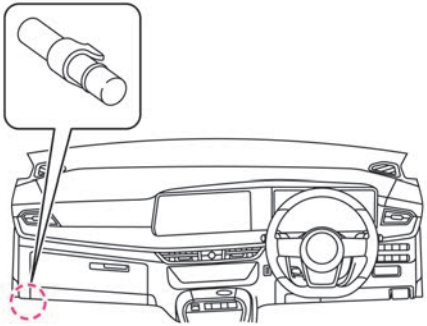
- **点火は必ず車外で行い、点火後は顔や身体に近づけない。**

  やけどをするおそれがあります。

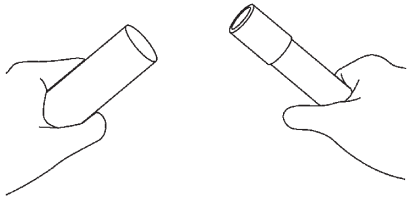
アドバイス

- 発炎筒に記載してある使用方法、注意をあらかじめ確認しておいてください。
- 発炎筒には有効期限があります。期限が切れる前に日産販売会社でお買い求めください。

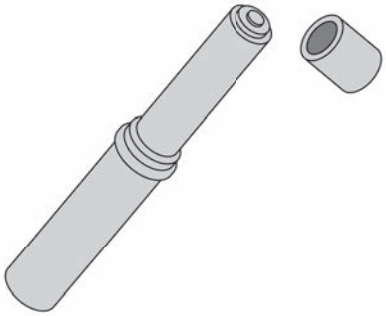
1. 助手席足元部のホルダーから発炎筒を外します。



2. 本体を回しながらケースから引き抜き、本体を逆さにして差し込みます。



3. 先端のふたを取り、ケースのすり薬で発炎筒の先端をこすって着火します。



けん引について

けん引が必要なときは、日産販売会社またはJAFなどのロードサービスに依頼してください。

やむをえずけん引されるときは、できる限り短距離の移動のみとしてください。

この車両で他車をけん引することはできません。

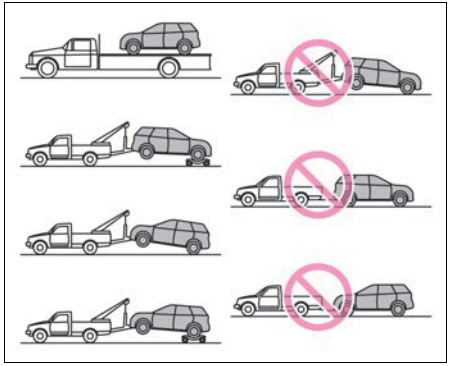
けん引時の注意事項

⚠ 注意

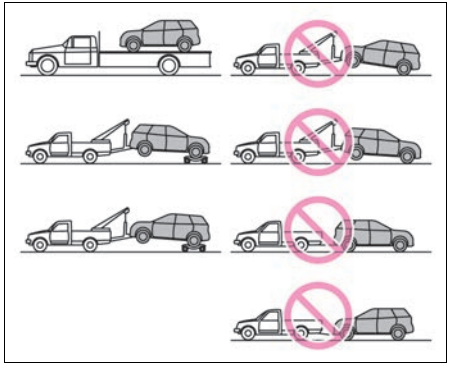
- **2WD車の前輪を持ち上げてけん引するときは、＜パワースイッチ＞をOFFにする。**

  VDCが作動し、ブレーキがかかることがあります。

- 車両が動かなかったり、異常な音がしたりするときは、けん引せずに日産販売会社へご連絡ください。
- 車両を運搬するときは、2WD車は前輪または4輪を、e-4ORCE（4WD）車は4輪を持ち上げてけん引してください。
- けん引フックは他車をけん引するために使用しないでください。



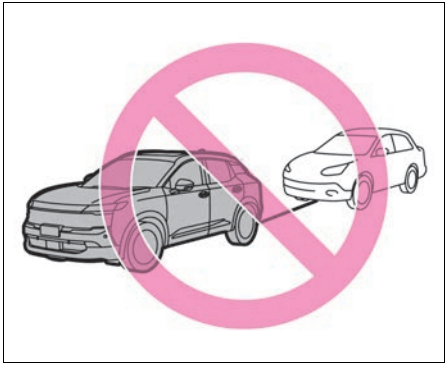
2WD 車

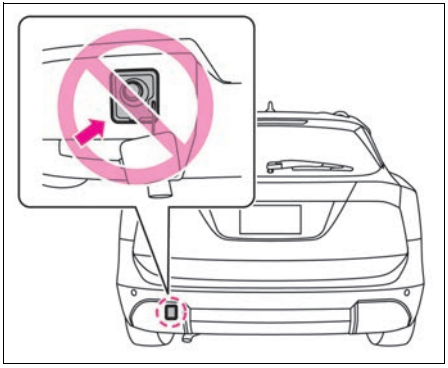


e-4ORCE（4WD）車

リヤフックについて

- 後ろ側についているフック（リヤフック）は船舶輸送時の固定専用です。
  けん引やトレーラー輸送時などの固定には絶対使用しないでください。





アドバイス

- けん引用として使うと、車両を損傷するおそれがあります。

やむをえず4輪接地でけん引されるときは

⚠ 警告

- **4輪接地でけん引されるときは、<パワースイッチ> をOFFにしない。**

  この車両はオートP機能（➔ P.118）により、<パワースイッチ>がOFFのときはシフトポジションをPからNに切り替えることができません。また、けん引中は<パワースイッチ>をOFFにしないでください。ハンドル操作ができなくなり危険です。

⚠ 注意

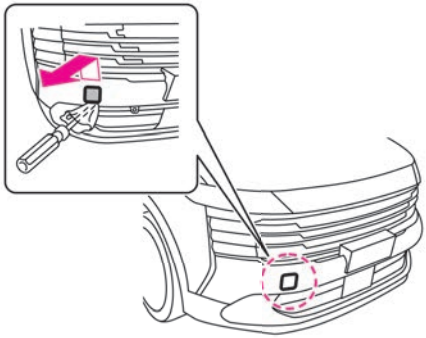
- **e-POWERシステムが停止していると、ブレーキやパワーステアリングの倍力装置が働かなくなるため、極度にブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作力が重くなったりすることがあるので注意する。**
- **けん引フックに指定以外のフックは絶対に使用しない。**

  フック部が破損するおそれがあります。
- **長い下り坂ではけん引しない。**

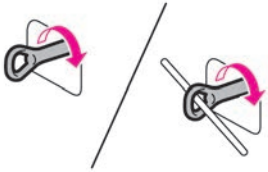
  ブレーキが過熱して効かなくなり、事故につながるおそれがあります。このような場所でけん引するときは、レッカー車で引いてもらってください。

- やむをえず4輪接地の状態でけん引されるときは、シフトポジションをNに入れて行ってください。
- 4輪接地でけん引してもらうときは、速度30km/h以下でできる限り短距離の移動のみとしてください。
- けん引ロープはできるだけソフトロープを使い、バンパーに傷をつけないように注意してください。

1. 先の細いお手持ちの工具を布などで覆い、下側から差し込んでカバーを取り外してください。



2. 金属の固い棒などを使用して、けん引フックを取り付けます。



3. 自車および他車のけん引フックにロープを掛け、ロープ中央に30cm×30cm 以上の白い布を取り付けます。
   ロープを掛けるときは、できるだけ同じ側で水平になるように掛けてください。

4. e-POWERシステムを始動しシフトポジションをNにして、パーキングブレーキを解除します。
5. e-POWERシステムが始動できないときは<パワースイッチ>をONにし、シフトポジションをNにしてください。

アドバイス

- けん引中はロープをたるませないように、前の車の制動灯に注意してください。

知識

- けん引が終わったら、けん引フックを取り付けたときと逆の手順で取り外します。

パンクしたときは

この車両には、スペアタイヤおよびジャッキが標準で搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤ応急修理キットで応急修理ができます。

応急修理する前に

- タイヤ応急修理キットの修理剤を使用したタイヤは、新しいタイヤに交換されることをおすすめします。タイヤの交換については日産販売会社または専門の修理業者と相談し、損傷が激しい場合は交換、修理可能と判断された場合は修理を実施してください。
- ホイールは付着した修理剤をふき取れば再使用できますが、タイヤのバルブは新しいものと取り替えてください。
- 修理剤とホースは再使用できません。使用後は新しい修理剤とホースをお求めください。詳しくは日産販売会社にご相談ください。

応急修理を行うときは、次の準備をしてください。

- 地面が固く平らな場所に車両を移動する。
- パーキングブレーキをかける。
- シフトポジションをPにする。
- <パワースイッチ>をOFFにする。
- 非常点滅表示灯を点滅させる。
- 次の場合はタイヤ応急修理キットでは応急修理ができません。日産販売会社またはJAFなどにご連絡ください。
  - 約6mm以上の切り傷や刺し傷があるとき
  - タイヤサイド部が損傷を受けたとき
  - ほとんど空気の抜けた状態で走行したとき
  - タイヤがホイールから外れているとき
  - ホイールが破損しているとき
  - タイヤが2本以上パンクしているとき
  - 修理剤の有効期限が切れているとき

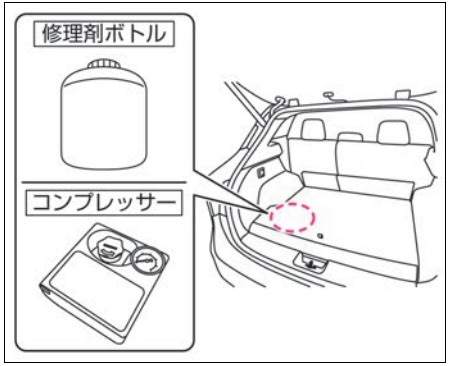
アドバイス

- タイヤに釘やネジが刺さっている場合は、抜いてしまうとパンク穴が大きくなり空気が漏れやすくなるため、抜かずにタイヤ応急修理キットで応急修理してください。

タイヤ応急修理キットについて

※車種により、タイヤ応急修理キットの内容や部品形状が異なります。

- タイヤトレッド部（接地面）の軽度なパンクは、タイヤ応急修理キットで応急修理できます。
- タイヤ応急修理キットは、ラゲッジルームに格納されています。
  ➔ 工具、タイヤ応急修理キットの格納場所（P.293）
- 応急修理を目的としているため、修理後に長期間の走行はできません。修理後はすみやかに日産販売会社または専門の修理業者で点検、恒久修理またはタイヤ交換を行ってください。



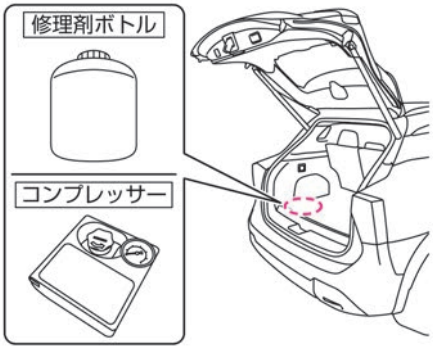
応急修理のしかた

■ コンプレッサーの準備

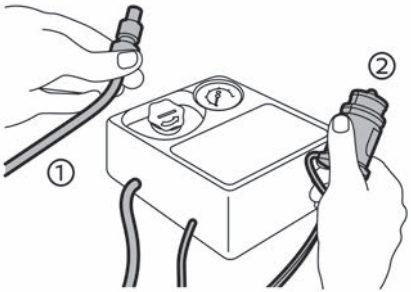
注意

- **フロアパネルに触れない。**
  高温になるため、やけどをするおそれがあります。
- **ハンドルのセンターパッド部には速度制限シールを貼らない。**
  SRSエアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。また、警告灯やスピードメーターが見えなくなる位置にも貼らないでください。

1. ラゲッジルームからタイヤ応急修理キットを取り出します。

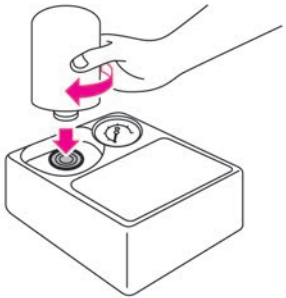


2. コンプレッサーからホース①、電源プラグ②を取り出します。

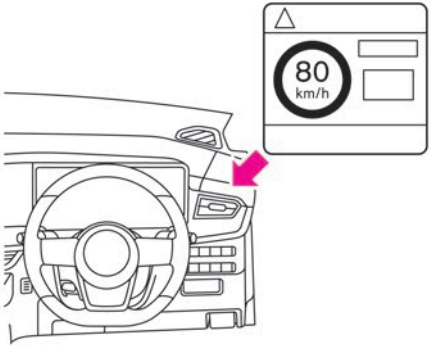


3. コンプレッサーから、ボトルホルダーのキャップを外します。

4. 修理剤ボトルのキャップを外し、内ぶたを付けたままボトルホルダーに取り付けます。
（ボトルホルダーにねじ込むと内ぶたが破れます。）



5. コンプレッサーの速度制限シールをはがし、運転者のよく見えるところに貼ります。



■ エアの注入

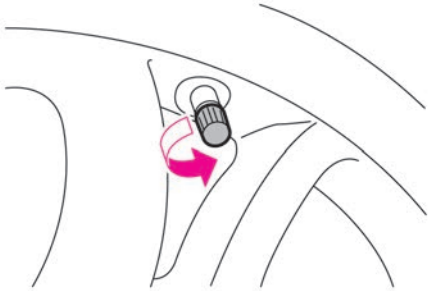
⚠ 注意

- **ホースとタイヤのバルブの接続をしっかりと行う。**
  接続が不十分な場合、空気が漏れたり、修理剤が飛び散ったりするおそれがあります。
- **破裂の危険があるため応急修理キット作動中は補修中のタイヤから離れる。**
- **タイヤに亀裂や変形が生じている場合、ただちにコンプレッサーのスイッチをOFF（「○」の位置）にし、修理を中止する。**
  バルブを介して修理剤を注入するため、圧力が600kPaに達することがありますが、異常ではありません。通常は、30秒ほどで下がります。

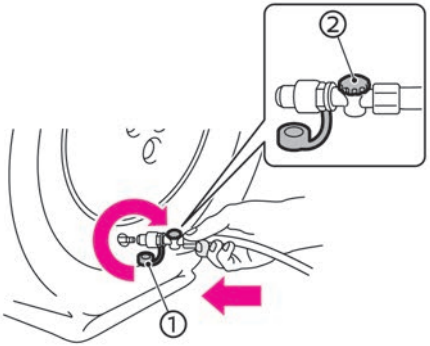
⚠ 注意

- **空気を入れたあとは、ホースの口金が熱くなることがあるため、やけどしないように注意する。**

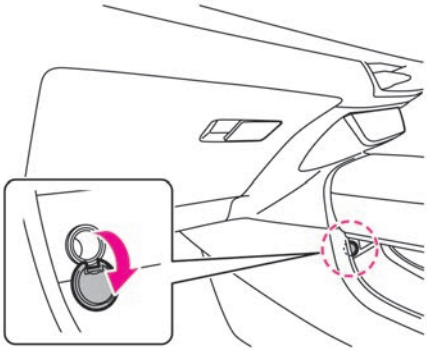
1. パンクしたタイヤのバルブからキャップを外します。



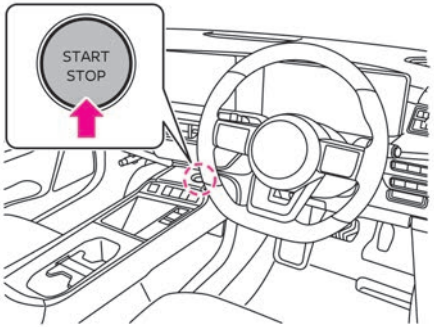
2. ホース先端の保護キャップ①を外し、ホースをパンクしたタイヤのバルブに確実にねじ込みます。
このとき、排気バルブ②が閉まっていることを確認してください。



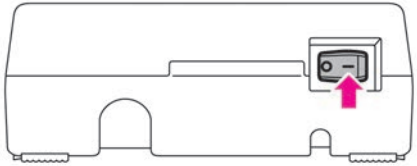
3. コンプレッサーのスイッチがOFF（「○」の位置）の状態で、電源プラグを車室内の電源ソケットに差し込みます。



4. ＜パワースイッチ＞をONにします。



5. コンプレッサーのスイッチをON（「｜」の位置）にし、タイヤを指定空気圧または180kPa以上になるまで空気を充てんします。この際、実際の空気圧が測れるようにコンプレッサーを一時停止して空気圧計で測定してください。
※タイヤの指定空気圧は、運転席ドア開口部に表示されています。



6. 指定空気圧または180kPa以上まで昇圧できたら、コンプレッサーのスイッチをOFF（「○」の位置）にし電源プラグを電源ソケットから抜きます。
7. ホースをタイヤのバルブからすばやく取り外し、タイヤのバルブにキャップを取り付けます。

アドバイス

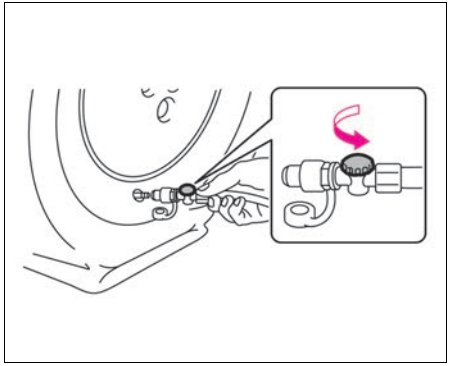
- コンプレッサーは長時間使用すると故障につながるおそれがあるため、10分以上連続して作動させないでください。タイヤ空気圧を昇圧できない場合は修理できません。
- 修理剤ボトルは、コンプレッサーのボトルホルダーから取り外さないでください。取り外すとボトル内に残った液剤がこぼれるおそれがあります。

10分以内に180kPaまで昇圧できない場合

10分以内に180kPaまで昇圧できない場合は、タイヤがひどい損傷を受けているおそれがあります。この場合は、本修理キットで応急修理をすることはできません。日産販売会社またはJAFなどにご連絡ください。

空気を入れすぎてしまったとき

排気バルブを反時計回りに回して、空気を抜いてください。



■ 点検走行

注意

- **走行するときは、低速で慎重に運転し、特にカーブや旋回時には注意する。**

1. ただちに走行を始め、10分間または3km程度走行してください。80km/h以下の速度で注意深く運転してください。
2. 走行後、再度タイヤ空気圧を測定します。コンプレッサーのスイッチがOFF（「○」の位置）であることを確認します。コンプレッサーからのホースをタイヤのバルブに取り付け、タイヤ空気圧を確認してください。

130kPa未満の場合

本修理キットによる応急修理はできません。運転を中止して日産販売会社またはJAFなどのロードサービスにご連絡ください。

130kPa以上指定空気圧未満の場合

コンプレッサーのスイッチをON（「｜」の位置）にして指定空気圧まで昇圧し、点検走行の作業を行います。上記作業を繰り返しても指定空気圧より低下する場合は、本修理キットによる応急修理はできません。運転を中止して日産販売会社またはJAFなどのロードサービスにご連絡ください。

指定空気圧の場合

応急修理は完了です。すみやかに日産販売会社または専門の修理業者まで慎重に運転してください。

アドバイス

- 応急修理後の恒久修理の際、パンク穴を発見できないために恒久修理できないことがあります。そのまま走行を続ける場合は、こまめに空気圧をチェックしてください。頻繁に空気圧の低下がみられるときは、日産販売会社または修理会社で点検を受けてください。
- 修理剤は再使用できません。使用後は新しい修理剤をお求めください。詳しくは日産販売会社にご相談ください。

タイヤ応急修理キットの注意事項

注意

タイヤ応急修理キットについて

- **タイヤ応急修理キットは搭載車両専用のため、他の車には使用しない。**

⚠ 注意

- **タイヤ応急修理キットは自動車用タイヤの空気充てんや空気圧チェック以外で使用しない。**
- **タイヤ応急修理キットはDC12V専用のため、他の電源での使用はしない。**
- **分解、改造などは絶対にしない。**
- **コンプレッサーに衝撃を与えない。**

  故障の原因となります。
- **お子さまが誤って手を触れないように注意する。**

修理剤について

- **修理剤を口に入れない。**

  修理剤を飲み込むと健康に害があります。万一誤って飲んだ場合は、できるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診療を受けてください。
- **万一、目や皮膚に付着したときは、水でよく洗い流す。**

  それでも異常を感じたときは、医師の診療を受けてください。

アドバイス

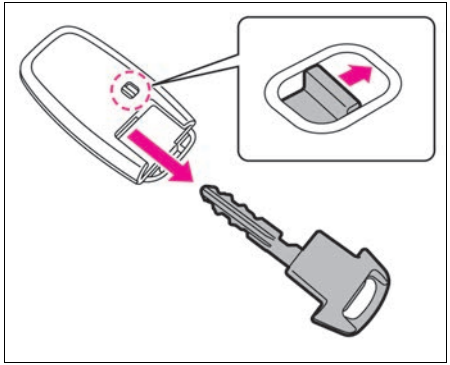
- タイヤ応急修理キットは、必ず日産純正品を使用してください。
- 水やほこりを避けて使用してください。

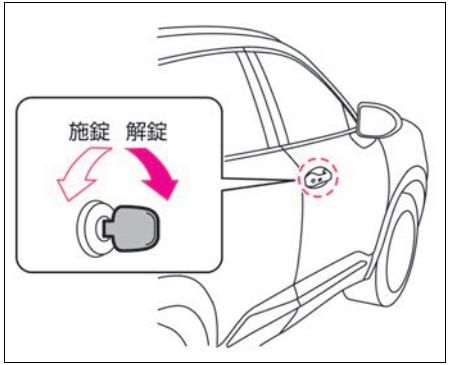
ドアが開かないときは

インテリジェントキーの電池が切れたときや、12Vバッテリーがあがったときなどドアが開かないときは、次の方法で施錠・解錠してください。

内蔵キー（メカニカルキー）でのドアの開けかた

運転席ドアにある鍵穴に内蔵キーを差し込んで車両前方に内蔵キーを回すと解錠します。施錠するときは、車両後方に内蔵キーを回します。

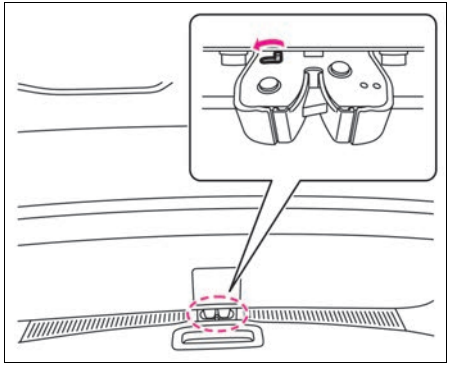




緊急時のバックドアの開けかた

12Vバッテリーあがりなどにより、バックドアを開けられなくなったときは、次の操作をしてください。

- お手持ちの工具（プラスドライバーまたはマイナスドライバーなどの細い工具）を使用して、バックドアの車室内側にあるロック機構のレバーを矢印の方向に動かして解錠し、バックドアを持ち上げます。



アドバイス

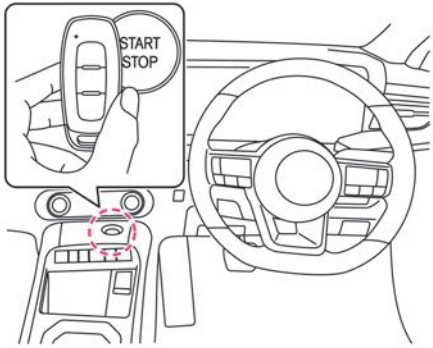
- 上記の手順は、あくまで故障時の緊急手段です。故障の原因になるため、正常なときは使用しないでください。
- <バックドアオープナースイッチ>などの故障につながるおそれがあるため、操作をしたときは日産販売会社で点検を受けてください。
- 操作後はなるべく早く日産販売会社で点検を受けてください。

e-POWERシステムを始動できないときは

キーの電池が切れたときや、使用環境によりキーと車両の通信が正常に行われていないときは、次の手順でe-POWERシステムを始動してください。

始動のしかた

1. <パワースイッチ>を押してから、キーのロゴの裏面を<パワースイッチ>に接触させます。
（ブザーが"ピピッ"と鳴ります）



2. ブザーが鳴ってから10秒以内に、ブレーキペダルをしっかりと踏みながら、<パワースイッチ>を押します。

- ドアの施錠・解錠は、内蔵キー（メカニカルキー）（➔P.257）をご使用ください。
- キーの電池が切れたときは、早めに電池を交換してください。
➔インテリジェントキーの電池交換(P.304)

アドバイス

- 上記の手順でe-POWERシステムを始動できない場合は、早めに日産販売会社にご連絡ください。

停止のしかた

e-POWERシステムを停止するときは、次のいずれかの操作を行ってください。

- <パワースイッチ>を2秒以上押し続ける。
- <パワースイッチ>をすばやく3回押す。

12Vバッテリーがあがったときは

12Vバッテリーがあがり、e-POWERシステムの始動ができなくなったときは救援車を依頼し、ブースターケーブル（別売り）をつないで始動してください。

⚠ 警告

- **ジャンプスタートを行うときは換気を十分に行い、火気は近づけない。**
12Vバッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあります。
- **バッテリー液が付着したときは、すぐに多量の水で洗浄し、飲み込んだときは多量の水を飲んで応急処置をしたあと、医師の診療を受ける。**
バッテリー液は希硫酸です。目や皮膚に付着すると、失明や炎症など重大な傷害につながるおそれがあります。
- **ブースターケーブルを正しい順番と位置でつなぐ。**
- **ブースターケーブルを自車バッテリーの⊖端子に直接つながない。**

⚠ 警告

- **ブースターケーブルの⊕端子と⊖端子を接触させない。**

  火花が発生し、12Vバッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発し、やけどなど重大な傷害につながるおそれがあります。

- **12Vバッテリーの⊕側ターミナルが周辺の金属と接触しないようにする。**

  接触するとショートして火災の原因となるおそれがあります。また、12Vバッテリーの端子の締め付けが緩いと、配線などが過熱、焼損し、火災につながるおそれがあります。

- **12Vバッテリーを交換するときは、必ず同じサイズ（型式）に交換し、動かないようにしっかりと固定する。**

  しっかり固定できていないと、ショートなどの原因となり火災につながるおそれがあります。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。

ジャンプスタートのしかた

⚠ 警告

- **ブースターケーブルのワニグチクリップは、エンジンやモーターに絶対に接続しない。**

⚠ 注意

- **ブースターケーブルのワニグチクリップは、車体に触れたり、他のワニグチクリップと接触したりしないように注意する。**
- **ブースターケーブルは、確実に接続する。**

  救援車のエンジン始動時の振動で外れたりしないように確実につないでください。

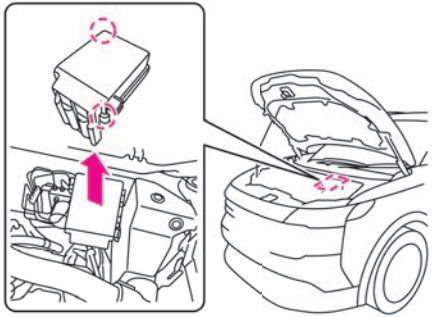
- **冷却ファンやベルトに注意する。**

  ブースターケーブルをつなぐときや外すときは、冷却ファンやベルトに巻き込まないように注意してください。

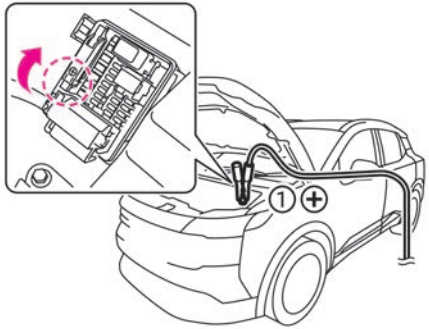
1. 自車と救援車の<パワースイッチ>をOFFにします。

   ➔ パワースイッチ（P.114）

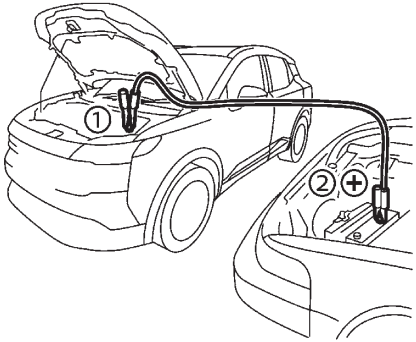
2. 自車のヒューズボックスのカバーをツメを押しながら外します。



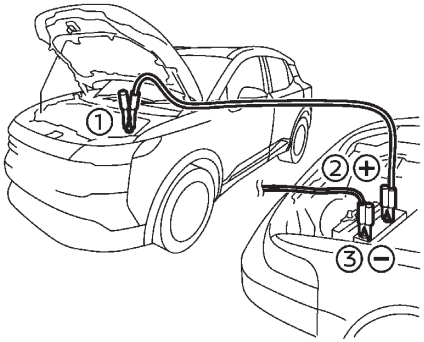
3. ブースターケーブル①を自車のヒューズボックスの⊕端子に接続します。



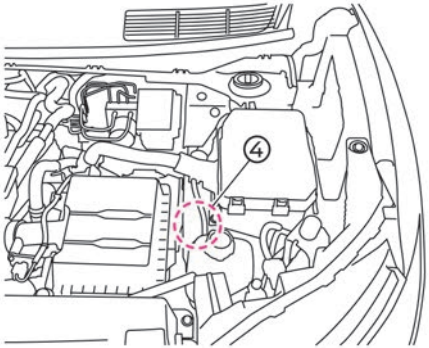
4. 手順3のケーブルの反対側②を救援車の12Vバッテリーの⊕端子に接続します。



5. もう1本のブースターケーブル③を救援車の12Vバッテリーの⊖端子に接続します。



6. 手順5で接続したケーブルの反対側をイラストのような自車の車体④に接続します。



7. 救援車のエンジンを始動し、回転数を少し高めにします。
8. 自車のブレーキペダルをしっかりと踏みながら、<パワースイッチ>を一回押します。
9. メーターに、走行可能表示灯［READY］が点灯したこと、e-POWERシステム警告灯が表示されていないことを確認し、ブースターケーブルをつないだときと逆の手順で外します。

● e-POWERシステム警告灯またはヘッドランプ警告が表示されている場合は、ブースターケーブルをつないだ状態で、<パワースイッチ>をOFFにして運転席ドアを一度開閉し、そのまま何も操作せず3分以上経過してから、もう一度<パワースイッチ>をONにしてe-POWERシステム警告灯が消灯していることを確認してください。

アドバイス

- 押しがけによる始動はできません。
- この車両を救援車として使用しないでください。
- 救援車には12Vバッテリー仕様の車両を使用してください。
- e-POWERシステムが始動できない場合には、<パワースイッチ>をOFFにしてください。インテリジェントキーを車室内に置いた状態で、一度運転席ドアを開閉したあと、NissanConnectインフォテインメントシステム★、ドアロックなどすべての操作を行わず、ドアを閉じた状態のまま3分以上待機します。その後、再始動してください。
- 12Vバッテリーがあがると、<パワースイッチ>のON・OFFができなくなります。すみやかに12Vバッテリーを充電してください。
- e-POWERシステムを始動するときは、ヘッドランプやエアコン、およびその他の電装品はOFFにしてください。
- e-POWERシステムが始動しても、しばらくエアコンやオーディオ★を使用しないでください。

出力制限表示灯が点灯したときは

出力制限表示灯［ ］が点灯したときは、次の対処方法に従ってください。

走行中に出力制限表示灯が点灯したとき

■ 対処方法

- 高速道路を走行しているとき
  - 80km/h以下で走行してください。次のパーキングエリアまたはサービスエリアで車両を止め、出力制限表示灯［ ］が消灯するまで待ちます。
- 登坂路を走行しているとき
  - 安全な場所に停車し、出力制限表示灯［ ］が消灯するまで待ちます。
- 一般道を走行しているとき
  - 安全な場所に停車し、出力制限表示灯［ ］が消灯するまで待ちます。

走行中に再度出力制限表示灯［ ］が点灯する場合は、➔処置のしかた（P.261）の手順に従ってください。

■ 注意事項

- 他の警告灯が点灯しているときは、そちらの警告灯に対する処置を優先して行ってください。出力制限表示灯［ ］のみが点灯した場合は、前述の対処方法に従ってください。

処置のしかた

⚠ 警告

- **ボンネットを開けるときは十分に注意する。**

  エンジンルーム内は高温になっているため、やけどなど重大な傷害につながるおそれがあります。

- **蒸気が出ているときは、ボンネットを開けない。**

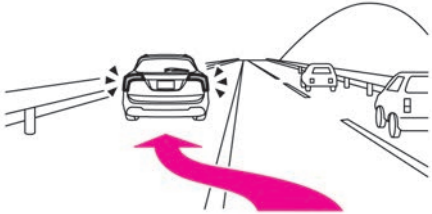
  やけどなど重大な傷害につながるおそれがあります。

  e-POWERシステムを停止し、蒸気が出なくなるまで待ち、ボンネットを開けてください。

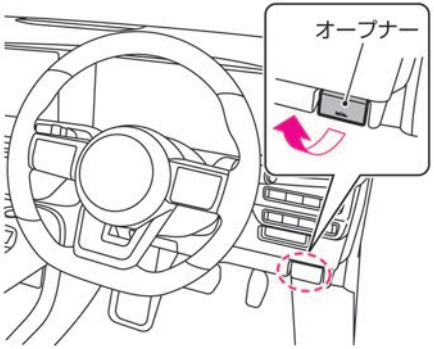
- **オーバーヒートしたときは、ただちに安全な場所に車を停めて処置をする。**

  そのまま走行を続けると、インバーター故障の原因となり、火災につながるおそれがあります。

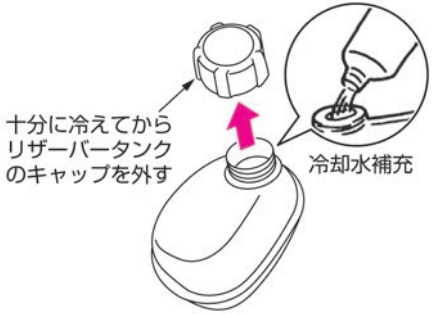
1. ただちに安全な場所に停車します。
   ➔故障したときの対処のしかた（P.248）



2. e-POWERシステムを作動させたままボンネットを開け、風通しをよくしてエンジンを冷やします。
   万一、冷却ファンが回っていないときは、ただちにe-POWERシステムを停止し、自然冷却してください。



3. メーター内の出力制限表示灯［ ］が消えたら、e-POWERシステムを停止させしばらく待ちます。
モーターが十分冷えてから冷却水の量、ホースなどからの水漏れを点検してください。
4. 冷却水が不足しているときは、インバーター冷却用ラジエーターリザーバータンクに冷却水を補充してください。
➔ エンジンルーム内の配置図 (P.296)
補充後は、しっかりキャップを閉めてください。



5. 走行中、再度メーター内に出力制限表示灯［ ］、および警告メッセージが表示されたら、手順1～手順4の作業を繰り返し行ってください。

⚠ 警告

システム保護のため
一時的に出力制限中
安全な場所に車を停め
取扱説明書を見てください

6. 早めに日産販売会社で点検を受けてください。

アドバイス

- 応急的に水だけを補充したときは、早めに日産販売会社で点検を受けてください。

警告灯がついたときは

警告灯は、車両故障などを運転者に知らせるためのものです。警告灯が点灯または点滅したときは、次の「説明・対処方法」に従ってください。警告や表示は、グレード、オプションなどにより異なります。

油圧警告灯

■ **点灯・点滅する条件**

- 正常なときは、<パワースイッチ>をONにすると点灯し、e-POWERシステムが始動すると消灯します。
- e-POWERシステムが作動しているとき、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力が低下すると点灯します。

■ **説明・対処方法**

- 点灯したときは、すみやかに安全な場所に停車し、日産販売会社にご連絡ください。

⚠ 注意

- **油圧警告灯が点灯したまま走行しない。**
  エンジンを破損するおそれがあります。

e-POWERシステム警告灯

■ 点灯・点滅する条件

- ＜パワースイッチ＞をONにすると点灯し、数秒後に消灯します。
- ＜パワースイッチ＞がONのとき、モーターや高電圧システムなどに異常が発生すると点灯します。
- ジャンプスタートを行った際に点灯する可能性があります。

■ 説明・対処方法

- 点灯したときは、すみやかに安全な場所に停車し、日産販売会社に連絡してください。
- 点灯したときは、100V AC電源（1500W）★を使用しないでください。
- ジャンプスタート後に点灯した際は、ジャンプスタートのしかたに記載されている方法を参照し対応ください。

➲ ジャンプスタートのしかた（P.259）

12V系充電警告灯

■ 点灯・点滅する条件

- ＜パワースイッチ＞をONにすると点灯し、数秒後に消灯します。
- e-POWERシステムが作動しているとき、12Vバッテリーの充電系統に異常があると点灯します。

■ 説明・対処方法

- 点灯したときは、すみやかに安全な場所に停車し、日産販売会社にご連絡ください。

⚠ 注意

- **12V系充電警告灯が点灯したまま走行しない。**
  12Vバッテリーが破損したり、エンジンが突然停止したりし、思わぬ事故につながるおそれがあります。

故障警告灯（MIL）

■ 点灯・点滅する条件

- 正常なときは、＜パワースイッチ＞をONにすると点灯し、e-POWERシステムが始動すると消灯します。
- ＜パワースイッチ＞がONで警告灯が点灯しているときに、システムチェックにより点滅することがありますが異常ではありません。
- e-POWERシステムが作動しているとき、エンジン電子制御システムに異常があると点灯または点滅します。

■ 説明・対処方法

- 点灯または点滅したときは、すみやかに安全な場所に停車し、日産販売会社にご連絡ください。

ABS警告灯

■ 点灯・点滅する条件

- ＜パワースイッチ＞をONにすると点灯し、数秒後に消灯します。
- ＜パワースイッチ＞がONのとき、ABSのシステムに異常があると点灯します。

■ 説明・対処方法

- ＜パワースイッチ＞をONにしても点灯しないとき、または点灯し続けるときは、高速走行や急ブレーキを避け、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。

アドバイス

- ABS警告灯が点灯したときは、ABSは作動しませんが、通常のブレーキ性能は確保されています。この場合、滑りやすい路面でのブレーキ時や急ブレーキ時にタイヤがロックすることがあります。

電動パーキングブレーキ警告灯

■ 点灯・点滅する条件

- 正常なときは、<パワースイッチ>がONのとき、電動パーキングブレーキがかかっていると点灯し、電動パーキングブレーキを解除すると消灯します。
- <パワースイッチ>がONのとき電動パーキングブレーキのシステムに異常があると点滅します。

■ 説明・対処方法

- <パワースイッチ>がONで警告灯が点滅しているときに、電動パーキングブレーキを解除しても点滅が続くときは、すみやかに車両を安全な場所に停車し、日産販売会社にご連絡ください。

ブレーキ警告灯（赤色）

■ 点灯・点滅する条件

- 正常なときは、<パワースイッチ>をONにすると点灯し、数秒後に消灯します。
- <パワースイッチ>がONのとき、次の場合は点灯し続けます。
  - ― ブレーキ液が不足しているとき
  - ― ブレーキシステムに異常があるとき

■ 説明・対処方法

- 走行中にブレーキ警告灯（赤色）が点灯した場合は、車両を停止し、次の確認を行ってください。
  - ― ブレーキ液の量が規定通りに入っていることを確認してください。ブレーキ液が不足している場合は、ブレーキ液を補充し日産販売会社で点検を受けてください。
  - ― ブレーキ液の量が適正のときは、他に原因があることが考えられますので、日産販売会社で点検を受けてください。
- ブレーキシステムの電源系統に異常があるときは、ブザーが鳴ります。

ブレーキシステム警告灯（黄色）

■ 点灯・点滅する条件

- 正常なときは、<パワースイッチ>をONにすると点灯し、数秒後に消灯します。
- <パワースイッチ>がONのとき、次の機能に異常があると点灯します。
  - ― 電動パーキングブレーキ
  - ― ブレーキシステム
  - ― 回生ブレーキ

■ 説明・対処方法

- 走行中にブレーキシステム警告灯（黄色）が点灯した場合は、日産販売会社で点検を受けてください。

シートベルト警告灯

■ 点灯・点滅する条件

- <パワースイッチ>がONのとき、シートベルトが装着されていないと点灯します。
- シートベルトを着用していない状態で走行すると（約15km/h以上）、警告灯が点滅します。
  シートベルト非着用警報（シートベルトリマインダー）
- シートベルトを着用していない状態で車速が一定以上になると、ブザーが一定時間鳴ります。

■ 説明・対処方法

- シートベルトを着用してください。

⚠ 警告

- **走行中は全員がシートベルトを着用する。**
  着用しないと、万一の事故時や急ブレーキ時に、死亡や重大な傷害につながるおそれがあります。

知識

- 助手席シートまたは後席シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して、警告灯が点灯することがあります。
- 後席シートベルトの着用状態は、アドバンスドドライブアシストディスプレイにも表示されます。

シートベルト警告（P.270）

SRSエアバッグ警告灯

■ 点灯・点滅する条件

- ＜パワースイッチ＞をONにすると点灯し、約7秒後に消灯します。
- ＜パワースイッチ＞がONのとき、SRSエアバッグのシステム、プリテンショナー機能に異常があると、点灯を続けます。

■ 説明・対処方法

警告

- **＜パワースイッチ＞をONにしても点灯しないとき、または点灯を続けるときは、放置したまま走行しない。**

万一のときSRSエアバッグ、プリテンショナーシートベルトが作動せず、重大な傷害につながるおそれがあります。すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。

VDC警告灯

■ 点灯・点滅する条件

- ＜パワースイッチ＞をONにすると点灯し、数秒後に消灯します。
- ＜パワースイッチ＞がONのとき、VDCが作動すると点滅します。
- ＜パワースイッチ＞がONのとき、VDCシステムに異常があると点灯します。

■ 説明・対処方法

- 点灯したときはVDCの作動は停止しますが、VDCシステムのない普通の車として走行できます。滑りやすい路面では注意して走行し、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。

VDC（ビークルダイナミクスコントロール）（P.140）

EPS（電動パワーステアリング）警告灯

■ 点灯・点滅する条件

- ＜パワースイッチ＞をONにすると点灯し、e-POWERシステムを始動すると消灯します。
- e-POWERシステムが作動しているとき、電動パワーステアリングのシステムに異常があると点灯します。

■ 説明・対処方法

- すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。
- 赤色に点灯しているときは、電動パワーステアリングが作動しません。すみやかに安全な場所に停車し、日産販売会社にご連絡ください。
- 黄色に点灯しているときは、電動パワーステアリングのシステムに異常があるため、ハンドル操作力の重さが変化します。ハンドルをしっかりと握り、慎重に操作してください。

アドバイス

- ハンドルに長時間力をかけた状態が続いたり停車中に操作を繰り返すと、システムの過熱を防ぐためハンドル操作力が重くなりますが、異常ではありません。しばらくハンドル操作を控え、システムの温度が下がると、通常のハンドル操作力に戻ります。

知識

- すばやいハンドル操作を行うと、ハンドル付近から擦れるような音が聞こえてくることがありますが、異常ではありません。

燃料残量警告灯

■ 点灯・点滅する条件

- <パワースイッチ>がONのとき、燃料の残量が少ないと黄色に点灯します。

■ 説明・対処方法

- すみやかに指定の燃料を補給してください。

アドバイス

- 燃料切れでエンジンが停止したときは、e-POWERシステムの始動操作を繰り返さないでください。リチウムイオンバッテリー保護のため、始動できない場合があります。燃料を補給しても始動できない場合は、日産販売会社にご連絡ください。
- 燃料の残量が約4.2ℓ以下で点灯します。なお、走行に使用できる燃料残量は、上記より若干少なくなります。
- 車両姿勢、走行状況などによっては燃料がタンク内で移動するため、警告灯の点灯するタイミングが変わる場合があります。

出力制限表示灯

■ 点灯・点滅する条件

- 正常なときは、<パワースイッチ>をONにすると点灯し、数秒後に消灯します。
- <パワースイッチ>がONのとき、次の場合に点灯します。
  - リチウムイオンバッテリーの残量が極端に低下しているとき
  - 真冬の屋外などで、リチウムイオンバッテリーの温度が極端に低いとき
  - 上り坂の連続走行などで、走行用モーターやリチウムイオンバッテリーなどの温度が極端に高いとき
  - 発電出力が制限されているとき

■ 説明・対処方法

- 点灯中は走行用モーターまたは発電用モーターの出力が制限され、アクセルペダルを踏み込んでも速度が上がりにくくなります。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイに出力制限警告（➔P.275）が表示されます。

➔出力制限表示灯が点灯したときは(P.261)

電制シフト警告灯

■ 点灯・点滅する条件

- <パワースイッチ>をONにすると点灯し、数秒後に消灯します。
- <パワースイッチ>がONのとき、電制シフトに異常があると点灯します。

■ 説明・対処方法

- すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。
- 駐車するときはパーキングブレーキを確実にかけてください。

●アドバンスドドライブアシストディスプレイにメッセージが表示されたときは、表示されたメッセージに従ってください。

インテリジェント エマージェンシーブレーキ警告灯

■ 点灯・点滅する条件

●<パワースイッチ>をONにすると点灯し、走行可能表示灯［READY］が点灯すると消灯します。
●次の場合は点灯します。
— インテリジェント エマージェンシーブレーキの設定をOFFにしているとき
— VDCの設定をOFFにしているとき
— インテリジェント エマージェンシーブレーキ、インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）に異常が発生しているとき
— フロントガラスの汚れなどにより、マルチセンシングフロントカメラの前方視界が遮蔽されていると判断したとき
— 前方からの強い光により、マルチセンシングフロントカメラが前方を認識できなくなったとき
— 炎天下に駐車したときなど、マルチセンシングフロントカメラが高温になったとき
— 悪天候（雨、雪、霧、風塵、砂塵、吹雪など）で視界が悪いとき
— フロントガラスの結露やくもりなどにより、マルチセンシングフロントカメラが前方を認識できなくなったとき
●次の場合にも点灯します。
— 周辺の電波源の影響を受けているとき
— センサーの汚れなどで、インテリジェント エマージェンシーブレーキが一時的に作動できない状態になっているとき
— 車両前部に取り付けられたレーダーセンサー周辺に雪や氷、泥などが付着しているとき
— 道路形状や周辺の建造物により、レーダーセンサーが先行車を正確に検知できないとき（例：長い橋、雪原、長い壁の横など）
— 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯せず、真っ暗な状態が継続したとき
— インテリジェント エマージェンシーブレーキのシステムチェックが正常に終了しなかったとき
— けん引されているとき

■ 説明・対処方法

●インテリジェント エマージェンシーブレーキの設定をOFFにしていることによって点灯しているときは、ONにすると消灯します。
●VDCの設定をOFFにしていることによって点灯しているときは、ONにすると消灯します。
➔ VDCのON・OFFのしかた（P.140）
●安全な場所に停車し、<パワースイッチ>をOFFにします。インテリジェントキーを車室内に置いた状態で、一度運転席ドアを開閉したあと、NissanConnectインフォテインメントシステム★、オーディオ★、ドアロックなどすべての操作を行わず、ドアを閉じた状態のまま3分以上待機します。
再始動後も警告灯が点灯が表示するときは、システムの異常が考えられます。通常走行に支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。
●フロントガラスが汚れているときは、フロントガラスを清掃し、警告灯が消灯したことを確認してください。
●車室内の温度が高いときなどは、温度が下がると自動的に作動を復帰します。

各システムについては、インテリジェント エマージェンシーブレーキ（➔P.161）、インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）（➔P.185）をお読みください。

踏み間違い衝突防止アシスト警告灯

■ 点灯・点滅する条件

●<パワースイッチ>をONにすると点灯し、走行可能表示灯［READY］が点灯すると消灯します。
●次の場合は点灯します。
— 踏み間違い衝突防止アシストの設定をOFFにしているとき

— VDCの設定をOFFにしているとき
— 駐車支援機能（フロントソナー、コーナーソナー、バックソナー）に異常が発生しているとき
— 踏み間違い衝突防止アシストのシステムに異常が発生しているとき

● 次の場合はゆっくり点滅します。
— 踏み間違い衝突防止アシストのシステムが一時的に使用できない場合

■ 説明・対処方法

● 踏み間違い衝突防止アシストの設定をOFFにしていることによって点灯しているときは、ONにすると消灯します。
● VDCの設定をOFFにしていることによって点灯しているときは、ONにすると消灯します。
➔ VDCのON・OFFのしかた（P.140）
● 一度<パワースイッチ>をOFFにしてから再始動しても警告灯が点灯し続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。
● システムについては、踏み間違い衝突防止アシスト（➔ P.168）をお読みください。

マスターウォーニング

■ 点灯・点滅する条件

● メーターに警告メッセージが表示されると同時に点灯します。

■ 説明・対処方法

● 同時に表示した警告メッセージを確認し、それぞれの対処方法に従ってください。

車両接近通報システム警告灯

■ 点灯・点滅する条件

● 車両接近通報装置に異常があると点灯します。

■ 説明・対処方法

● すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。

手放し警告灯

■ 点灯・点滅する条件

● プロパイロットで車線維持機能（ハンドル支援）を行っているとき、ハンドルを持っていない、またはハンドル操作が検出されないと点灯します。
● 手放し警告灯が点灯しているにもかかわらず、運転者のハンドル操作が検出されない場合は、警告音とともに手放し警告灯が点滅し、車線維持機能（ハンドル支援）は解除されます。
● プロパイロットのシステムに異常があると点灯します。

■ 説明・対処方法

● すみやかにハンドルを持って操作してください。運転者のハンドル操作を検出すると警告灯は消灯し、車線維持機能（ハンドル支援）が復帰します。
● e-POWERシステム再始動後も警告灯が点灯し続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

警告メッセージが表示されたときは

警告メッセージが表示されたときは、次の「説明・対処方法」に従ってください。表示は、グレード、オプションなどにより異なります。

e-POWERシステム始動操作表示

始動時はブレーキを踏みパワースイッチを押してください

■ 表示する条件

● インテリジェントキーを持って車室内に入ると表示します。

■ 説明・対処方法

● ブレーキペダルを踏みながら<パワースイッチ>を押すと、走行可能表示灯

［READY］が点灯し、走行できるようになります。

●次の場合、表示が消えます。
— 走行可能表示灯［READY］が点灯したとき
— リモコン機能、ドアにあるスイッチ、またはバックドアのスイッチでドアを施錠したとき

インテリジェントキー非作動時e-POWERシステム始動表示

インテリジェントキーをパワースイッチに接触させてください

■ 表示する条件

●インテリジェントキーの電池が切れたときや、使用環境により、キーと車両の通信が正常に行われないときに表示します。

■ 説明・対処方法

●ブレーキペダルを踏みながら、キーの裏面を<パワースイッチ>に接触させてください。
➔ e-POWERシステムを始動できないときは（P.258）

インテリジェントキー電池切れ表示

キー電池残量が低下しています

■ 表示する条件

●インテリジェントキーの電池切れが近くなると電池の交換を知らせます。

■ 説明・対処方法

●新しい電池に交換してください。
➔ インテリジェントキーの電池交換（P.304）

●次の場合、インテリジェントキー電池切れ表示が消えます。
— 表示から約30秒経過したとき
— <パワースイッチ>をON以外にしたとき

オイル交換時期表示

エンジンオイル オイル交換まで xxxkm
エンジンオイル 交換してください

■ 表示する条件

●車両システムが自動で設定したエンジンオイル交換までの距離が1,500km未満になると、<パワースイッチ>をONにしたときに表示します。

●車両システムが自動で設定したエンジンオイル交換距離に達すると表示します。

■ 説明・対処方法

●エンジンオイル交換後は、必ず表示をリセットしてください。
メンテナンス（➔P.57）

アドバイス

● 表示されたときは、できるだけ早くエンジンオイルを交換してください。劣化したエンジンオイルのまま走行し続けると、エンジンが破損するおそれがあります。

● エンジンオイル交換時以外にリセットはしないでください。

インテリジェントキー持ち出し警告

キーが見つかりません

■ 表示する条件

●次の場合に表示します。
— 走行可能表示灯［READY］が点灯している状態で、インテリジェントキーが車外に持ち出されたとき
— キーを携帯していないとき
— 携帯しているキーの電池が切れているとき
— 登録されていないキーを携帯しているとき

■ 説明・対処方法

●次のように対処してください。
— キーが車外に持ち出されていないか確認してください。
— キーを携帯してください。
— 新しい電池に交換してください。
➔ インテリジェントキーの電池交換（P.304）

— 自車のキーであることを確認してください。

● e-POWERシステムを停止させるときは、次の操作を行ってください。

— <パワースイッチ>を2秒以上押し続ける

ドア開き警告

■ 表示する条件

● ドアが確実に閉まっていないとき、開いている位置を表示します。

■ 説明・対処方法

● ドアを確実に閉めてください。

⚠ 注意

● **走行前に表示が消えていることを確認する。**

ドアが完全に閉まっていない（半ドア）と走行中に突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

シートベルト警告

■ 表示する条件

● <パワースイッチ>がONのとき、シートベルトが装着されていない席を赤色で表示します。

● シートベルトを着用している席は緑色で表示されます。

● 空席は灰色で表示されます。

■ 説明・対処方法

● シートベルトを着用してください。

⚠ 警告

● **走行中は全員がシートベルトを着用する。**

着用しないと、万一の事故時や急ブレーキ時に、死亡や重大な傷害につながるおそれがあります。

知識

● 助手席シートまたは後席シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して、シートベルト警告が表示されることがあります。

キーシステム警告

キーシステム故障 取扱説明書を見てください

■ 表示する条件

● キーシステムに異常があると表示します。

■ 説明・対処方法

● 日産販売会社にご連絡ください。<パワースイッチ>を切り替えられないことがあります。

P戻し忘れ警告

Pレンジに入れてください

■ 表示する条件

● シフトポジションがP以外で運転席ドアが開いていると表示します。

■ 説明・対処方法

● シフトポジションをPに入れてください。

電動パーキングブレーキ戻し忘れ警告

パーキングブレーキを解除してください

■ 表示する条件

● 電動パーキングブレーキをかけ、運転席ドアを閉めずにアクセルペダルを踏み、発進すると表示します。

● 電動パーキングブレーキを解除し忘れたまま走行すると表示します。

● 走行中、非常事態で電動パーキングブレーキを作動させると表示します。

➔ 電動パーキングブレーキに関する注意事項（P.119）

■ 説明・対処方法

● すみやかに電動パーキングブレーキを解除してください。
➔ 電動パーキングブレーキ (P.118)

電動パーキングブレーキ警告

ブレーキペダルを踏んでください

■ 表示する条件

● 急な坂道などで電動パーキングブレーキがかかった状態で車両が動くと表示し、ブザーが鳴ります。
● 電動パーキングブレーキがかかった状態で、ブレーキペダルを踏まずに<電動パーキングブレーキスイッチ>を押した場合に表示します。

■ 説明・対処方法

● すみやかにブレーキペダルを踏んでください。
● 解除する場合は、ブレーキペダルを踏んでから<電動パーキングブレーキスイッチ>を押してください。
➔ 電動パーキングブレーキ (P.118)

オートブレーキホールド警告

ブレーキを踏んでください

■ 表示する条件

● オートブレーキホールド機能が作動中に車両が動いたときに表示し、ブザーが鳴ります。

■ 説明・対処方法

● ブレーキペダルを踏んで車両を停止させてください。

オートブレーキホールド急坂路注意表示

AUTO HOLD 急坂路に停車しています 車が動くことがあります

■ 表示する条件

● 急な坂道などでオートブレーキホールド機能が作動したときに表示し、ブザーが鳴ります。

■ 説明・対処方法

● すみやかにブレーキペダルを踏んでください。
● 急な坂道や滑りやすい路面でオートブレーキホールド機能が作動していても、車両が動き出すおそれがあります。
➔ オートブレーキホールド (P.119)

オートブレーキホールド急坂路操作表示

AUTO HOLD 急坂路ではブレーキを踏んでください 車が動くことがあります

■ 表示する条件

● 急な坂道などでオートブレーキホールド機能が作動してから一定時間経過し、ブレーキが踏まれていなかった場合に表示し、ブザーが鳴ります。

■ 説明・対処方法

● すみやかにブレーキペダルを踏んでください。
● 急な坂道などでオートブレーキホールド機能が作動してから一定時間経過し、電動パーキングブレーキがかかるときに車両が動き出すおそれがあります。
➔ オートブレーキホールド (P.119)

オートブレーキホールドスイッチ解除操作表示

AUTO HOLD ブレーキを踏みスイッチを操作すれば解除できます

■ 表示する条件

● オートブレーキホールド機能が作動中、ブレーキペダルを踏まずに<オートブレーキホールドスイッチ>を押したときに表示します。

■ 説明・対処方法

● ブレーキペダルを踏んでから<オートブレーキホールドスイッチ>を押してください。
➔ オートブレーキホールド (P.119)

燃料残量警告

給油してください

■ 表示する条件

● 燃料が少なくなると表示します。

■ 説明・対処方法

● すみやかに指定の燃料を補給してください。

知識

● 燃料の残量が約4.2ℓ以下で表示します。

なお、走行に使用できる燃料容量は、上記残量より若干少なくなります。

● 車両姿勢、走行状況によっては、燃料がタンク内で移動するため、警告が表示されるタイミングが変わる場合があります。

オーバーヒート警告

オーバーヒート 安全な場所に車を停め取扱説明書を見てください

■ 表示する条件

● エンジン冷却水の温度が異常に高くなると表示します。

■ 説明・対処方法

● 表示したときは、ただちに安全な場所に車を停めて処置してください。

➔ オーバーヒートしたときは (P.286)

注意

● 表示したまま走行をしない。

そのまま走行を続けると、エンジン故障の原因となり、火災につながるおそれがあります。

シャシー制御表示

シャシー制御システム故障 取扱説明書を見てください

■ 表示する条件

● シャシー制御のシステムに異常があると表示します。

■ 説明・対処方法

● すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。

4WD警告

4WDシステム異常 取扱説明書を見てください

■ 表示する条件

● 走行可能表示灯［READY］が点灯しているとき、4WDシステムに異常があると表示します。

■ 説明・対処方法

● 4WDシステムに異常が発生しているため2WD状態になっています。高速走行をせず、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。

踏み間違い衝突防止アシスト作動時表示

踏み間違い衝突防止アシストが作動しました

■ 表示する条件

● 踏み間違い衝突防止アシストが作動すると表示します。

■ 説明・対処方法

● 進行方向に壁などの障害物、車両や歩行者などを検知している場合に、アクセルペダルがすばやく深く踏み込まれたとシステムが判断したときに作動します。

➔ 踏み間違い衝突防止アシスト (P.168)

ヘッドランプ警告

ヘッドランプシステム異常 取扱説明書を見てください

■ 表示する条件

● LEDヘッドランプに異常があると表示します。

■ 説明・対処方法

● 安全な場所に停車し、一度e-POWERシステムを停止してからマルチセンシングフロントカメラの前の障害物を取り除き、汚れを清掃してe-POWERシステムを再始動してください。

● 再始動後もメッセージを表示するときは、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。

システム故障警告

システム故障 取扱説明書を見てください

■ 表示する条件

● プロパイロット、踏み間違い衝突防止アシスト、BSW（後側方車両検知警報）★、インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）★、LDW（車線逸脱警報）、インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）、RCTA（後退時車両検知警報）★、インテリジェント DA（ふらつき警報）、標識検知機能、駐車支援機能（フロントソナー、コーナーソナー、バックソナー）が故障すると表示します。

■ 説明・対処方法

● 安全な場所に停車し、＜パワースイッチ＞をOFFにします。インテリジェントキーを車室内に置いた状態で、一度運転席ドアを開閉したあと、NissanConnectインフォテインメントシステム★、オーディオ★、ドアロックなどすべての操作を行わず、ドアを閉じた状態のまま3分以上待機します。
再始動後もメッセージが表示するときは、システムの異常が考えられます。通常走行に支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

➔ プロパイロット（P.150）
➔ 踏み間違い衝突防止アシスト（P.168）
➔ BSW（後側方車両検知警報）★／インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）★（P.174）
➔ LDW（車線逸脱警報）／インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）（P.181）
➔ RCTA（後退時車両検知警報）★（P.187）
➔ インテリジェントDA（ふらつき警報）（P.190）
➔ 標識検知機能（P.191）

インテリジェント DA（ふらつき警報）システム異常警告

ふらつき警報システム故障 取扱説明書を見てください

■ 表示する条件

● インテリジェント DA（ふらつき警報）に異常があると表示します。

■ 説明・対処方法

● 安全な場所に停車し、一度e-POWERシステムを停止してから再始動してください。
● 再始動後もメッセージを表示するときは、システムの異常が考えられます。通常走行に支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

➔ インテリジェントDA（ふらつき警報）（P.190）

ソナーシステム異常警告A

ソナー故障 取扱説明書を見てください

■ 表示する条件

● ソナーが故障したときに表示します。

■ 説明・対処方法

● 安全な場所に停車し、一度e-POWERシステムを停止してから再始動してください。
● 再始動後もメッセージを表示するときは、システムの異常が考えられます。
通常走行に支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

➔ ソナー表示（P.62）

ソナーシステム異常警告B

現在ソナーが使用できません

■ 表示する条件

● ソナーが一時的に使用できない状態になっているときに表示します。

■ 説明・対処方法

● 安全な場所に停車し、一度e-POWERシステムを停止してからソナーの汚れを取り除き、e-POWERシステムを再始動してください。

●他車のソナーが付近に存在するときや周囲で大きな音が鳴っているときは、静かな場所に移動し、一度e-POWERシステムを停止してから再始動してください。

インテリジェントDA（ふらつき警報）表示

ふらつき警報 休憩しませんか？

■ 表示する条件

●運転者のハンドル操作から注意力が低下していると判断したときに表示します。

■ 説明・対処方法

●表示・非表示の設定ができます。
➔インテリジェントDA（ふらつき警報）(P.190)

最高速度標識検知表示

■ 表示する条件

●前方の最高速度標識を検知した場合には、メーターおよび走行支援グループ［］に表示されます。

■ 説明・対処方法

●表示・非表示の設定ができます。
➔標識検知機能（P.191）

ライト消し忘れ警告

ライト消灯してください

■ 表示する条件

●＜パワースイッチ＞がON以外の位置で運転席ドアを開けたとき、次の場合に表示し、ブザーが鳴ります。
　－ ライトスイッチが＜ ＞の位置にあるとき
　－ ライトスイッチを＜ON/OFF＞の位置に回して、テールランプ表示灯［］が点灯しているとき

■ 説明・対処方法

●ライトスイッチを＜AUTO＞の位置にする、または＜ON/OFF＞の位置に回してテールランプ表示灯［］を消灯してください。

タイヤ交換表示

メンテナンス タイヤ

■ 表示する条件

●設定したタイヤ交換距離に達すると表示します。

■ 説明・対処方法

●タイヤ交換距離は、設定したりリセットしたりできます。
設定については、メンテナンス（➔P.57）をお読みください。

メンテナンス距離表示

メンテナンス ユーザー

■ 表示する条件

●タイヤ以外の整備項目の点検距離または交換距離に達すると表示します。

■ 説明・対処方法

●その他の整備項目には、例えばタイヤのローテーションを行う距離の設定ができます。項目の点検／交換距離は、設定したりリセットしたりできます。
設定については、メンテナンス（➔P.57）をお読みください。

凍結注意アラーム表示

■ 表示する条件

●外気温が3℃以下になったことを知らせます。

■ 説明・対処方法

● 表示・非表示の設定ができます。
設定については、運転支援（➔P.57）をお読みください。

走行時間アラーム表示

休息してください

■ 表示する条件

● 設定した時間まで連続走行したことを知らせます。

■ 説明・対処方法

● 表示・非表示の設定ができます。
設定については、運転支援（➔P.57）をお読みください。

自動電源OFF表示A

省電力のため自動的に電源をOFFします
バッテリーあがりを防ぐため電源をOFFします

■ 表示する条件

● e-POWERシステムが停止している状態で、<パワースイッチ>をONにしたまましばらくすると表示することがあります。

■ 説明・対処方法

● そのまま<パワースイッチ>を切り替えないと、省エネのため<パワースイッチ>がOFFになります。

自動電源OFF表示B

省電力のため自動的に電源をOFFしました
バッテリーあがりを防ぐため電源をOFFしました

■ 表示する条件

● e-POWERシステムが停止している状態で、<パワースイッチ>をONにしたまま時間が経過し、<パワースイッチ>が自動でOFFになったときに表示することがあります。

■ 説明・対処方法

● そのまま<パワースイッチ>を切り替えないと、省エネのため<パワースイッチ>がOFFになります。

出力制限警告

システム保護のため一時的に出力制限中 安全な場所に車を停め取扱説明書を見てください

■ 表示する条件

● 出力制限表示灯［ ］が点灯すると同時に表示します。

■ 説明・対処方法

● 出力が制限され、アクセルペダルを踏み込んでも速度が上がらなくなります。
● リチウムイオンバッテリーの残量が極端に低下して点灯したときは、すみやかに安全な場所に停車し、日産販売会社にご連絡ください。

e-POWERシステム警告A

e-POWERシステム停止 販売店で点検してください

■ 表示する条件

● 停車中、e-POWERシステムに異常が発生し、e-POWERシステムが停止しているときに表示します。

■ 説明・対処方法

● すみやかに日産販売会社にご連絡ください。

e-POWERシステム警告B

e-POWERシステム故障 次回始動できません 販売店で点検してください

■ 表示する条件

● e-POWERシステムに異常が発生し、e-POWERシステムが再始動できないときに表示します。

■ 説明・対処方法

● すみやかに日産販売会社にご連絡ください。

e-POWERシステム警告C

e-POWERシステム故障 走行制限中 販売店で点検してください

■ 表示する条件

- e-POWERシステムに異常が発生し、出力が制限されていると表示します。

■ 説明・対処方法

- すみやかに日産販売会社にご連絡ください。

e-POWERシステム警告D

e-POWERシステム停止 安全に停車してください

■ 表示する条件

- 走行中、e-POWERシステムに異常が発生し、e-POWERシステムが停止しているときに表示します。

■ 説明・対処方法

- すみやかに安全な場所に停車し、日産販売会社にご連絡ください。

e-POWERシステム警告E

e-POWERシステム停止 パーキングブレーキをかけてください

■ 表示する条件

- 停車中、e-POWERシステムに異常が発生し、e-POWERシステムが停止しているときに表示します。

■ 説明・対処方法

- すみやかにパーキングブレーキをかけ、日産販売会社にご連絡ください。

e-POWERシステム警告F

e-POWERシステム故障 安全に停車してください

■ 表示する条件

- 走行中、e-POWERシステムに異常が発生し、出力が停止しているときに表示します。

■ 説明・対処方法

- すみやかに安全な場所に停車し、日産販売会社にご連絡ください。

e-POWERシステム警告G

e-POWERシステム故障 走行制限中 安全に停車してください

■ 表示する条件

- 走行中、e-POWERシステムに異常が発生し、出力が制限されていると表示します。

■ 説明・対処方法

- すみやかに安全な場所に停車し、日産販売会社にご連絡ください。

e-POWERシステム警告H

e-POWERシステム故障 販売店で点検してください

■ 表示する条件

- e-POWERシステムに異常が発生し、e-POWERシステムが停止せず、出力が制限されていないときに表示します。

■ 説明・対処方法

- すみやかに日産販売会社にご連絡ください。

電制シフト警告A

駐車時は確実にパーキングブレーキをかけてください

■ 表示する条件

- 電制シフトに異常が発生したときに表示します。

■ 説明・対処方法

- すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。
- 駐車するときは、パーキングブレーキを確実にかけてください。パーキングブレーキをかけていないと、<パワースイッチ>をOFFにできないことがあります。
- <パワースイッチ>をOFFにできないときは、次の操作を行ってください。
  - ①停車してパーキングブレーキをかけます。
  - ②ブレーキペダルを踏み込みながら<パワースイッチ>を押して、<パワースイッチ>をONに切り替えます。
  - ③<P>スイッチを押してPに切り替えます。
  - ④<パワースイッチ>を押して、OFFに切り替えます。

電制シフト警告B

トランスミッションシステム異常 販売店で点検してください

■ 表示する条件

- 電制シフトに異常が発生したときに表示します。

■ 説明・対処方法

- すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。
- オートP機能（➔P.118）が作動しないことがあるため、駐車するときは<シフトスイッチ>の<P>スイッチを押し、Pに切り替わったことを確認してください。

電制シフト警告C

トランスミッションシステム異常 シフトボタンは使用できません 販売店で点検してください

■ 表示する条件

- <シフトスイッチ>に異常が発生したときに表示します。

■ 説明・対処方法

- すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。

シフトポジション警告

シフトの状態を確認してください

■ 表示する条件

- <シフトスイッチ>が押されたままの状態になったときに表示します。

■ 説明・対処方法

- 次の確認を行ってください。
  - 異物が挟まっていないか
  - 物などで押され続けていないか
- <シフトスイッチ>が押されていないときに表示された場合は、日産販売会社で点検を受けてください。

フロントレーダーシステム停止警告

現在一部の運転支援が使用できません センサー周辺を拭いてください

■ 表示する条件

- 車両前部に取り付けられたレーダーセンサー周辺に雪や氷、泥などが付着し、次のシステムが停止すると表示します。
  ➔インテリジェント エマージェンシーブレーキ（P.161）
  ➔インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）（P.185）

■ 説明・対処方法

- 安全な場所に停車し、一度e-POWERシステムを停止してからレーダーセンサーおよびその周辺の汚れなどを取り除き、e-POWERシステムを再始動してください。
- 停止したときの状態が改善、または変更されると、システムは作動を再開します。

サイドレーダーシステム停止警告

サイドレーダー及びその周辺が汚れています 拭いてください

■ 表示する条件

● 車両後部に取り付けられたレーダーセンサー周辺に雪や氷、泥などが付着し、次のシステムが停止すると表示します。
➔ BSW（後側方車両検知警報）★／インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）★ (P.174)
➔ RCTA（後退時車両検知警報）★ (P.187)

■ 説明・対処方法

● レーダーセンサーおよびその周辺の汚れなどを取り除いてから、システムを一旦OFFにしたあと、再度ONにしてください。

作動範囲外警告

作動範囲外のため現在使用できません

■ 表示する条件

● 次のシステムが停止すると表示します。停止する条件については、各システムをお読みください。
— インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）（➔ P.174）
— インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）（➔ P.181）
● VDCをOFFにしたとき

■ 説明・対処方法

● 停止したシステムを再び作動させる場合は、停止したときの状態が改善されてから、スイッチで再度ONにしてください。

カメラ高温警告

車線認識カメラ・その周辺が高温のため使用できません
カメラが高温のため現在使用できません

■ 表示する条件

● 炎天下に駐車したときなど、マルチセンシングフロントカメラが高温になり、次のシステムが停止すると表示します。
— インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）（➔ P.174）
— ➔ LDW（車線逸脱警報）／インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム） (P.181)

■ 説明・対処方法

● 停止したシステムを再び作動させる場合は、マルチセンシングフロントカメラ周辺の温度が下がってから、再度ONにしてください。

カメラが高温のため一部の運転支援を制限しています

■ 表示する条件

● カメラおよびカメラ周辺の温度が高いときに表示します。

■ 説明・対処方法

● 車室内の温度が下がるとシステムは自動的に作動を再開します。

スリップ警告

滑りやすい路面のため現在使用できません

■ 表示する条件

● 次のシステムが停止すると表示します。停止する条件については、各システムをお読みください。
— インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）（➔ P.174）
— インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）（➔ P.181）
● ABSまたはVDC（トラクションコントロール機能（TCS）は含まない）が作動したとき

■ 説明・対処方法

● 停止したシステムを再び作動させる場合は、停止したときの状態が改善されてから、スイッチで再度ONにしてください。

システムOFF表示

システムOFF

■ 表示する条件

- RCTA（後退時車両検知警報）★がOFFのとき、シフトポジションをRにすると表示します。
  ➔ RCTA（後退時車両検知警報）★（P.187）

■ 説明・対処方法

- RCTA（後退時車両検知警報）★をONにすると、シフトポジションをRにしても表示されません。

インテリジェント エマージェンシーブレーキシステム故障警告

システム故障のため、一部の運転支援を使用できません

■ 表示する条件

- インテリジェント エマージェンシーブレーキシステムが故障すると表示します。

■ 説明・対処方法

- 安全な場所に停車し、一度e-POWERシステムを停止してから再始動してください。
- 再始動後もメッセージを表示するときは、システムの異常が考えられます。通常走行に支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。
  ➔ インテリジェント エマージェンシーブレーキ（P.161）
  ➔ インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）（P.185）

インテリジェント エマージェンシーブレーキシステム視界不良警告

視界不良のため一部の運転支援を制限しています

■ 表示する条件

- 悪天候（雨、雪、霧、風塵、砂塵、吹雪など）で視界が悪いときに表示します。
- 前方から強い光（太陽光や対向車両のハイビームなど）を受けているときに表示します。

■ 説明・対処方法

- 悪天候時にはインテリジェント エマージェンシーブレーキシステムは作動しません。
- 状況が改善されると、システムは自動的に作動を再開します。

カメラ視界不良警告

現在一部の運転支援が使用できません センサー周辺を拭いてください

■ 表示する条件

- 雨、雪、霧または、カメラ前方のフロントガラス凍結、汚れなどで、カメラの視界が確保できなくなったときに表示します。
- 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯せず、真っ暗な状態が継続したときに表示します。

■ 説明・対処方法

- 安全な場所に停車し、一度e-POWERシステムを停止してからカメラ前方のフロントガラスの汚れなどを取り除き、e-POWERシステムを再始動してください。
- 停止したときの状態が改善されると、システムは作動を再開します。

VDC OFF警告

VDC OFFのため一部の運転支援が制限されています

■ 表示する条件

- VDCをOFFにしたときに表示します。

■ 説明・対処方法

- VDCをOFFにしたときに停止する機能については、（➔ P.140）をお読みください。

インテリジェント エマージェンシーブレーキシステム電波障害警告

電波障害のため一部の運転支援を制限しています

■ 表示する条件

● 放送局など周辺の電波源により影響を受けているときに表示します。

■ 説明・対処方法

● 周辺の電波源による影響を受けているときはインテリジェント エマージェンシーブレーキは作動しません。
● 状態が改善されると、システムは作動を再開します。

インテリジェント エマージェンシーブレーキシステム作動制限警告

現在一部の運転支援を制限しています

■ 表示する条件

● インテリジェント エマージェンシーブレーキのシステムチェックが正常に終了しなかったとき表示します。
➔ インテリジェント エマージェンシーブレーキの作動が停止するとき (P.167)
● けん引されているときに表示します。

■ 説明・対処方法

● 安全な場所に停車し、一度e-POWERシステムを停止してから再始動してください。
● けん引されているときはインテリジェント エマージェンシーブレーキシステムは作動しません。
● 状況が改善されると、システムは自動的に作動を再開します。

シフト操作警告A

ブレーキを踏みシフト操作してください

■ 表示する条件

● ブレーキペダルを踏まずに<シフトスイッチ>を操作し、シフトポジションが切り替わらなかったときに表示します。

■ 説明・対処方法

● ブレーキペダルを踏みながら<シフトスイッチ>を操作してください。
➔ シフトスイッチ (P.117)

シフト操作警告B

Rレンジに入れるためには車両を止めてください

■ 表示する条件

● 前進中にシフトポジションをRに切り替えようとしたときに表示します。

■ 説明・対処方法

● 停車してから<シフトスイッチ>を操作してください。
➔ シフトスイッチ (P.117)

シフト操作警告C

Dレンジに入れるためには車両を止めてください

■ 表示する条件

● 後退中にシフトポジションをDに切り替えようとしたときに表示します。

■ 説明・対処方法

● 停車してから<シフトスイッチ>を操作してください。
➔ シフトスイッチ (P.117)

シフト操作警告D

Pレンジに入れるためには車両を止めてください

■ 表示する条件

● 走行中にシフトポジションをPに切り替えようとしたときに表示します。

■ 説明・対処方法

● 停車してから<シフトスイッチ>を操作してください。
➔ シフトスイッチ (P.117)

シフト操作告知

複数のシフトスイッチが同時に押されました

■ 表示する条件

● 複数の<シフトスイッチ>を同時に押したときに表示します。

■ 説明・対処方法

● <シフトスイッチ>を同時に押した場合は、シフトポジションがPもしくはNに切り替わります。
➔ シフトスイッチ (P.117)

EPS（電動パワーステアリング）警告A

ステアリングシステム故障 安全な場所に停車してください

■ 表示する条件

● 電動パワーステアリングのシステムに異常があるときに表示します。

■ 説明・対処方法

● 電動パワーステアリングが作動しません。
● すみやかに安全な場所に停車し、日産販売会社にご連絡ください。

EPS（電動パワーステアリング）警告B

ステアリングシステム故障 販売店で点検してください

■ 表示する条件

● 電動パワーステアリングのシステムに異常があるときに表示します。

■ 説明・対処方法

● 電動パワーステアリングのシステムに異常があるため、ハンドル操作力の重さが変化します。ハンドルをしっかりと握り、慎重に操作してください。
● すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。

後席リマインダー作動開始表示

後席リマインダーが作動しました

■ 表示する条件

● 後席リマインダーのシステムがONになったときに表示します。
➔ 後席リマインダー (P.80)

■ 説明・対処方法

● ステアリングスイッチで［メッセージを閉じる］を選択すると、一時的にメッセージを消すことができます。
● ステアリングスイッチで［リマインダーを無効にする］を選択すると、一時的に後席リマインダーをOFFにすることができます。再び後席リマインダーをONにしたいときは、e-POWERシステムを再始動してください。

後席リマインダー表示

後席を確認してください

■ 表示する条件

● 後席リマインダーがONのとき、後席ドアを開閉してから10分以内に車両を発進させると、走行後にシフトポジションをPに切り替えたときに表示し、ブザーが鳴ります。
➔ 後席リマインダー (P.80)

■ 説明・対処方法

● 後席を確認してください。

プロパイロット（インテリジェント クルーズコントロール）警告メッセージ

警告メッセージが表示されたときは、次の「説明・対処方法」に従ってください。メーター内の表示は、グレード、オプションなどにより異なります。

警告表示	表示する条件	説明・対処方法
作動範囲外のため 現在使用できません	● VDCをOFFにしたとき	● VDCがOFFの場合はプロパイロットを使用することができません。
パーキングブレーキが 作動しているため 使用できません	● 電動パーキングブレーキが作動したとき	● 電動パーキングブレーキが作動しているときはプロパイロットを使用することができません。
シートベルトが 解除されているため 使用できません	● 運転席のシートベルトを解除したとき	● 運転席のシートベルトが解除されている場合はプロパイロットを使用することができません。
⚠警告 システム故障 取扱説明書を見てください	● システム故障	● 安全な場所に停車して、一度<パワースイッチ>をOFFにしてから再始動します。再始動後も警告灯が点灯し続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。
⚠警告 停車状態を維持できません ブレーキを踏んでください	● プロパイロットにより車両が停止中、運転席ドアが開いたが電動パーキングブレーキが正常に作動しなかったとき	● すみやかにブレーキペダルを踏んでください。
フロントレーダー及び その周辺が汚れています 拭いてください	● 車両前部に取り付けられたレーダーセンサー周辺に雪や氷、泥などが付着したとき	● 安全な場所に停車し、一度e-POWERシステムを停止してからレーダーセンサーおよびその周辺の汚れなどを取り除き、e-POWERシステムを再始動してください。 ➔ レーダーセンサーの取り扱い (P.308)
滑りやすい路面のため 現在使用できません	● VDC／TCSが作動したとき ● タイヤの空転を検出したとき	● VDC／TCSが作動する、または、タイヤが空転するような状況ではプロパイロットは使用できません。

プロパイロット（ハンドル支援）警告メッセージ

警告表示	表示する条件	説明・対処方法
レーンを認識できません ハンドル支援を解除します	● 走行車線内にレーンマーカーに見えるようなものがあるなど、レーンマーカーが正しく検出できない状態が長時間続いたとき（雪のわだち、雨の日の周辺の光の反射、消し忘れのレーンマーカーなど）	● 再度、車線維持機能（ハンドル支援）を使用したいときは、レーンマーカーがはっきりと描かれている道路でプロパイロットを再セットしてください。
悪天候のため 現在使用できません	● ワイパーを高速で作動させたとき	● ワイパーの高速動作を解除してください。その後、プロパイロットを再度セットしてください。
カメラが認識できないため 現在使用できません	● 雨、雪、霧または、カメラ前方のフロントガラスの凍結、汚れなどで、カメラの視界が確保できなくなったとき ● 前方から強い光（太陽光や対向車両のハイビームなど）を受けているときに表示します。	● 状況が改善されたあと、プロパイロットを再セットしてください。 ● 警告表示が出続ける場合は、安全な場所に停車して、e-POWERシステムを一旦停止してカメラ前方のフロントガラスの汚れなどを取り除いてください。
カメラが高温のため 現在使用できません	● カメラおよびカメラ周辺の温度が高いとき	● 車室内の温度が下がるとプロパイロットを使用することができます。
車線認識カメラ・その周辺が 高温のため使用できません		
⚠警告 システム故障 取扱説明書を見てください	● システム故障	● 安全な場所に停車して、e-POWERシステムを一旦停止して再始動し、再びシステムをONにしてください。

警告表示	表示する条件	説明・対処方法
	● ハンドルを持っていない、またはハンドルを操作していないときに点灯します。 — 表示（赤）により警告します。 ● 点灯後、運転者がハンドルを操作しないときに点滅します。 — 音、表示（赤）、および短時間のブレーキ制御で段階的に警告します。	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 運転者のハンドル操作を検出すると警告は消灯します。
	● 警告後、運転者のハンドル操作がない状態が継続したときに表示します。 — 緊急警報音が鳴るとともに車両を減速、緊急停止します。	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 運転者のハンドル操作を検出すると警告は消灯し、プロパイロットが解除されます。
	● 車両を緊急停止させたあと、運転者がハンドルを操作しないときに表示します。	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 運転者のハンドル操作を検出すると警告は消灯します。 ● ハンドル操作をすると、非常点滅表示灯は自動で消灯します。

ブザー（警報音）が鳴ったときは

車両盗難などを防ぐため、車内外でブザー（警報音）が鳴ることがあります。

どこで音が鳴りましたか？	どんな音が鳴りましたか？	何をしたときに鳴りましたか？	確認すること
車外	ピピピピ…（数秒間）	ドアにあるスイッチを押したとき	走行可能表示灯［READY］が点灯していないか キーを車室内またはラゲッジルーム内に置き忘れていないか いずれかのドアが半ドアになっていないか ドアを閉める前にドアにあるスイッチを押していないか
		キーの＜ドア施錠スイッチ＞を押したとき	走行可能表示灯［READY］が点灯していないか いずれかのドアが半ドアになっていないか ドアを閉める前に＜ドア施錠スイッチ＞を押してはいないか
		ドアを閉めたとき	無意識にドアにあるスイッチを押していないか
	ピッピッピッ（3回）	ドアを閉めたとき	走行可能表示灯［READY］が点灯しているときに、キーが車外に持ち出されていないか
	キー（金属音）	走行中にブレーキペダルを踏んだとき	ディスクブレーキのパッド（摩擦材）が摩耗していないか 金属音が発生したときは、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。そのまま走行を続けると、ブレーキが効かなくなり、事故につながるおそれがあります。
	ピー（継続）	ドアを閉めたとき	シフトポジションがP以外のまま、キーが車外に持ち出されていないか
車室内	ポロポロポロ（3回）	ドアを閉めたとき	走行可能表示灯［READY］が点灯しているときに、キーが車外に持ち出されていないか
		＜パワースイッチ＞を押したとき	キーを携帯しているか キーを携帯してもブザーが鳴るときは、キーの電池を交換してください
	ポロポロポロ…（繰り返し）	運転席ドアを開けたとき	＜パワースイッチ＞がONのままになっていないか シフトポジションをPにしているか

窓ガラスがくもったときは

●＜デフロスタースイッチ＞は、＜パワースイッチ＞がONのとき使えます。＜リヤデフォッガースイッチ＞は、走行可能表示灯［READY］が点灯しているときに使えます。

フロントガラスのくもりの取りかた

注意

● **＜デフロスタースイッチ＞をONにしているときは、エアコンの設定温度を低くしない。**

フロントガラスの外側に露が付き、視界を妨げるおそれがあります。

●＜デフロスタースイッチ＞をタッチするとエアコンが作動し、外気導入に切り替わります。
（スイッチの表示灯が点灯）

●止めるときは、もう一度スイッチをタッチします。
（スイッチの表示灯が消灯）

デフロスタースイッチ（➔P.100または➔P.103）

アドバイス

● ＜デフロスタースイッチ＞をONにしているときは、内気循環にしないでください。くもりが取れにくくなります。

● ＜デフロスタースイッチ＞は、連続して長時間ONにしないでください。消費電力が多いため、12Vバッテリーあがりの原因になります。

バックドアガラスのくもりの取りかた

●＜リヤデフォッガースイッチ＞をタッチすると約15分間作動し、バックドアガラスの熱線が暖まります。
（スイッチの表示灯が点灯）

●止めるときは、もう一度スイッチをタッチします。
（スイッチの表示灯が消灯）

リヤデフォッガースイッチ（➔P.100または➔P.103）

●＜リヤデフォッガースイッチ＞をタッチすると、ドアミラーヒーター★も同時に作動します。

アドバイス

● 連続して長時間使用しないでください。消費電力が多いため12Vバッテリーあがりの原因になります。

■ ワイパーデアイサー★

●フロントガラスを温めて、ガラス下端にたまった雪を取り除きやすくします。
＜リヤデフォッガースイッチ＞をタッチすると約15分間作動します。
（スイッチの表示灯が点灯）

●止めるときは、もう一度スイッチをタッチします。
（スイッチの表示灯が消灯）

アドバイス

● ガラスにたまった雪はこまめに取り除き、視界を確保してください。

オーバーヒートしたときは

アドバンスドドライブアシストディスプレイにオーバーヒート警告（➔P.272）が表示されたときや、エンジンルームのすき間から蒸気が出ているときはオーバーヒートしています。次の方法で処置してください。

処置のしかた

警告

● **ボンネットを開けるときは十分に注意する。**

エンジンルーム内は高温になっているため、やけどなど重大な傷害につながるおそれがあります。

● **蒸気が出ているときは、ボンネットを開けない。**

やけどなど重大な傷害につながるおそれがあります。

e-POWERシステムを停止し、蒸気が出なくなるまで待ち、ボンネットを開けてください。

● **エンジンが十分に冷えていないときは、リザーバータンクのキャップを外さない。**

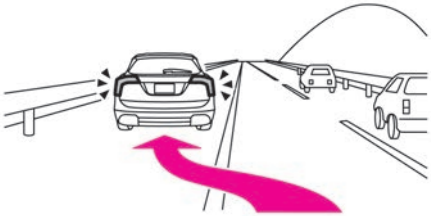
蒸気や熱湯が噴き出し、やけどなど重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 警告

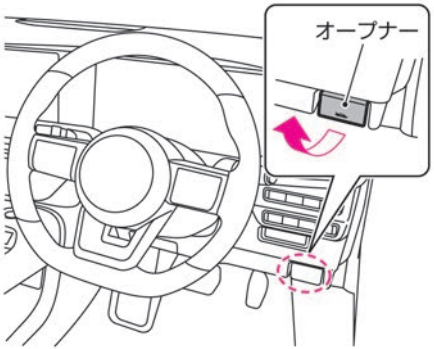
- **オーバーヒートしたときは、ただちに安全な場所に車を止めて処置をする。**

  そのまま走行を続けると、エンジン故障の原因となり、火災につながるおそれがあります。

1. ただちに安全な場所に停車します。
   ➔ 故障したときの対処のしかた (P.248)



2. e-POWERシステムを作動させたままボンネットを開け、風通しをよくしてエンジンを冷やします。
   万一、冷却ファンが回っていないときは、ただちにe-POWERシステムを停止し、自然冷却してください。

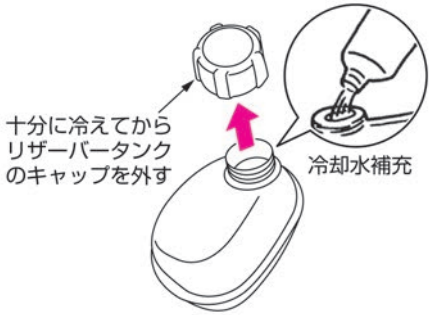


3. アドバンスドドライブアシストディスプレイのオーバーヒート警告が消えたら、e-POWERシステムを停止させしばらく待ちます。
   エンジンが十分冷えてから冷却水の量、ホースなどからの水漏れを点検してください。

⚠ 警告

オーバーヒート
安全な場所に車を停め
取扱説明書を見てください

4. 冷却水が不足しているときは、エンジン冷却用のリザーバータンクに冷却水を補充してください。
   ➔ エンジンルーム内の配置図 (P.296)
   補充後は、しっかりキャップを閉めてください。



5. 走行中、再度アドバンスドドライブアシストディスプレイにオーバーヒート警告が表示されたら、手順1～手順4の作業を繰り返し行ってください。
6. 早めに日産販売会社で点検を受けてください。

アドバイス

- 応急的に水だけを補充したときは、早めに日産販売会社で点検を受けてください。

雪道やぬかるみにはまったときは

雪道、砂地、ぬかるみなどでタイヤが空転したり、埋まり込んで動けなくなったりしたときは、次の方法で脱出してください。

脱出のしかた

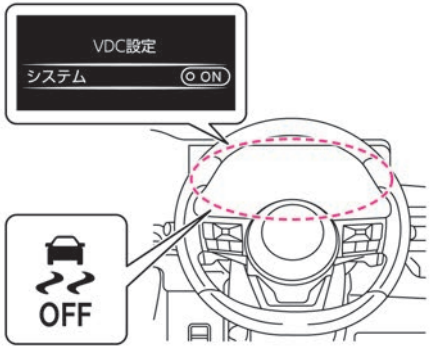
⚠ 警告

- **周囲の安全を必ず確認する。**
  周囲の人や物との衝突を避けるため、前進と後退を繰り返すときは、周囲に何もないことを確認してください。特に脱出の瞬間は、車両が前方または後方に飛び出すおそれがあります。
- **必要以上にアクセルペダルを踏み込まない。**
  急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。

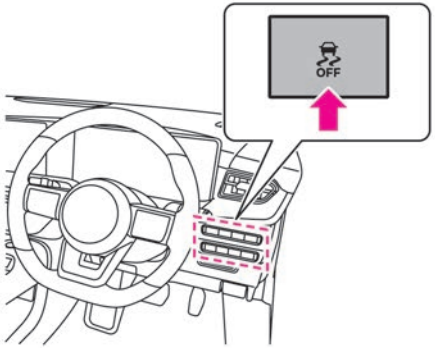
⚠ 注意

- **脱出するときは、過度にタイヤを空転させない。**
  タイヤがバースト（破裂）したり、駆動部品が異常過熱したりすることにより思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

1. アドバンスドドライブアシストディスプレイ、またはVDC OFFスイッチでVDCをOFFにします。
   ➔VDCのON・OFFのしかた(P.140)



VDC OFF スイッチ無車



VDC OFF スイッチ付車

2. e-4ORCE（4WD）車は、ドライブモードセレクター（➔P.136）をSNOWに切り替えます。
3. 車両の前後に障害物がないことを確認し、ハンドルを左右に回して前輪の周囲をならします。
   必要に応じ、タイヤの下に木材などをそえてください。
4. ゆっくりとアクセルペダルを踏み、前進または後退します。
   周囲の安全を確認したうえで、前進と後退を繰り返してください。

アドバイス

- 数回試しても脱出できないときは、日産販売会社またはJAFなどのロードサービスにご連絡ください。

水没したときは

水没したときの対処のしかた

⚠ 警告

- **水位が窓ガラスよりも高いとき、緊急脱出用ハンマーを使用した場合、割れたガラスが車室内に入り、ケガをするおそれがあります。**

緊急脱出用ハンマー（ディーラーオプション）について

- **フロントウインドーガラスは合わせガラスのため、緊急脱出用ハンマーで割ることはできません。フロントドアガラス、リヤドアガラス、バックドアガラスを割って脱出してください。**

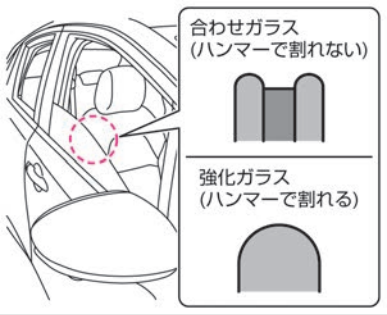
⚠ 警告

- **ドアガラスは車種によって、合わせガラスを使用しています。ただし、車両の仕様変更により合わせガラスの位置が異なる場合があります。**

  合わせ、または強化ガラスの見分け方法については、ガラスの断面、もしくは刻印（マーク）を確認することで見分けることができます。

ガラスの断面で合わせガラスを見分ける方法

- ドアガラスを半分ほど開け、断面を上から確認し、2枚のガラスが貼り合わせられている場合は合わせガラスとなります。



ガラスにある刻印（マーク）で合わせガラスを見分ける方法

- ドアガラスには次のような刻印（マーク）が表示されています。この表示によって、合わせガラスかどうかを見分けることができます。

※車両によっては、刻印（マーク）が表示されていない、またはガラスの種類を示す表示の位置が異なる場合があります。

水没したときは、次のような対処方法で車外に脱出してください。

- シートベルトを外して車外に脱出してください。
- ドアが開く水位が低いうちにドアを開けて、車外に脱出してください。
- ドアが開かなかった場合、窓ガラスを開け、窓から車外に脱出してください。
- <パワーウインドースイッチ>を押しても窓ガラスが開かない場合、次の方法で脱出してください。
  - 緊急脱出用ハンマー（ディーラーオプション）がある場合、窓ガラスを割り窓から車外に脱出してください。
  - 緊急脱出用ハンマー（ディーラーオプション）がない場合、または緊急脱出用ハンマーで窓ガラスが割れない場合には、車内外の水位が同じ高さくらいまで浸水するのを待ち、ドアを強く押し開けて車外に脱出してください。
    （車内外の水圧差がなくなると、ドアを開けることができます）
- 浸水・冠水被害に遭われた場合は、車両故障につながるおそれがあるため、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。

外装ランプが点灯しないときは

- 外装ランプはすべてLEDです。LEDが一部でも点灯しない場合は日産販売会社で点検を受けてください。
- ヘッドランプ、制動灯などは、雨天走行や洗車などにより、レンズ内面が一時的にくもることがあります。またヘッドランプ内と外気との温度差により、レンズ内面が結露することもあります。これは雨天時などに窓ガラスがくもるのと同様の現象で、機能上の問題ではありません。またレンズの構造上、レンズのふちに水滴が付着することがありますが、機能上の問題ではありません。ただし、ランプ内に水がたまっている場合やレンズ内面に大粒の水滴が付着している場合は、日産販売会社にご相談ください。

ヒューズが切れたときは

ランプがつかないときや電気系統の装置が作動しないときは、日産販売会社にご相談ください。

MEMO

メンテナンス

メンテナンスの前に

点検整備について P.292

工具・ジャッキ

工具★・ジャッキ★について P.293

点検と整備

エンジンルーム P.296
ウォッシャー液の補給 P.298
寒冷時の取り扱い P.298
タイヤ P.300
冬用タイヤ・タイヤチェーン P.302
ワイパー P.302
インテリジェントキーの電池交換 P.304
12Vバッテリー P.305
エンジンオイル P.305

清掃・お手入れ

外装のお手入れ P.306
内装のお手入れ P.310

サービスデータ

点検値 P.312
交換油脂類 P.312
車両仕様 P.315
イベントデータレコーダ（EDR） P.316
車両状態記録機能 P.317

点検整備について

道路運送車両法により、定期点検と日常点検が義務付けられています。正しい点検整備を行いお車を安全にお使いください。

点検整備の詳細については、別冊のメンテナンスノートをお読みください。

点検整備の種類

- 点検・整備および保証の内容は、別冊のメンテナンスノートに詳しく記載されていますので、必ずお読みください。
- **日常点検**
  走行距離や使用時の状態から判断し、適切な時期にお客さまご自身で行う点検です。
  いつもと違うことに気がついたら日産販売会社で点検を受けてください。（音、振動、におい、水漏れ、油漏れなど）
- **定期点検**
  1 年ごとに実施する点検です。12か月点検および24 か月点検があります。
- **その他の点検**
  新車時の無料点検や、厳しい使われかたをしたときに必要な点検があります。

車検、点検整備のとき

- 車検、点検整備については、日産販売会社にご相談ください。

工具★・ジャッキ★について

ジャッキアップをする場合は、この車両専用のジャッキを準備してください。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。

車両の仕様変更または装備変更により、本書の内容が実車と一致しない場合がありますのであらかじめご了承ください。

工具、タイヤ応急修理キットの格納場所

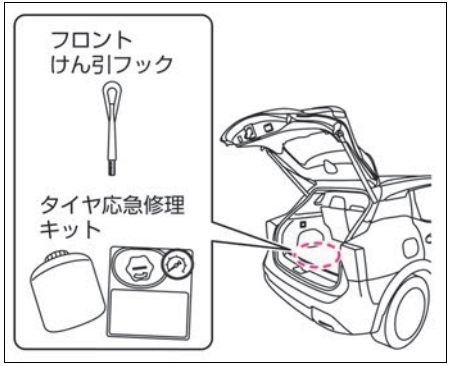
⚠ 注意

- **工具を使ったあとは、元の場所に収納する。**

  車室内に放置すると思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 停止表示板（停止表示灯）、輪止めは標準で搭載されておりませんので必要に応じて準備してください。
- 工具の種類や発炎筒（➔P.249）などは、万一のときに困らないようにあらかじめ位置を確認しておいてください。
- 工具・タイヤ応急修理キットは、ラゲッジルーム内のラゲッジボードの下に格納されています。

➔ 応急修理する前に（P.253）
➔ タイヤ応急修理キットについて（P.253）



ジャッキ、ハンドル兼ホイールナットレンチ、ハンドルレバーの取り出しかた（ディーラーオプション）

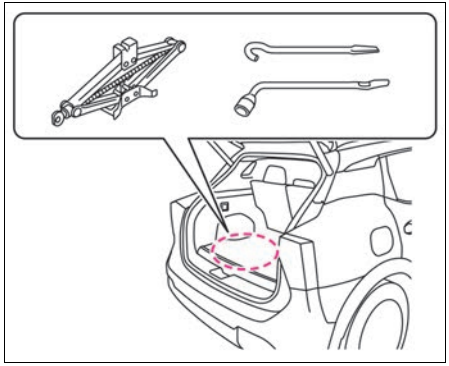
⚠ 注意

- **ジャッキを取り出すときは、手をぶつけないように注意する。**

  金属部などに手をぶつけると、ケガをするおそれがあります。

- **ジャッキはタイヤ交換またはタイヤチェーンの脱着以外には使用しない。**

- この車両には、ジャッキ、ハンドル兼ホイールナットレンチ、ハンドルレバーが標準で搭載されていません。ジャッキアップをする場合は、この車両専用のジャッキを準備してください。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。
- ジャッキ、ハンドル兼ホイールナットレンチ、ハンドルレバーはラゲッジボードを持ち上げて取り出します。



アドバイス

- ジャッキとフロアカバーが内装部品にぶつからないようにしてください。傷がつくおそれがあります。
- ジャッキを格納場所の下に落とさないようにしてください。周辺部品を壊してしまうおそれがあります。ジャッキを誤って落としたときは、日産販売会社で点検を受けてください。

ジャッキの使いかた

⚠ 警告

- **ジャッキアップしたときは絶対に車両の下に入らない。**

  ジャッキが外れると、重大な傷害につながるおそれがあり非常に危険です。

⚠ 注意

- **工具、ジャッキを使ったあとは、元の場所に収納する。**

  車室内に放置すると思わぬ事故につながるおそれがあります。

- **ハンドル兼ホイールナットレンチを回すときは、ハンドルレバーをしっかり握って回す。**

  ハンドルレバーが回転中に外れると、思わぬケガをするおそれがあります。

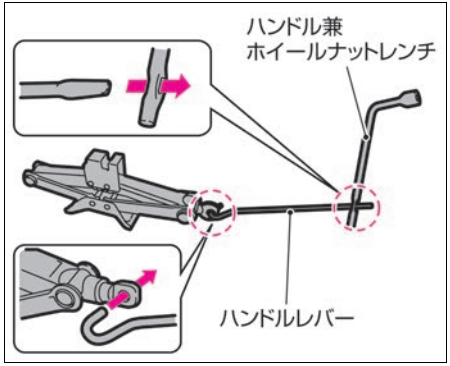
- **ハンドルレバーは、確実にハンドル兼ホイールナットレンチの穴に差し込む。**

  ハンドルレバーが確実に差し込まれていないと、外れて思わぬケガをするおそれがあります。

- **ジャッキアップ中はe-POWERシステムを始動しない。**

  車が発進し、重大な傷害につながるおそれがあります。

- ジャッキにハンドルレバーとハンドル兼ホイールナットレンチをセットします。
- ジャッキを使って車両を持ち上げるときは、正しい位置にジャッキを設置してください。

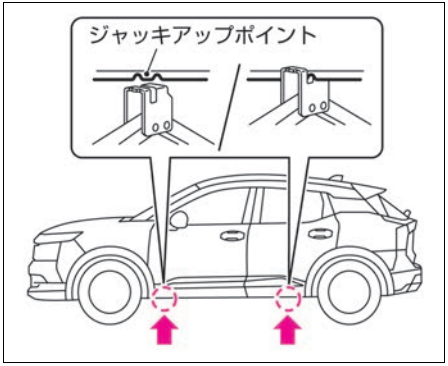


ジャッキアップポイント

⚠ 注意

- **ジャッキを使うときは、次のことを必ず守る。**
  - ジャッキは必ずこの車両専用のものを使い、他車のジャッキは使用しないでください。また、この車両専用のジャッキは他車に使用しないでください。
  - ジャッキはタイヤ交換またはタイヤチェーンの脱着以外には使用しないでください。
  - 平坦で硬いところに駐車して作業してください。
  - 使用前にパーキングブレーキをかけ、シフトポジションをPにしてください。
  - 輪止めなどで車を固定してください。
  - ジャッキの上下に台やブロックなどを入れないでください。
  - 人や荷物は必ず車から降ろしてください。

- 矢印の位置がジャッキアップポイントです。



アドバイス

- ジャッキアップポイント以外のところにはジャッキをかけないでください。車体が変形するおそれがあります。

ジャッキアップのしかた

⚠ 注意

- **柔らかい地面の上ではジャッキアップしない。**

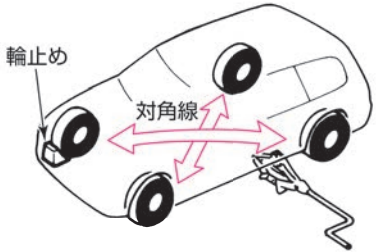
⚠ 注意

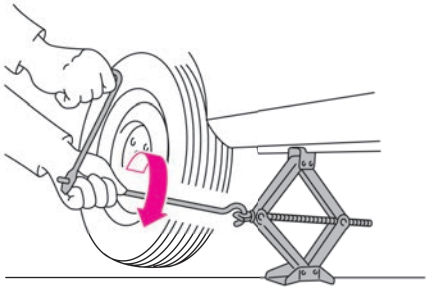
ジャッキが倒れ、事故につながるおそれがあります。

- **やむをえず傾斜地で作業するときは、ジャッキをかける位置と対角線の位置にあるタイヤの下り側に輪止めをし、車が動き出さないようにする。**

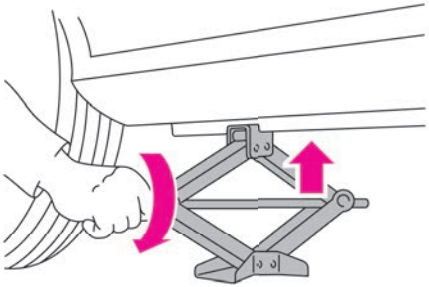
- 輪止めは標準で搭載されていませんので必要に応じて準備してください。なお、輪止めはタイヤを固定できる大きさの石、木片などで代用できます。

1. 交通の妨げにならず、安全に作業ができる地面（平坦な硬い場所）に停車し、人や荷物を車から降ろします。
   ➔ 停車・駐車のしかた（P.123）
2. ジャッキをかける位置と対角線の位置にあるタイヤに輪止めをします。
   前輪をジャッキアップするとき：後輪の後ろ側
   後輪をジャッキアップするとき：前輪の前側





3. ジャッキの上部がジャッキアップポイントに接触するまで、ジャッキを矢印の方向に手で回します。

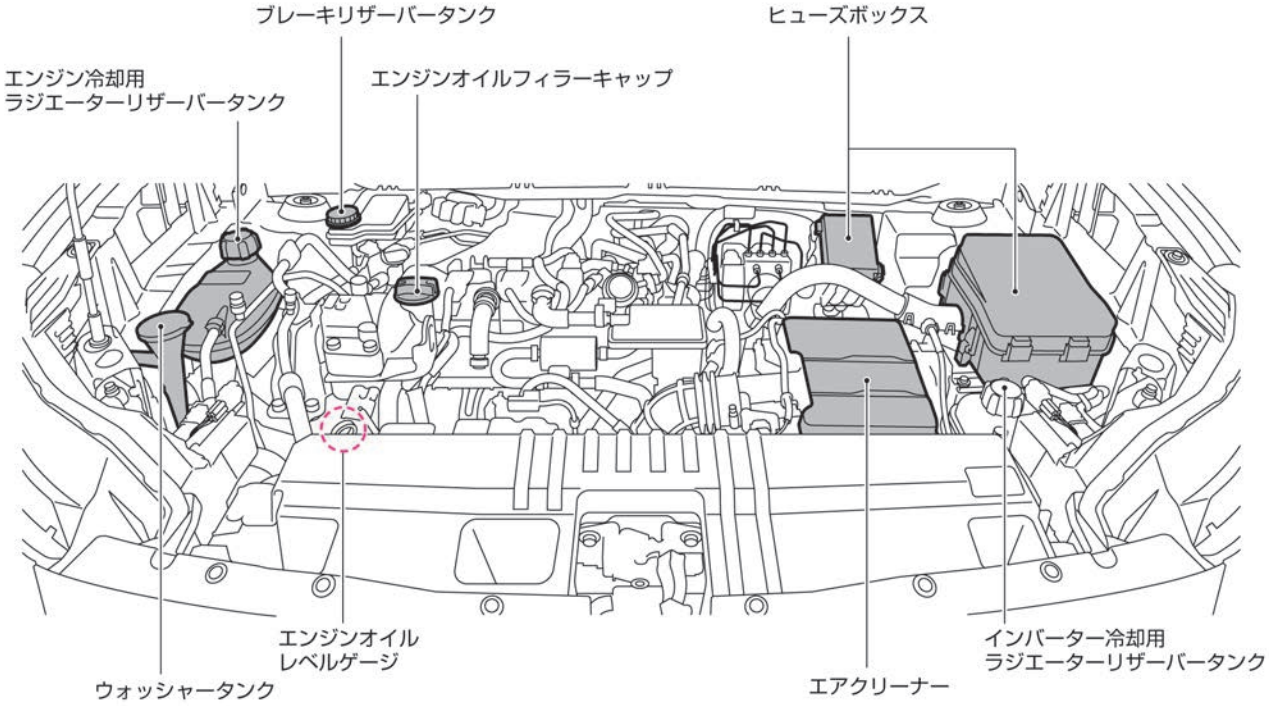


4. ハンドル兼ホイールナットレンチを回して、タイヤと地面が少し離れるまで、ジャッキアップします。

エンジンルーム

エンジンルーム内を点検するときは安全な場所に停車し、パーキングブレーキをかけた状態でボンネットを開けます。

エンジンルーム内の配置図



⚠ 警告

- **点検や整備に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れない。**

  故障や車両火災につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **エンジンルーム内の作業をするときは、＜パワースイッチ＞をOFFにする。**

  e-POWERシステム作動中に手、衣服、工具などを入れると思わぬケガをするおそれがあります。

アドバイス

- 点検整備の詳細については、別冊のメンテナンスノートをお読みください。

ボンネットの開けかた、閉めかた

⚠ 警告

- **走行前、ボンネットが確実に閉まっていることを、必ず確認する。**

  ロックされていないと、走行中にボンネットが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

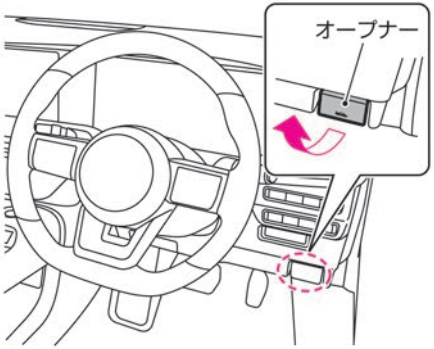
⚠ 注意

- **風が強いときは、ボンネットをしっかり持ってゆっくりと開ける。**
- **ステーを持つときは、必ず操作部を持つ。**

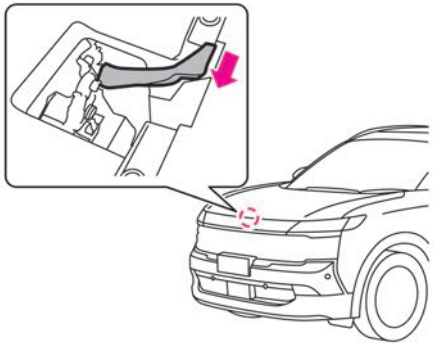
  e-POWERシステム停止直後はステーが高温になることがあるため、やけどをするおそれがあります。
- **ボンネットを開けたときは、ボンネットに頭などをぶつけないよう注意する。**
- **ラジエーターなどの高温部には触れない。**

  やけどをするおそれがあります。
- **ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意して降ろす。**

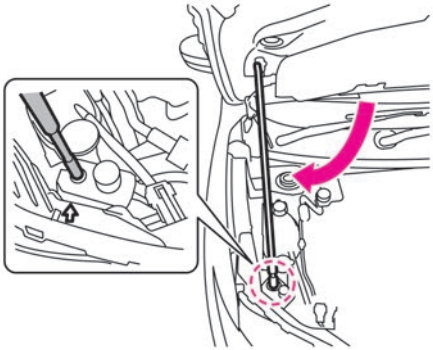
1. 運転席の右下にあるオープナーを引くと、ボンネットが少し浮き上がります。



2. ボンネット先端のすき間に手を入れ、レバーを横に押しながらボンネットを持ち上げます。



3. ボンネット裏側に付いているステーの操作部を持ってフックから外し、車体の穴（ステー差し込み位置）に確実に差し込みます。



4. 閉めるときはステーをフックに戻し、ボンネットを20cm ～ 30cm の高さまでゆっくり降ろしてから、手を離して落としてロックします。ロックできなかったときは、レバーを操作してボンネットをもう一度持ち上げてから再度落としてください。ボンネットを上から押して閉めようとしないでください。

アドバイス

- ワイパーアームを起こしたままボンネットを開けないでください。ボンネットやワイパーを損傷します。
- ボンネットを閉めるときに、ボンネットに体重をかけて強い力で押すと、ボンネットがへこむおそれがあります。

ウォッシャー液の補給

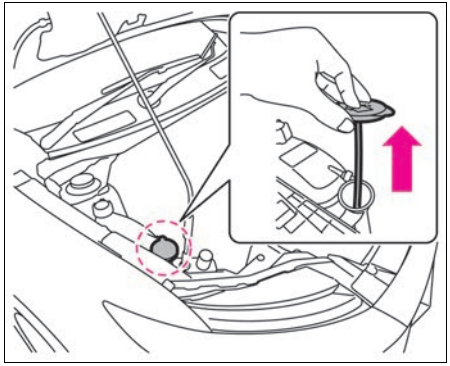
ウォッシャー液が不足しているときは、ウォッシャー液を補給してください。

補給のしかた

⚠ 注意

- **ウォッシャー液を補給するときは、液を高温部にかけない。**
  出火するおそれがあります。

- フロントワイパーとリヤワイパーのウォッシャータンクは兼用です。
- ウォッシャータンクのふたの穴を押さえて引き抜くと、スポイト式にウォッシャー液の残量が確認できます。
- ウォッシャー液の残量を確認したとき、ウォッシャー液がチューブ下端にしか入らないと、ウォッシャータンクはほぼ空の状態です。



- 日産純正ウインドウォッシャー液をおすすめします。
  ウォッシャータンク容量については、
  ➔ ウォッシャー液（P.315）をお読みください。
- 減っているときは、ウォッシャータンクのふたを開け、ウォッシャー液を補給してください。
- ウォッシャー液は、必要に応じ水で薄めてください。希釈割合はウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にします。

アドバイス

- ウォッシャー液の代わりに石けん水などを入れないでください。塗装面がしみになるおそれがあります。

寒冷時の取り扱い

寒冷時に備えて、準備や点検などを正しく行ってください。

冬の前の準備

■ 冷却水の濃度点検

- 冷却水の凍結を防ぐため、冷却水の濃度を点検してください。

冷却水の濃度	凍結温度
30%	約−15℃
50%	約−35℃

- 冷却水を補充・交換するときは、日産純正スーパーロングライフクーラント（50%希釈品）をお使いください。
  ➔ エンジン冷却水（P.314）
  ➔ インバーター冷却水（P.314）

アドバイス

- 寒冷地仕様車およびe-4ORCE（4WD）車の冷却水は工場出荷時に50%にしてあります。
- 冷却水の点検・補充・交換は日産販売会社にご相談ください。

■ 12Vバッテリーの液量、比重の点検

- 別冊のメンテナンスノート「日常点検のしかた」をお読みください。

■ 冬用タイヤ、タイヤチェーンの準備

- 冬用タイヤに交換するときは、4輪とも指定サイズで同一の銘柄、パターン（溝模様）のものに交換してください。
- タイヤチェーンは、タイヤサイズにあった日産純正品をおすすめします。

■ ウォッシャー液の濃度点検

- ウォッシャー液の凍結を防ぐため、ウォッシャー液の容器に記載してある凍結温度を参考に外気温に応じた希釈割合（濃度）にしてください。

運転する前に

⚠ 警告

- **ルーフに積もった雪は落とす。**
  窓ガラスに雪が滑り落ちると視界の妨げとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーなどが凍結したときは、無理に開けたり動かしたりせず、凍った部分にお湯をかけて氷を溶かしてください。溶けたらすぐに水分をふき取ってください。
- 寒冷時にドアミラーが正常に作動しない場合は、ドアミラー内部が凍結している可能性があります。無理に動かしたりせず、ドアミラー本体にぬるま湯をかけて凍結を溶かしてください。溶けたらすぐに水分をふき取ってください。
- ガラスに雪や霜が積もっているときは、プラスチックの板などを使って、ガラスを傷つけないように雪を取り除いてください。
- 足まわり（ブレーキ周辺、フェンダーの裏側など）が凍りついているときは、部品を破損しないように注意しながら、付着した氷塊を取り除いてください。
- 車室内に乗り込むときは、靴についた雪を取り除いてください。

アドバイス

- ドアなどの開閉部分を無理に開けないでください。ゴムがはがれたり損傷したりするおそれがあります。
- ワイパー、ドアミラー、パワーウインドーなどを無理に動かさないでください。装置が損傷するおそれがあります。
- ドアのキー穴部には、お湯をかけないでください。凍結するおそれがあります。
- ドアミラーが凍結するような寒冷時は、ドアロック連動格納機能をOFFにしてください。凍結したまま作動を繰り返すと、故障の原因となります。
- ルーフから雪を落とすときは、アンテナやカメラ類の周りに強い力をかけないようにしてください。アンテナやカメラ類が破損したり、車体がへこんだりするおそれがあります。

雪道の走行のしかた

■ 滑りやすい路面に注意

- 滑りやすい路面での急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドルなど無理な運転は危険ですのでしないでください。雪道や凍結路では速度を落とし、車間距離を取り、ゆとりある運転をしてください。
- 雪道、凍結路では早めに冬用タイヤ、タイヤチェーンなどを装着して走行してください。
  ➔ タイヤチェーンについて（P.302）
- 雪道を走行するときは、e-4ORCE（4WD）車はドライブモードセレクター（➔P.136）をSNOWに切り替えます。

■ 走行中の雪の付着に注意

- ブレーキに付着した雪が凍結し、ブレーキの効きが悪くなることがあります。ときどきブレーキの効き具合を確認してください。効きが悪いときは、前後の車との距離を十分とり、低速走行で効きが回復するまでブレーキペダルを軽く踏んでください。
- フェンダーの裏側に付いた雪が積もり、ハンドルの切れが悪くなることがあります。ときどき確認して雪を取り除いてください。

■ 駐車するときの注意

- シフトポジションをPにし、パーキングブレーキをかけずに輪止めをしてください。パーキングブレーキをかけると、ブレーキが凍結して解除できなくなるおそれがあります。

- 軒下や樹木の下には駐車しないでください。落雪で車が損傷するおそれがあります。
- 雪が降りそうなときや降雪時にはワイパーアームを起こしておいてください。ブレードと窓ガラスが凍結し、破損するおそれがあります。

タイヤ

タイヤが摩耗・損傷していたり、適正な空気圧でないと、安全な走行ができず乗り心地も損なわれます。

日常的に点検を行ってください。

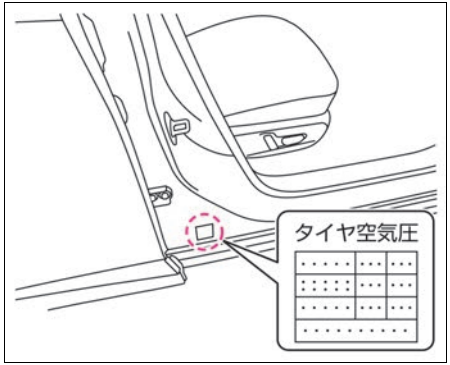
タイヤの点検項目

安全な走行のため、タイヤの点検は次の項目を点検してください。

詳細は別冊のメンテナンスノートをお読みください。

タイヤ空気圧

- すべてのタイヤの空気圧を点検してください。
- タイヤの指定空気圧は運転席ドアの開口部に表示してあります。



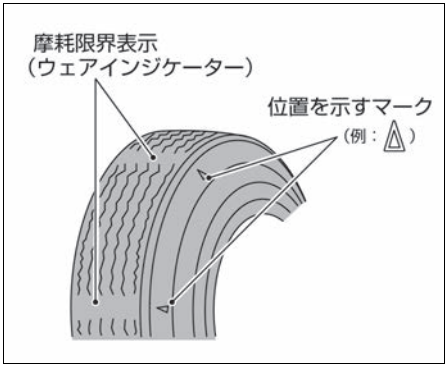
- タイヤの空気は自然に少しずつ低下します。月に一度はタイヤエアゲージを使用して点検してください。
- タイヤ空気圧の点検は、走行前のタイヤが冷えているときに点検・調整してください。
- タイヤ側面の厚みが薄いタイヤは、空気圧が減っていることを目視で確認することが困難なため、必ずタイヤエアゲージを使用して点検してください。
- 走行直後はタイヤ空気圧が約1割上がることがあります。

タイヤの亀裂・損傷の有無

- タイヤの接地面や側面に著しい亀裂や損傷および針などの異物が刺さっていないか点検してください。

タイヤの溝の深さ、異常な摩耗

- タイヤの溝の深さが十分であるか、ウェアインジケーター（摩耗限界表示）が表れていないか点検してください。
- タイヤが摩耗して接地面とウェアインジケーター（摩耗限界表示）が同じ高さになったらタイヤを交換してください。



タイヤ・ロードホイールを交換するときは

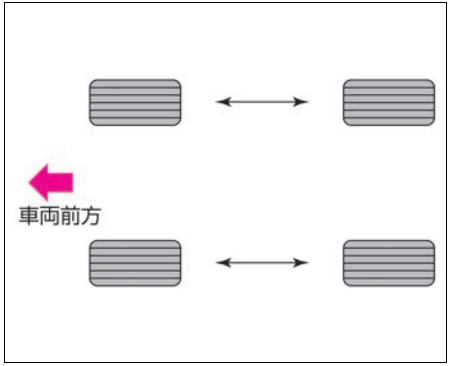
- タイヤ交換をするときは、日産販売会社にご相談ください。
- タイヤを交換するときは、4輪とも同時期に行い、必ず指定サイズで同一の銘柄、パターン（溝模様）のタイヤを取り付けてください。
- タイヤサイズは運転席ドア開口部のタイヤ空気圧表示を参照してください。
- ロードホイールを交換するときは、必ず指定サイズで同一種類のロードホイールを取り付けてください。
  ロードホイールのサイズは巻末のサービスデータに記載してあります。

アドバイス

- ロードホイールは、リムサイズやインセットが同じでも、他の車のものは使えない場合があります。お手持ちのものをご使用になるときは、日産販売会社にご相談ください。
- アルミホイールには荷重制限があるため、交換するときは日産販売会社にご相談ください。
- タイヤやロードホイールを交換したときは、ホイールバランスを確実に取ってください。
- バルブキャップは日産純正品を使用してください。日産純正品以外のバルブキャップを使用すると腐食して固着し、外れなくなる場合があります。
- バルブキャップは工具などを使用して締め付けると、破損するおそれがあります。
- ホイールナットの締め付けトルクは、108N・m（11kg・m）です。

タイヤローテーションのしかた

左右それぞれで、前後タイヤの交換を行ってください。タイヤの偏摩耗を防ぎ、寿命を延ばすために、約5,000kmごとにタイヤのローテーション（位置交換）を行うことをおすすめします。



アドバイス

- タイヤの位置交換と同時に空気圧も点検してください。
- タイヤの位置交換については、日産販売会社にご相談ください。

タイヤに関する注意事項

警告

- **タイヤの空気圧が不足したまま走行しない。**

  気温や高度の変化により、タイヤの空気圧は変化します。タイヤの空気圧が不足したまま走行すると、バースト（破裂）するなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

- **5～7年を目安に必ず点検する。**

  タイヤはゴム製品のため、徐々に劣化します。引き続き使用する場合は安全走行を確保するため、必ず点検を受けてください。点検については日産販売会社へご相談ください。

- **指定サイズ以外のタイヤ・ロードホイールは絶対に取り付けない。**

  不適合なタイヤ・ロードホイールを取り付けると、安全性が損なわれ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- **タイヤを交換するときは、4輪とも同時期に行い、必ず指定サイズで同一の銘柄、パターン（溝模様）のタイヤを取り付ける。**

  特にe-4ORCE（4WD）車は、径が異なるタイヤを装着すると車の機構に無理がかかり、重大な故障につながります。また、VDCシステムが正常に作動しないことがあります。次のようなタイヤの装着はしないでください。回転差を吸収する機構に無理がかかり、過熱し火災につながるおそれがあります。

  — 摩耗差の大きいタイヤの装着

  — 前輪または後輪だけに冬用タイヤを装着

  — サイズや種類の異なるタイヤを個々に装着

- **著しく摩耗差のあるタイヤや空気圧が規定値と著しく異なるタイヤを装着しない。**

⚠ 注意

車の性能が十分に発揮できなくなり、安全性を損なったり故障の原因になります。

冬用タイヤ・タイヤチェーン

雪道や凍結した道路を走行するときは、冬用タイヤやタイヤチェーンを装着してください。

冬用タイヤについて

⚠ 注意

- **タイヤチェーンを不適正に装着したり、タイヤサイズに合わないものを使用しない。**

  ブレーキ配管やフェンダーなどを破損するおそれがあります。

- 冬用タイヤを装着するときは、4輪とも指定サイズで同一の銘柄、パターン（溝模様）のものに交換してください。

タイヤチェーンについて

タイヤチェーンを装着するときは、次のことを守ってください。

- タイヤチェーンを装着するときは、安全に作業できる平坦な場所に停車し、<パワースイッチ>をOFFにして作業してください。
- タイヤチェーンは必ず前2輪に装着してください。e-4ORCE（4WD）車も前2輪に装着してください。
- タイヤサイズに適合したチェーンを装着してください。
- タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従って装着してください。
- タイヤチェーンに付属の取扱説明書で指定された速度で走行してください。
- お客さまのタイヤサイズに合ったタイヤチェーンでも使用できない場合があります。
- タイヤチェーンはお客さまの車に適合した日産純正品をおすすめします。
- 適合するタイヤチェーンについては日産販売会社にご相談ください。

アドバイス

- タイヤチェーンを装着すると、アルミホイールに傷をつけるおそれがあります。
- 雪のない舗装路ではチェーンを装着したまま走行しないでください。チェーンの摩耗を早め、寿命が短くなります。また、e-4ORCE（4WD）車は車の性能が十分に発揮できなくなる場合があります。
- タイヤチェーンを装着しているときは、突起しているところや穴の上を走行しないでください。また、急ハンドルやタイヤがロックするようなブレーキ操作をしないでください。

ワイパー

ワイパーゴムが傷んでいると、きれいにふき取れなかったり、窓ガラスを傷つけたりします。定期的に点検し、傷んでいるときは次の手順に従って交換してください。

ワイパーブレードの交換のしかた

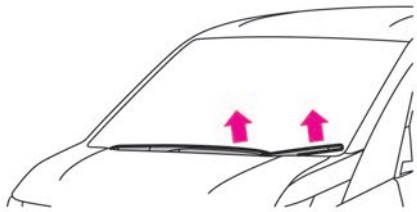
⚠ 注意

- **交換するときは、ワイパーアームおよびワイパーブレードがガラスに当たらないよう注意する。**

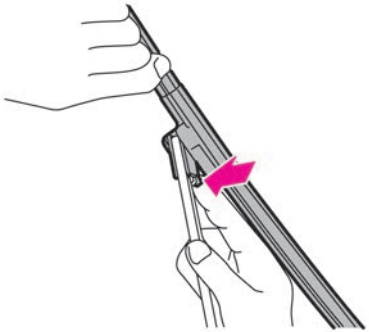
  ガラスに当たるとガラスが破損するおそれがあります。

- リヤワイパーブレードの点検、交換が必要なときは、日産販売会社にご相談ください。

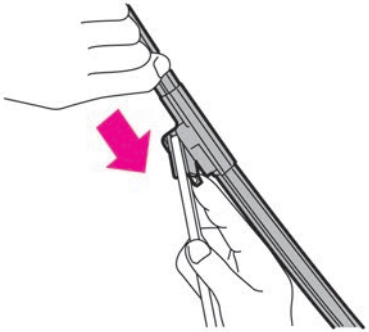
1. ワイパーアームを起こし、ワイパーブレードを少し傾けます。



2. ワイパーブレードのツメを押したままにします。



3. ワイパーブレードを矢印の方向に動かして取り外します。



4. 新しいワイパーブレードを取り付けます。取り付けは取り外したときと逆の手順で行い、ワイパーブレードが確実に固定されていることを確認します。

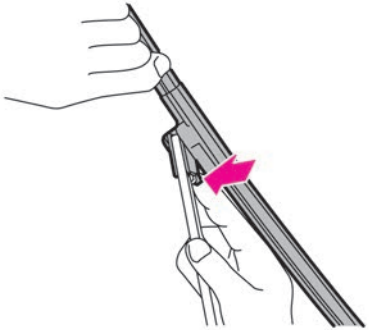
アドバイス

- ワイパーブレードに大きな力を加えて変形させないでください。ふき取りにくくなったり、破損するおそれがあります。

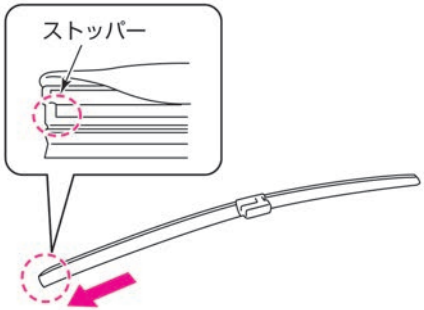
ワイパーゴムの交換のしかた

- ワイパーゴムに石けん水を塗ると脱着しやすくなります。

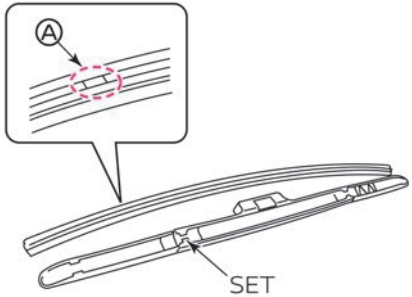
1. ワイパーアームからワイパーブレードを取り外します。



2. ワイパーゴムを矢印方向にスライドし、取り外します。



3. 取り付けるときは、取り外したときと逆の手順で行います。
ワイパーゴムのストッパーがない方からブレードに沿って差し込みます。
ワイパーゴムのⒶ部をワイパーブレードの「SET」の位置で確実に押し込み、固定します。



インテリジェントキーの電池交換

キーのスイッチを押しても作動しないときは、電池の消耗が考えられます。
次の手順に沿って、電池を交換してください。

電池交換のしかた

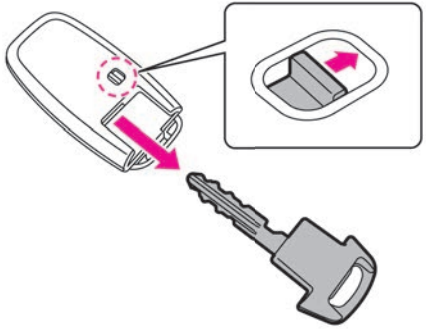
⚠ 警告

- **電池および取り外した部品は、お子さまが飲み込まないように注意する。**
  インテリジェントキーには、ボタン電池が使用されています。誤って電池を飲み込むと、わずか 2 時間で重度の化学熱傷を引き起こし、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。新しい電池および取り外した電池は、お子さまの手の届かない場所に保管してください。
- **電池を飲み込んだり、体内に入れてしまった場合は、ただちに医師の診察を受ける。**

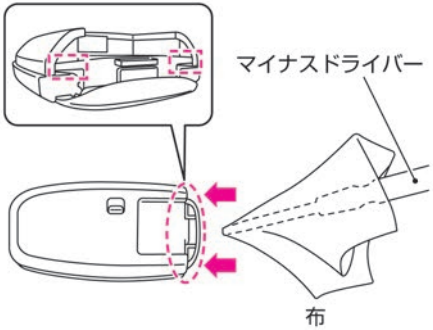
⚠ 注意

- **カバーがしっかりと閉まらない場合は、インテリジェントキーの使用を中止する。**
  インテリジェントキーをお子さまの手の届かない場所に保管し、すみやかに日産販売会社にご連絡ください。

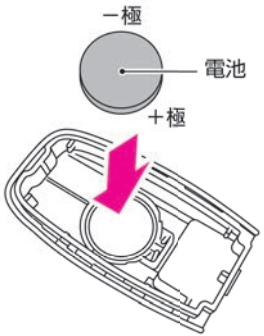
1. キー裏側のロックを外しながら、内蔵キー（メカニカルキー）を引き抜きます。



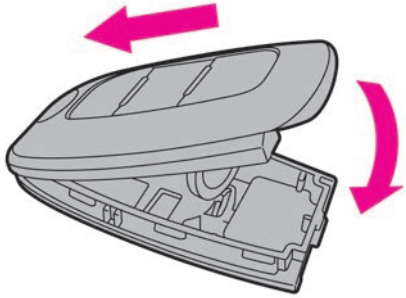
2. 左右のすき間にマイナスドライバーを差し込み、ひねってカバーを取り外します。（カバーが傷つかないように、マイナスドライバーに布を巻いてください）



3. 消耗した電池を取り外し、新しい電池をはめ込みます。（新しい電池は、+極を下にして取り付けてください）
   使用電池：CR2032



4. カバーの先端を合わせて上下のカバーを組み付けます。確実に取り付けられたことを確認してください。



アドバイス

- 電池交換の際、キーを破損するおそれがあります。日産販売会社での交換をおすすめします。

アドバイス

- 内部回路、電子端子などに触れないでください。故障の原因となります。
- 電池交換の際は、必ず同じタイプの電池と交換してください。
- 電池交換後は、キーシステムの各機能が正常に作動するか必ず確認してください。正常に作動しないときは故障が考えられますので、日産販売会社にご相談ください。

12Vバッテリー

12Vバッテリーのメンテナンスについては、メンテナンスノートをお読みください。
詳しくは日産販売会社にご相談ください。

12Vバッテリーに関する注意事項

警告

- **12Vバッテリーを充電するときは換気を十分に行い、火気は近づけない。**

  12Vバッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあります。
- **バッテリー液が付着したときは、すぐに多量の水で洗浄し、飲み込んだときは多量の水を飲んで応急処置をしたあと、医師の診断を受ける。**

  バッテリー液は希硫酸です。目や皮膚に付着すると、失明や炎症など重大な傷害につながるおそれがあります。

注意

- **12Vバッテリーの⊕側ターミナルが周辺の金属と接触しないようにする。**

  接触するとショートして火災の原因となるおそれがあります。また、12Vバッテリーの端子の締め付けが緩いと、配線などが過熱、焼損し、火災につながるおそれがあります。
- **12Vバッテリーを交換するときは、必ず同じサイズ（型式）に交換し、動かないようにしっかりと固定する。**

  しっかり固定できていないと、ショートなどの原因となり火災につながるおそれがあります。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。

エンジンオイル

エンジンオイルの交換時期は別冊のメンテナンスノートをお読みください。
また、指定のエンジンオイルについては、➔ エンジンオイル (P.312)をお読みください。

エンジンオイルに関する注意事項

注意

- **オイルの点検後は、オイルレベルゲージを確実に差し込む。**

  オイルレベルゲージが根元まで差し込まれていないと、オイルが噴き出し火災の原因になるおそれがあります。
- **エンジンオイルフィラーキャップは確実に閉める。**

  走行時にキャップが外れてエンジンオイルが噴き出すと、火災の原因になるおそれがあります。

アドバイス

- 適切にオイル交換が行われないと、エンジンの破損や火災など、思わぬ事故につながるおそれがあります。

外装のお手入れ

塗装面の変色やサビなどを防止するために、適切なお手入れが大切です。

洗車のしかた

- 塗装面に付着した汚れをそのままにすると、変色やサビの原因となります。次のような場合は、すぐに洗車してください。
  - ばい煙、虫の死がいや鳥の糞、樹液、鉄粉、コールタールなどが付着したとき
  - 海岸地区、凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
  - ほこり、汚れがひどいとき

■ 水洗いするときは

- 水をかけながら下回りの汚れを洗い流します。
- 水をかけながら塗装面の高い位置から低い位置の順にセーム皮や柔らかいスポンジなどで汚れを落とします。汚れがひどいときは、ボディーシャンプーなどを使い、その後十分に水で洗い流します。
- はん点が残らないように水をふき取ります。

洗車時の注意

⚠ 注意

- **下回りを洗うときは、ケガをしないように注意する。**
- **エンジンルームを水で洗ったり、洗剤やワックスなどを直接スプレーしたりしない。**

エンジンの始動不良や不調などの原因になるおそれがあります。また、電装品などに水がかかると、故障したり電気部品のショートにより車両火災につながるおそれがあり危険です。

水や洗剤、ワックスなどの製品、もしくはその他シリコンを含む製品を使用する場合は、布に塗布してからエンジンルームをふいてください。

アドバイス

- ケミカル用品などは用途により使い分けが必要です。用途にあった物をお使いください。
- ベンジン、シンナーなどの有機溶剤や酸、アルカリ性の溶液を使用しないでください。変色やしみの原因となります。
- 硬いブラシや、たわしなどは使用しないでください。塗装面を傷つけるおそれがあります。
- 寒冷時に洗車をするときは、ブレーキに直接水がかからないように注意してください。ブレーキ装置に水が入ると凍結し、走行できなくなるおそれがあります。
- 洗車をするときに、車体に体重をかけるなどして、強い力で押したときに、場所によっては車体がへこむおそれがあります。

洗車機を使うときは

- ドアミラーを格納してください。
  ➔ ドアミラーの格納のしかた (P.92)
- 燃料補給口のリッドを完全に閉めた後、ドア（リッド）を施錠してください。施錠せずに洗車すると、意図せずリッドが開いて車体およびリッドを損傷するおそれがあります。
  ➔ 燃料補給口の開閉 (P.98)
- 高圧洗浄機を使用するときは、高圧ノズルと車体の距離を十分離して洗車してください。高圧ノズルを近づけすぎると、モールなど樹脂部分やシール材などが変形、損傷したり、塗装の劣化を早めたりすることがあります。

アドバイス

- 自動洗車機で洗車すると、ブラシの傷がつき、塗装の光沢が失われたり劣化を早めたりすることがあります。
- ドアガラスのまわりに高圧ノズルを近づけないでください。車室内に水が漏れるおそれがあります。
- 自動洗車機で洗車すると、リヤワイパーを破損するおそれがあります。
- 洗車機の種類によってはスポイラーが引っ掛かり、洗車できないことがあります。
- アンダーカバーを外した状態で高圧洗浄機を使用しないでください。電気部品の故障などの原因になるおそれがあります。

アドバイス

- 高圧洗浄機を使用するときは、シャークフィンアンテナのまわりに高圧ノズルを近づけないでください。シール部が変形、破損するおそれがあります。

ワックスをかけるときは

- ワックスがけは1か月に1回程度、または水はじきが悪くなったときに行ってください。かけかたは普通塗装車、メタリックおよびパール塗装車とも同じです。

ワックスのかけかた

① 塗装面の汚れを洗車などで取り除きます。

② 塗装面が冷えているとき（体温以下が目安）にワックスをかけます。かけかたはワックス容器に記載してある説明に従ってください。

ワックスの選びかた

- コンパウンド（研磨剤）の入っていない、塗装に適したワックスをご使用ください。日産純正カーワックスをおすすめします。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。

アドバイス

- 塗装されていないバンパー、スポイラーなどの樹脂部品には、ワックスを使用しないでください。ムラになることがあります。
- コンパウンド（研磨剤）の入ったワックスを使うと、塗装面の光沢や水をはじく特性が失われることがあります。
- カメラのレンズ部にワックスを付けないでください。ワックスが付いた場合は、中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませ、ふき取ってください。

アルミホイールのお手入れ

- 中性洗剤を含ませたスポンジなどを使い、汚れを落としてください。日産純正クリーナーをおすすめします。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。

アドバイス

- 変色やしみの原因になったり、傷をつけたりするおそれがあるため、次のことをお守りください。
  - 強酸性、強アルカリ性の洗剤は使用しない
  - 洗剤はホイールの表面が冷えているときに使用する（体温以下が目安）
  - 洗剤を使用したあとは、早めに十分洗い流す
  - 硬いブラシやコンパウンド（研磨剤）の入った洗剤などは使用しない

軽い補修のしかた

- フロントバンパー、リヤバンパーのレーダーセンサー周辺以外は、塗装面の小さい傷はタッチアップペイントを使い、早めに傷部を補修してください。
  サビの発生を防ぎ、塗装面を長持ちさせます。
- フロントバンパー、リヤバンパーのレーダーセンサー周辺はタッチアップペイント含め塗装修理はできません。塗装する場合は日産販売会社にご相談ください。

➔ レーダーセンサーの取り扱い (P.308)

レーダーセンサー／カメラ類の取り扱い注意

⚠ 警告

- **センサー、カメラ部に強い衝撃を与えない。**
  精密機器のため高圧洗車など、強い衝撃を与えないでください。故障、火災、または感電のおそれがあります。
- **レーダーセンサーの技適認証について**
  以下の装置は日本の電波法（電波法）に基づいて認可されています。本製品の改造は禁止されています。（適合証明番号などが無効となります。）

⚠ 警告

フロントレーダー

サイドレーダー

⚠ 注意

- **フロントグリル、フロントバンパー、リヤバンパーのレーダーセンサー周辺に誤った塗装修理を行うと、本来の機能を発揮できなくなる可能性があります。**

  適切な修理を行うため、日産販売会社にご相談ください。

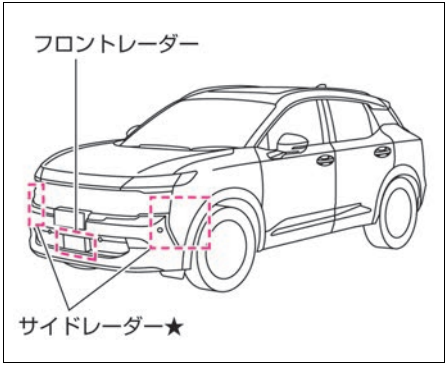
アドバイス

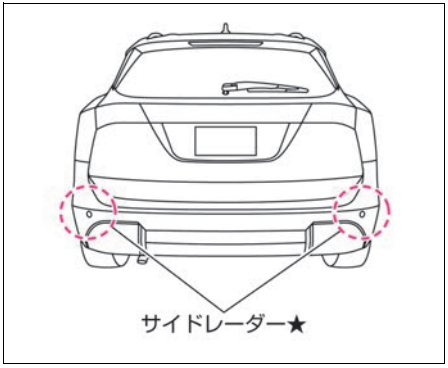
- カメラレンズ部に泥、雨滴、雪などが付着すると、モニター画像の映りが悪くなりますので、濡れた柔らかい布で汚れをふき取ったあと、乾いた柔らかい布でふき取ってください。
- カメラ部には傷をつけないでください。映像へ影響が出ることがあります。
- カメラレンズをアルコール、ベンジン、シンナーなどでふかないでください。変色などの原因になります。

レーダーセンサーの取り扱い

システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。

- 以下の状態の場合レーダーセンサーの性能が発揮できない可能性があります。取り付けた部品の除去、洗車、修理、もしくはバンパー交換を推奨します。
  - レーダーセンサー周辺へのステッカー貼り付け、後付け部品の取り付け
  - お客さまの手による補修
  - レーダーセンサー周辺の傷つき、鳥糞、虫、泥、雪などの付着
  - 衝突などでレーダーセンサー周辺を破損したとき
- フロントバンパー、リヤバンパーを改造、脱着したり、塗装したりしないでください。塗装する場合は日産販売会社にご相談ください。

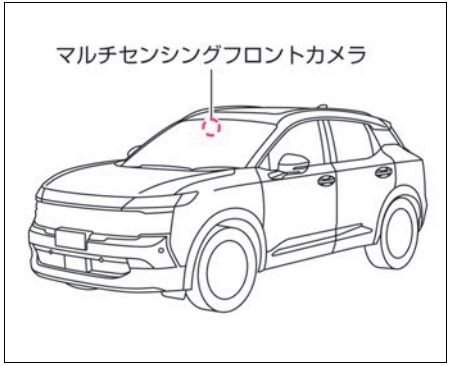




マルチセンシングフロントカメラの取り扱い

システムを正しく作動させるため、次のことをお守りください。

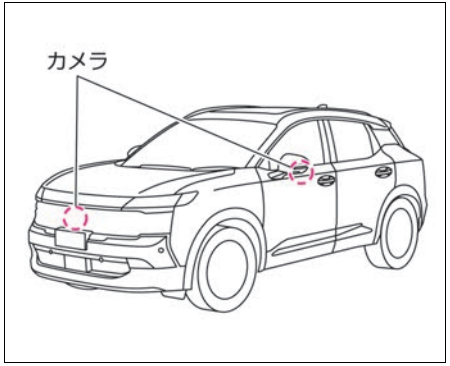
- カメラ前方のフロントガラスはいつもきれいにしておいてください。
  中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませてふき取ります。さらに乾いた柔らかい布でふき取ります。
- カメラ前方のフロントガラスにステッカー（透明なものを含む）を貼らないでください。
- インストルメントパネル上に鏡や白い紙などの光を反射しやすいものを置かないでください。太陽光が反射し、カメラの検知性能に影響が出るおそれがあります。
- カメラを取り外さないでください。故障、誤作動の原因になります。事故などでカメラ周辺部が変形した場合は、日産販売会社にご相談ください。
- フロントガラスが汚れていたり、マルチセンシングフロントカメラの前が障害物でふさがれていたり、カメラが前方を撮像できないとき、アドバンスドドライブアシストディスプレイにヘッドランプ警告の警告メッセージ（➔P.272）が表示されることがあります。カメラの前の障害物を取り除き、汚れを清掃してください。



フロントビューカメラ★／サイドビューカメラ★の取り扱い

システムを正しく作動させるために、次のことをお守りください。

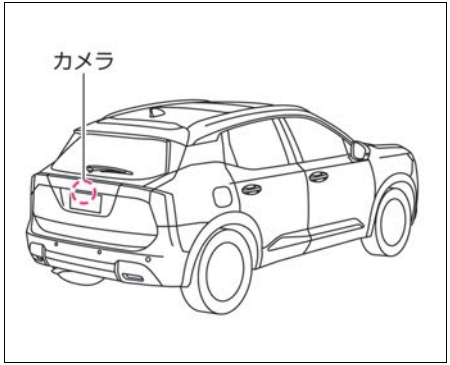
- カメラ周辺部はいつもきれいにしておいてください。
  アルコール、ベンジン、シンナーなどを使用してカメラを清掃しないでください。変色する原因となります。中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませてふき取ったあと、乾いた柔らかい布でふいてください。
- 衝突などでカメラ周辺を破損したときは、日産販売会社で点検を受けてください。



リヤビューカメラ★の取り扱い

システムを正しく作動させるために、次のことをお守りください。

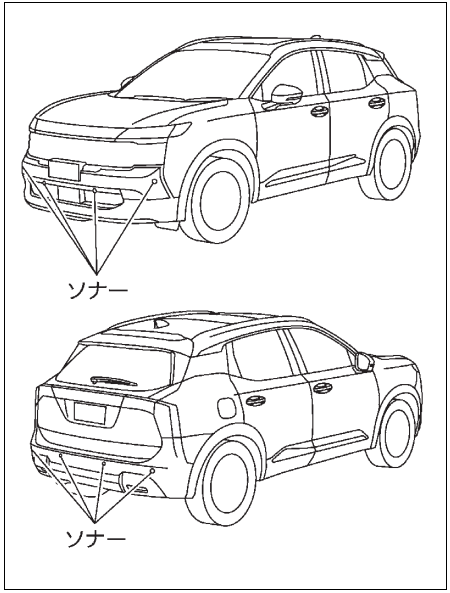
- カメラ周辺部はいつもきれいにしておいてください。
  アルコール、ベンジン、シンナーなどを使用してカメラを清掃しないでください。変色する原因となります。中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませてふき取ったあと、乾いた柔らかい布でふいてください。
- 光が反射するため、ナンバープレートにアクセサリーを取り付けないでください。
- 衝突などでカメラ周辺を破損したときは、日産販売会社で点検を受けてください。



ソナーの取り扱い

システムを正しく作動させるために、次のことをお守りください。

- ソナーはいつもきれいにしておいてください。
  汚れているときは、柔らかい布で傷つけないように注意してふき取ってください。
- ソナーまたはその周辺に強い衝撃を与えないでください。またソナーの取り外し、分解などをしないでください。故障、誤作動の原因になります。事故などでソナーの取り付け部が変形した場合は、日産販売会社にご相談ください。
- ソナーまたはその周辺にステッカー（透明なものを含む）を貼ったり、アクセサリーなどを取り付けないでください。故障、誤作動の原因になります。



内装のお手入れ

内装のお手入れについて

アドバイス

- 車室内に水をかけないでください。オーディオ★やスイッチ類、フロア下の配線や電気部品などに水がかかると故障するおそれがあります。
- ベンジン、シンナーなどの有機溶剤や酸、アルカリ性の溶剤を使用しないでください。変色やしみ、ひび割れ、塗装はがれなどの原因となるおそれがあります。また、各種クリーナー類には、これらの成分が含まれているおそれがあるため、確認してからご使用ください。
- オーディオ★やスイッチ類などの電装品、ブレーキペダル周りにシリコーン（シリコン）を含むケミカル用品（スプレー、グリース、オイルなど）を使用しないでください。電装品の故障につながるおそれがあります。
- 消臭剤・芳香剤、化粧品・日焼け止めなどは、容器からこぼしたりしないでください。また、吊り下げタイプの消臭剤・芳香剤などは、内装部品に接触しないようにしてください。含まれる成分によっては、内装部品に付着すると変色やしみ、ひび割れ、塗装はがれなどの原因となるおそれがあるため、付着した場合は、すみやかに柔らかい布でふき取ってください。

アドバイス

- 塩素系（二酸化塩素や次亜塩素酸）の洗浄液を使用しないでください。塗装はがれやサビなどの原因となるおそれがあります。やむをえず洗浄（除菌）する場合は、エタノール75%以下をご使用ください。エタノールを乾いた布に含ませ、内装部品をふいてください。エタノールがなくなるまでふき取ってください。ふき残しがあると塗装はがれや色落ちなどの原因となるおそれがあります。エタノールは、引火性ですので、火気に注意してください。
- 内装部品を固いもので擦ったり引っかいたりしないでください。傷がつき、破損するおそれがあります。

カーペットの汚れ取り

- 電気掃除機でほこりを取り除き、日産純正ルームクリーナーなどで汚れを落としてください。フロアカーペットを取り外したときは、敷き直すときにフロアカーペットがずれないように固定クリップで正しく確実に固定してください。
➔ フロアカーペット (P.244)

布、合成皮革の汚れ取り

- 中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませ、軽くふき取ります。さらに水に浸した布を固くしぼってふき取ります。汚れがひどいときは、日産純正ルームクリーナーなどで汚れを落としてください。

メーター表面やその他光沢のあるプラスチック部品の汚れ取り

- 塵、ほこりを取り除き、柔らかい布を真水に浸して、固くしぼってから軽くふき取ります。
硬いブラシや布、ティッシュでこすると、傷がつくことがあります。

アドバイス

- 乾いた布やウェットティッシュなどを使用しないでください。傷がついたり、変色したりする原因になります。
- ワックスやコーティング剤、油などが付着した布ではふかないでください。変色の原因になります。

ガラスの汚れ取り

- バックドアガラスの内側を清掃するときは、熱線を切らないように水を含ませた柔らかい布で熱線にそって軽くふいてください。
- ガラスクリーナー、洗剤などは使用しないでください。
- ガラスの内側を清掃するときは、アンテナ線を切らないように、水を含ませた柔らかい布で軽くふいてください。

インテリジェント ルームミラー★のお手入れ

- ミラーやカメラ部は常にきれいな状態にしておいてください。汚れなどが付いていると見えにくくなるおそれがあります。
- ミラーやカメラ部を清掃するときは、乾いた柔らかい布などでそっとふいてください。
- 清掃するときはアルコール、ベンジン、シンナーなどの薬品でミラーやカメラ部をふかないでください。変色、劣化、故障の原因となります。汚れがひどいときは、まず濡れた柔らかい布でふいてから乾いた柔らかい布でふいてください。
- カメラ前面のバックドアガラスはいつもきれいにしておいてください。中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませてふき取ります。さらに乾いた布でふき取ります。油膜が付いているときは、油膜取りを使用して清掃してください。
- カメラ前面のバックドアガラスにステッカー（透明なものを含む）を貼らないでください。

サービスデータ

点検値

項目		点検値
ブレーキペダル※	床板とのすき間 エンジン回転中、約490N（50kg）で踏んだとき	115mm以上

※：ブレーキが正常に作動しないときは、必ず日産販売会社で点検を受けてください。また、ブレーキペダルの高さの調節が必要なときも、日産販売会社にご相談ください。

交換油脂類

お車の性能を適正に保つため、弊社指定銘柄のご使用をおすすめします。指定銘柄以外をお使いになる場合、指定銘柄に相当する品 質のものをお使いください。記載の規定量は目安です。実際の量とは異なることがあります。交換時期については別冊のメンテナンスノートをお読みください。

エンジンオイル

適用		規定量（ℓ）	指定銘柄
HR14DDe	オイルのみ交換	3.0	日産純正SPストロングセーブ・X 0W-16 （API：SP、SAE：0W-16）
	オイルとオイルフィルター交換	3.2	

■ **指定銘柄以外のエンジンオイルについて**

指定銘柄以外をお使いになる場合は、下記に適合したエンジンオイルをお使いください。
グレード：API規格SPをお使いください。ILSACマークのついたものをおすすめします。

APIマーク

ILSACマーク

粘度：SAE規格0W-16をご使用ください。

エンジン冷却水

適用	規定量（ℓ）	指定銘柄
全車	6.87※1	日産純正スーパーロングライフクーラント※2、※3

※1：リザーバータンクの容量を含みます。

※2：走行用モーターやインバーターなどが破損するおそれがあるため、市販されている水漏れ防止剤などの添加剤は冷却水に添加しないでください。冷却水には、日産純正スーパーロングライフクーラントを必ずご使用ください。

※3：日産純正スーパーロングライフクーラントと日産純正ウインドウォッシャー液の色が似ているため、誤注入しないようにご注意ください。冷却回路にウォッシャー液が混入すると、内部が腐食したり、冷却水が変色したりするおそれがあります。

インバーター冷却水

適用	規定量（ℓ）	指定銘柄
2WD車	3.59※1	日産純正スーパーロングライフクーラント※2、※3
e-4ORCE（4WD）車	5※1	

※1：リザーバータンクの容量を含みます

※2：走行用モーターやインバーターなどが破損するおそれがあるため、市販されている水漏れ防止剤などの添加剤は冷却水に添加しないでください。冷却水には、日産純正スーパーロングライフクーラントを必ずご使用ください。

※3：日産純正スーパーロングライフクーラントと日産純正ウインドウォッシャー液の色が似ているため、誤注入しないようにご注意ください。冷却回路にウォッシャー液が混入すると、内部が腐食したり、冷却水が変色したりするおそれがあります。

ギヤボックスオイル

適用	規定量（ℓ）	指定銘柄
全車	1.15	日産純正マチックフルードS※

※：必ず日産純正マチックフルードSを使用してください。日産純正マチックフルードS以外のフルードを使用するとギヤボックスが損傷するおそれがあります。

リヤファイナルドライブオイル

適用	規定量（ℓ）	指定銘柄
e-4ORCE（4WD）車	0.61	日産純正マチックフルードS※

※：必ず日産純正マチックフルードSを使用してください。日産純正マチックフルードS以外のフルードを使用するとリヤファイナルドライブが損傷するおそれがあります。

ブレーキフルード

適用	規定量（ℓ）	指定銘柄
全車	–	日産純正ブレーキフルードNo.2500（DOT3）

ウォッシャー液

適用	規定量（ℓ）	指定銘柄
全車	4.2	日産純正ウインドウォッシャー液※

※：外気温に応じて濃度を調節してください。

車両仕様

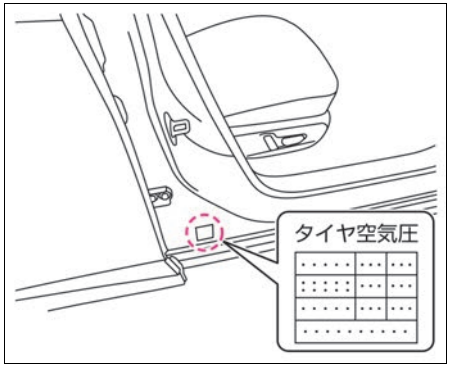
外装ランプ

● 次の外装ランプはすべてLEDです。
- 前照灯（ヘッドランプ）
- 前部霧灯（フォグランプ）★
- 後部霧灯（リヤフォグランプ）★
- 車幅灯／デイタイムランニングランプ
- 番号灯
- 尾灯
- 制動灯
- ハイマウントストップランプ
- 後退灯
- 方向指示器 兼 非常点滅表示灯

タイヤ・ロードホイールサイズ

タイヤサイズ	ロードホイールサイズ		
	リムサイズ	P.C.D.	インセット
215/60R17 96H	17 × 7J	114.3mm（5穴）	35mm
225/45R19 92W	19 × 7.5J		

タイヤの指定空気圧は運転席ドアの開口部に表示してあるため、確認してください。



イベントデータレコーダ（EDR）

車両データの記録・蓄積について

- イベントデータレコーダは一般的なデータレコーダとは異なり、会話などの音声は記録しません。
- 氏名、性別、年齢などの個人情報は記録しません。

この車両に装備されている以下システムの各コンピューターはイベントデータレコーダ機能を備えています。

以下システムの各コンピューターは正常に作動しているかどうかを常に診断し、イベントデータレコーダで車両が衝突したときなどの車両データを記録・蓄積しています。

■ SRSエアバッグシステム

SRSエアバッグシステムが作動したとき、もしくは一定以上の衝突が発生した場合に次の車両データを記録・蓄積します。

- エアバッグシステムの作動に関する情報
- エアバッグシステムの故障診断情報
- アクセルペダル、ブレーキペダル、ハンドルなどの操作状況
- 車速、エンジン回転数などの車両情報

■ プロパイロットシステム

プロパイロットシステムは次の車両データを記録・蓄積します。

- アクセルペダル、ブレーキペダル、ハンドルなどの操作状況
- 先行車やレーンマーカーなどの検知状況
- 車速などの車両情報
- プロパイロットの作動に関する情報
- プロパイロットの故障診断情報
- マルチセンシングフロントカメラの画像情報（SRSエアバッグ、インテリジェント エマージェンシーブレーキ作動時）

データの扱いについて

日産自動車および日産自動車が委託した第三者は、イベントデータレコーダに記録されたデータを日産自動車の車両衝突安全性能の向上を目的として、取得・利用することがあります。

なお、日産自動車および日産自動車が委託した第三者は、取得したデータを次の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。

- 車両の使用者の同意がある場合

- 裁判所命令など、法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行うなど、使用者や車両が特定できないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

車両状態記録機能

車両状態の記録・蓄積について

車両状態記録機能は、次の車両データを記録・蓄積します。

- 車輪速などの車両走行情報

車両状態記録機能

- 車両状態記録機能は一般的なデータレコーダとは異なり、会話などの音声や映像は記録しません。

車両状態記録機能は品質維持を目的として、車両の運行状態を記録・蓄積します。

車両状態記録機能から得られたデータを元に的確なサービスを提供することができます。

データの取り扱いについて

日産自動車および日産自動車が委託した第三者は、車両状態記録機能に記録されたデータを日産自動車の車両衝突安全性能の向上を目的として、取得・利用することがあります。

なお、日産自動車および日産自動車が委託した第三者は、取得したデータを次の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。

- 車両の使用者の同意がある場合
- 裁判所命令など、法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行うなど、使用者や車両が特定できないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

MEMO

1

100V AC電源（1500W） P.240
12Vバッテリー P.305
12Vバッテリーがあがったときは P.258

3

3点式シートベルト P.26

A

ABS（アンチロックブレーキシステム） P.139

B

BSW（後側方車両検知警報）／インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム） P.174

E

e-4ORCE（4WD）車の扱いかた P.138
e-POWERが事故にあったときの注意事項 P.16
e-POWERシステムを始動できないときは P.258
e-POWERってどんな車？ P.14
e-POWERの取り扱いに関する注意事項 P.16

L

LDW（車線逸脱警報）／インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム） P.181

N

NissanConnectインフォテインメントシステムを使ってより静かに走行する P.18

R

RCTA（後退時車両検知警報） P.187

S

SRSエアバッグ P.29
SRSエアバッグ（前席） P.30
SRSカーテンエアバッグ P.33
SRSサイドエアバッグ（前席） P.32

U

USB電源ポート P.239

V

VDC（ビークルダイナミクスコントロール） P.140

ア

アシストグリップ P.246
アドバンスドドライブアシストディスプレイ P.51
アドバンスドドライブアシストディスプレイとは（ショートカットメニュー） P.56
アドバンスドドライブアシストディスプレイとは（メインメニュー） P.51
安全にご利用いただくために P.15

イ

イベントデータレコーダ（EDR） P.316
イルミネーションコントロール P.64
インストルメントパネル P.10
インテリジェント DA（ふらつき警報） P.190
インテリジェント FCW（前方衝突予測警報） P.185
インテリジェント アラウンドビューモニター（移動物 検知機能付） P.202
インテリジェント アラウンドビューモニターに関する注意事項 P.213
インテリジェント エマージェンシーブレーキ P.161
インテリジェント ルームミラー P.88
インテリジェントキー P.66
インテリジェントキーに関する注意事項 P.68
インテリジェントキーの電池交換 P.304

ウ

ウォッシャー液の補給 P.298
運転支援機能 P.136
運転する P.117
運転するときに注意すること P.22
運転する前に P.22
運転席まわり P.8
運転前の準備 P.22

エ

エアコンの操作 P.100
エアコンを使うときに注意すること P.108
エアバッグ P.29
エマージェンシーストップシグナル P.139
エンジンオイル P.305
エンジンルーム P.296

オ

オーディオ P.110
オーディオの使いかた P.110
オートACC機能 P.116
オートエアコンシステム（タイプA） P.100
オートエアコンシステム（タイプB） P.103
オートブレーキホールド P.119
オーバーヒートしたときは P.286
オーバーヘッドコンソール P.226
お子さまの安全のために P.35
お子さまを乗せるときに注意すること P.35

カ

外観フロント P.2
外観リヤ P.4
外装のお手入れ P.306
外装ランプが点灯しないときは P.289
各種設定画面 P.57
各部名称（エンハンス表示） P.44
各部名称（クラシック表示） P.42
カップホルダー/ボトルホルダー P.225
寒冷時の取り扱い P.298

キ

キー P.66

ク

グローブボックス P.224

ケ

計器類 P.42
警告灯がついたときは P.262
警告メッセージが表示されたときは P.268
けん引について P.250

コ

交換油脂類 P.312
工具・ジャッキ P.293
工具・ジャッキについて P.293
後席シート P.85
後席リマインダー P.80
高電圧部品について P.15
故障したときは P.248

サ

サービスデータ P.312
サイドアンダーミラー P.93
サンバイザー／バニティミラー（照明付き） P.245

シ

シート・ハンドルの調節 P.82
シートベルト P.26
シートベルトの注意事項 P.27
室内灯 P.222
始動する P.114
シフトスイッチ P.117
シャシー制御 P.141
車室内 P.6
車両仕様 P.315
車両状態記録機能 P.317
車両情報画面 P.51
車両接近通報装置 P.142
収納装備 P.224
出力制限表示灯が点灯したときは P.261
心臓ペースメーカーなどをご使用の方の注意事項 P.24

ス

水没したときは P.288
ステアリングスイッチ P.110
ステアリングヒーター P.237

セ

清掃・お手入れ P.306
先行車発進お知らせ P.194
先進事故自動通報システム P.227
前席シート P.82
センターコンソールボックス P.224

ソ

走行支援機能 P.144
ソナーシステム（インテリジェントアラウンドビューモニター無車） P.218
その他の表示機能 P.62

タ

タイヤ P.300

チ

チケットホルダー P.246
チャイルドシート P.36

駐車支援システム P.197

テ

停車・駐車 P.123
点検整備について P.292
電源ソケット P.238
点検値 P.312
点検と整備 P.296
電動パーキングブレーキ P.118

ト

ドア P.71
ドアが開かないときは P.257
ドアの施錠と解錠 P.71
ドアミラー P.91
盗難防止機能 P.25
ドライブモードセレクター P.136
ドライブレコーダー P.230

ナ

内装のお手入れ P.310

ニ

日産e-POWERと上手に付き合うために P.18
日産e-POWERの特徴 P.14

ネ

燃費を良くするためのポイント P.18
燃料補給口 P.98
燃料補給口の開閉 P.98

ハ

発炎筒 P.249
バックドア P.73
バックビューモニター P.197
バックビューモニターの注意事項 P.198
発進・走行 P.121
パノラミックガラスルーフ P.95
パワーウインドー P.94
パワースイッチ P.114
パンクしたときは P.253
ハンドル P.87

ヒ

ヒーターシート P.237
ヒューズが切れたときは P.289
標識検知機能 P.191
表示灯 P.49
表示灯がついたときは P.49
ヒルスタートアシスト P.142

フ

フォグランプスイッチ P.132
吹き出し口 P.107
ブザー（警報音）が鳴ったときは P.285
踏み間違い衝突防止アシスト P.168
冬用タイヤ・タイヤチェーン P.302
フロアカーペット P.244
プロパイロット P.150

ヘ

ヘッドランプレベライザースイッチ P.132

マ

まずはじめに P.248
マップランプ／ルームランプ／ラゲッジランプ P.222
窓ガラスがくもったときは P.286
窓ガラスの開閉 P.94

ミ

ミラーの調節 P.88

メ

メーター P.46
メーターの明るさの調節 P.64
メンテナンスの前に P.292

ユ

雪道やぬかるみにはまったときは P.288

ラ

ライトスイッチ P.125
ランプをつける、ワイパーを使う P.125

リ

リモコンオートバックドア P.75

ル

ルームミラー P.88

ロ

ロアコンソールトレイ.....P.224

ワ

ワイパー.....P.302
ワイパー・ウォッシャースイッチ.....P.133
ワイヤレス充電器.....P.243

警告灯・表示灯・警告メッセージが表示されたときは

メーター内に警告灯や警告メッセージが表示されたときは、すみやかに適切に対処する必要があります。詳しくは、警告灯（➔P.262）、警告メッセージ（➔P.268）をお読みください。表示灯については、表示灯（➔P.49）をお読みください。

警告灯 例

警告灯は、車両故障などを運転者に知らせるためのものです。警告灯が点灯または点滅したときは警告灯（➔P.262）に記載されている「説明・対処方法」に従ってください。

警告メッセージ 例

警告メッセージが表示されたときは、警告メッセージ（➔P.268）に記載されている「説明・対処方法」に従ってください。

表示灯 例

表示灯は、何らかのシステムが作動していることなどをお知らせするものです。点灯または点滅している理由は、表示灯（➔P.49）をお読みください。

MEMO